



macromedia®
CAPTIVATE™

Captivate ユーザーガイド



商標

1Step RoboPDF、ActiveEdit、ActiveTest、Authorware、Blue Sky Software、Blue Sky、Breeze、Breezo、Captivate、Central、ColdFusion、Contribute、Database Explorer、Director、Dreamweaver、Fireworks、Flash、FlashCast、FlashHelp、Flash Lite、FlashPaper、Flex、Flex Builder、Fontographer、FreeHand、Generator、HomeSite、JRun、MacRecorder、Macromedia、MXML、RoboEngine、RoboHelp、RoboInfo、RoboPDF、Roundtrip、Roundtrip HTML、Shockwave、SoundEdit、Studio MX、UltraDev、および WebHelp は Macromedia, Inc. の登録商標または商標であり、米国およびその他の国の法域で登録されている場合があります。本マニュアルにおけるその他の製品名、ロゴ、デザイン、タイトル、語句は、Macromedia, Inc. またはその他の団体の商標、サービスマーク、または商号である場合があります、米国およびその他の国の特定の法域で登録されている場合があります。

サードパーティ情報

本マニュアルには、Macromedia 社が管理していない、サードパーティの Web サイトへのリンクが掲載されていますが、Macromedia 社はいかなるリンク先サイトの内容についても責任を持ちません。本マニュアルに記載されているサードパーティの Web サイトには、自己責任においてアクセスしてください。Macromedia 社はこれらのリンクを便宜上の目的においてのみ掲載しています。リンクを掲載することにより、Macromedia 社がこれらのサードパーティのサイトの内容について何らかの責任を持つことを示すものではありません。

本ソフトウェアは部分的に独立 JPEG グループの作品をベースにしています。

LAME (MP3 encoder) の提供はライセンスを供与するものではなく、この製品で作成したコンテンツを商業放送システム (地上放送、衛星放送、ケーブル放送、その他の配信チャネル)、ストリーミングアプリケーション (インターネット、イントラネット、その他のネットワーク)、その他のコンテンツ配信システム (有料音声配信またはオンデマンド音声配信アプリケーションなど)、または物理メディア (CD、DVD、半導体チップ、ハードディスクドライブ、メモリカードなど) で配布する権利を暗示するものでもありません。これらの使用には個別のライセンスが必要です。詳細については、<http://mp3licensing.com> を参照してください。

Copyright © 2001-2005 Macromedia, Inc. All rights reserved. 本マニュアルの全部または一部を **Macromedia, Inc.** の書面による事前の許可なしに、複製、複写、再製造、または翻訳すること、および電子的または機械的に読み取り可能な形に変換することは禁じられています。前述の内容に関係なく、本マニュアルの対象であるソフトウェアの有効なコピーの所有者または正式なユーザーは、かかるソフトウェアの使用法を本人が学ぶ目的のみに、本マニュアルの電子バージョンのコピーを一部印刷することができます。ただし、本マニュアルのいずれの部分も、他のいかなる目的のためにも印刷、複製、配布、再販、または送信することはできません。これには、本マニュアルの複製の販売や、有料サポートサービスの提供などの商業目的を含みますが、これに限定されません。

マニュアル制作スタッフ

執筆 : Suzanne Smith

編集および製作管理 : Patrice O'Neill

編集 : Anne Szabla、Lisa Stanziano、Mary Ferguson

制作 : Adam Barnett

協力 : Arlyn Asch、Magnus Nirell、Terri Griffith、Paul Stoecklein、Erick Vera、Rosana Francescato、Adam Barnett、Silke Fleischer、Tracy Seibel 各氏、および Captivate エンジニアリングチームならびに QA チーム一同。

第 2 版 : 2005 年 4 月

Macromedia, Inc.

601 Townsend St.

San Francisco, CA 94103

マクロメディア株式会社

東京都港区赤坂 2-17-22 赤坂ツインタワー本館 13F

目次

第1章：導入とインストール	9
Captivate の主な機能	9
Macromedia Captivate 新機能情報	11
Captivate ヘルプについて	12
Captivate マニュアルのご案内	13
Captivate とアクセシビリティ問題	14
Captivate と他のアプリケーションについて	14
RoboDemo および Captivate プロジェクトのアップグレード	14
オーサリング要件	15
エンドユーザー要件	15
Macromedia Captivate インストールの概要	15
Captivate を登録する	16
Captivate ソフトウェアライセンスを移行する	17
 第2章：作業環境について	19
作業環境をカスタマイズする	20
ツールバーの表示とドッキング	21
フィルムストリップを使用する	22
確認メッセージを表示する	23
ショートカットキーについて	24
操作を元に戻す、やり直す	25
キャプチャキーを変更する	26
 第3章：ムービーを作成する	27
既存のムービーを開く	27
AVI ソフトウェアチュートリアルを読み込む	27
新規ムービーを記録する前に	28
ムービーを新規作成する	36
記録オプション	45
プロジェクトテンプレートについて	47
フルモーション記録を使用する	48
アクセシブルムービーを作成する	52
Captivate プロジェクトのローカライズ	56

第4章：テキストキャプションを追加する	59
テキストキャプションを追加する	59
スライドに普通のテキストを追加する	60
テキストキャプションを自動的に追加する	61
ロールオーバーキャプションを追加する	63
ロールオーバー領域を変更する	64
ツールヒントをロールオーバーキャプションに変換する	64
テキストキャプションをローカライズする	65
テキストキャプションを編集する	66
テキストキャプションのカスタムスタイルを作成する	67
テキストキャプションの移動およびサイズ変更	68
キャプションのコピーおよびペースト	69
テキストキャプションを読み込む	70
テキストキャプションを書き出す	70
テキストキャプションの順序を変更する	71
テキストキャプションを削除する	72
 第5章：音声を追加する	 73
既存の音声ファイルを追加する	73
音声録音用機器	74
録音のヒント	75
録音オプションを設定する	76
録音用マイクの最適化	76
音声を録音する	77
ムービー作成時に音声を録音する	78
バックグラウンド音声を作成する	79
カスタムのキーボード打ち込み音について	80
音声ファイルに静寂を挿入する	80
音量の調節	81
既存の音声をボックスおよびボタンに追加する	82
ボックスおよびボタンの音声を録音する	83
打ち込み音を設定する	83
音声ファイルを編集する	84
音声のタイミングを編集する	85
音声の詳細を表示する	86
音声をプレビューする	87
音声を削除する	88
 第6章：画像およびアニメーションを追加する	 89
画像を追加する	89
ロールオーバー画像を追加する	91
画像をスライドとして挿入する	92
透かし画像を作成する	93
JPEG 画質を変更する	93
画像を削除する	93
Captivate のアニメーションについて	94
アニメーションを追加する	94

テキストアニメーションを追加する	96
アニメーションスライドを追加する	97
第7章：ボックスおよびボタンを追加する	99
ハイライトボックスを追加する	100
クリックボックスを追加する	101
テキスト入力ボックスを追加する	104
ボタンを追加する	107
ボックスやボタンに JavaScript を追加する	110
既存の音声をボックスおよびボタンに追加する	111
ボタンとボックスを削除する	112
第8章：マウス動作を編集する	113
マウスポインタを変更する	113
マウスのポインタサイズを変更する	114
マウスのクリック音を変更する	114
マウスのクリックエフェクトを設定する	115
マウス動作を変更する	115
マウスパスを揃える	116
直線および曲線マウスパスを使用する	116
マウスポインタを非表示する	116
第9章：タイミングを変更する	119
タイムラインの外観をカスタマイズする	119
オブジェクトレイヤーの順序を変更する	121
プレイヘッドを使ってスライドをプレビューする	122
スライドタイミングを変更する	122
キャプションの速度を自動設定する	123
キーストロークの速度を変更する	123
マウスポインタの速度を変更する	123
オブジェクトのタイミングを変更する	124
Captive ムービーを変数で制御する	125
第10章：スライド	127
ムービーのスライドを追加する	127
スライドを編集する	131
ムービーの開始および終了を変更する	138
再生コントロールを追加する	140
スライドを保護する	142
第11章：オブジェクトを追加する	145
オブジェクトを読み込む	146
オブジェクトを複製する	146
オブジェクトをコピーして貼り付ける	147
他のプロジェクトからオブジェクトをコピーして貼り付ける	147
オブジェクトを揃える	148

タイムライン上でオブジェクトを調整する	148
オブジェクトの表示順序を変更する	149
複数のオブジェクトのサイズを変更する	150
オブジェクトをグリッドに揃える	151
オブジェクトをスライドにマージする	152
 第 12 章：ムービーを編集する	 153
ムービーのサイズを決定する	153
ムービーまたはテンプレートを削除する	153
ムービーを非表示にする.....	154
ムービーをプレビューする.....	154
ムービーの名前を変更する.....	154
ムービーのサイズを変更する	155
ムービーを保存する.....	156
背景色を設定する.....	157
ムービー環境を設定する.....	157
ロード画面を追加する.....	160
ムービーのプロパティを設定する	161
カスタムのキーボード打ち込み音について	161
Captivate プロジェクトのスペルチェックをする.....	162
 第 13 章：e ラーニングコンテンツを作成する	 165
Captivate ムービーでブランチ (分岐) を作成する	165
質問スライドを作成する.....	166
e ラーニングの出力オプションを設定する.....	183
e ラーニングの合格基準を設定する.....	185
クイズのフィードバックメッセージを作成する	186
マニフェストファイルを作成する	186
PIF を作成する	188
クイズマネジャーでクイズを管理する	188
 第 14 章：Captivate ムービーのメニューを作成する	 193
プロジェクトを作成する.....	193
MenuBuilder のテキストを使用する.....	198
MenuBuilder プロジェクトで画像を使用する.....	202
MenuBuilder プロジェクト内のクリックボックスを使用する	207
MenuBuilder プロジェクトのオプションを設定する	211
MenuBuilder プロジェクトの書き出し.....	216
 第 15 章：ムービーをパブリッシュする	 219
ムービーをスタンドアロン (EXE) ファイルとしてパブリッシュする	219
ムービーを Flash ファイルとしてパブリッシュする	220
ムービーを配布資料としてパブリッシュする	221
ムービーを FTP 経由で Web サイトにパブリッシュする	222
ムービーを電子メールで送信する	223
テキストキャプションを書き出す	224

第 16 章 : Captivate および他のソフトウェアアプリケーション	225
Captivate と Flash	225
Captivate と Breeze	229
Captivate と RoboHelp	233
Captivate と PowerPoint	236
 第 17 章 : トラブルシューティング	239
帯域幅の分析	239
トラブルシューティング - アニメーションタイミング	240
トラブルシューティング - 記録時のアプリケーションの歪み	240
トラブルシューティング - AVI エラー	240
トラブルシューティング - ぶつ切れのフルモーション記録	242
スライドの色を訂正する	242
トラブルシューティング - Transparent (透明) キャプションのフォント	243
トラブルシューティング -ムービーサイズ	243
トラブルシューティング - ブラウザ内のテキスト表示	244
トラブルシューティング - ムービー内のスライド数	244
Macromedia Captivate をアンインストールする	245
 索引	247

第1章

導入とインストール

Macromedia Captivate は、Flash (SWF) や EXE などの多様な形式で、対話性のあるデモンストレーションやシミュレーションを手早く作成するための、プロフェッショナルソフトウェアツールです。商品のオンラインデモンストレーション、e ラーニング用のソフトウェアシミュレーション、またはユーザー支援のためのオンラインチュートリアルなど、Captivate は開発者にとって理想的なソリューションになります。Captivate には、あらゆるアプリケーションの操作を記録して、瞬時にシミュレーションを作成するために必要なものがすべて含まれています。

Captivate を使用すると、カスタマイズしたテキストキャプション、ボイスオーバー、バックグラウンドミュージック、サウンドエフェクトなどを含む音声、動画、Flash アニメーション、テキストアニメーション、画像、ハイパーリンクなどを追加できます。ファイルサイズが小さく高解像度のため、Captivate で作成したシミュレーションやデモンストレーションは、オンラインで簡単にパブリッシュすることができます。また、トレーニング、営業、マーケティング、およびユーザー支援のために、CD を作成することも簡単です。

e ラーニングの教材を作成する場合、現実性のあるインタラクティブな質問スライド、ボタン、クリックボックス、テキスト入力ボックスなどを追加することができます。Captivate は SCORM 1.2 および 2004 に認定されており、AICC に準拠しています。LMS (Learning Management System: 学習管理システム)、Macromedia Authorware、または Questionmark Perception とも容易に統合できます。

Captivate の主な機能

Captivate の主な機能は次のとおりです。

- **ソフトウェアのシミュレーションとデモを手軽に作成** ユーザーフレンドリーなインターフェイスと新しいスタートページで、Macromedia Captivate の手慣らしを始めましょう。アプリケーションの記録を始めると、Captivate がスクリーン上の動作それぞれを自動的に捕らえます。テキストによる説明を自動的に挿入する自動テキストキャプション、ハイライトボックスの自動追加、ユーザーインタラクションの採点機能、および教育上のフィードバックなど、さまざまな時間削減機能を使って効率を向上させます。
- **Flash の知識がなくても、Flash 形式でシミュレーションおよびデモを作成** 記録が完了したら、Captivate がスクリーン上の操作を Flash 形式のシミュレーションで作成し、スムーズなマウスアニメーションとテキストによる説明、または教育上のフィードバックを含んだ採点可能なインタラクションを含めて完成させます。Flash およびプログラムの知識は不要です。

- **スライドとマウスの動きを編集** 各スクリーンは完全に編集可能で、削除、置き換え、また更新することができます。音声の失敗は音声編集の新機能で簡単に訂正できます。これにより、プロジェクトを簡単に変更および更新することができます。
- **プログラムなしでインタラクティビティを追加** 分岐および採点機能のあるクイズ、複数の正解オプションで対応できるテキスト入力フィールド、クリックボックスなどのインタラクティビティを簡単に追加して、シミュレーションの効果を向上させます。個々のスライドに複数のインタラクションおよびオブジェクトを挿入して、多数の選択または複雑で現実的なシミュレーションを提供できます。シミュレーションモードで記録すると、採点可能なインタラクションおよび教育上のフィードバックを、Captivate が自動的に追加します。
- **他の e ラーニングアプリケーションとの統合** シミュレーションを他の e ラーニングツールと統合することにより、既存のリソースを活用します。あらゆる学習管理システム (LMS) を通して、シミュレーションを簡単に展開するため、Captivate は、SCORM 2004、SCORM 1.2、および AICC をサポートします。Captivate は特に Macromedia Breeze との統合に優れており、Breeze での追跡と検索を可能にする特別なファイルをバックグラウンドで生成することができます。
- **Captivate で作業して、その後 Flash にプロジェクトを読み込む** Flash でのソフトウェアシミュレーションおよびデモの作成から、手作業がなくなります。Captivate では、スクリーンショットを手動で撮って Flash でマウストーンを追加する必要はありません。Captivate でアプリケーションを記録したプロジェクトは、Flash MX 2004 形式のソースファイルとして書き出し、さらに詳細な編集をすることができます。
- **Macromedia Breeze 体験の向上** Breeze 会議 および Breeze トレーニングにインタラクティブなシミュレーションを追加して、トレーニングの効果を上げます。シミュレーションとの完全な対話性により、ユーザーはよりアクティブに参加できます。
- **カスタムコントロール、テンプレート、およびメニューを使って、クリエイティビティを最大限に** テンプレート、キャプション、および再生コントロールは、企業のイメージまたはアプリケーションの GUI に合わせて、カスタマイズすることができます。人目を引くメニューページを作成して Captivate プロジェクトのセットを表示すると、ユーザーは 1 つの中心的場所から複数のシミュレーションにアクセスできるようになります。
- **他形式でパブリッシュ** 一度のシミュレーション作成で、SWF および EXE など、多数の形式に生成して配布を簡単にします。Microsoft Word パブリッシュ機能を使って、配布資料を簡単に作成できます。
- **Web ユーザーの 98% 以上に、リッチメディアプロジェクトを提供** Captivate では、ファイルサイズを小さく維持したまま、高品質のコンテンツを作成できます。プロジェクトを電子メールですぐに送信、または Web サイト、イントラネット、またはオンラインヘルプシステムに利用できます。広く普及している Flash Player を利用して、インタラクティブなプロジェクトを届けることができます。プラグインダウンロードの必要はありません。インターネットユーザーの 98% 以上が既に Flash ファイルを見えています。

Macromedia Captivate 新機能情報

Macromedia Captivate の主な新機能と強化機能を以下に紹介します。

- **ビジュアルなタイムラインでタイミングを簡単に制御** タイムライン内でスライドエレメントをドラッグ & ドロップして、タイミングの制御を視覚的に行い、作成時間も短縮します。複数のオブジェクト、または複数のキャプションを同時に表示します。タイムラインレイヤーをドラッグ & ドロップして、スライド上にあるオブジェクトの順序を変更します。変更はスライドへ自動的に反映されます。
- **スライドのプレビュー** スライドへの変更は、コンパイルやプレビューを生成せずに、スライドを再生して瞬時に確認できます。プレイヘッドを使って、特定のスライドをプレビューしたり、スローモーションで見ることができます。
- **容易なキャプチャ** ドラッグ & ドロップのフルモーション記録をする場合、自動的にスイッチをオンおよびオフにする、進歩したキャプチャ構造です。より現実味のあるデモンストレーションを作成します。Web キャプチャは、Web ページのロード終了後、スクリーンショットをキャプチャするために、最適化され、さらに拡張されます。
- **簡単な音声編集で作成時間を短縮** スクリーンをキャプチャする過程で録音も同時に行い、作成時間を短縮します。簡単に使用できる音声編集機能で、失敗した部分を簡単に訂正することができます。音量調節、静寂の挿入、およびナレーションとスライドイベントの同期化を簡単にを行います。
- **Macromedia Breeze 体験の向上** Breeze 会議および Breeze トレーニングセッションにインタラクティブなシミュレーションを追加して、プレゼンテーションの効果を上げます。プレゼンターは [同期] ボタンを使用して、すべての参加者にプレゼンターのアクションが表示されるようにするか、同期オプションをオフにして、参加者が各自のコンピュータで Captivate デモまたはシミュレーションと完全な対話性を持つようにすることができます。Captivate には、特定のデータをプロジェクト SWF ファイルに埋め込むオプションも用意されています。このデータには検索情報とマニフェスト情報が含まれるので、Captivate プロジェクトで発生するインタラクション (クイズやクリックボックスなど) を Breeze で簡単に追跡することができます。プレゼンターは [同期] ボタンを使用して、すべての参加者にプレゼンターのアクションが表示されるようにするか、同期オプションをオフにして、参加者が自分のコンピュータで Captivate デモまたはシミュレーションと完全な対話性を持つようにすることができます。
- **Macromedia Flash のプロジェクト拡張** より進歩したパワフルな Flash 書き出し機能を使って、プロジェクトを Captivate から Flash に書き出し、さらなる開発をすることができます。Captivate では、再生コントロールや、フルモーションスライド、テキストアニメーションなどのオブジェクトの書き出しも可能です。
- **クイズの改善** クイズの外観や雰囲気調整して、ブランドや色を合わせます。時間制限のある問題、照合問題、リッカート問題、空欄埋め問題など、新しいクイズの種類を使ってトレーニングの効果を上げます。
- **業界標準規格の活用** SCORM 2004 パッケージとランタイムのコミュニケーションを利用します。あらゆる LMS (Learning Management System: 学習管理システム) を通して、シミュレーションを簡単に展開するため、Captivate は、SCORM 2004、SCORM 1.2、および AICC をサポートします。障害のある視聴者向けには、第 508 条準拠のデモンストレーションおよびシミュレーションを生成します。
- **高品質の印刷コンテンツを出力** 印刷したストーリーボードや文書を、評価者およびユーザーに提供します。進歩した Microsoft Word の出力形式は、以前より大きな画像を書き出します。

- **より迅速になった作成作業とより簡単になった編集作業** 新しくなったスタートページ、記録領域をアプリケーションウィンドウに吸着させるオプション、シンプルになった記録ダイアログなど、さまざまなユーザービリティの拡張により作成時間が短縮され、生産性が向上します。シミュレーションモードでの記録は、教育上のフィードバックを含んだユーザーインタラクションが自動的に追加され、作成時間を短縮します。
- **Unicode サポート** Windows OS がサポートするフォントおよびダブルバイトを含む文字セットが使用できます。
- **ローカリゼーション** 現在、英語に加えて、ドイツ語、フランス語、日本語、韓国語、および繁体字中国語版の Captivate があります。

注意 : RoboDemo で作成されたプロジェクトを Captivate で開く場合は、次の点にご注意ください。RoboDemo バージョン 4 より前に作成されたプロジェクトには、.ncp または .fcz のファイル拡張子を使います。RoboDemo バージョン 4 および 5 のプロジェクトには、.rd または .fcz のファイル拡張子を使います。Captivate で古いプロジェクトを開くとアップグレードされ、Captivate のファイル拡張子である .cp が付けられます。

Captivate ヘルプについて

Captivate ヘルプは出力に WebHelp Pro を使用し、デフォルトの Web ブラウザで開く設計になっています。Captivate ヘルプはサーバーにあるため、システムが表示されるまでの時間は、ご使用のインターネット接続スピードによって異なります。必要に応じて、Captivate ヘルプをサーバーからでなく、オフラインで表示するオプションを選択することもできます。

オフラインヘルプにアクセスするには :

- [ヘルプ] メニューから [オフラインヘルプを使用する] を選択します。

[ヘルプ] ウィンドウの使用

移動ボタン

Captivate ヘルプには左側に次のようなペイン (パネル) があります。各ペインにアクセスするには、ツールバーの [目次]、[索引]、[検索]、[用語集] ボタンをクリックします。

- **目次 :** [目次] ペインには、目次、Captivate ヘルプに含まれる情報のカテゴリを示すブックやページが表示されます。閉じたブックをクリックすると、展開してその内容 (サブブックとページ) が表示されます。開いたブックをクリックすると、ブックが閉じます。ページをクリックすると、選択したトピックが右ペインに表示されます。
- **索引 :** [索引] ペインには、キーワードやキーワード語句の多層一覧が表示されます。これらの語句は Captivate ヘルプのトピックに関連付けられており、作業方法に従って特定のトピックを開くように設計されています。キーワードに関連付けられたトピックを右ペインで開くには、キーワードをクリックします。キーワードが複数のトピックで使用されている場合は、ダイアログボックスが開きます。表示するトピックを選択して、[表示] をクリックします。
- **検索 :** [検索] ペインに質問を入力すると、関連トピックが右側に表示されます。この機能は " 自然言語検索 " と呼ばれます。ここには、質問またはキーワードを入力できます。
- **用語集 :** [用語集] ペインには、印刷発行物と同様な用語集が表示されます。用語集とは、Captivate に関連した単語、語句とその定義の一覧です。一番上のペイン [用語] から用語を選択すると、該当する定義が下のペイン [定義] に表示されます。

ツールバー

参照シーケンス : 参照ボタン (次へと前へ) はブラウザの一番上にあります。参照シーケンスボタンは、あらかじめ決められた順序でトピックを表示するため、[戻る] および [進む] ボタンとは異なります。

- フルテキスト検索 : [検索] テキストボックスを使うと、Captivate ヘルプのフルテキストの検索ができます。この検索では、[検索] フィールドに入力したテキストを含むトピックが検索されます。フルテキスト検索では、Captivate ヘルプ上のすべての単語を調べて、一致するテキストを検索します。検索が完了したら、トピックの一覧が表示されます。ここで特定のトピックを選択して表示します。
- ブラウザツールバー : ウィンドウの一番上にあるツールバーは、デフォルトのブラウザで使用される標準的なツールバーです。これを使用して、既に表示したトピックの履歴を前後に移動できます。

ウィンドウおよびペインサイズの調整

- ブラウザウィンドウの辺を内側または外側に向けてドラッグすることによって、ウィンドウの幅と高さを調整できます。
- マウスポインタが双方向矢印の付いた線に変わるまで左側ペインの辺をドラッグすると、左側ペインの幅を変更できます。

トピック間の移動

リンクおよび [関連トピック] ボタンを使用すると、トピック間を移動できます。

- リンク : 青い下線の付いたテキストは、他のトピックや Web ページにジャンプするハイパーリンク、ウィンドウをメインウィンドウの上に表示するポップアップリンク、またはテキストによる簡単な説明を表示するテキストのみのポップアップメニューであることを示します。追加テキストを " ドロップダウン " するリンク、または右側に " 展開表示 " するリンクがあります。
- [関連トピック] ボタン : [関連トピック] ボタンをクリックした場合、関連トピックの一覧がポップアップメニューで表示されます。ポップアップメニューのトピックをクリックしたら、トピックが右ペインに開きます。

メモ : Captivate のバージョン情報を見るには、[ヘルプ]-[Captivate のバージョン情報] を選択します。ご使用のシステムにインストールされた Captivate のバージョンを示すダイアログが表示されます。

Captivate マニュアルのご案内

Captivate では、ユーザーが Captivate をより早くマスターし、プロジェクト作成に熟練していただくために、いくつかのマニュアルを用意しています。

Captivate ヘルプには、使用上必要な総合情報が含まれています。Captivate ヘルプを見るには、Captivate を開いて、[ヘルプ] メニューから [Captivate ヘルプ] を選択します。

『はじめに』は、Captivate の使用方法を紹介するために作成された実際の Captivate ムービーです。ムービーを見て、Captivate の動作、特に新機能をご確認ください。ムービーのリストは Captivate スタートページにあり、ムービー名をクリックして見ることができます。Captivate 内では、[ヘルプ] メニューをクリックして、[はじめに] からムービーを選択します。

『Captivate ユーザーガイド』は、Captivate ヘルプの PDF バージョンです。Captivate のコマンドおよび機能についての情報が含まれています。PDF ファイルは Macromedia Web サイトでご覧いただけます。

『Captivate ファーストステップガイド』は、Captivate プロジェクト作成の基本的なプロセスを紹介しています。このマニュアルのハードコピーは Captivate ボックス版に含まれています。PDF バージョンは Macromedia Web サイトで入手できます。

Captivate サポートセンター (www.macromedia.com/jp/support) では、Captivate に関する最新情報が常時更新されており、エキスパートユーザーからのアドバイス、サンプルプロジェクト、アップデート、高度なトピックについての情報などが入手できます。

Macromedia Devnet (www.macromedia.com/go/devnet_jp/) では、Macromedia の商品すべてに関して、ツールやチュートリアルを提供しています。

Captivate とアクセシビリティ問題

Captivate のアクセシビリティ機能を使うと、障害のあるユーザーがアクセス可能な Captivate コンテンツを作成することができます。アクセス可能な Captivate ムービーを設計するときは、ユーザーがどのような方法でコンテンツとインタラクトするかを考慮します。たとえば、視覚に障害があるユーザーの場合、画面上のコンテンツを音声で提供するスクリーンリーダーなどの支援技術を利用していることがあります。また、聴覚に障害があるユーザーの場合は、文書のテキストおよびキャプションを読み上げることになります。可動性または認識性の障害があるユーザーには、別の考慮が必要になります。

Captivate と他のアプリケーションについて

Captivate は、いろいろなアプリケーションと共に使用できる柔軟なツールです。Captivate は、Macromedia の他のソフトウェアとともに使用すると、さらに便利です。

Captivate と Breeze

Captivate と Flash

Captivate と RoboHelp

Captivate と PowerPoint

詳細については、[225 ページ](#)、[第 16 章](#)の「Captivate および他のソフトウェアアプリケーション」を参照してください。

RoboDemo および Captivate プロジェクトのアップグレード

RoboDemo で作成した Captivate プロジェクトを開く場合は、ファイル拡張子に留意することが重要です。RoboDemo バージョン 4 より前に作成されたプロジェクトには、.ncp または .fcz のファイル拡張子を使用します。RoboDemo バージョン 4 および 5 のプロジェクトには、.rd または .fcz のファイル拡張子を使います。Captivate で古いプロジェクトを開くと、Captivate のファイル拡張子である .cp を付けてアップグレードされますが、以前のファイルはそのままの状態に残ります。

オーサリング要件

Captivate でムービーを作成するには、お使いのコンピュータに次のハードウェア、ソフトウェア、およびアクセサリが必要です。

必要なシステム条件：

- Microsoft Windows 2000 または Windows XP
- Intel Pentium III 600-MHz 相当以上のプロセッサ
- 128 MB の RAM (256 MB 推奨)
- 100 MB の空きディスク容量
- 解像度 800 × 600 またはそれ以上を表示可能なカラーモニタ (1024 × 768 推奨)

パブリッシュおよび記録するためのソフトウェアとアクセサリ：

- Internet Explorer 5.0 以降
- Flash プレーヤー 6 以降
- 録音用のマイク
- スピーカーおよびサウンドカード

エンドユーザー要件

エンドユーザーが Captivate ムービーを表示するには、ご使用のコンピュータに次の項目をインストールする必要があります。

- Flash 対応ブラウザ (例：インターネットエクスプローラ 5.0 以降、Netscape Navigator 4.06、または Netscape 6.0 以降)
または
- Macromedia Flash Player (バージョン 6.0 以降)
- 次のいずれかの OS：
 - Microsoft Windows 95 以降
 - Macintosh
 - Linux

Macromedia Captivate インストールの概要

Captivate のインストールは、簡単で自動化されたプロセスです。必要なシステム条件を満たす、十分な空きディスク容量があるかどうかを確認します。

インストールのプログラムにより、シリアル番号の入力が求められます。Captivate のインストールが終了したら、ライセンス認証と登録をオンラインで行うオプションがあります。Captivate をすぐにライセンス認証することは、すべての機能を使用するために重要なことです。

登録は任意ですが、登録するとプライオリティアップグレード、新製品のお知らせ、および www.macromedia.com/jp での新コンテンツや製品アップデートに関する電子メール情報など、多くの特典を入手できます。

Macromedia Captivate をインストールするには：

1. すべてのプログラムを閉じます。
2. 次のいずれかの操作を実行します。
 - Captivate CD をお持ちの場合は、CD-ROM ドライブに CD を挿入して、Captivate インストーラのアイコンをダブルクリックします。
 - Captivate をインターネットからインストールする場合は、ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。

InstallShield ウィザードが開きます。

3. スクリーン上の指示に従います。
4. ウィザード最後のスクリーンで、[インストール] をクリックします。
Macromedia Captivate がコンピュータにインストールされます。
5. [完了] をクリックします。

Captivate をインストールすると、ライセンス認証が完了するまで、製品は 30 日間のトライアル版になります。インストール後 30 日以内にライセンス認証をすることは、たいへん重要です。ライセンス認証プロセスでは、製品のシリアル番号とライセンスを確認します。詳細については「[製品ライセンス認証センター](#)」を参照してください。

Macromedia Captivate のライセンス認証をするには：

1. デスクトップの [Macromedia Captivate] アイコンをダブルクリックします。
Macromedia 製品ライセンス認証ウィザードが表示されます。
2. スクリーン上の指示に従い、シリアル番号を入力します。
ライセンス認証プロセスが開始されます。プロセスが完了すると、ソフトウェアのライセンス認証が終了したことを示すメッセージが表示されます。
3. [続行] をクリックします。
4. (オプション) Macromedia にユーザー登録します。名前と電子メールアドレスを入力して、[登録] をクリックします。Web ページが表示され、登録されたことを確認します。登録は随時できます。

Captivate を登録する

電子的または郵便のいずれかの方法で、ご使用の Macromedia Captivate の登録をお勧めします。最初に Captivate を起動するとき、製品のライセンス認証プロセス中に、登録を電子的に行うことができます。登録すると、アップグレードおよび Macromedia 新製品の情報を受け取る優先リストに加わります。簡単なオンラインプロセスまたは郵便で登録することができます。

ご使用の Captivate をオンラインで登録するには：

1. [ヘルプ] メニューをクリックして、[オンライン登録] を選択します。
2. オンラインの指示に従って、電子フォームに必要事項を入力します。

ご使用の Captivate を郵便で登録するには :

1. [ヘルプ] メニューをクリックして、[登録情報の印刷] を選択します。
2. フォームを印刷して、必要事項を記入します。
3. フォームを郵送するか、またはファックスで送信します。ファックス番号および郵送先住所は、フォームの下部に記載されています。

Captivate ソフトウェアライセンスを移行する

ご使用のコンピュータをアップグレードする場合、または Captivate を別のコンピュータに移動する場合に、Captivate ソフトウェアライセンスを移行することができます。

Captivate ソフトウェアライセンスを移行するには :

1. Captivate を開きます。
2. [ヘルプ] メニューから [ソフトウェアライセンスの移行] をクリックします。
3. オンラインの指示に従います。
4. (オプション) Macromedia に登録します。名前と電子メールアドレスを入力して、[登録] をクリックします。Web ページが表示され、登録されたことを確認します。登録は随時できます。

第 2 章

作業環境について

Captivate はムービーを簡単に作成できるように設計されたツールです。以下は Captivate 作業環境の概要です。

ビュー

Captivate には、2 つの主なビューがあります。ストーリーボードビューと、フィルムストリップを含む編集ビューです。

- **ストーリーボード** : スタートページからムービーを開いたとき、このビューが表示されます。ムービーは小さな画像と共に表示され、それらの画像はムービーを構成するスライドを表します。ストーリーボードビューは、ムービーを構成するすべてのスライドの一覧を簡単に表示できます。また、ムービーの流れを見することもできます。複数のスライドのプロパティを、同時に変更することも可能です。複数のスライドを選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押したまま、スライドをクリックします。すべてをスライドを選択するには、Ctrl + A を押します。
- **編集** : ストーリーボードビューのスライドをダブルクリックしたとき、このビューが表示されます。Captivate ムービーを記録した後は、ほとんどの時間を編集ビューで費やすことになるでしょう。それは、キャプション、画像、クリックボックス、および音声などのムービーオブジェクトを、このビューで挿入するからです。このビューでは、マウス動作やマウスポインタの変更など、スライドに変更を加えることもできます。編集ビューでは、オプションでフィルムストリップを表示できます。編集ビューで個々のスライドを編集している最中でも、フィルムストリップでムービー中のすべてのスライドを見ることができます。

タイムライン

タイムラインは、スライド上のすべてのオブジェクトをビジュアルに表示します。タイムラインでは、スライド上のすべてのオブジェクトと、それらの相対的な関係を簡単に見ることができます。タイムラインを使うと、オブジェクトの整理やタイミングの厳密なコントロールができます。たとえば、スライド上にキャプション、画像、およびハイライトボックスがある場合、キャプションを最初に表示して、その 4 秒後に画像を表示し、さらに 2 秒後にハイライトボックスを表示できます。タイムラインは、スライドおよびスライド上のオブジェクトに関連付けられた音声も表示し、オブジェクトとのタイミングを簡単に調整することもできます。

ツールバーとメニュー

どちらのビューでも、プログラムウィンドウの上部にはメニューとツールバーがあります。また、プログラム全体にコンテキスト (右クリック) メニューも用意されています。

- **メニューバー** : [ファイル]、[挿入]、または [オプション] など、プログラムウィンドウ上部にあるメニューをクリックして、関連のあるメニューコマンドを表示します。
- **コンテキストメニュー** : 作業するウィンドウ内にマウスポインタを置き、右クリックしてメニューからコマンドを選択します。
- **ツールバー** : プログラムツールバーのアイコンをクリックすると、ダイアログの表示や操作を簡単に実行できます。各ビューのすべてのツールバーオプション (ツールバーの表示または非表示、ツールバーの配置など) は、[表示] メニューにあります。

ヒント : 編集用のスペースを最大にするには、ムービーを開いて F11 キーをクリックし、**Captivate** をフルスクリーン編集モードで表示します。

作業環境をカスタマイズする

Captivate の作業環境は、使いやすいように変更およびカスタマイズすることができます。

フィルムストリップのサイズと位置を変更するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. いずれかのスライドをダブルクリックして、編集ビューを開きます。

デフォルトで [フィルムストリップ] が左側に表示され、ムービー内のスライドをアイコンで表します。

- [フィルムストリップ] を別の場所へ移動するには、[表示] メニューから [フィルムストリップの配置] を選択して、サブメニューから [右]、[上]、[下] などのオプションを選択します。
- スライドサムネイル画像のサイズを変更するには、スプリッターバーをドラッグします。縮小するにはプログラムウィンドウの外側に向けてドラッグし、拡大するには内側に向けてドラッグします。
- [フィルムストリップ] を完全に非表示にするには、スプリッターバーの矢印をクリックします。

タイムラインを表示または非表示にするには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. いずれかのスライドをダブルクリックして、編集ビューを開きます。

デフォルトで、タイムラインはスライドの上に表示されます。

- タイムラインがまだ開いていない場合は、スプリッターバーの矢印をクリックしてタイムラインを表示します。
- タイムラインを展開するには、黒くて小さい表示矢印をクリックします。タイムラインを閉じるには、表示矢印をもう一度クリックします。

ストーリーボードビューの左ペインを表示または非表示にするには :

- Captivate ムービーを開きます。
プログラムウィンドウの左のペインには、デフォルトでストーリーボードビューが表示されます。
- 左ペインのサイズを変更するには、スプリッターバーをドラッグします。縮小するにはプログラムウィンドウの外側に向けてドラッグし、拡大するには内側に向けてドラッグします。
- 左ペインを完全に非表示にするには、スプリッターバーの矢印をクリックします。

ツールバーの表示とドッキング

Captivate では、よく使用する機能への簡単なアクセスを提供するために、多くのツールバーを用意しています。どのツールバーを表示するか、およびツールバーを Captivate プログラムウィンドウ内のどこに配置するかを自由に選択できます。

ツールバーのドッキングの有効化と無効化

このオプションでは、ツールバーを選択し、プログラムウィンドウ内でドラッグして位置変更 (ドッキング) をすることができます。デフォルトでこのオプションが有効化されていますが、随時無効化することができます。

ツールバーのドッキングを有効化および無効化するには：

1. [オプション] メニューから [環境設定] を選択します。
2. [ドッキングの有効化] オプションを選択、または選択を解除します。

ツールバーの表示または非表示

デフォルトで、メインツールバー、オブジェクトツールバー、および整列ツールバーが表示されます。

メインツールバーを表示または非表示にするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [表示] メニューから、[メインツールバー]、[詳細ツールバー]、[オブジェクトツールバー]、[整列ツールバー]、または [キャプションツールバー] を選択、または選択解除をします。

メインツールバーのキャプションの表示または非表示

キャプションは、メインツールバーのアイコンの隣に表示されるテキストです。デフォルトで、メインツールバーはプログラムウィンドウの上部、メニューバーのすぐ下に表示されます。

メインツールバーのキャプションを表示または非表示にするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [表示] メニューから、[ツールバーのキャプション] を選択、または選択を解除します。

ツールバーを別の位置に移動

ツールバーをプログラムウィンドウの左、右、上、下に表示するように設定することができます。

ツールバーを別の位置に移動するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [表示] メニューから、[メインツールバーの配置]、[オブジェクトツールバーの配置]、または [整列ツールバーの配置] を選択して、[左]、[上]、[右]、または [下] のいずれかを選択します。

ツールバーのフロート

Captivate のプログラムウィンドウからツールバーを離して、独立のウィンドウとしてツールバーをフロートさせることができます。

ツールバーを " フロート " させるには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ツールバーの左端または上端をクリックして、四方向矢印を表示し、ツールバーをドラッグしてプログラムウィンドウの端でドッグできる位置に移動するか、またはプログラムウィンドウの中央でフロートできる位置に移動させます。必要であれば、ツールバーを元の場所にドラッグして随時戻すことができます。

フィルムストリップを使用する

編集ビューでは、オプションでフィルムストリップを表示することができます。編集ビューで個々のスライドを編集している最中でも、フィルムストリップでムービー内のすべてのスライドを表示し作業することができます。編集ビューとフィルムストリップを共に使って、Captivate での作業を迅速かつ効率的にします。

フィルムストリップを表示するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. スライドのいずれかをダブルクリックして、編集ビューを開きます。

フィルムストリップが表示されます。

- フィルムストリップには、ムービー内のすべてのスライドが表示順序で表示されます。スライドをムービー内の別の場所にドラッグして、スライドの表示順序を変更することができます。複数のスライドを選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押したまま、スライドをクリックします。すべてをスライドを選択するには、Ctrl + A を押します。
- スライドにラベル (短いタイトル) が割り当てられている場合、スライドの下にそのラベルが表示されます。スライド番号の代わりにラベルを割り当てると、移動および特定のスライドへのジャンプが簡単になります。
- スライドに音声ファイルが関連付けられている場合、音声アイコンがスライドの右下端に表示されます。音声アイコンをクリックして、[再生]、[読み込み]、[編集] などの音声オプションを含んだメニューを表示できます。
- スライドがロックされている場合は、ロックアイコンがスライドの右下端に表示されます。ロックアイコンをクリックすると、ロックを解除することができます。
- スライドにマウスの動きが定義されている場合、マウスアイコンがスライドの右下端に表示されます。マウスの動きにクリックイベントが関連付けられている場合、マウスアイコンは赤い印が付いて表示されます。
- デフォルトで、フィルムストリップはプログラムウィンドウの左側に表示されますが、作業環境に合わせて場所を変えることもできます。[表示] メニューから、[フィルムストリップの配置] を選択して、[左]、[上]、[右]、または [下] のいずれかを選択します。
- デフォルトで、中程度の大きさのサムネイルでスライドがフィルムストリップに表示されます。必要に応じて、スライドのサイズを変更できます。[表示] メニューから [サムネイルのサイズ] を選択し、[小]、[中]、または [大] のいずれかを選択します。

確認メッセージを表示する

重要な操作、および永久的となるような操作を行うときは、確認メッセージを表示します。情報を削除する、またはキーとなる属性を変更するときに、確認メッセージによってその操作を見直す機会が与えられます。あるメッセージが必要ない、またはそのメッセージが作成作業に支障を与える場合などは、よく使う操作の確認メッセージを無効化することもできます。

確認メッセージを表示または非表示にするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [オプション] メニューから [環境設定] を選択します。
3. 確認する操作を選択し、メッセージを表示したくないアクションからチェックマークをはずします。
 - オブジェクトの削除：オブジェクトが削除される前に、メッセージを表示します。
 - スライドの削除：スライドが削除される前に、メッセージを表示します。
 - ムービーのサイズ変更：ムービーのサイズが変更される前に、メッセージを表示します。ムービーのサイズ変更は " 元に戻す " ことのできない操作なので、この操作には確認メッセージの表示をお勧めします。
 - ビデオ画質の変更：スライドの画質が変更される前に、メッセージを表示します。
 - 音声の削除：音声削除される前に、メッセージを表示します。
 - 音声への変更をキャンセル：音量の調整、セクションの切り取りおよび貼り付けなど、音声に加えた変更をキャンセルする前に、このメッセージを表示します。
 - 音声入力レベルの確認：マイクまたは録音装置の音声入力レベルを変更する前に、メッセージを表示します。
 - フレームレートの変更：フレームレートを変更する前に、確認メッセージを表示します。
 - FLA 書き出しの指示：Captivate プロジェクトを Macromedia Flash に書き出すときに、確認メッセージを表示します。
 - パブリッシュしてファイルを上書き：既にファイルをパブリッシュした場所へ再度パブリッシュするときに、確認メッセージを表示します。たとえば、Flash にパブリッシュして SWF ファイルを作成し特定の場所に保存した場合、再度 Flash にパブリッシュして SWF ファイルを作成し同じ場所に保存するとき、確認メッセージが表示され既存のファイルを上書きするかを尋ねられます。
 - テキストキャプション設定 - デフォルトの復元：すべてのテキストキャプション設定をデフォルトに戻すには、このオプションを選択します。たとえば、テキストキャプションのフォントを Times New Roman に変更しフォントの色を緑に変更した場合、[デフォルトの復元] をクリックすると、フォントをデフォルトの Arial に戻し、色もデフォルトの青に戻します。

ショートカットキーについて

ショートカットキーは、マウスやプログラムメニューの代わりに、キーボード上でキーのコンビネーションを使って、簡単に素早く移動するとき、および **Captivate** を使用するときにご利用できます。通常ショートカットキーは、キーボードのファンクションキー、**Alt** キー、**Ctrl** キー、および **Shift** キーとアルファベットまたは数字を同時に使用します。

ショートカットキー	アクション
F1	Captivate ヘルプを開く (ダイアログレベルのヘルプにアクセスするには、各ダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンをクリックする)
F3	現在のスライドをテストビューする (編集ビューのみ)
F4	ムービーをプレビューする
F5	音声を記録する
F6	音声を読み込む
F7	スペルチェック
F8	ムービーを現在のスライドからプレビューする
F10	現在のスライドから 5 スライド分のみをプレビューする
F11	Captivate をフルスクリーンで表示する
F12	Web ブラウザでムービーをプレビューする
Ctrl + A	すべて選択
Ctrl + C	コピー (ストーリーボードビューとフィルムストリップではスライドをコピーし、編集ビューでは選択したオブジェクトをコピーする)
Ctrl + D	複製 (ストーリーボードビューとフィルムストリップではスライドを複製し、編集ビューでは選択したオブジェクトを複製する)
Ctrl + E	タイムライン上で、オブジェクトの表示時間をスライドの最後まで延長する (編集ビューのみ)
Ctrl + H	スライドを高画質に変更する
Ctrl + I	インデントする (編集ビューで選択したオブジェクト)
Ctrl + J	スライドを JPEG に変更する
Ctrl + O	プロジェクトを開く
Ctrl + P	選択したオブジェクトをタイムライン上のプレイヘッドに合わせる (編集ビューのみ)
Ctrl + S	保存する
Ctrl + V	クリップボードにコピーしたものをペーストする (例 : スライド、画像、オブジェクトなど)
Ctrl + X	切り取る (編集ビューで選択したオブジェクトを切り取る)
Ctrl + Y	操作をやり直す
Ctrl + Z	操作を元に戻す
Shift + Ctrl + A	アニメーションファイルを追加する (編集ビューのみ)
Shift + Ctrl + B	ボタンを追加する (編集ビューのみ)
Shift + Ctrl + C	キャプションを追加する (編集ビューのみ)
Shift + Ctrl + H	スライド表示・非表示の切り替え

ショートカットキー	アクション
Shift + Ctrl + I	インデントを解除する (編集ビューで選択したオブジェクト)
Shift + Ctrl + K	クリックボックスを追加する (編集ビューのみ)
Shift + Ctrl + L	ハイライトボックスを追加する (編集ビューのみ)
Shift + Ctrl + M	画像を追加する (編集ビューのみ)
Shift + Ctrl + O	ロールオーバー画像を追加する (編集ビューのみ)
Shift + Ctrl + P	パブリッシュする
Shift + Ctrl + R	ロールオーバーキャプションを追加する (編集ビューのみ)
Shift + Ctrl + T	テキスト入力ボックスを追加する (編集ビューのみ)
Shift + Ctrl + X	テキストアニメーションを追加する (編集ビューのみ)
スペースバー	現在のスライドをテストビューする (編集ビューのみ)

操作を元に戻す、やり直す

[元に戻す] コマンドを使うと、前に行った操作を元に戻すことができます。また、[元に戻す] コマンドで元に戻した操作は、[やり直す] コマンドを使ってやり直すこともできます。

操作を元に戻すには：

- [編集] メニューから [元に戻す] を選択する、または Ctrl + Z を押します。
 クリックするごとに、1つずつ操作が元に戻ります。必要に応じて、[元に戻す] をクリックし続けて、または、Ctrl + Z を押して、前に加えた変更を削除します。

ヒント：[元に戻す] コマンドが使用不可 (淡色表示) の場合は、前に行った操作を元に戻すことができません。

ヒント：Captivate は、プロジェクトを開いたときから閉じるまでの操作を追跡しています。そのため、プロジェクトを開いている間は、好きなだけ操作を元に戻すことができます。

操作をやり直すには：

- [元に戻す] コマンドを使った後、[編集] メニューから [やり直す] を選択する、または Shift + Ctrl + Z を押します。

キャプチャキーを変更する

Captivate には、記録プロセスを開始および終了するデフォルトキーがあります。通常の Flash 記録とフルモーション記録が含まれます。これらのキーは、お好みに応じて変更できます。

メモ： Esc キー、Enter キー、Tab キー、スペースバー、Shift キー (Ctrl キーまたは Alt キーと併用せずに)、F1 キー、または Backspace キーをキーコンビネーションに使うことはできません。

キャプチャキーを変更するには：

1. 次のいずれかの操作を実行します。
 - Captivate を開きます。[オプション] メニューから [記録オプション] を選択します。
 - Captivate ムービーを開きます。[オプション] メニューから [記録オプション] を選択します。
2. [記録キーの変更] タブをクリックします。
3. キーを変更するには、テキストボックスのいずれかを一度クリックし、キーボードでキーまたはキーのコンビネーションを押します。たとえば、記録終了のテキストボックス内をクリックして、Shift + Alt + 4 を押します。記録終了テキストボックスに、選択したキーコンビネーションが表示されます。Ctrl キー、Alt キー、Shift + Ctrl、および Shift + Alt など、ほとんどのキーを使用することができます。たとえば、記録を終了するキーを Alt + R に変更できます。
4. 完了したら [OK] をクリックします。

第 3 章

ムービーを作成する

既存のムービーを開く

Captivate は、ムービーを "My Captivate Projects" フォルダに保存します。このフォルダは、Captivate がインストールされたとき、"マイドキュメント" フォルダ内に格納されます。Captivate を起動させると、"My Captivate Projects" フォルダにあるムービーは、スタートページの [最近のムービーを開く] 一覧に自動的に表示されます。すべての Captivate プロジェクトは、.cp ファイル拡張子を使用します。

ムービーを開くには：

1. Captivate を開きます。
2. [最近のムービーを開く] で、開きたいムービーをクリックします。ムービーが一覧に表示されていない場合は、[開く] をクリックして、ムービーのある場所に移動します。デフォルトのムービー保存場所は My Documents¥My Captivate Projects です。

注意：RoboDemo で作成されたプロジェクトを Captivate で開く場合は、次の点にご注意ください。RoboDemo バージョン 4 より前に作成されたプロジェクトには、.ncp または .fcz のファイル拡張子を使います。RoboDemo バージョン 4 および 5 のプロジェクトには、.rd または .fcz のファイル拡張子を使います。Captivate で古いプロジェクトを開くとアップグレードされ、Captivate のファイル拡張子である .cp が付けられます。

AVI ソフトウェアチュートリアルを読み込む

既存の AVI ソフトウェアのチュートリアルを、直接 Captivate に読み込んで新しいムービーを作成することができます。AVI ソフトウェアチュートリアルを読み込むと、Captivate は各スライドを AVI ファイルから Captivate のスライドへ変換して、新しいムービーを作成します。新しいムービーが開いた後、オブジェクトの追加、タイミングの変更、およびムービーのパブリッシュなど、通常の Captivate タスクを操作することができます。

AVI ソフトウェアチュートリアルを読み込むには：

1. Captivate を開きます。
2. [ファイル] メニューから [読み込み] を選択します。
[プロジェクトを読み込む] ダイアログが表示されます。
3. 読み込む AVI ソフトウェアの名前を入力します。または、[参照] をクリックして AVI ファイルがある場所に移動し、[開く] をクリックします。
4. [次へ] をクリックします。

5. 変換する Captivate スライドを選択します。スライドの右上角のチェックボックスをクリックして個々のスライドを選択すると、緑色のチェックマークがチェックボックスに表示されます。または、[すべて選択] ボタンをクリックして、すべてのスライドを選択することもできます。
6. [完了] をクリックします。
ムービーが生成され、Captivate が開きます。

新規ムービーを記録する前に

デフォルト設定を使用してすぐに Captivate ムービーの記録を開始できますが、計画を立てて、記録設定をカスタマイズすると便利です。

ムービーを計画する

Captivate の優れた機能のひとつは、柔軟性があるところです。Captivate を使用するとムービーを簡単に作成することができ、また、画像、バックグラウンド音声、アニメーション、ナレーション、および詳細なキャプションなどを追加して、さらに精巧なムービーの作成が可能です。

作成するムービーの種類にかかわらず、スクリーンショットを撮る前に計画を立てることは有益です。ムービーを視聴したユーザーに何をして欲しいか、学んで欲しいか、または達成して欲しいかを考慮します。最初にこのゴールを定義することで、成功のための包括的な計画を立てることができます。視聴者に何を望むか明確になったら、ムービーの " コア " をすることが作成できます。

ムービーコンテンツのドラフトを始める準備が整ったら、[ストーリーボード] または台本を使って始められます。

[ストーリーボード] は、おおまかなスケッチを使ってムービー内に含まれる各スライドのコンテンツを表示します。キャプションまたは説明文を含まず、スクリーンショットを主に使用したムービーを作成する場合は、[ストーリーボード] が最良の土台となります。

ヒント : Captivate を使って、[ストーリーボード] を作成することができます。ムービーの " おおまかな " バージョンを記録して、必要に応じて空白のスライドを追加します。その後、ムービーを配布資料としてパブリッシュすることができます。1 ページあたり 1-9 枚のスライドを含むことが可能で、メモ用の空白行が追加されます。

台本にはテキストベースのページを使います。これは本のページに似ています。理論的に、連続的に、そして提供したいだけの詳細を含むことができます。キャプションなどのテキストを大量に含むムービーを作成する場合、台本から最初に取り掛かるのが最適です。

ムービーを計画しているとき、次の要素を追加することも考慮に入れます。

- タイトルページ
- クレジットページ
- 著作権ページ
- オープニングおよびクロージング画像またはスプラッシュ画面
- ナレーションなどの音声、音楽またはスペシャルエフェクト
- 画像
- テキストアニメーション
- インタラクティブなボックス
- クイズ機能 (目的に適する場合)

記録の要領およびヒント

下の一覧は Captivate ムービーの作成に関する要領およびヒントです。これらのヒントを活用すると、ムービーを短時間で簡単に作成し、専門的かつ高品質の結果を得ることができます。

ヒント 1 - 自動記録について

Captivate では、2 つの方法でムービーを作成することができます。

1 つは画面上の操作を手動で記録する方法です。これは、画面上で表示されている場面をキャプチャしたいとき、そのたびにキーボード上の **Print Screen** キー (またはキャプチャに指定した別のキー) を押すことを意味します。その後、画面を変更 (マウスの移動、アイコンのクリック、またはメニューの選択など) をして、もう一度 **Print Screen** を押します。

Captivate に画面上の動作を自動的に記録させる (自動記録) ことも可能です。このオプションを選択すると、記録処理中のマウスクリック、アクティブなアプリケーションまたは **Web** ページの切り替え、キーを押すなどの操作をするたびに、スクリーンショットが自動的にキャプチャされます。

ムービーを効率的に作成する別の方法は、自動記録と手動記録の併用です。自動記録オプションを設定した場合でも、追加のスクリーンショットが必要なときは、随時 **Print Screen** を押します。多数のポップアップ、フレーム、およびスペシャルエフェクトを含んだ **Web** サイトを記録する場合、この方法は特に有効です。機能を有効にしている場合は、スクリーンショットが自動キャプチャされるたびに、Captivate がカメラのシャッター音を再生します。記録している **Web** サイトでスペシャルエフェクトや変更が見られるのに、カメラのシャッター音が聞こえない場合は、**Print Screen** を押して手動でスクリーンショットを撮ります。

ヒント 2 - 記録をするときはゆっくりと - 特に Internet Explorer で Web サイトを記録する場合

スクリーン上の操作を記録しているときは、通常よりもさらにゆっくりとその操作を行います。たとえば、キーボード操作を記録している場合、テキストをゆっくりと入力します。

Internet Explorer で **Web** サイトをキャプチャする場合は、とりわけゆっくりと操作することが大変重要です。手動で記録している場合は、スクリーンショットをキャプチャする前に、各 **Web** ページが完全にロードしたことを確認します。自動記録をしている場合は、**Web** ページが完全にロードされて Captivate がスクリーンショットを撮ったとき、カメラのシャッター音が聞こえ、モニタ右下角のシステムトレイアイコンが点滅します。シャッター音を待ってから、マウスの移動および次の動作を行います。自動的に記録している場合でも、必要に応じて **Print Screen** キーを押して、随時手動でスクリーンショットを撮ることができます。**Web** ページに変更があるのにカメラのシャッター音が聞こえない場合に活用できます。

ヒント 3 - スクリーンショットを効率的にキャプチャする

Captivate がスクリーンショットを撮ったときを、正確に知ることは重要です。Captivate には、スクリーンショットが撮られるたびに " カメラのシャッター " 音を再生する機能が用意されています。この機能はデフォルトで有効になっていますが、音が聞こえない場合は、[オプション] メニューを開いて、[記録オプション] を選択し、[記録中、カメラの音を聞く] オプションが選択されていることを確認します。

自動記録をしている場合は、マウスの移動、メニューの選択、テキストボックスへの入力などの操作を行うたびに、Captivate がスクリーンショットをキャプチャします。操作を行うたびに、カメラのシャッター音が再生されます。

手動で記録をしている場合は、指定したキーまたはキーのコンビネーションを押すたびに、Captivate がスクリーンショットをキャプチャします。デフォルトのキャプチャキーは Print Screen キーです。スクリーンショットを撮りたいときに Print Screen キーを押すと、カメラのシャッター音が聞こえます。

両方の記録方法を同時に使用することもできます。自動記録オプションを有効にして、Captivate がスクリーンショットを撮っている間でも、Print Screen キーを使って必要な画面を手動でキャプチャすることができます。たとえば、Microsoft Internet Explorer の記録で、マウスをロールオーバーしたときにのみ表示される動的な HTML または Flash メニューの場合があります。Captivate は、マウスロールオーバーで起こる変更を自動的に記録しません。カメラのシャッター音が聞こえないので、記録されていないことが分かります。Print Screen を押して、手動で変更をキャプチャすることができます。

ヒント 4 - 適切な画面解像度を設定する

スクリーンショットをキャプチャする前に、適切なスクリーン解像度を選択します。解像度を決定するときは、対象となる視聴者を考慮します。

一般的な Web ユーザーを対象にしている場合は、モニタが 640 × 480 程度の低解像度に設定され、Web ブラウザのユーザーインターフェイスがその画面の一部を占領している可能性があることを念頭に置きます。このような場合、ムービーをキャプチャするために適する低解像度は 512 × 384 です。

別のオプションは 640 × 480 または 800 × 600 で設定されたフルスクリーンモードです。イントラネットでムービーを表示する場合、またはブロードバンドユーザーを対象にする場合は、これらの多少高い解像度が適しています。

CD または他の高帯域幅メディア向けのムービーを作成する場合は、ムービー サイズを 1024 × 768 または 800 × 600 に設定します。

ヒント 5 - 壁紙をオフにする

完成したムービーではデスクトップの壁紙のために注意を逸らすことがあります。ユーザーがムービーを見ずに壁紙を見ている場合があるかもしれません。また、特に写真など色彩に富んだ壁紙を使用するとムービーのサイズが大きくなり、壁紙の表示に数多くの色が必要になるためムービーの色精度が低下します。

背景には単色が最適です。専門的な観点からの結論で、背景はムービーを表示する Web ページと同じ色に設定することをお勧めします。

ヒント 6 - アイコンをオフにする

壁紙と同様に、アイコンも注意を逸らす原因になります。アイコンをツールバーに移動して、アイコンの数を減らします。タスクバーのクイック起動セクションにあるアイコンの数を減らすこともできます。完全にタスクバーを非表示にするには、[スタート] をクリックして、[設定]-[タスクバーとスタートメニュー] を選択します。[タスクバーを自動的に隠す] を選択します。ご使用のコンピュータの OS によっては、手順が異なる場合があります。

ヒント 7 - テーマと標準以外の色を削除する

個人的な好みでテーマおよび配色を設定すると、完成したプロジェクトには適さない場合があります。最良のムービーを作成するには、テーマを Windows 標準のテーマに設定し、配色をデフォルト値に設定します。

ヒント 8 - 色のグラデーションを削除する

ウィンドウのタイトルバーに色のグラデーションを設定すると、ムービーのファイルサイズが大きくなります。タイトルバーの色のグラデーションを無効にするには、[スタート] をクリックし、[コントロールパネル]-[ディスプレイ] を選択します。[外観] タブをクリックし、[詳細設定] をクリックして、[アイテム] ポップアップメニューを見つけます。アクティブタイトルバーを選択して、[カラー] および [カラー 2] を同じ色に設定します。ご使用のコンピュータの OS によっては、手順が異なる場合があります。

記録テクニック

Captivate では、新規ムービーを作成するときのために、幅広いさまざまなオプションが用意されています。多くのプロセスは自動的な処理が可能で、自動および手動オプションを併用することもできます。また、手動で記録することにより、さらに大幅なコントロールを保持することも可能です。

タスクを自動または手動のどちらで処理するか選択する場合、ムービーの目的および作成時間の制限によって決定することがしばしばあります。短いムービーを素早く作成したい場合は、タスクを Captivate の自動記録で行います。長く詳細なムービーを作成する場合は、自動記録オプションおよび手動記録オプションを併用します。違った記録オプションを試して、最適なコンビネーションを見つけます。

スクリーンショットをキャプチャする

ムービーを記録しているとき、Captivate にスクリーンショットを自動的にキャプチャさせることが可能ですが、手動でキャプチャすることもできます。自動的に記録する場合は、ボタンまたはメニューをクリックする操作を行うたびに、Captivate がスクリーンショットを撮ります。Captivate には、スクリーンショットを撮るときにカメラのシャッター音を再生する機能があり、いつショットがキャプチャされたかを正確に把握するために利用できます。手動で記録する場合は、スクリーンショットを撮りたい場面のたびに、キャプチャに指定したキー (デフォルトではキーボードの Print Screen キー) を押します。

両方のテクニックを併用することもできます。自動記録オプションを選択して Captivate にスクリーンショットを撮らせている間でも、必要な場面では Print Screen を押すことができます。

追加スライド

ムービー内またはムービーの最後に加える追加スライドをキャプチャしている場合にも、ムービーの作成時と同じオプションを利用することができます。Captivate にスライドを自動キャプチャさせる、手動でキャプチャする、またはその両方を併用することができます。

フルモーションでスクリーンショットをキャプチャする

ドラッグ & ドロップの動作または画像処理プログラムでの描画などを含むムービーまたは追加スライドを記録している場合は、Captivate がこれらの特別な動作を高フレームレートでキャプチャするので、動作の流れがスムーズになり現実的に見えます。これはフルモーション記録と呼ばれます。

ムービーまたはスライドを自動的に記録している場合、Captivate にドラッグ & ドロップの動きまたは描画をフルモーションで自動的にキャプチャさせることができます。オブジェクトをクリック、オブジェクトをドラッグ、または描画を始めると、Captivate が適宜自動的に高レートでフレームをキャプチャします。ドラッグまたは描画を終えると、フルモーション記録が終了し、通常の記録が再び始まります。

手動で記録している場合は、フルモーションの開始および終了をコントロールすることができます。フルモーション記録を随時開始するには F9 を押し、フルモーション記録を終了するには F10 を押します。

テキストキャプション

テキストキャプションは、ムービー内のスライド上に表示されます。テキストキャプションはムービーの視聴者に " 話しかける " 方法の1つです。スライド上の領域を指す場合、コンセプトを説明する場合、または電話番号や Web アドレスなど、より多くの情報を視聴者に提供する場合によく利用されます。記録時に、自動的または手動でテキストキャプションを作成することができます。

ムービーまたは追加スライドを自動記録している場合は、**Captivate** にテキストキャプションを自動的に作成させることが同時にできます。メニューの選択またはボタンを押すなど、さまざまな動作でテキストキャプションが生成されます。たとえば、[ファイル] メニューを選択する操作を記録する場合、「[ファイル] メニュー項目を選択する」というテキストキャプションが、同じスライド上に自動的に追加されます。テキストキャプションが作成されスライド上に配置された後、テキストの編集または書式の変更を随時行うことができます。

手動でムービーを作成する場合、必要に応じてテキストキャプションを追加することができます。

クリックボックス

クリックボックスは、スライド上に表示されるインタラクティブなボックスです。視聴者がアプリケーションまたは Web サイトを実際に " 使う " 機会を提供します。視聴者がクリックボックスをクリックした後、再生の続行、新しいムービーを開く、または特定の Web サイトに行くなど、ムービーに異なる動作を実行させることができます。

ムービーまたはスライドを自動的に記録する場合、**Captivate** は自動的にクリックボックスを追加することができます。既存のムービーがある場合は、随時クリックボックスを追加することができます。

ハイライトボックス

ハイライトボックスは、半透明で色の付いた四角形をしています。紙面上で、ある領域にスポットライトをあてるマーカーペンと同様に、スライド上の領域に注意を引き付けるために、ハイライトボックスを配置することができます。ハイライトボックスの形式、色、透明度、およびサイズを、完全に制御できます。

ムービーまたはスライドを自動的に記録している場合、マウスクリックが実行されるいずれの領域でも、**Captivate** はハイライトボックスを自動的に作成することができます。既存のムービーがある場合は、手動でハイライトボックスを追加することができます。

記録オプションを設定する

一般に、新しいムービーを記録する前に記録オプションを設定して、最適なオプションを利用できる状態にします。これにより、目的に完全に合った **Captivate** プロジェクトを作成するための編集量を減らすことで、貴重な時間を無駄にしません。

記録前にオプションを設定することが最良ですが、開いた **Captivate** ムービーの記録オプションは、随時変更することができます。これは、開いたムービーがあり、追加スライドを記録したい場合に便利です。

記録オプションを設定するには：

1. 次のいずれかの操作を実行します。

- **Captivate** を開きます。[オプション] メニューから [記録オプション] を選択します。
- **Captivate** を開きます。**Captivate** プロジェクトを開きます。[オプション] メニューから [記録オプション] を選択します。

2. [記録オプション] ダイアログボックスで、[記録オプション] タブをクリックして次のオプションを選択します。

自動記録を有効化

自動記録を有効化：記録作業をしているとき、スクリーンショットを自動的に撮る場合は、このオプションを選択します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。スライドを生成する操作には、マウスをクリックする、アプリケーションまたは Web サイト内でフォーカスを変える、キャプチャキーをクリックする、メニューを開く、ダイアログボックスを開く、ツールバーボタンをクリックする、ボタンをクリックする、およびドラッグ & ドロップなどが含まれます。

メモ： キーボードの計算キーを使用する画面操作を記録する場合は、このオプションをお勧めしません。自動記録を有効にしている場合、Captivate は画面上の計算を正確に記録することができません。

言語：[自動記録を有効化] オプション (上記) を選択した場合は、[言語] ポップアップメニューをクリックして、自動生成されるキャプションおよびツールヒントのテキストに使用する言語を指定します。

記録のデフォルト：上記の [自動記録を有効化] オプションを選択した場合は、[記録のデフォルト] ポップアップメニューをクリックして、キャプションに使用するデフォルトのテキストキャプションスタイルを指定します。ムービーの記録時、自動的に作成するキャプションおよびハイライトボックスのすべてのタイプのデフォルト設定を変更するには、[設定を編集] をクリックします。

記録モード：上記の [自動記録を有効化] オプションを選択した場合は、[記録モード] を使って、自動記録されるムービーに含める項目を指定します。ポップアップメニューからオプションを選択します。

- デモンストレーション：自動的に記録するムービーに、キャプション、ハイライトボックス、およびマウス動作を自動的に含める場合は、このオプションを選択します。
- 評価用シミュレーション：自動的に記録するムービーに、失敗キャプションとともにクリックボックスを自動的に含める場合は、このオプションを選択します。マウス動作は含まれません。
- トレーニングシミュレーション：ヒントや失敗キャプションとともにクリックボックスをムービーに自動的に含める場合は、このオプションを選択します。キャプションおよびマウスの動きは含まれません。
- カスタム：キャプション、ハイライトボックス、クリックボックスなどのオブジェクトを選択して、ムービーに自動的に追加する場合は、このオプションを選択します。

自動記録モードのいずれかを使用しているとき、ムービーに自動追加するオブジェクトの一覧を編集するには、[設定を編集] をクリックします。

サウンド

ナレーションを記録する：ムービーを記録中、録音も同時に行う場合は、このオプションを選択します。

記録中、カメラの音を聞く：記録中、スクリーンショットが撮られるたびに " カメラのシャッター " 音を再生する場合は、このオプションを選択します。シャッター音を有効にすると、スクリーンショットがいつ撮られたかを正確に知ることができるので、自動記録機能を使用している場合には特に便利です。カメラのシャッター音は、完成したムービーでは聞こえません。

キーストロークを記録する：キーボード操作を記録する場合は、このオプションを選択します。Captivate では、キーボードによる入力記録されますが、入力するすべての文字ごとにスクリーンショットが撮られることはありません。キー操作は完成したムービーに表示されます。

キーボードを打つ音を聞く：記録中にキーボードの打ち込み音を鳴らす場合は、このオプションを選択します。キーボードの打ち込み音は、完成したムービーには含まれません。

[オプション]

記録ウィンドウを非表示 : 記録中に表示される四角形を非表示にするには、このオプションを選択します。これは、タスクバーから **Captivate** アイコンを削除するので、タスクバーのデモンストレーションや、フルスクリーンオプションで記録している場合に、活用できます。

タスク アイコンを非表示 : 記録中にタスクアイコンを非表示にするには、このオプションを選択します。フルスクリーンオプションで記録するとき、通常、**Captivate** は開いているアプリケーションとして見えます。記録作業に差し障りがある場合は、このオプションを使って **Captivate** を非表示にすることができます。

システムトレイ アイコンを非表示 : 記録中にシステムトレイアイコンを非表示にするには、このオプションを選択します。このアイコンは、コンピュータ画面の右下角にあるシステムトレイに表示される、小さい **Captivate** アイコンです。コンピュータ画面の領域を記録しているとき、ムービー内で **Captivate** アイコンを表示したくない場合は、このオプションでアイコンを非表示にします。

新しいウィンドウを記録領域内に移動する : 記録中に開くウィンドウを、**Captivate** が自動的に赤いキャプチャ領域内へ移動する場合は、このオプションを選択します。これは、多数のダイアログボックスが開くアプリケーションを記録する場合、特に便利です。

3. フルモーション記録の環境を設定するには、[フルモーション記録] タブをクリックして、オプションを選択します。

ドラッグ & ドロップのフルモーションキャプチャを自動的に使用 : ファイルまたは画像を選択し、アプリケーションまたは画面の別の領域にそれをドラッグする場合など、**Captivate** にドラッグ & アップ操作を自動的に記録させたいときは、このオプションを選択します。

フルモーションキャプチャモードでマウスを表示 : フルモーション記録にマウス動作を含める場合は、このオプションを選択します。

スムーズなムービーのために、高キャプチャレートで記録 : マウスの動きをより良く再現するなど、ハードウェアの加速を無効にしてよりスムーズなムービーを作成する場合は、このオプションを選択します。ハードウェアの加速がオンの場合、膨大なシステムリソースが使用されるため、フルモーションの記録が " ブツ切れ " になることがあります。ハードウェアの加速設定をオフにすることで、フルモーション記録の質が向上します。このオプションを選択した場合は、フルモーション記録を開始および終了するとき、ご使用のコンピュータ画面がちらつくことがあります。この画面のちらつきは、ご使用のコンピュータを傷つけることはなく、完成したムービーに現れることもありません。

ビデオ画質 : このオプションで、ビデオの画質レベルを選択することができます。高画質 (80-100) に設定すると、スムーズで見栄えのするビデオになりますが、ファイルサイズは大きくなります。低い画質に設定すると、ファイルサイズは小さくなりますが、ビデオが断片化して見える場合があります。さまざまなサイズを試して、サイズと画質で適度なバランスがとれるようにします。

作業フォルダ : ビデオをローカルハードディスクに保存する場合は、このオプションで指定します。保存場所への正確なパスを入力、または [参照] をクリックして場所を移動します。

ビデオのカラーモード : ビデオのカラーを 16 ビットまたは 32 ビットに設定します。16 ビットに設定すると、ファイルサイズは小さくなりますが、使用される色の範囲も狭くなります。一方、32 ビットを選択すると、ファイルサイズは大きくなりますが、幅広い範囲の色が使用されます。

4. [記録キーの変更] タブをクリックして、オプションを設定します。

記録を終了するキー：記録セッションを終了するために使用するキーを指定します。デフォルトのキーは End キーです。

手動でスクリーンショットをキャプチャするキー：スクリーンショットを撮るために押すキーを指定します。デフォルトのキーは Print Screen キーです。

フルモーションの記録を開始するキー：フルモーション記録を開始するために使用するキーを指定します。デフォルトのキーは F9 です。

フルモーションの記録を終了するキー：フルモーション記録を終了するために押すキーを指定します。デフォルトのキーは F10 です。

5. [OK] をクリックします。

フルモーション記録を使用する

Captivate には、便利な機能である " フルモーション記録 " が含まれています。これは、新しいムービーまたは既存のムービーに追加スライドを自動記録している場合、ドラッグ & ドロップ操作を記録するときに、自動的に高フレームレートでキャプチャします。高レートでキャプチャすると、ドラッグ & ドロップ操作が完成した Captivate SWF ファイルでスムーズに表示されます。これによって、より現実的な体験をユーザーに提供できます。

フルモーション機能を有効にした場合、新しいムービーまたはスライドを自動記録中にオブジェクトをクリックしてそれをドラッグすると、Captivate が高レートでフレームをキャプチャします。コンピュータ画面右下角にあるシステムトレイの Captivate アイコンを見ていると、いつフルモーション記録が始まったかを知ることができます。通常の記録をしている場合は、普通のアイコンが表示されます。フルモーション記録が自動的に始めると、アイコンに赤い枠 が付いて表示され、アイコンが点滅します。フルモーション記録を終了するには、ドラッグするのを止め、記録終了キーを押します。フルモーション記録のデフォルト終了キーは F10 で、記録を完全に終了するデフォルトキーは END です。

メモ： マウスのホイールを使用すると、フルモーション記録は開始しません。

記録が完了したら、Captivate がムービーを構成するスライドを生成し、Captivate ストーリーボードビューにスライドを表示します。フルモーションスライドとして記録されたドラッグ & ドロップの操作は、スライド右下角にムービーカメラのアイコンが付いてストーリーボードビューで表示されます。フルモーションスライドはアニメーションスライドとして保存され、ムービープロジェクトに含まれます。

ヒント： 最良のキャプチャのために、特にフルモーション記録の場合は、ドラッグ、クリック、および入力操作をゆっくりと行います。

フルモーション記録機能はデフォルトで有効になっています。随時無効にすることができます。

ドラッグ & ドロップ操作のフルモーション記録を無効にするには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. [オプション] メニューから [記録オプション] を選択します。
3. [フルモーション] タブをクリックします。
4. [ドラッグ & ドロップのフルモーションキャプチャを自動的に使用する] の選択を解除します。
5. [OK] をクリックします。

記録モードについて

Captivate は、ムービーを自動記録するばかりでなく、ムービーの目的に応じて、自動記録で作成されるムービーに追加するオブジェクトをカスタマイズすることもできます。この機能は、記録モードと呼ばれます。たとえば、記録モードを選択して、シミュレーションまたはデモンストレーション用に適したムービーを、簡単に作成することができます。これにより、大部分の操作は Captivate が処理するので、ムービーを素早く作成することができます。

メモ：自動記録をしている場合のみ、記録モードの利用が可能です。手動でムービーを記録している場合は、これらのモードを利用できません。

記録モードを選択および使用するには：

1. Captivate を開きます。
2. [オプション] メニューから [記録オプション] を選択します。
3. [記録オプション] タブをクリックします。
4. [自動記録を有効化] を選択します。
5. [記録モード] のポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。

デモンストレーション：自動的に記録するムービーに、キャプション、ハイライトボックス、およびマウス動作を自動的に含める場合は、このオプションを選択します。

評価用シミュレーション：自動的に記録するムービーに、失敗キャプションとともにクリックボックスを自動的に含める場合は、このオプションを選択します。マウス動作は含まれません。

トレーニングシミュレーション：ヒントや失敗キャプションとともにクリックボックスをムービーに自動的に含める場合は、このオプションを選択します。マウス動作は含みません。

カスタム：キャプション、ハイライトボックス、クリックボックスなどのオブジェクトを選択して、ムービーに自動的に追加する場合は、このオプションを選択します。

6. (オプション) どのオプションを選択しても、[設定を編集] をクリックすると、ムービーの記録時に自動作成する項目を編集することができます。たとえば、上の手順 5 で [デモンストレーション] モードを選択した後、ハイライトボックスを含めたくない場合があります。[設定を編集] をクリックして、[ハイライトボックス] オプションの選択を解除し、他の設定は保持します。

ムービーを新規作成する

コンピュータ画面に表示されるものすべてを含むムービーを記録することができます。Captivate では、簡単にアプリケーション、特定のサイズのムービー、フルスクリーンムービー、空のムービー、または画像ムービーを記録できます。また、一貫性を保つためにテンプレートを使用することも可能です。

キャプチャ領域を設定する

画面キャプチャ領域は、Captivate がスライドの作成に使用する画面上の領域です。たとえば、ご使用のモニタが 1024 × 768 ピクセルで、画面上のキャプチャ領域を 800 × 600 ピクセルで設定したとします。Captivate は、ご使用の画面 1024 × 768 ピクセルの内、800 × 600 ピクセルをキャプチャします。

Captivate は、すべての記録オプションに、デフォルトの画面キャプチャ領域である 640 × 480 ピクセルを使用します。Captivate がこのデフォルトを使用する理由は、800 × 600 ピクセルよりも大きいムービーは、ダイアルアップのインターネット接続で正常に送信されないことがあるためです。対象となるユーザーがこれより大きい領域を見ることができる場合は、Captivate で画面キャプチャ領域のサイズを変更できます。キャプチャ領域のサイズを変更すると、そのサイズがデフォルト値になります。

一般的に、最良の性能をユーザーに提供するためには、以下のキャプチャ設定を使用します。

- 28.8K モデム : 640 × 480 以下
- 33.6K モデム : 800 × 600 以下
- 56K モデム : 800 × 600 以下
- ケーブル /DSL/T1: 1024 × 768 以下

キャプチャ領域を設定するには :

1. Captivate を開きます。
2. スタートページで [新規作成] をクリックします。
3. 記録オプションのいずれかを選択して、[OK] をクリックします。
 - [アプリケーション] を選択した場合は、赤枠のいずれかのサイズ変更ハンドルを選択し、ドラッグしてサイズを大きくまたは小さくして、ウィンドウのサイズを変更します。ウィンドウの位置を変更するには、四方向矢印が表示されるまで赤い枠の上でマウスを動かし、ウィンドウ全体をドラッグして新しい位置に移動します。[赤枠の記録領域をウィンドウに合わせて吸着させる] をクリックすると、アプリケーションのサイズに合わせて、記録領域を素早くサイズ変更できます。
 - [カスタムサイズ] を選択した場合は、[幅] および [高さ] テキストボックスに新しい数字を入力して、キャプチャウィンドウのサイズを変更します。または、矢印を使って新しい数字を指定します。[規定サイズ] をクリック選択して、ポップアップメニューからよく使われるサイズを選択することもできます。
 - [フルスクリーン] を選択した場合は、画面上のすべてを Captivate がキャプチャするので、キャプチャ領域のサイズを変更する必要はありません。
 - [空のムービー] を選択した場合は、[ユーザー定義 (カスタム)] を選択して、[幅] および [高さ] テキストボックスに新しい数字を入力し、キャプチャウィンドウのサイズを変更します。または、矢印を使って新しい数字を指定します。[規定サイズ] を選択して、ポップアップメニューからよく使われるサイズを選択することもできます。
 - [画像ムービー] を選択した場合は、[ユーザー定義 (カスタム)] を選択して、[幅] および [高さ] テキストボックスに新しい数字を入力し、キャプチャウィンドウのサイズを変更します。または、矢印を使って新しい数字を指定します。[規定サイズ] を選択して、ポップアップメニューからよく使われるサイズを選択することもできます。
4. [記録] をクリックして、指定したサイズで新しいムービーの記録を開始します。

ムービーを記録する

Captivate でムービーを簡単に作成できます。Captivate でムービーを記録する際は、実演するアプリケーションまたは Web サイトで、マウスの動作、キーボードの使用、メニュー間の移動などを、通常どおりに行います。Captivate は、スクリーン上の操作を自動的にキャプチャします。また、スクリーンショットを手動でキャプチャすることもできます。記録完了後、オプションの設定、およびテキストキャプション、音声、画像、ハイライトボックスなどのコンポーネントの追加を行うことができます。

Captivate には、ドラッグ & ドロップ操作を記録する場合、自動的に高フレームレートでキャプチャする "フルモーション記録" 機能が含まれています。

数種類の Captivate ムービーを作成することが可能です。それらの記録過程は似ていますが、それぞれにユニークなオプションが用意されています。

- アプリケーション : 実行中の1つのアプリケーション内で、選択したすべての操作を記録します。
- カスタム : カスタム定義の領域内で、選択されたすべての操作を記録します。このオプションを選択した場合は、[幅] ボックスと [高さ] ボックスでカスタムサイズを設定します。または、ポップアップメニューから規定サイズを選択します。
- フルスクリーン : スクリーン上のすべての操作を記録します。このオプションは、複数のアプリケーション間で行う操作をキャプチャする場合に、特に役立ちます。
- 空白 : 指定したサイズの空白スライドで記録をします。これは、空のムービーを作成し、Microsoft PowerPoint スライド、他のムービーからのスライド、または画像などを読み込む場合に便利なオプションです。
- 画像ムービー : 画像を使用して Captivate ムービーを簡単に作成する方法です。作成したムービーをパブリッシュすると、スライドショーのように見えます。

ヒント : 記録を一時停止したい場合は、Pause/Break キーを押します。再び記録を開始する場合は、Pause/Break キーをもう一度押します。

新規アプリケーションムービーを記録する

このオプションでは、実行中のアプリケーションで行う、すべての操作を記録します。いずれのアプリケーションタイプ (ワードプロセッサ、画像処理プログラム、スプレッドシートプログラムなど) でも、アプリケーション内で行われる操作を記録できます。

Captivate には、ドラッグ & ドロップ操作を記録する場合、自動的に高フレームレートでキャプチャする、特別な機能の "フルモーション記録" が含まれています。新規アプリケーションムービーを記録するには:

1. 記録したいアプリケーションを開きます。記録を開始する前に、アプリケーションを開く必要があります。
2. Captivate を開きます。
3. スタートページで [新規作成] をクリックします。
[新規ムービーオプション] ダイアログボックスが表示されます。
4. [アプリケーション] を選択して、[OK] をクリックします。
記録ウィンドウが表示されます。
5. [記録ウィンドウの選択] ポップアップメニューから、記録するアプリケーションを選択します。
6. (オプション) [ナレーションを記録する] を選択して、ムービーの記録と同時に録音もします。

7. (オプション)[オプション]をクリックして、スクリーンショットの自動キャプチャ、およびテキストキャプションの自動生成など、幅広い記録オプションを設定します。
 8. (オプション) 必要に応じて、ウィンドウのサイズおよび位置を調整します。赤い枠の上でサイズ変更ハンドルを選択し、それをドラッグしてウィンドウのサイズを変更できます。ウィンドウの位置を変更するには、四方向矢印が表示されるまで赤い枠の上でマウスを動かし、ウィンドウ全体をドラッグして新しい位置に移動します。[赤枠の記録領域をウィンドウに合わせて吸着させる] をクリックすると、アプリケーションのサイズに合わせて、記録領域を素早くサイズ変更できます。
 9. オプションの設定が完了したら、[記録] をクリックします。
 10. Captivate がスクリーン上の操作を記録し始めます。
 - 自動的に記録している場合 (手順 7 で、[自動記録を有効化] オプションを選択した場合)、メニューの選択、ボタンのクリック、またはテキスト入力などの操作をするたびに、その操作のスクリーンショットを Captivate が自動的にキャプチャします。

メモ : 自動的に記録している場合、Print Screen キーを押すと、スクリーンショットがいつでも撮れます。これは、自動記録されないポップアップメニュー、フレーム、およびスペシャルエフェクトを含んだ Web サイトをキャプチャしている場合に、特に役立ちます。記録している Web ページ上でスペシャルエフェクトや変更が見られるのに、カメラのシャッター音が聞こえない場合は、Print Screen を押して手でスクリーンショットを撮ります。
 - ムービーを手動で記録している場合 (手順 7 で、[自動記録を有効化] オプションを選択しなかった場合)、Print Screen キー (またはキャプチャに指定した別のキー) を押して、スクリーンショットをキャプチャします。
- 操作の実演をだれかに見せているときに、アプリケーションを使います。使用しているコンピュータにサウンド機能があり、オプションを選択した場合は、カメラのシャッター音が聞こえます。
- メモ :** スクリーン上の操作を記録しているときは、通常よりもさらにゆっくりとその操作を行います。たとえば、キーボード操作を記録している場合、テキストをゆっくりと入力します。
11. 記録が完了したら、End キー (または記録終了に指定した別のキー) を押して記録を終了します。

スライドが生成され、新しく作成したムービーがストーリーボードビューに表示されます。ドラッグ & ドロップの操作を記録してフルモーションスライドを作成した場合、ストーリーボードビューにフルモーションスライドが表示され、スライドの右下にムービーカメラのアイコンが見えます。

新規カスタムサイズムービーを記録する

カスタム定義の領域内で、選択されたすべての操作を記録することができます。プロジェクトのサイズに厳密性を必要とする場合、このオプションは特に便利です。たとえば、Web サイトのウィンドウに組み入れる場合などは、特定のサイズで記録して Captivate SWF ファイルを生成する必要があります。このオプションを選択した場合は、[幅] ボックスと [高さ] ボックスでカスタムサイズを設定します。または、ポップアップメニューから規定サイズを選択します。

Captivate には、ドラッグ & ドロップ操作を記録する場合、自動的に高フレームレートでキャプチャする、特別な機能の " フルモーション " が含まれています。

新規カスタムサイズムービーを記録するには :

1. Captivate を開きます。
2. スタートページで [新規作成] をクリックします。

[新規ムービーオプション] ダイアログボックスが表示されます。

3. [カスタムサイズ] を選択して、[OK] をクリックします。

記録ウィンドウが表示されます。

4. Captivate は、デフォルトのキャプチャ領域である 640 × 480 ピクセルを使用します。サイズを変更するには、[幅] および [高さ] に新しい数字を入力します。または、矢印を使って新しい数字を指定します。[規定サイズ] をクリック選択して、ポップアップメニューからよく使われるサイズを選択することもできます。

メモ： 一般に、800 × 600 ピクセルより大きいサイズのムービーは、ダイヤルアップ接続で正常に送信されない場合があります。

5. (オプション) [記録したいウィンドウを選択します (オプション)] ポップアップメニューから、開いているウィンドウのいずれかを選択して記録します。
 6. (オプション) [ナレーションを記録する] を選択して、ムービーの記録と同時に録音もします。
 7. (オプション) [オプション] をクリックして、スクリーンショットの自動キャプチャ、およびテキストキャプションの自動生成など、幅広い記録オプションを設定します。
 8. (オプション) 必要に応じて、ウィンドウの位置を調整します。ウィンドウの位置を変更するには、四方向矢印が表示されるまで赤い枠の上でマウスを動かし、ウィンドウ全体をドラッグして新しい位置に移動します。[赤枠の記録領域内に合わせてウィンドウを吸着させる] をクリックすると、赤い記録領域に合わせて、記録するウィンドウのサイズを素早く変更できます。
 9. オプションの設定が完了したら、[記録] をクリックします。
10. Captivate がスクリーン上の操作を記録し始めます。

- 自動的に記録している場合 (手順 7 で、[自動記録を有効化] オプションを選択した場合)、メニューの選択、ボタンのクリック、またはテキスト入力などの操作をするたびに、その操作のスクリーンショットを Captivate が自動的にキャプチャします。

メモ： 自動的に記録している場合、Print Screen キーを押すと、スクリーンショットがいつでも撮れます。これは、自動記録されないポップアップメニュー、フレーム、およびスペシャルエフェクトを含んだ Web サイトをキャプチャしている場合に、特に役立ちます。記録している Web ページ上でスペシャルエフェクトや変更が見られるのに、カメラのシャッター音が聞こえない場合は、Print Screen を押して手動でスクリーンショットを撮ります。

- ムービーを手動で記録している場合 (手順 7 で、[自動記録を有効化] オプションを選択しなかった場合)、Print Screen キー (またはキャプチャに指定した別のキー) を押して、スクリーンショットをキャプチャします。

操作の実演をだれかに見せているときに、赤い記録領域内にあるアプリケーションや Web サイトなどを使用します。使用しているコンピュータにサウンド機能があり、オプションを選択した場合は、カメラのシャッター音が聞こえます。

メモ： スクリーン上の操作を記録しているときは、通常よりもさらにゆっくりとその操作を行います。たとえば、キーボード操作を記録している場合、テキストをゆっくりと入力します。

11. 記録が完了したら、End キー (または記録終了に指定した別のキー) を押して記録を終了します。

スライドが生成され、新しく作成したムービーがストーリーボードビューに表示されます。ドラッグ & ドロップの操作を記録してフルモーションスライドを作成した場合、ストーリーボードビューにフルモーションスライドが表示され、スライドの右下にムービーカメラのアイコンが見えます。

新規フルスクリーンムービーを記録する

フルスクリーン記録オプションを使用して、コンピュータ画面上で行うすべての操作を記録します。2、3種類のアプリケーションを Captivate ムービー 1 本の中で記録する必要がある場合、このオプションは特に便利です。たとえば、ワードプロセッサプログラムからスプレッドシートプログラムにデータをコピーする操作を記録したい場合は、フルスクリーン記録オプションを使って両方のプログラムの操作をキャプチャします。

Captivate には、ドラッグ & ドロップ操作を記録する場合、自動的に高フレームレートでキャプチャする、特別な機能の "フルモーション" が含まれています。

新規フルスクリーンムービーを記録するには：

1. Captivate を開きます。
2. スタートページで [新規作成] をクリックします。
[新規ムービーオプション] ダイアログボックスが表示されます。
3. [フルスクリーン] を選択して [OK] をクリックします。
[記録] ダイアログボックスが表示されます。
4. (オプション) ご使用のコンピュータにモニタ 2 台が接続されている場合は、[モニタ 1] または [モニタ 2] のいずれかを選択して、記録に使用するモニタを指定します。
5. (オプション) [ナレーションを記録する] を選択して、ムービーの記録と同時に録音もします。
6. (オプション) [オプション] をクリックして、スクリーンショットの自動キャプチャ、およびテキストキャプションの自動生成など、幅広い記録オプションを設定します。
7. オプションの設定が完了したら、[記録] をクリックします。
8. Captivate がスクリーン上の操作を記録し始めます。
 - 自動的に記録している場合 (手順 6 で、[自動記録を有効化] オプションを選択した場合)、メニューの選択、ボタンのクリック、またはテキスト入力などの操作をするたびに、その操作のスクリーンショットを Captivate が自動的にキャプチャします。
メモ：自動的に記録している場合、Print Screen キーを押すと、スクリーンショットがいつでも撮れます。これは、自動記録されないポップアップメニュー、フレーム、およびスペシャルエフェクトを含んだ Web サイトをキャプチャしている場合に、特に役立ちます。記録している Web ページ上でスペシャルエフェクトや変更が見られるのに、カメラのシャッター音が聞こえない場合は、Print Screen を押して手でスクリーンショットを撮ります。
 - ムービーを手動で記録している場合 (手順 6 で、[自動記録を有効化] オプションを選択しなかった場合)、Print Screen キー (またはキャプチャに指定した別のキー) を押して、スクリーンショットをキャプチャします。

操作の実演を誰かに見せているときのように、画面上にあるアプリケーションや Web サイトなどを使用します。使用しているコンピュータにサウンド機能があり、オプションを選択した場合は、カメラのシャッター音が聞こえます。

メモ：スクリーン上の操作を記録しているときは、通常よりもさらにゆっくりとその操作を行います。たとえば、キーボード操作を記録している場合、テキストをゆっくりと入力します。

9. 記録が完了したら、End キー (または記録終了に指定した別のキー) を押して記録を終了します。

スライドが生成され、新しく作成したムービーがストーリーボードビューに表示されます。ドラッグ & ドロップの操作を記録してフルモーションスライドを作成した場合、ストーリーボードビューにフルモーションスライドが表示され、スライドの右下にムービーカメラのアイコンが見えます。

空のムービーを新規作成する

空白スライドを 1 枚を含む空のムービーを指定したサイズで作成することができます。これは、空のプロジェクトを作成し、Microsoft PowerPoint スライド、他のプロジェクトからのスライド、または画像などを読み込む場合に便利なオプションです。カスタムサイズは [幅] と [高さ] のボックスで設定をします。または、[規定サイズ] ポップアップメニューからよく使用されるサイズを選択します。

空のムービーを作成するには：

1. Captivate を開きます。
2. スタートページで [新規作成] をクリックします。
[新規ムービーオプション] ダイアログボックスが表示されます。
3. [空のムービー] を選択して [OK] をクリックします。
[空のムービー] ダイアログボックスが表示されます。
4. Captivate は、デフォルトのキャプチャ領域である 640 × 480 ピクセルを使用します。サイズを変更するには、[ユーザー定義 (カスタム)] を選択し、[幅] および [高さ] テキストボックスに新しい数字を入力します。または、矢印を使って新しい数字を指定します。[規定サイズ] を選択して、ポップアップメニューからよく使われるサイズを選択することもできます。

メモ：一般に、800 × 600 ピクセルよりも大きいムービーは、ダイヤルアップ接続で正常に送信されない場合があります。

5. [OK] をクリックします。

ムービーが生成され、Captivate ストーリーボードビューに表示されます。

新規画像ムービーを記録する

画像を使って Captivate ムービーを簡単に作成することができます。スライドショーのような Captivate ムービーを作成する場合、このオプションは便利です。

新規画像ムービーを記録するには：

1. Captivate を開きます。
2. スタートページで [新規作成] をクリックします。
[新規ムービーオプション] ダイアログボックスが表示されます。
3. [画像ムービー] を選択して [OK] をクリックします。
[画像ムービー] ダイアログボックスが表示されます。

4. Captivate は、デフォルトのキャプチャ領域である 640 × 480 ピクセルを使用します。サイズを変更するには、[ユーザー定義 (カスタム)] を選択し、[幅] および [高さ] テキストボックスに新しい数字を入力します。または、矢印を使って新しい数字を指定します。[規定サイズ] を選択して、ポップアップメニューからよく使われるサイズを選択することもできます。

メモ：一般に、800 × 600 ピクセルより大きいサイズのムービーは、ダイヤルアップ接続で正常に送信されない場合があります。

5. [OK] をクリックします。

Captivate がストーリーボードビューに表示され、[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。

6. Captivate ムービーのスライドとして使用する最初の画像に移動します。

7. 画像を選択して、[開く] をクリックします。

メモ： 画像のサイズが指定したムービーのサイズより大きい場合は、ダイアログボックスが表示され、画像のトリミングまたはサイズ変更の選択肢が与えられます。トリミングは、画像の端から部分的に切り取って画像をムービーに合わせます。サイズ変更は、画像全体を保持したまま、ムービーに合わせて縮小されます。

選択された画像が編集ビューでスライドとして開きます。

8. 必要に応じて、[挿入] メニューをクリックして [画像スライド] を選択し、他の画像を追加することができます。

テンプレートを使用してムービーを記録する

Captivate テンプレート を使用して、新規ムービーを作成することができます。テンプレートは、過去に作成したムービーに cptl ファイル拡張子を付けてテンプレートとして保存したムービーです。テンプレートは何回も使うことができるため、時間の節約と一貫性の維持に役立ちます。

テンプレートを開くと、Captivate 記録ウィンドウが表示されて、新しいスライドの記録を始められます。新しいスライドは、テンプレートの最後またはテンプレート内に追加することができます。完了後、新しいプロジェクトを新しいムービーとして、新しいテンプレートとして、またはその両方として保存することができます。

メモ： 特定のムービー環境設定を繰り返し使用する場合、テンプレートは特に効果的です。単に空のムービーを作成し、環境を設定して、空のムービーをテンプレートとして保存します。以下の手順でテンプレートを使用して新しいムービーを作成します。

テンプレートを使用して新しいムービーを作成するには：

1. Captivate を開きます。
2. スタートページの [その他のムービータイプ] から [テンプレートからムービーを作成する] を選択します。

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示され、Captivate テンプレートフォルダ (My Documents¥My Captivate Projects¥Templates) の内容を表示します。

3. 使用するテンプレートを選択し、[開く] をクリックします。使用したいテンプレートが一覧にない場合は、[参照] をクリックしてテンプレートのある場所に移動します。Captivate のテンプレートには、ファイル拡張子 CPTL が使用されています。

[テンプレートオプション] ダイアログボックスが表示されます。

4. 新しいスライドを追加するときの配置場所に、ムービーの最後または選択したスライドの後のいずれかを選択して、[OK] をクリックします。

記録ウィンドウが表示されます。

5. (オプション)[記録したいウィンドウを選択します(オプション)]ポップアップメニューから、開いているウィンドウのいずれかを選択して記録します。
6. (オプション)[ナレーションを記録する]を選択して、ムービーの記録と同時に録音もします。
7. (オプション)[オプション]をクリックして、スクリーンショットの自動キャプチャ、およびテキストキャプションの自動生成など、幅広い記録オプションを設定します。
8. (オプション)必要に応じて、ウィンドウの位置を調整します。ウィンドウの位置を変更するには、四方向矢印が表示されるまで赤い枠の上でマウスを動かし、ウィンドウ全体をドラッグして新しい位置に移動します。手順 5 でウィンドウを選択した場合は、[赤枠の記録領域内に合わせてウィンドウを吸着させる]をクリックすると、赤い記録領域に合わせて、記録するウィンドウのサイズを素早く変更できます。

メモ：キャプチャ領域は、画面上の任意の位置に配置できます。ただし、キャプチャ領域はテンプレートと同じサイズのため、サイズ変更はできません。テンプレートを使用してムービーを作成するために新しいスライドを記録した後、完成したムービーのサイズを変更する必要がある場合は、ムービーのサイズ変更をすることができます。

9. オプションの設定が完了したら、[記録] をクリックします。

10. Captivate がスクリーン上の操作を記録し始めます。

ムービーを自動的に記録している場合(手順 7 で、[自動記録を有効化]オプションを選択した場合)、メニューの選択、ボタンのクリック、またはテキスト入力などの操作をするたびに、その操作のスクリーンショットを Captivate が自動的にキャプチャします。

ムービーを手動で記録している場合(手順 7 で、[自動記録を有効化]オプションを選択しなかった場合)、Print Screen キー(またはキャプチャに指定した別のキー)を押して、スクリーンショットをキャプチャします。

操作の実演をだれかに見せているときに、赤い記録領域内にあるアプリケーションや Web サイトなどを使用します。使用しているコンピュータにサウンド機能があり、オプションを選択した場合は、カメラのシャッター音が聞こえます。

メモ：スクリーン上の操作を記録しているときは、通常よりもさらにゆっくりとその操作を行います。たとえば、キーボード操作を記録している場合、テキストをゆっくりと入力します。

11. 記録が完了したら、End キー(または記録終了に指定した別のキー)を押して記録を終了します。

スライドが生成され、新しく作成したムービーがストーリーボードビューに表示されます。ドラッグ & ドロップの操作を記録してフルモーションスライドを作成した場合、ストーリーボードビューにフルモーションスライドが表示され、スライドの右下にムービーカメラのアイコンが見えます。

新規スライドを記録する

Captivate ムービーを記録しているとき、スライドレベルで作業を開始してみたら、さらにスライドの記録が必要な場合があります。このような場合は、ムービー全体を記録し直さずに、いくつかの操作だけを追加で記録します。Captivate では、新規スライドを記録して、既存のムービーに挿入することができます。

新規スライドを記録するには：

1. 新規スライドを記録して挿入する **Captivate** ムービーを開きます。
2. [挿入] メニューから [追加スライドを記録する] を選択します。
3. 追加スライドを配置する場所を決めます。ムービーの最後に新しいスライドを追加する、または一覧からスライドをクリックして選択し、選択したスライドの後に新しいスライドを追加することもできます。
4. 完了したら [OK] をクリックします。

記録ウィンドウが表示されます。

5. 必要に応じて、オプションを選択します。たとえば、開いてあるアプリケーションを記録する場合、[記録したいウィンドウを選択します (オプション)] の横にあるポップアップメニューをクリックして、アプリケーションを選択します。また、[オプション] をクリックして、さまざまな記録オプションを設定することもできます。

メモ： キャプチャ領域は、画面上の任意の位置に配置できます。ただし、スライドを追加するムービーと同じサイズにキャプチャ領域は設定されているため、キャプチャ領域のサイズを変更することはできません。

6. オプションの選択が完了したら、[記録] をクリックします。
7. 新規スライドを記録します。
8. 記録が完了したら、キーボードの End (または記録終了に指定した別のキーの組み合わせ) を押して記録を終了します。

新しく記録されたスライドが、ムービー内で指定した場所に挿入されます。

メモ： Captivate ムービーまたは PowerPoint ファイルからスライドを読み込むこともできます。

記録オプション

Captivate のムービーやスライドを記録する場合には、多くのオプションがあります。

記録中にカメラの音声を聞く

Captivate では、記録中にスクリーンショットを撮るとき、" カメラのシャッター " 音を聞くことができます。この機能はスクリーンショットがいつ撮られたか聞こえるので、自動記録機能を使用しているときには特に便利です。カメラのシャッター音は、完成したムービーでは聞こえません。

記録中にカメラのシャッター音を聞くには：

1. Captivate を開きます。
2. [オプション] メニューから [記録オプション] を選択します。
3. [記録オプション] タブをクリックします。
4. [記録中、カメラの音を聞く] を選択します。
5. [OK] をクリックします。

ムービーの記録中に一時停止する

Captivate ムービーの記録中に、一時停止することができます。ムービーの記録中に電話がかかってきた場合、またはコンピュータから離れた場所で用事を済ませる必要がある場合は、一時停止して対応します。

記録中のムービーを一時停止するには：

1. Captivate を開いて、新しいムービーの記録を始めます。
2. 記録を一時停止するときは、キーボードの Pause/Break キーを押します。
3. 再び記録を開始する場合は、Pause/Break キーをもう一度押します。

自動記録を設定する

Captivate では、自動記録オプションを設定することができます。このオプションを設定した場合は、記録中に下記の操作を行うと、Captivate が自動的にスクリーンショットをキャプチャします。

- キャプチャキーをクリックする、または押す
- メニューまたはサブメニューを開く、またはメニュー項目を選択する
- ダイアログボックスまたはプロパティページを開く
- ツールバーのボタンをクリックする
- ドラッグを開始する、ドラッグ中、ドロップする
- カーソルがキャプチャ領域にあるとき、マウスボタンのいずれかをクリックする

メモ：キーボードの計算キーを使用して画面上の操作を記録する場合、自動記録機能を使うことはお勧めしません。自動記録を有効にしている場合、Captivate は画面上の計算を正確に記録することができません。

自動記録を設定するには：

1. Captivate を開きます。
2. [オプション] メニューから [記録オプション] を選択します。
3. [記録オプション] タブをクリックします。
4. [自動記録を有効化] を選択します。
5. [言語] のポップアップメニューをクリックして、キャプションおよびツールヒントのテキストを自動生成するテキストの言語を指定します。
6. [記録のデフォルト] のポップアップメニューをクリックして、キャプションに使用するキャプションスタイルを指定します。ムービーの記録時、自動的に作成するキャプションおよびハイライトボックスのすべてのタイプのデフォルト設定を変更するには、[設定を編集] をクリックします。
7. 記録モードで、オプションを選択します。
 - デモンストレーション：自動的に記録するムービーに、キャプションおよびハイライトボックスを自動的に含める場合は、このオプションを選択します。
 - 評価用シミュレーション：自動的に記録するムービーに、成功と失敗キャプションとともにクリックボックスを自動的に含める場合は、このオプションを選択します。
 - トレーニングシミュレーション：失敗キャプションとともにロールオーバーキャプションやクリックボックスをムービーに自動的に含める場合は、このオプションを選択します。
 - カスタム：キャプション、ハイライトボックス、クリックボックスなどのオブジェクトを選択して、ムービーに自動的に追加する場合は、このオプションを選択します。選択するには、[設定を編集] をクリックします。
8. [OK] をクリックします。

これで自動記録オプションが有効になったので、ムービーを記録することができます。

プロジェクトテンプレートについて

Captivate で作成したムービーは、プロジェクトテンプレートとして保存することができます。これは時間の節約だけでなく、一貫性を保つのに便利です。テンプレートを何度も使用すれば、すべてのムービーを同じフレームワークで作成できます。

たとえば、カスタムの再生コントロールを使用し、最初のスライドでは会社のロゴを表示し、最後のスライドでは Web サイトを紹介し、アプリケーションで表示するのに的確なサイズのムービーを長時間かけて作成した場合、このムービーをテンプレートとして保存し、将来作成するすべてのムービーの土台として使うことができます。より短時間で、同じ外観を備えたムービーを作成することができます。

メモ： 特定のムービー環境設定を繰り返し使用する場合、テンプレートは特に効果的です。単に空のムービーを作成し、環境を設定して、以下の手順で空のムービーをテンプレートとして保存します。その後は、テンプレートを使用して新しいムービーを作成します。

プロジェクトのテンプレートを作成する

テンプレートとして作成したムービーを簡単に保存できます。

プロジェクトをテンプレートとして保存するには：

1. Captivate を開きます。
2. ムービーを記録します。
3. キャプションの追加、再生コントロールの変更、音声の追加など、必要に応じてムービーを編集します。
4. [ファイル] メニューから [テンプレートとして保存] を選択します。
5. 新しいプロジェクトテンプレートの名前を入力します。
6. 完了したら [保存] をクリックします。

ムービーが .cptl ファイル拡張子でプロジェクトテンプレートとして保存されます。Captivate では、テンプレートを "Templates" フォルダに格納します。"Templates" フォルダの場所は C:\My Documents\My Captivate Projects\Templates です。

プロジェクトテンプレートを編集する

Captivate でプロジェクトテンプレートを作成したら、必要に応じて、テンプレートを編集できます。これにより、既に行った作業内容を利用しながら、必要な変更を加えて、新しいムービーをより素早く作成できます。

プロジェクトテンプレートを編集するには：

1. Captivate を開きます。
2. [ファイル] メニューから [テンプレートの編集] を選択します。
3. 編集するテンプレートを選択し、[開く] をクリックします。Captivate のテンプレートには、ファイル拡張子 CPTL を使用します。
4. 必要に応じて、テンプレートを編集します。
5. [ファイル] メニューから [保存] を選択します。
6. [ファイル] メニューから [閉じる] を選択します。

テンプレートに加えた変更が保存されます。

フルモーショ記録を使用する

Captivate には、便利な機能である " フルモーション " が含まれています。これは、新しいムービーまたは既存のムービーに追加スライドを自動記録している場合、ドラッグ & ドロップ操作を記録するときに、自動的に高フレームレートでキャプチャします。高レートでキャプチャすると、ドラッグ & ドロップ操作が完成した Captivate SWF ファイルでスムーズに表示されます。これによって、より現実的な体験をユーザーに提供できます。

フルモーション機能を有効にした場合、新しいムービーまたはスライドを自動記録中にオブジェクトをクリックしてそれをドラッグすると、Captivate が高レートでフレームをキャプチャします。コンピュータ画面右下角にあるシステムトレイの Captivate アイコンを見てみると、いつフルモーション記録が始まったかを知ることができます。通常の記録をしている場合は、普通のアイコンが表示されます。フルモーション記録が自動的に始まると、アイコンに赤い枠 が付いて表示され、アイコンが点滅します。フルモーション記録を終了するには、ドラッグするのを止め、記録終了キーを押します。フルモーション記録のデフォルト終了キーは F10 で、記録を完全に終了するデフォルトキーは END です。

メモ：マウスのホイールを使用すると、フルモーション記録は開始しません。

記録が完了したら、Captivate がムービーを構成するスライドを生成し、Captivate ストーリーボードビューにスライドを表示します。フルモーションスライドとして記録されたドラッグ & ドロップの操作は、スライド右下角にムービーカメラのアイコンが付いてストーリーボードビューで表示されます。フルモーションスライドはアニメーションスライドとして保存され、ムービープロジェクトに含まれます。

ヒント：最良のキャプチャのために、特にフルモーション記録の場合は、ドラッグ、クリック、および入力操作をゆっくりと行います。

フルモーション記録機能はデフォルトで有効になっています。随時無効にすることができます。

ドラッグ & ドロップ操作のフルモーション記録を無効にするには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. [オプション] メニューから [記録オプション] を選択します。
3. [フルモーション] タブをクリックします。
4. [ドラッグ & ドロップのフルモーションキャプチャを自動的に使用する] の選択を解除します。
5. [OK] をクリックします。

フルモーションムービースライドについて

Captivate を使うと、" ドラッグ & ドロップ記録 " としても知られているフルモーションムービーを AVI 形式で記録し、描画やペインティング機能、およびドラッグ & ドロップ操作など、細かい動作を表示することができます。フルモーション記録オプションは、数多くの用途があるパワフルで柔軟性に富んだツールです。ユーザーにコンセプトを正確に示すために、ムービーに必要な数だけフルモーションスライドを挿入することができます。

フルモーションオプションを使って記録すると、動作に現実味ができるように、Captivate は自動的に高いフレームレートでスライドをキャプチャし始めます。また、フルモーションスライドを手動で記録して、プロセスを制御することもできます。フルモーションスライドはアニメーションスライドとして保存され、ムービープロジェクトに含まれます。

メモ：フルモーションスライドを作成する前に、正しいフレームレートに設定することは重要です。ほとんどの場合に適する、1秒あたり 30 Flash フレームにデフォルトで設定されています。Captivate SWF をフレームレートが 30 以外の別の SWF ファイルに埋め込むときは、レートの変更が必要な場合があります。[ムービー環境設定] ダイアログボックスを使って、フレームレートを変更します。

Captivate では、フルモーションを自動的に、または手動でキャプチャすることができます。プロセス方法のアイデアを提供するために、フルモーション記録を自動的に行う場合および手動で行う場合のシナリオを下にご用意しました。

フルモーションの自動記録

Captivate ムービーの作成者は、描画に使うソフトウェアアプリケーションについてムービーを作成しようとしています。自動フルモーション記録オプションがオンになっています。作成者は Captivate ムービーの記録を開始しましたが、ソフトウェアアプリケーションを実際どのように使って描画するかを示したいと思っています。作成者がアプリケーションで描画を開始すると、Captivate はそれを認識して、AVI 形式での記録を自動的に開始します。描画のプロセスが完了すると、Captivate は標準キャプチャに戻します。作成者は標準スクリーンキャプチャを続行でき、完了したら End (または、記録終了に定義された他のキー) を押して記録を終了します。記録プロセスの最初と最後にキャプチャしたスクリーンショットは標準スライドとして保存されます。一方、AVI 形式で記録されたフルモーションのスクリーンショットは、アニメーションスライドとして保存されます。

フルモーションの手動記録

Captivate ムービーの作成者は、描画に使うソフトウェアアプリケーションについてムービーを作成しようとしています。自動フルモーション記録オプションがオフになっています。標準スクリーンキャプチャモードを使って Captivate ムービーの記録を開始しましたが、ソフトウェアアプリケーションを実際どのように使って描画するかを示したいと思っています。この時点で、作成者はフルモーション記録のショートカットキー (F9 またはカスタマイズで指定したキー) を押します。これにより、Captivate は AVI 形式で記録を開始します。作成者は、ソフトウェアアプリケーションを使って描画します。Captivate は操作内容をキャプチャし、描画手順が完了したとき、作成者はフルモーション記録を終了するキー (F10 またはカスタマイズで指定したキー) を押します。作成者は続けて標準スクリーンキャプチャを続行でき、完了したら End (または、その他の定義されたキー) を押して記録を終了します。記録プロセスの最初と最後にキャプチャしたスクリーンショットは標準スライドとして保存されます。一方、AVI 形式で記録されたフルモーションのスクリーンショットは、アニメーションスライドとして保存されます。

フルモーションスライドと標準ムービースライドを比較する

Captivate 使用すると、ムービー作成者は標準形式でスクリーンショットを撮り、" ドラッグ & ドロップ 記録 " として知られるフルモーション記録を使用することもできます。フルモーション記録オプションでは、高いフレームレートでスクリーンショットがキャプチャされるため、よりスムーズでリアル感に満ちたムービーを作成できます。フルモーション記録オプションでは、より品質の高いムービーが作成されるため、標準の記録方法を使用する場合と、フルモーション記録を使用する場合を判断する必要があります。

メモ：フルモーションスライドを作成する前に、正しいフレームレートに設定することは重要です。ほとんどの場合に適する、1秒あたり 30 Flash フレームにデフォルトで設定されています。Captivate SWF をフレームレートが 30 以外の別の SWF ファイルに埋め込むときは、レートの変更が必要な場合があります。[ムービー環境設定] ダイアログボックスを使って、フレームレートを変更します。

2つのオプションを区別するには、フルモーション記録を標準記録に置き換わるものではなく、g 標準ムービーの拡張版と考えるとよいでしょう。フルモーションムービーは、ムービーの1つのスライドに配置して、大きなムービー内の"ミニムービー"とし再生できます。フルモーションムービーは、描画 / ペイントプログラムの使用、細かいドラッグ & ドロップ操作、または 3D プログラムなど、正確な動作を示すときに便利です。

フルモーションスライドを作成する

標準ムービー内で、"ドラッグ & ドロップ記録"としても知られているフルモーションムービースライドを作成することができます。フルモーションムービースライドは、描画、ドラッグ & ドロップ操作、または 3D など、詳細な動作を伴う操作をユーザーに見せる場合に便利です。

必要な数だけ、フルモーションムービースライドを記録する、または Captivate プロジェクトに追加することができます。

新しいムービーを記録中にフルモーションムービースライドを記録するには：

1. Captivate スタートページから [新規作成] をクリックします。
[新規ムービーオプション] ダイアログボックスが表示されます。
 2. [アプリケーション] または [カスタムサイズ] などから、記録するムービーのタイプを選択します。
 3. [OK] をクリックします。
記録ウィンドウが表示されます。
 4. (オプション) [ナレーションを記録する] を選択して、ムービーの記録と同時に録音もします。
 5. (オプション) [オプション] をクリックします。[記録オプション] タブで、[自動記録を有効化] を選択すると、スクリーンショットを自動的にキャプチャすることができます。[フルモーション記録] タブで、[ドラッグ & ドロップのフルモーションキャプチャを自動的に使用する] を選択すると、ドラッグ & ドロップ操作を開始するたびに、Captivate はフルモーション記録を自動的に始めます。自動記録および自動フルモーション記録はオプションです。お好みによって、両操作とも手動で行うことができます。オプションの設定が完了したら、[OK] をクリックします。
 6. (オプション) 必要に応じて、ウィンドウのサイズおよび位置を調整します。ウィンドウのサイズを変更するには、赤い枠のいずれかのサイズ変更ハンドルを選択し、それをドラッグしてサイズを大小に変更します。ウィンドウの位置を変更するには、赤い枠上でマウスを動かし、四方向矢印が表示されたらマウスをクリックして押さえ、ウィンドウ全体をドラッグして新しい場所に移動します。
 7. オプションの設定が完了したら、[記録] をクリックします。Captivate がスクリーン上の操作を記録し始めます。
 - ムービーを手動で記録している場合 (上の手順 5 で、[自動記録を有効化] オプションを選択しなかった場合)、Print Screen ボタン (またはキャプチャに指定した別のキー) をクリックして、スクリーンショットをキャプチャします。
 - ムービーを自動的に記録している場合 (上の手順 5 で、[自動記録を有効化] オプションを選択した場合)、メニューの選択、ボタンのクリック、またはテキスト入力などの操作をするたびに、その操作のスクリーンショットを Captivate が自動的にキャプチャします。
- メモ：**スクリーン上の操作を記録しているときは、通常よりもさらにゆっくりとその操作を行います。たとえば、キーボード操作を記録する場合は、通常よりもゆっくりとテキストを入力します。

8. 2種類の方法でフルモーション記録をすることができます。

- ムービーを手動でフルモーション記録する場合 (上の手順 5 で、[ドラッグ & ドロップのフルモーションキャプチャを自動的に使用する] オプションを選択しなかった場合) は、フルモーション記録を開始したい場面で F9 (またはフルモーションキャプチャ開始に指定した別のキー) をクリックします。Captive は、フルモーション記録モードでキャプチャし始めます。フルモーションモードで記録する操作を行い、完了したら F10 (またはフルモーションキャプチャ終了に指定した別のキー) を押します。記録を続行できるように、Captive が標準キャプチャモードに戻ります。
- ムービーを自動でフルモーション記録する場合 (上の手順 5 で、[ドラッグ & ドロップのフルモーションキャプチャを自動的に使用する] オプションを選択した場合) は、オブジェクトをクリックしてドラッグしたり画像処理プログラムで描画を始めたら、フルモーションモードで記録し始めます。オブジェクトをドロップしたり描画を終えたら、自動的にフルモーション記録が終了します。記録を続行できるように、Captive が標準キャプチャモードに戻ります。

メモ : フルモーション記録モードでは、デスクトップの右下角にあるシステムトレイ内に、赤い枠の付いた Captivate アイコンが表示されます。フルモーション記録を完了すると、Captive 標準アイコンが再び表示されます。

9. 記録が完了したら、End (または記録終了に指定した別のキー) を押して記録を終了します。

フルモーション部分を含むムービーが生成され、ストーリーボードビューに表示されます。ドラッグ & ドロップの操作を記録してフルモーションスライドを作成した場合、ストーリーボードビューにフルモーションスライドが表示され、スライドの右下にムービーカメラのアイコンが見えます。フルモーションスライドはアニメーションスライドとして保存され、ムービープロジェクトに含まれます。

既存のムービーにフルモーションムービースライドを追加するには :

1. フルモーションムービースライドを追加する Captivate プロジェクトを開きます。
2. [挿入] メニューから [追加スライドを記録する] を選択します。
3. 追加スライドを配置する場所を決めます。ムービーの最後に新しいスライドを追加する、または一覧からスライドをクリックして選択し、選択したスライドの後に新しいスライドを追加することもできます。
4. [OK] をクリックします。
記録ウィンドウが表示されます。
5. [オプション] をクリックします。[記録オプション] タブで、[自動記録を有効化] を選択すると、スクリーンショットを自動的にキャプチャすることができます。[フルモーション記録] タブで、[ドラッグ & ドロップのフルモーションキャプチャを自動的に使用する] を選択すると、ドラッグ & ドロップ操作を開始するたびに、Captive はフルモーション記録を自動的に始めます。自動記録および自動フルモーション記録はオプションです。お好みによって、両操作とも手動で行うことができます。オプションの設定が完了したら、[OK] をクリックします。

メモ : キャプチャ領域は、画面上の任意の位置に配置できます。ただし、スライドを追加するムービーと同じサイズにキャプチャ領域は設定されているため、キャプチャ領域のサイズを変更することはできません。

6. 必要に応じて、他のオプションを設定します。たとえば、開いてあるアプリケーションを記録する場合、[記録したいウィンドウを選択します (オプション)] の横にあるポップアップメニューをクリックして、アプリケーションを選択します。または、[ナレーションを記録する] を選択して、フルモーションスライドのキャプチャと同時に録音もします。オプションの選択が完了したら、[記録] をクリックします。

7. 2 種類の方法でフルモーショ記録をすることができます。

- ムービーを手動でフルモーショ記録する場合 (上の手順 5 で、[ドラッグ & ドロップのフルモーショキャプチャを自動的に使用する] オプションを選択しなかった場合) は、フルモーショ記録を開始したい場で F9 (またはフルモーショキャプチャ開始に指定した別のキー) をクリックします。Captivate は、フルモーショ記録モードでキャプチャし始めます。フルモーショモードで記録する操作を行い、完了したら F10 (またはフルモーショキャプチャ終了に指定した別のキー) を押します。必要に応じて、スライドの記録を続行できるように、Captivate が標準キャプチャモードに戻ります。
- ムービーを自動でフルモーショ記録する場合 (上の手順 5 で、[ドラッグ & ドロップのフルモーショキャプチャを自動的に使用する] オプションを選択した場合) は、オブジェクトをクリックしてドラッグしたり画像処理プログラムで描画を始めたら、フルモーショモードで記録し始めます。オブジェクトをドロップしたり描画を終えたら、自動的にフルモーショ記録が終了します。必要に応じて、スライドの記録を続行できるように、Captivate が標準キャプチャモードに戻ります。

メモ : フルモーショ記録モードでは、デスクトップの右下角にあるシステムトレイ内に、赤い枠の付いた Captivate アイコンが表示されます。フルモーショ記録を完了すると、Captivate 標準アイコンが再び表示されます。

8. 完了したら、End (または記録終了に指定した別のキー) を押して記録を完全に終了します。

ムービー内の指定した場所に新しいフルモーショスライドが配置されます。フルモーショスライドは、ストーリーボードビューでスライド右下角にムービーカメラのアイコンが付いて表示されます。フルモーショスライドはアニメーションスライドとして保存され、ムービープロジェクトに含まれます。

メモ : マウスのホイールを使用すると、フルモーショ記録は開始しません。

アクセシブルムービーを作成する

視聴覚障害、可動性障害、また他の障害を持つユーザー向けに、米国リハビリテーション法第 508 条規格準拠の Captivate プロジェクトを作成することができます。

世界のアクセシビリティ基準

米国、オーストラリア、カナダ、日本、EU の国々を含む多くの国では、World Wide Web Consortium (W3C) によるアクセシビリティ規格を採用しています。W3C の Web コンテンツアクセスガイドラインは、Web コンテンツをアクセス可能にするための、設計者がとるべきアクション優先順位を示しています。Web アクセシビリティ構想の詳細については、W3C Web サイト www.w3.org/WAI を参照してください。

米国では、アクセシビリティを規制する法律として、米国リハビリテーション法第 508 条が一般に知られています。第 508 条は、障害のある人が利用できない電子情報技術の購入、開発、保守管理、または使用を連邦政府機関が行うことを禁じています。規格準拠の執行に加えて、第 508 条は公的機関や政府機関で働く障害者が、連邦裁判所に対して不服を申し立てる権利を認めています。

第 508 条の詳細については、下記の Web サイトを参照してください。

- 米国政府提供の Web サイト www.section508.gov
- Macromedia Web サイトのアクセシビリティページ www.macromedia.com/jp/macromedia/accessibility

スクリーンリーダー技術を理解する

スクリーンリーダーは Web サイト内を移動して Web コンテンツを音声出力するソフトウェアです。視覚障害のあるユーザーはこの技術を利用することがよくあります。Captivate ムービーを見るには、Flash Player 6 またはそれ以降のバージョン、および Windows 2000 またはそれ以降のバージョンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。

Freedom Scientific の JAWS はスクリーンリーダーの 1 つの例です。Freedom Scientific Web サイトの JAWS ページは www.hj.com/fs_products/software_jaws.asp でアクセスできます。よく使われているもう 1 つのスクリーンリーダーは GW Micro の Window-Eyes です。Window-Eyes の最新情報は GW Micro の Web サイト www.gwmicro.com で入手可能です。Windows ユーザーには、Microsoft が Text-to-speech コンポーネントを含んだ Microsoft Reader を無料ダウンロードで提供しています。詳細については、Microsoft Web サイト www.microsoft.com/japan をご覧ください。

スクリーンリーダーの種類によって、情報を音声出力に変換する方法が違うので、ユーザーにコンテンツがどのように表されるかにも違いがあります。アクセシブルなプロジェクトを設計する場合、スクリーンリーダーがどのように動作するかはコントロールできない範囲だということを念頭におきます。コントロールできるのはプロジェクトのコンテンツのみで、スクリーンリーダーのコントロールはできません。スクリーンリーダーに特定のテキストを特定のタイミングで読み上げるように強制することはできません。またどのようなスタイルで読み上げるかなどもコントロールできません。期待どおりにスクリーンリーダーが作動するためには、作成したムービーを数多くのスクリーンリーダーでテストして確認することがたいへん重要です。

Captivate とアクセシビリティ

視聴覚障害、可動性障害、また他の障害を持つユーザー向けに、第 508 条規格準拠の出力を作成することができます。また、障害のある人が Captivate プロジェクトを見るために妨げになるものを、設計段階で取り除くことも可能です。

これらのソリューションは、政府機関が第 508 条規格準拠によりユーザーのニーズを満たすことをサポートします。また、アクセシビリティの改善を公約する企業もサポートします。

第 508 条規格準拠とは

1973 年に定められたリハビリテーション法の一部である第 508 条は、障害のある人が利用できない電子情報技術の開発、保守管理、購入、または使用を連邦政府機関が行うことを禁じています。第 508 条の最新版 (1998) では、この規格が政府機関全体に義務付けられました。

"アクセシブル"の意味は

一般的に、単一の感覚や能力に依存せず、さまざまな方法を使用すれば、障害がある人も情報技術のシステムにアクセスできます。たとえば、ユーザーはマウスだけでなくキーボードを使っても移動できます。また、ユーザーインターフェイスの視聴覚面では、目や耳が不自由なユーザーに対応する必要があります。

この他にエンドユーザーが必要な支援ソフトウェアは

アクティブウィンドウのコンテンツ、メニューオプション、または入力したテキストを読み上げる、スクリーンリーダーまたは Text-to-speech ユーティリティや、スクリーンレビューエイドでは、スクリーン上のテキストを音声出力したり、リフレッシュ機能のある点字で表示します。この支援技術により、キーボード支援またはショートカット、音声のキャプション、およびフラッシングツールバーなどのビジュアルな忠告を提供できます。Window-Eyes および JAWS (Job Access With Speech) などのツールを利用できます。

第 508 条規格に準拠するために Captivate で何ができますか

米国リハビリテーション法第 508 条規格準拠オプションを選択すると、Captivate プロジェクト内の特定の要素をアクセス可能にし、アクセシビリティ技術を広げます。たとえば、第 508 条規格準拠オプションを選択して、ムービープロパティのムービー名とムービー詳細情報を入力しておくと、Captivate SWF ファイルが再生されるときにスクリーンリーダーが名前と詳細情報を読み上げます。

第 508 条規格準拠オプションを選択すると、次の Captivate 要素をアクセシブルにします。

- ムービー名 : ムービープロパティから引き出されます。
- ムービー詳細 : ムービープロパティから引き出されます。
- スライドアクセシビリティテキスト
- スライドラベル : スライドプロパティから引き出されます。
- ボタン
- 再生コントロール : スクリーンリーダーが各ボタンの機能を読み上げます。
- パスワード保護 : Captivate SWF ファイルがパスワード保護されている場合、スクリーンリーダーがパスワードを促します。
- 質問スライド : タイトル、問題、答え、ボタンのテキスト、スコアの報告をスクリーンリーダーが読み上げます。

メモ : 第 508 条規格準拠オプションで生成される出力は、サポートされるすべてのブラウザで表示されます。しかし、Internet Explorer を使用して見ない限り、出力は第 508 条規格に準拠しない可能性があります。Internet Explorer は MSAA (Microsoft Active Accessibility) をサポートする唯一のブラウザです。

メモ : スクリーンリーダーを使用して Flash のコンテンツにアクセスする場合、ユーザーのコンピュータに Flash Player 6 またはそれ以降のバージョンがインストールされている必要があります。

メモ : 連邦アクセス委員会 (Access Board) は障害を持つ人のアクセシビリティを遂行する独立した連邦機関です。出力を第 508 条規格に準拠させるための詳細については、連邦アクセス委員会の Web サイト (<http://www.access-board.gov/508.htm>) を参照してください。

第 508 条規格準拠の Captivate SWF ファイルを公開する

出力を視聴およびテストするために、第 508 条規格準拠オプションを使用して Captivate プロジェクトを作成します。プロジェクトの情報が含まれるソースファイルを更新し、ユーザーのためにパブリッシュできる出力ファイルを作成します。オーサリングに関してのヒントを読んで、次の手順に従います。

第 508 条規格準拠のプロジェクトをパブリッシュするには :

1. 第 508 条規格準拠としてパブリッシュしたい Captivate プロジェクトを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [環境設定] タブをクリックします。
4. [第 508 条規格準拠] オプションを選択します。
5. [OK] をクリックします。
6. ムービーをパブリッシュします。
7. パブリッシュが完了したら [出力を見る] オプションを選択し、Captivate SWF ファイルをプレビューしてテストします。

スライドアクセシビリティテキストを追加する

Captivate では、スクリーンリーダー用に特別に設計されたテキストを、簡単にスライドに追加することができます。各スライドにカスタムテキストを作成できます。第 508 条規格準拠オプションを選択した場合のみ、テキストが読み上げられます。

スクリーンリーダー用のテキストを追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. アクセシブルテキストを追加するスライドを右クリックして、[プロパティ] を選択します。
3. [アクセシビリティ] をクリックします。
4. スクリーンリーダー用のテキストを入力します。テキストキャプションなどのテキストがスライド上にある場合は、[スライドテキストを挿入する] をクリックして、キャプションテキストを自動的に追加します。スライドが、スライドメモを含んでいる場合は、[スライドメモを挿入する] をクリックして、スライドメモを追加します。
5. 完了したら [OK] をクリックします。

第 508 条規格準拠 Captivate SWF ファイル作成のヒント

Captivate 第 508 条規格出力で、移動要素が規格に準拠している場合でも、他の要素が準拠しているかをさらに確認します。支援ソフトウェアは視覚障害のあるユーザーのために、スクリーン上にある要素を読み上げる必要があります。アクセシブルなプロジェクトを設計する場合、これらのヒントを活用してください。

- [ムービープロパティ] ダイアログボックスには、Captivate プロジェクトについて有意義な名前と説明を書きます。
- 聴覚に障害があるユーザー向けに、音声エレメントに代わるテキストを追加します。たとえば、ナレーション音声を引き出す場合、キャプションも同時に提供することが重要です。1つのオプションとして、スライドに透明のキャプションを固定し、タイムラインを使ってそのテキストと音声を同期化することができます。
- 視覚的なマルチメディアがプロジェクトに含まれている場合は、マルチメディアに関しての情報を視覚障害のあるユーザー向けに提供します。視覚要素に名前と説明があれば、スクリーンリーダーを通してその情報をユーザーに送ることができます。Captivate プロジェクトの音声、スクリーンリーダーを聞いているユーザーの邪魔にならないように注意します。
- スクリーンリーダー用に、各スライドに割り当てられた特定のテキストを書きます。
- 情報を伝える手段が、色のみになることを避けます。たとえば、アクティブリンクのフォントに青を使用して、アクティブであることを表している場合、ボールドやイタリックなど別の書式も使用します。また、色覚障害および視力の弱いユーザーのために、前景と背景のコントラストが十分であることにも配慮します。
- 視覚または可動性の障害があるユーザーのために、コントロールが独立したデバイスで行え、キーボードでのアクセスが可能であることを確認します。
- 多くの場合、認識障害のあるユーザーには、簡単に移動できるシンプルなデザインで最良の対応ができます。
- Captivate プロジェクトでマウスの動きが非常に重要な場合、見やすくするためにマウスポインタをダブルマウスサイズに変更することも考慮します。

- ユーザーのためにアクセシビリティの方法を文書化します。
- オブジェクトのループ (繰り返し) を避けます。スクリーンリーダーがページ上の Flash コンテンツに直面した場合、ユーザーに「ロードしています ... ロードが完了しました」などの音声で知らせます。ムービーのコンテンツが変わっていくと、Flash Player はスクリーンリーダーにイベントを送ってコンテンツが変わったことを告げます。その場合、スクリーンリーダーはページトップに戻り、再度読み始めます。たとえば、ページ上でテキストアニメーションのループを設定した場合、スクリーンリーダーが繰り返しページトップに戻ることがあります。スクリーンリーダーに頼っているユーザーにとって、これは不愉快な結果になることがあります。
- クリックボックスを作成する場合、音声を追加することで、さらにアクセシブルにできます。ユーザーがクリックボックスにタブで移動したとき、またはクリックボックス上を通過したときに、音声を再生することができます。このアクセシビリティ機能を追加するには、ヒントキャプションに音声ファイルを付けます。スライド上にヒントキャプションを表示させたくない場合は、キャプションを透明にしてテキストも加えません。

アクセシブルコンテンツをテストする

スクリーンリーダーで作動する Captivate プロジェクトを設計している場合は、いくつかのスクリーンリーダーをダウンロードし、スクリーンリーダーを有効化したブラウザでプロジェクトを再生してテストします。ムービー中、別の音声を挿入している箇所、スクリーンリーダーが音声出力しないかを確認します。いくつかのスクリーンリーダーのソフトウェアは、デモ版の無料ダウンロードを提供しています。できる限り多くのソフトウェアを試して、いろいろなスクリーンリーダーとの互換性を確かめます。

インタラクティブなコンテンツを作成している場合、ユーザーがキーボードのみを使用して効果的にコンテンツ内を移動できるかをテストして確認します。これは特に注意を要する必要条件です。キーボードからの入力スクリーンリーダーによって異なった方法で作動されるため、作成した Captivate のコンテンツが設計どおりのキーストロークを受け取らない可能性があります。すべてのキーボードショートカットをテストして確認します。

Macromedia アクセシビリティ Web ページ

アクセシブルな Captivate コンテンツの作成および視聴に関する最新情報については、Macromedia Web サイトのアクセシビリティページ www.macromedia.com/jp/macromedia/accessibility を参照してください。

Captive プロジェクトのローカライズ

ローカリゼーションは、特定の国での使用を目的に情報を適応させる過程のことです。ローカリゼーションは翻訳の同意語としてしばしば使われますが、他言語への翻訳に加えて、通常は文化的な情報の編集も含まれます。

Captive ムービーをローカライズするために、次の 2 つのオプションがあります。

ローカライズしたユーザーインターフェイスで Captivate を使用する

多言語で作成されたアプリケーションおよび Web サイトを見せる Captivate ムービーを作成する場合は、各言語にローカライズされたムービーを作成することができます。

ローカライズした Captivate ムービーを作成するには：

1. 元の言語の Web サイトまたはアプリケーションを使用して、Captivate ムービーを元の言語で作成します。たとえば、英語で作成されたアプリケーションの場合、英語で Captivate ムービーを作成します。
2. ムービー内からキャプションを書き出して、キャプションテキストを必要な言語に翻訳します。手順 1 の例でいえば、英語のムービーから英語のキャプションを書き出してローカライザに提供し、ドイツ語や日本語など他の言語に翻訳します。
3. Web サイトまたはアプリケーションをローカライズした形で開き、元の言語バージョンのムービーと同様に記録します。ムービーを記録する場合、オブジェクトを自動的に含めることは避けます。前出の例では、アプリケーションのユーザーインターフェイスがドイツ語や日本語に翻訳された後に、Captivate ムービーを英語のムービーと同様の手順を用いて記録します。
4. ムービーの元の言語バージョンからすべてのオブジェクトを読み込みます。例では、ムービーの英語バージョンからドイツ語や日本語のムービーにすべてのオブジェクトを読み込みます。
5. 手順 2 で翻訳されたローカライズしたキャプションを読み込みます。例では、ドイツ語や日本語のムービーを開いて、翻訳されたキャプションの Word 文書を読み込みます。
6. ムービーのローカライズバージョンを試します。例では、ドイツ語や日本語のムービーを開いて、キャプションが的確に翻訳され該当するスライドで正しいタイミングで表示されるか、ユーザーインターフェイスを確認します。特にキャプションはタイミング調整が必要な場合があります。また、翻訳されたテキストがすべて表示されるようにサイズ変更が必要になる場合もあります。

テキストキャプションをローカライズする

テキストキャプションを含むムービーをローカライズする場合、テキストキャプションを書き出して一層効率的に作業することができます。

テキストキャプションをローカライズするには：

1. 必要なテキストキャプションを含んだ最初のバージョンのムービーを、元になる言語で作成します。
2. 完成したムービーを開きます。
3. [ファイル] メニューから [読み込み・書き出し]-[ムービーキャプションの書き出し] を選択します。
4. デフォルトで、Word (DOC) ファイルが "My Documents¥MyCaptivateProjects" フォルダに保存されます。必要に応じて、保存する場所を変更します。また、Word ファイルは [プロジェクト名] Captions.doc と名付けられますが、必要に応じて名前を変更することができます。ファイル名のテキストボックスを直接クリックし、.doc ファイル拡張子は残して、新しい名前を入力します。[保存] をクリックします。
5. Word ファイルは指定した名前で生成され、選択した場所に保存されます。文書を表示するかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックして、Word 文書を表示します。
6. Word 文書には、スライド ID、項目 ID、元のテキストキャプション、およびスライド番号が含まれます。[更新されたテキストキャプションデータ] 欄で、テキストキャプションへの変更を加えることができます。Word 文書をローカライズまたは翻訳者に提供します。
7. ローカライズまたは翻訳者は Word 文書を開き、文書内の [更新されたテキストキャプションデータ] 欄でテキストキャプションを直接編集し、元の言語で書かれたテキストを新しい言語のテキストに置き換えます。

8. ローカライザまたは翻訳者がテキストを翻訳している間に、Captive のオリジナルムービーを新しい言語用にコピーします。

メモ : オリジナルムービーのコピーを作成するとき、新しいムービーに元の言語で書かれたオリジナルのテキストキャプションを保持します。オリジナルのテキストキャプションはプレースホルダの役割を果たし、翻訳された新しいテキストキャプションを読み込むときに上書きされます。

9. テキストキャプションが翻訳されたとき、手順 8 で作成したプロジェクトのコピーを開きます。
10. [ファイル] メニューから [読み込み・書き出し]-[ムービーキャプションの読み込み] を選択します。
11. 翻訳されたテキストキャプションの Word(DOC) ファイルに移動し、ファイルを選択して [開く] をクリックします。
12. 新しく翻訳されたテキストキャプションがムービーに読み込まれ、すべての書式は保持されます。読み込みが成功したことを伝えるメッセージがダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックします。
13. 編集ビューでスライドをそれぞれ開いて、新しいテキストキャプションを確認します。

第 4 章

テキストキャプションを追加する

テキストキャプションは、ムービースライド内の特定の領域に、ユーザーの注意を引き付けることができる便利な機能です。たとえば、テキストキャプションを使ってメニュー項目やアイコンなどを指すことができます。また、ユーザーが見過ごしてしまいがちな詳細に、注意を仰ぐことにも使用できます。ムービーで吹き替えナレーションを使用しない場合、テキストキャプションでナレーションと同じような機能、つまりテキストキャプションを使ってユーザーに " 話しかける " ことができます。

テキストキャプションの外観 (フォント、サイズ、色など) を定義します。Captivate は、バラエティに富んだ既定のテキストキャプションスタイルを用意していますが、企業や団体のニーズに合わせたカスタムテキストキャプションを作成することもできます。

ムービースライドに手動で簡単にテキストキャプションを追加できますが、何を記録するかによって、Captivate がテキストキャプションをすばやく自動生成することもできます。たとえば、[編集] メニューでマウスをクリックすることを記録する場合、「[編集] メニュー項目を選択する」というテキストキャプションを自動的に作成し、該当するアクションのスライド上にそのテキストキャプションを配置します。

テキストキャプションを追加する

ユーザーに " 話しかける "、またはスライド上の特定の項目を指す場合に、テキストキャプションを使用することができます。テキストキャプションはスライドに簡単に追加でき、その後の編集作業も簡単にできるので、希望どおりの外観に作成できます。

テキストキャプションを追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. テキストキャプションを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから、[テキストキャプション] を選択します。
[テキストキャプションプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
4. [テキストキャプション] タブで、次のプロパティを設定します。

キャプションのタイプ：ポップアップメニューをクリックして、テキストキャプションのタイプを選択します。各テキストキャプションには名前が付けられ、小さいサムネイル画像がテキストキャプションの外観を表示します。

フォント：ポップアップメニューをクリックして、テキストキャプションのフォントを選択します。

サイズ：ポップアップメニューをクリックして、テキストキャプションのフォントサイズを選択します。

色: カラーボックスをクリックして、テキストキャプションのフォントカラーを選択します。

キャプションスタイル: 5つのテキストキャプションタイプのいずれかをクリックして選択します。テキストキャプションスタイルの多くは、方向の選択が可能なコールアウト(引き出し線)を含んでいるので、最適な方向を指すテキストキャプションを選択することができます。

表示オプション: 必要に応じて、ボールド、イタリック、アンダーライン、両端揃えなど、さらに詳細な表示オプションを設定します。

キャプションテキストをここに入力してください: 表示するキャプションテキストを正確に入力します。

ムービー中のすべてのキャプションにプロパティを適用する: このタブで加えた変更を、ムービー中のすべてのテキストキャプションに適用する場合に選択します。すべてのテキストキャプションに適用したプロパティは、キャプションスタイル、フォントタイプ、フォントサイズ、フォントカラー、およびトランジションです。テキスト、ボールド、中央揃えなどのテキストプロパティ、および表示時間はすべてのテキストキャプションに適用されませんが、個々のテキストキャプションの設定として残ります。

メモ: このダイアログで加えた変更はデフォルト設定になり、今後、新規に作成するキャプションには新しくなったデフォルト設定が使用されます。

5. [オプション] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

表示時間: テキストキャプションのタイミングを指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。表示時間を指定するオプションを選択した場合、テキストキャプションを表示する時間を秒数で入力します。

表示開始までの時間(秒): スライド表示後、指定した秒数が経った後にテキストキャプションを表示します。

エフェクト: ポップアップメニューをクリックして、テキストキャプションのトランジションエフェクトを選択します。[フェードイン]、[フェードアウト]、または[トランジションなし]のいずれかを選択します。

ムービー中のすべてのキャプションにエフェクトを適用する: このタブで加えた変更を、ムービー中のすべてのテキストキャプションに適用する場合に選択します。

6. テキストキャプションに音声を追加する場合は、[音声] タブをクリックします。

7. 完了したら [OK] をクリックします。

テキストキャプションがスライド上に表示されます。

8. 目的に合わせて、テキストキャプションのサイズを設定し、ドラッグして位置を変更します。

メモ: 透明のキャプションを作成する場合、下線の付いたテキストの使用は避けてください。透明のキャプションで適切に下線の付いたテキストを表示するには、テキストの表示品質が下がる可能性のあるフォントの表示方法を使用する必要があります。

ヒント: 透明のテキストキャプションを追加する場合は、ボールドテキストの使用を避けます。ほとんどのモニターでは、標準テキストの方がボールドテキストよりきれいに表示されます。

スライドに普通のテキストを追加する

ムービーの編集で、スライドにテキストを追加したいが、スライド上に貼り付けたキャプションのように表示したくない、という場合があります。そういう場合は、普通のテキストをスライドに追加する簡単なトリックがあります。Transparent(透明)テキストキャプションとして、テキストを追加する方法です。

Transparent テキストキャプションを作成するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビュー内で、Transparent テキストキャプションを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから、[テキストキャプション] を選択します。
[キャプションプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
4. [キャプションタイプ] でポップアップメニューをクリックして、[transparent] を選択します。
5. 必要に応じて、テキストキャプションの他のオプションを変更します

フォント：ポップアップメニューをクリックして、テキストキャプションのフォントを選択します。

サイズ：ポップアップメニューをクリックして、テキストキャプションのフォントサイズを選択します。

色：カラーボックスをクリックして、テキストキャプションのフォントカラーを選択します。

キャプションスタイル：テキストのみを表示するので、キャプションスタイルは透明 (Transparent) キャプションだけです。

表示オプション：必要に応じて、ボールド、イタリック、アンダーライン、両端揃えなど、さらに詳細な表示オプションを設定します。

キャプションテキストをここに入力してください：表示するキャプションテキストを正確に入力します。

ムービー中のすべてのキャプションにプロパティを適用する：このダイアログボックスで加えた変更を、ムービー中のすべてのテキストキャプションに適用する場合に選択します。すべてのテキストキャプションに適用したプロパティは、キャプションスタイル、フォントタイプ、フォントサイズ、フォントカラー、およびトランジションです。テキスト、ボールド、中央揃えなどのテキストプロパティ、および表示時間はすべてのテキストキャプションに適用されませんが、個々のテキストキャプションの設定として残ります。

6. [OK] をクリックします。

メモ： Transparent (透明) キャプションを作成する場合、下線の付いたテキストの使用は避けてください。透明のキャプションで適切に下線の付いたテキストを表示するには、テキストの表示品質が下がる可能性のあるフォントの表示方法を使用する必要があります。

ヒント： Transparent テキストキャプションを追加した後、スライドの背景にキャプションをマージすることもあります。

テキストキャプションを自動的に追加する

Captivate では、ムービーおよび追加スライドの記録時、記録した操作に基づいたテキストキャプションを、自動的に作成することができます。たとえば、[ファイル] メニューを選択する操作を記録する場合、「[ファイル] メニューを選択する」というテキストキャプションが同じスライド上に追加されます。

テキストキャプションが生成される操作には、メニューおよびメニュー項目を選択する、ボタンを押す、一覧、コンボボックス、チェックボックスなどの値を変更する、子ウィンドウを開くなどがあります。

新規ムービーを記録するときにテキストキャプションを自動的に追加するには：

1. Captivate を開きます。
2. スタートページで [新規作成] をクリックします。
[新規ムービーオプション] ダイアログボックスが表示されます。

3. [アプリケーション]、[カスタムサイズ]、または [フルスクリーン] オプションのいずれかを選択して、[OK] をクリックします。
4. [オプション] をクリックします。
[記録オプション] ダイアログボックスが表示されます。
5. [記録オプション] タブを選択します。
6. [自動記録を有効化] を選択します。
7. [言語] で、テキストキャプションで使用する言語を選択します。
8. [記録モード] で、[デモンストレーション] または [カスタム] を選択します。この 2 種類のモードでは、テキストキャプションが自動的に追加されます。さらに細かくカスタム設定する場合は、[設定を編集] ボタンをクリックします。
9. [OK] をクリックします。
10. [記録] をクリックすると新規ムービーの記録が始まり、テキストキャプションが自動的に作成されます。
11. 記録が完了し、ムービーの生成およびテキストキャプションの自動作成が終了した後、ムービー中の個々のスライドを表示してテキストキャプションを見ます。テキストキャプションを編集するには、テキストキャプションをダブルクリックします。

追加ムービーを記録するときにテキストキャプションを自動的に追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [挿入] メニューから [追加スライドを記録する] を選択します。
3. 追加スライドを配置する場所を決めます。ムービーの最後に新しいスライドを追加する、または一覧からスライドをクリックして選択し、選択したスライドの後に新しいスライドを追加することもできます。
4. 完了したら [OK] をクリックします。
記録ウィンドウが表示されます。
5. [オプション] をクリックします。
[記録オプション] ダイアログボックスが表示されます。
6. [記録オプション] タブを選択します。
7. [自動記録を有効化] を選択します。
8. [言語] で、テキストキャプションで使用する言語を選択します。
9. [記録モード] ポップアップメニューで、[デモンストレーション] または [カスタム] を選択します。この 2 種類のモードでは、テキストキャプションが自動的に追加されます。
10. [OK] をクリックします。
11. [記録] をクリックして追加スライドの記録を始めます。
12. 完了したらキーボードの End キーを押して、記録を停止します。
新しいスライドが生成され、ストーリーボードビューに表示されます。

13. スライドおよび自動的に追加されたテキストキャプションを見るには、新しく追加されたスライドをダブルクリックします。テキストキャプションを編集するには、キャプションをダブルクリックします。

メモ： Captivate では、すべての Windows 標準ユーザーインターフェイス要素に、テキストキャプションを自動生成することができます。ただし、Delphi で作成したアプリケーションのメニューテキストなど、Windows 標準以外のユーザーインターフェイス要素はサポートされていません。

ロールオーバーキャプションを追加する

ロールオーバーキャプションは独自の機能です。キャプションと四角形 (" ホット " 領域) から構成されています。ロールオーバーキャプションは、実行時にユーザーが " ホット " 領域上にマウスを動かすと表示されます。ロールオーバーキャプションはカスタマイズすることができます。通常のキャプションオブジェクトと同様に、ホット領域の位置、アウトライン、サイズもカスタマイズできます。

ロールオーバーキャプションを追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビューで、ロールオーバーキャプションを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから ロールオーバーキャプションを選択します。

[ロールオーバーキャプションプロパティ] ダイアログボックスが開きます。

4. [ロールオーバーキャプション] タブで、プロパティを設定します。

キャプションのタイプ：ポップアップメニューをクリックして、キャプションのタイプを選択します。各キャプションには名前が付けられ、小さいサムネール画像がキャプションの外観を表示します。

フォント：ポップアップメニューをクリックして、キャプションのフォントを選択します。

サイズ：ポップアップメニューをクリックして、テキストキャプションのフォントサイズを選択します。

色：カラーボックスをクリックして、テキストキャプションのフォントカラーを選択します。

キャプションスタイル：5 つのキャプションタイプのいずれかをクリックして選択します。キャプションスタイルの多くは、方向の選択が可能なコールアウト (引き出し線) を含んでおり、最適な方向を指すキャプションを選択することができます。

表示オプション：必要に応じて、ボールド、イタリック、アンダーライン、両端揃えなど、さらに詳細な表示オプションを設定します。

キャプションテキストをここに入力してください：表示するロールオーバーのテキストキャプションを正確に入力します。

ムービー中のすべてのロールオーバーキャプションにプロパティを適用します：このタブで加えた変更を、ムービー中のすべてのロールオーバーキャプションに適用する場合に選択します。

5. [オプション] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

エフェクト：ポップアップメニューをクリックして、ロールオーバーキャプションのトランジションエフェクトを選択します。フェードイン・アウト、フェードインのみ、フェードアウトのみ、またはトランジションなしを選択します。フェードイン、またはフェードアウトのエフェクトを選択した場合は、エフェクトを使用する時間を秒数で指定します。

ムービー中のすべてのロールオーバーキャプションにエフェクトを適用する：このタブで加えた変更を、ムービー中のすべてのロールオーバーキャプションに適用する場合に選択します。

6. キャプションに音声を追加する場合は、[音声] タブをクリックします。

7. [OK] をクリックします。

ロールオーバーキャプションとロールオーバー領域がスライドに追加されます。ロールオーバー領域は、マウスが通過するとキャプションが表示される領域です。

ロールオーバー領域を変更する

ロールオーバーキャプションとロールオーバー画像は、キャプションまたは画像とロールオーバー領域 (" ホット " 領域) から構成されています。ロールオーバー領域は、マウスが通過するとキャプションまたは画像が表示される領域です。

ロールオーバー領域を調整するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビューから、ロールオーバーキャプションまたは画像を含むスライドをダブルクリックします。
 - ロールオーバー領域のサイズを変更するには、ハンドルのいずれかをクリックしてドラッグします。
 - ロールオーバー領域を別の場所に移動するには、ハンドカーソルが表示されるまで、ロールオーバー領域にマウスを移動させます。ボックスを目的の位置までドラッグします。
 - ロールオーバー領域の属性を変更するには、ロールオーバー領域上をダブルクリックして、[ロールオーバー領域] ダイアログボックスで変更を加えます。

ツールヒントをロールオーバーキャプションに変換する

新規ムービーの記録時、または既存のムービー用に追加スライドを記録する場合、ツールヒントをロールオーバーキャプションに変換する記録オプションを設定することができます。このオプションを選択すると、記録過程で選択される各 ツールヒント をロールオーバーキャプションとして作成されます。

ツールヒントのロールオーバーキャプションへの変換は、ムービー中のアクションを的確に説明するためのキャプションを自動的に作成する簡単な方法です。

新規ムービーの記録時、ツールヒントをロールオーバーキャプションに自動的に変換するには :

1. Captivate を開きます。
2. スタートページで [新規作成] をクリックします。

[新規ムービーオプション] ダイアログボックスが表示されます。
3. [アプリケーション]、[カスタムサイズ]、または [フルスクリーン] オプションのいずれかを選択して、[OK] をクリックします。
4. [オプション] をクリックします。

[記録オプション] ダイアログボックスが表示されます。
5. [記録オプション] タブをクリックします。
6. [自動記録を有効化] を選択します。
7. [言語] で、ロールオーバーキャプションで使用する言語を選択します。
8. [記録デフォルト] ポップアップメニューからキャプションスタイルを選択する、または [設定を編集] をクリックしてデフォルトキャプションのスタイルをカスタマイズします。
9. [記録モード] のポップアップメニューをクリックして、[カスタム] を選択します。

10. [設定を編集] をクリックします。
11. [ツールヒントをロールオーバーキャプションに変換] を選択します。
12. [OK] をクリックします。
13. もう一度 [OK] をクリックします。
14. [記録] をクリックすると新規ムービーの記録が始まり、ツールヒントが自動的にロールオーバーキャプションに変換されます。

追加スライドの記録時、ツールヒントをロールオーバーキャプションに自動的に変換するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [挿入] メニューから [追加スライドを記録する] を選択します。
3. スライドをムービーの最後または別の場所に追加するオプションを選択します。
4. [OK] をクリックします。
[追加スライドを記録する] ダイアログボックスが表示されます。
5. [オプション] をクリックします。
[記録オプション] ダイアログボックスが表示されます。
6. [記録オプション] タブを選択します。
7. [自動記録を有効化] を選択します。
8. [言語] で、ロールオーバーキャプションで使用する言語を選択します。
9. [記録デフォルト] ポップアップメニューからキャプションスタイルを選択する、または [設定を編集] をクリックしてデフォルトキャプションのスタイルをカスタマイズします。
10. [記録モード] のポップアップメニューをクリックして、[カスタム] を選択します。
11. [設定を編集] をクリックします。
12. [ツールヒントをロールオーバーキャプションに変換] を選択します。
13. [OK] をクリックします。
14. もう一度 [OK] をクリックします。
15. [記録] をクリックすると追加スライドの記録が始まり、ツールヒントが自動的にロールオーバーキャプションに変換されます。

テキストキャプションをローカライズする

テキストキャプションを含むムービーをローカライズする場合、テキストキャプションを書き出して一層効率的に作業することができます。

テキストキャプションをローカライズするには：

1. 必要なテキストキャプションを含んだ最初のバージョンのムービーを、元になる言語で作成します。
2. 完成したムービーを開きます。
3. [ファイル] メニューから [読み込み・書き出し]-[ムービーキャプションの書き出し] を選択します。

4. デフォルトで、Word (DOC) ファイルが "My Documents¥MyCaptivateProjects" フォルダに保存されます。必要に応じて、保存する場所を変更します。また、Word ファイルは [プロジェクト名] Captions.doc と名付けられますが、必要に応じて名前を変更することができます。ファイル名のテキストボックスを直接クリックし、.doc ファイル拡張子は残して、新しい名前を入力します。[保存] をクリックします。
5. Word ファイルは指定した名前で生成され、選択した場所に保存されます。文書を表示するかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックして、Word 文書を表示します。
6. Word 文書には、スライド ID、項目 ID、元のテキストキャプション、およびスライド番号が含まれます。[更新されたテキストキャプションデータ] 欄で、テキストキャプションへの変更を加えることができます。Word 文書をローカライズまたは翻訳者に提供します。
7. ローカライズまたは翻訳者は Word 文書を開き、文書内の [更新されたテキストキャプションデータ] 欄でテキストキャプションを直接編集し、元の言語で書かれたテキストを新しい言語のテキストに置き換えます。
8. ローカライズまたは翻訳者がテキストを翻訳している間に、Captivate のオリジナルムービーを新しい言語用にコピーします。

メモ：オリジナルムービーのコピーを作成するとき、新しいムービーに元の言語で書かれたオリジナルのテキストキャプションを保持します。オリジナルのテキストキャプションはプレースホルダの役割を果たし、翻訳された新しいテキストキャプションを読み込むときに上書きされます。
9. テキストキャプションが翻訳されたとき、手順 8 で作成したプロジェクトのコピーを開きます。
10. [ファイル] メニューから [読み込み・書き出し]-[ムービーキャプションの読み込み] を選択します。
11. 翻訳されたテキストキャプションの Word (DOC) ファイルに移動し、ファイルを選択して [開く] をクリックします。
12. 新しく翻訳されたテキストキャプションがムービーに読み込まれ、すべての書式は保持されます。読み込みが成功したことを伝えるメッセージがダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックします。
13. 編集ビューでスライドをそれぞれ開いて、新しいテキストキャプションを確認します。

テキストキャプションを編集する

テキストキャプションを作成した後、キャプションスタイルまたはテキストを簡単に変更することができます。

メモ：テキストキャプションのサイズを変更する場合、テキストキャプションを作成するために使用した Bitmap よりも小さいサイズに変更することはできません。たとえば、テキストキャプションスタイルの "Pill" は、約 18 (幅) × 16 (高さ) ピクセルの Bitmap を使用しているので、15 × 12 ピクセルのサイズに縮小することはできません。しかし、いずれのキャプション Bitmap でも拡大することは可能です。非常に小さなテキストキャプションが必要な場合は、カスタムキャプションを作成することを検討します。

テキストキャプションを編集するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 編集するテキストキャプションを含むスライドをダブルクリックします。
3. 編集するテキストキャプションをダブルクリックします。

[テキストキャプションプロパティ] ダイアログボックスが開きます。

4. それぞれのタブをクリックして、必要に応じて変更します。これらのオプションについての詳細は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

5. 完了したら [OK] をクリックします。

ヒント：テキストキャプションおよび他のオブジェクトを含む詳細なスライドの場合、テキストキャプションを背景の一部として永久的に変更することもできます。

テキストキャプションのカスタムスタイルを作成する

Macromedia Fireworks や Adobe Photoshop などの画像処理プログラムを使用して、Captivate ムービー用にテキストキャプションのカスタムスタイルを作成することができます。

カスタムテキストキャプションは BMP (bitmap) 形式である必要があります。Captivate の各テキストキャプションには 5 種類の Bitmap 画像が付いています。

テキストキャプションのカスタムスタイルに名前を付ける

テキストキャプションのカスタムスタイルを作成する場合、名前を付けるときは次の規則に従います。各キャプションスタイルには他で使用されていない名前を付け、その名前に関連する Bitmap ファイル名の頭に使用します。たとえば、新しいテキストキャプションスタイルを "Brightblue" と名付けた場合、これに関連する 5 種類の Bitmap 画像には下記の名前を使用します。

- Brightblue1.bmp コールアウトなしの画像
- Brightblue2.bmp コールアウトが右または右上にある画像
- Brightblue3.bmp コールアウトが左または左上にある画像
- Brightblue4.bmp コールアウトが右下にある画像
- Brightblue5.bmp コールアウトが左下にある画像

テキストキャプションのカスタムスタイルを保存する

テキストキャプションのカスタムスタイルで使用するすべての Bitmap 画像は、Captivate キャプションフォルダ (C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery\Captions) に保存します。キャプションフォルダに 5 種類の新しい Bitmap を追加すると、Captivate はこれらの Bitmap ファイルを新しいテキストキャプションスタイルと認識します。将来、新しいテキストキャプションを追加する場合、新しいカスタムスタイルがテキストキャプションスタイル一覧に表示され、新しいスタイルを簡単に選択して使用することができます。

カスタムテキストキャプションのテキスト整列

カスタムテキストキャプションのテキストが整列せず、ばらばらに表示される場合があります。この問題を解決するには、右、左、トップ、およびボトムマージンを設定する必要があります。

5 種類のキャプションスタイルは個々にマージンを設定する必要があります。それぞれのキャプションにおいて、テキストが表示される位置にわずかに違いがあるためです。

マージンの設定は拡張子が .fcm のテキストファイルに保存されます。FCM ファイルの作成および編集には、メモ帳またはワードパッドを使用できます。

カスタムテキストキャプションのテキスト整列を変更するには：

1. Windows エクスプローラを使用して、C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery\Captions に移動します。すべてのテキストキャプション BMP および対応する FCM ファイルはこのフォルダ内にあります。
2. 編集する FCM ファイルを右クリックして、[アプリケーションから開く] を選択します。
3. メモ帳 (Notepad) またはワードパッドを選択します。
4. 必要に応じて次の値を変更します。
 - 左マージンは Bitmap 左側からのピクセル数です。
 - 右マージンは Bitmap 右側からのピクセル数です。
 - トップマージンは Bitmap 上辺からのピクセル数です。
 - ボトムマージンは Bitmap 底辺からのピクセル数です。
5. (オプション) 必要に応じて、MarginX および MarginY の設定を変更することができます。これは、キャプションを自動的に追加する場合は特に重要になります。
 - MarginX は、最も近い角からキャプションコールアウト (引き出し線) の先端までの水平方向のピクセル数です。
 - Margin Y は、最も近い角からキャプションコールアウト (引き出し線) の先端までの垂直方向のピクセル数です。

メモ：メモ帳またはワードパッドで開いたファイルで、最も近い角を "Corner" として示しています。たとえば、Corner=right, top と示します。
6. [ファイル] メニューから [保存] を選択します。
7. ダイアログボックスが表示され、オリジナルファイルと置き換えるかどうかを聞かれます。[はい] をクリックします。
8. プログラム (メモ帳またはワードパッド) を閉じます。

カスタムテキストキャプションのデザインヒント

- 色：テキストキャプション内で使用する色には、透明色と同じ色を使用しません。透明色は左上のピクセルによって定義されます。たとえば、左上のピクセルの色が黄色の場合、同じ黄色であるものはテキストキャプション内では透明になります。また、テキストキャプション自体はグラデーションの背景を持っていますが、テキストキャプションのまわり (後ろ) は単色である必要があります。
- 折り返し防止 (アンチエイリアジング)：テキストキャプションの端に折り返し防止 (アンチエイリアジング) は使用しません。テキストキャプションは別のスクリーンショットに表示され、折り返し防止 (アンチエイリアジング) の影響でギザギザに見える場合があります。

テキストキャプションの移動およびサイズ変更

テキストキャプションは、手動または自動的にサイズ変更することができます。また、スライド上の別の場所に移動することもできます。

メモ：テキストキャプションのサイズを変更する場合、キャプションを作成するために使用した Bitmap よりも、小さいサイズに変更することはできません。たとえば、キャプションスタイルの "Pil" は、約 18 (幅) × 16 (高さ) ピクセルの Bitmap を使用しているので、15 × 12 ピクセルのサイズに縮小することはできません。しかし、いずれのキャプション Bitmap でも拡大することは可能です。大変小さいキャプションが必要な場合は、カスタムキャプションを作成することを検討します。

テキストキャプションを手動でサイズ変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. テキストキャプションを含むスライドをダブルクリックします。
3. サイズを変更するテキストキャプションをクリックします。
4. テキストキャプションの端にある選択ハンドルのいずれかにマウスポインタを移動すると、ポインタがサイズ変更ハンドルに変わります。
5. マウスの左ボタンでドラッグして、テキストキャプションのサイズを変更します。

テキストキャプションを自動的にサイズ変更するには：

Captivate は、テキストの長さに合わせて、テキストキャプションのサイズを自動的に変更します。テキストを編集した場合、新しいテキストの長さに合わせてテキストキャプションのサイズが変更します。バランスよく調和のとれたテキストキャプションの外観を、簡単に保つことができます。

1. テキストキャプションを含む Captivate ムービーを開きます。
2. [オプション] メニューから [キャプションの自動サイズ調整] を選択します。このオプションの横にチェックマークが表示されている場合、キャプションの自動サイズ調整機能はオンです。チェックマークが表示されていない場合、キャプションの自動サイズ調整機能はオフです。

テキストキャプションを移動するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. テキストキャプションを含むスライドをダブルクリックします。
3. 移動するキャプションの上にマウスを移動させます。
4. ハンドカーソルが表示されるとき、マウスの左ボタンでテキストキャプションをドラッグして、スライド上の新しい位置に移動させます。

キャプションのコピーおよびペースト

テキストキャプションをスライド間でコピーおよびペーストすることができます。時間を短縮できるので、同じテキストキャプションを複数のスライドに表示する場合には特に便利です。

テキストキャプションをコピーしてペーストするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. コピーするテキストキャプションが含まれているスライドをダブルクリックします。
3. [テキストキャプション] を右クリックして、[コピー] を選択します。
4. キャプションをペーストするスライドに移動します。
5. スライドを右クリックして、[オブジェクトを貼り付け] を選択します。

ヒント：一度に複数のテキストキャプションをコピーおよびペーストすることができます。複数のテキストキャプションを選択するには、Shift キーを押しながらテキストキャプションをクリックします。その後、選択したテキストキャプション上で右クリックして、[コピー] を選択します。

テキストキャプションを読み込む

DOC ファイルからテキストキャプションを読み込むことができます。まず、Captivate ムービーからテキストキャプションを書き出します。テキストキャプションのすべての書式を保持したまま、Captivate が DOC ファイルを作成します。テキストキャプションが DOC 形式のときに、文書処理プログラムでテキストおよび書式の変更をすることができます。その後、次の手順に従ってテキストキャプションを Captivate ムービーに読み込みます。

メモ：テキストキャプションを DOC ファイルに書き出した場合、その DOC ファイルは元のムービーにのみ読み込むことができます。

テキストキャプションを DOC ファイルに読み込む、または DOC ファイルから書き出すことが便利な状況がいくつかあります。たとえば、数多くのテキストキャプションがあり、そのすべてのテキストを編集する必要がある場合、スライド間を移動するよりも DOC 形式に変換する方が、より簡単かつ素早くテキストを編集することができます。

キャプションを読み込むには：

1. テキストキャプションを含む Captivate ムービーを開きます。
2. テキストキャプションを書き出します。
3. DOC 形式の間に、[更新されたテキストキャプションデータ] 欄で必要なテキストキャプションの変更を行い、DOC ファイルを保存します。
4. [ファイル] メニューから [読み込み・書き出し]-[ムービーキャプションの読み込み] を選択します。
5. 書き出したテキストキャプションを含む DOC ファイルを選択します。
6. [開く] をクリックします。
7. [情報] ダイアログボックスが表示され、読み込みが成功したことを確認します。[OK] をクリックします。

テキストキャプションを書き出す

ご使用のコンピュータに Microsoft Word がインストールされている場合は、テキストキャプションを既存の Captivate ムービーから DOC ファイルに書き出すことができます。Captivate で行った書式設定は、DOC ファイルとして開いたときもそのまま保持されます。DOC 形式のときにテキストキャプションのテキストおよび書式を変更した後、Captivate ムービーに読み込むこともできます。

メモ：テキストキャプションを DOC ファイルに書き出した場合、その DOC ファイルは元のムービーにのみ読み込むことができます。

テキストキャプションの書き出しを活用できる状況がいくつかあります。

- ナレーションを録音するために台本を作成する必要がある場合、書き出したテキストキャプションは台本の基礎となります。
- 手順ごとの指示書など、印刷物が必要な場合は、テキストキャプションを書き出して DOC ファイルを印刷することができます。
- ムービーのローカライズが必要な場合、テキストキャプションを DOC ファイルに書き出して翻訳者に提供できます。

テキストキャプションを書き出すには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [読み込み・書き出し]-[ムービーキャプションの書き出し] を選択します。
3. [名前を付けて保存] ダイアログボックスで、新しい DOC ファイルの名前を入力します。
4. ファイルを保存するデフォルトのディレクトリに注意します。必要に応じて、別の場所へ移動して、ファイルを保存します。
5. [保存] をクリックします。
ムービーのテキストキャプションが DOC 形式に変換されます。テキストキャプションが Word に書き出されたことを確認し、その文書を表示するかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。
6. [はい] をクリックします。
キャプションテキストを含んだ新しい DOC ファイルが Word で開きます。必要に応じて、[更新されたテキストキャプションデータ] 欄でテキストを変更します。スライド番号が参照項目として含まれます。
7. 文書を保存します。
8. テキストキャプションを Captivate ムービーに読み込みます。

テキストキャプションの順序を変更する

各スライドに複数のキャプションを追加することができます。タイムラインを使って、キャプションの表示順序を指定します。タイムラインでは、スライド上にあるすべてのオブジェクト (キャプションを含む) のタイミングを、正確に調整できます。

タイムラインを使用してキャプションの順序を変更するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 順序を変更するキャプションを含むスライドに移動します。
3. [タイムライン] がまだ開いていない場合は、スプリッターの上をクリックして [タイムライン] を表示します。タイムラインを展開させるには、表示矢印をクリックします。
4. 必要に応じて、キャプションの順序およびタイミングを変更します。
 - サイズ変更カーソルが表示されるまで、[タイムライン] 上にあるキャプションの左端または右端にマウスを移動させます。その後、端を右か左にドラッグします。キャプションを表示または終了するタイミング、およびキャプションを表示する長さを変更します。
 - 現在、スライドとキャプションが同じ時間表示される設定になっていて、そのキャプションを少し遅れて表示したい場合は、ハンドカーソルが表示されるまでマウスをキャプションの中央へ移動させます。そして、キャプション全体をドラッグしてキャプションの左端がヘッダーの 2 秒 (2 秒遅れ)、または 4 秒 (4 秒遅れ) の位置まで移動させます。
5. スライド上で 2 つのキャプションがオーバーラップしている場合、重なり順序を設定して、前に表示するキャプションを選択します。重なり順序の変更では、キャプションをスライドステージで前後に移動させます。重要な点は、ステージの一番後ろにあるキャプションは、他のキャプションよりも後ろに表示されることです。重なり順序を設定するには、以下のいずれかの方法で行います。
 - 編集ビューでスライド上のキャプションを右クリックして、キャプションの順序オプションのいずれかを選択します。必要に応じて、他のキャプションも右クリックで順序を調整します。

- 編集ビューの [タイムライン] で、ハンドカーソルが表示されるまでマウスをキャプション上に移動させます。その後、キャプションを上下にドラッグして、重なり順序の位置を変更します。キャプションを上に移動させると、重なっている順序はステージの前に移動します。また、キャプションを下に移動させると、重なっている順序はステージの後ろに移動します。

テキストキャプションを削除する

スライドおよびムービーからテキストキャプションを削除することができます。

テキストキャプションを削除するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビューでテキストキャプションを含んでいるスライドをダブルクリックします。
3. [テキストキャプション] を右クリックして、[コピー] を選択します。

第 5 章

音声を追加する

Captivate では、ナレーション、音楽、手順ごとの説明など、ほとんどすべての音声をプロジェクトに加えることができます。重要な指示や強調したい箇所、または背景エフェクトなどに音声を使用できます。音声は通常、他のムービーコンポーネントと同じように、個別にかつ柔軟に使用できます。

Captivate では、さまざまな方法で音声をプロジェクトに使用できます。たとえば、次のようなことができます。

- ムービーにバックグラウンドミュージックを追加
- 個々のスライドに音声を追加
- キャプション、クリックボックス、ハイライトボックス、またはボタンなどの特定のオブジェクトに音声を追加

上記の 3 つのオプションすべてをプロジェクトに使用

Captivate では、簡単な録音装置を使って独自の音声ファイルを記録することや、既存の音声ファイルを読み込むことができます。ムービーの記録と同時に音声ファイルも記録することができます。後で音声ファイルを追加することもできます。Captivate では、WAV または MP3 形式のファイルを読み込むことができます。WAV ファイルをムービーに読み込んだ場合、Captivate では WAV ファイルを MP3 形式に自動的に変換します。

ムービーに音声追加された後、オブジェクトのタイミングと音声ファイルが正確に合うように調整できます。Captivate では、音声ファイルに静寂を追加する機能が含まれています。また、すべてのスライドの音声を標準化し、一貫した音声レベルを保つこともできます。

ヒント：Captivate にはボタン、音声、およびアニメーション (SWF 形式) のギャラリーが含まれていて、プロジェクトに使用することができます。ギャラリーは、Captivate インストール時のデフォルトで、次の場所に保存されています。C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery

既存の音声ファイルを追加する

WAV または MP3 形式の音声ファイルが既にある場合、ムービーに音声を素早く追加できます。ファイルを単に読み込んで、オープニングミュージック、背景に流れるナレーション、説明、または他の目的にも使用できます。

メモ：WAV ファイルを Captivate ムービーにインポートすると、自動的に MP3 ファイルに変換されます。

スライドに音声を追加するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 次のいずれかの操作を実行します。
 - ストーリーボードビューでスライドを選択します。[音声] メニューから [読み込み] を選択します。
 - 編集ビューの [音声] メニューから [読み込み] を選択します。[音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。

ヒント：Captivate にはボタン、音声、およびアニメーション (SWF 形式) のギャラリーが含まれていて、プロジェクトに使用することができます。ギャラリーは、Captivate インストール時のデフォルトで、次の場所に保存されています。C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery

3. スライドに追加する音声ファイル (WAV または MP3) を参照し、その音声ファイルを選択して [開く] をクリックします。
4. (オプション) 音声ファイルの再生時間がスライドの再生時間よりも長い場合は、スライドのタイミングを編集するかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックして、[音声のタイミング編集] ダイアログボックスを開きます。

音声録音用機器

適切な音声録音機器をご使用になると、録音した音声の品質に大きな違いが生じます。意外に、基礎的な音声録音機器は、かなり安い値段で入手できる場合があります。

- **サウンドカードを備えたコンピュータ** ご使用のコンピュータにインストールされたサウンドカードは、録音に用いるデジタルレコーダーの役割を果たします。
- **マイク** 可能な場合は、コンピュータに付いてきた安物のマイクの使用を避けます。また、マイク用の適切なケーブルおよびマイクを立てるスタンドを録音時に使用します。
- **プリアンプ** プリアンプはマイクの信号を増強します。恐らく、ご使用のコンピュータにインストールされたサウンドカードのマイク入力にプリアンプが含まれていますが、良質のものではない場合がほとんどです。プリアンプをご購入になるときは、小さいミキサーまたはスタンドアロンのバージョンを選択することができます。ミキサーを使用すると、複数のマイクまたはデバイスを一か所に接続し、それぞれの音量を個々に調整することができます。スタンドアロンプリアンプは、雑音を防止できる面で、ミキサーより優れていると考えられます。
- **スピーカー** ご使用のコンピュータに付いてきたスピーカーは、録音用には恐らく十分な品質を備えていると思われますが、スピーカー設定の変更が必要な場合があります。ただし、ラップトップで作業している場合、ラップトップ内臓のスピーカーの代わりに、標準デスクトップコンピュータのスピーカーを使用する必要があります。

メモ：ほとんどの Windows OS では、左下角にある [スタート] をクリックして、[設定]-[コントロールパネル]-[サウンド] を選択すると、スピーカー (音声) の設定を見ることができます。

- **ヘッドフォン** マイクをオンにしているとき、スピーカーが邪魔なフィードバックを出す場合があるので、ヘッドフォンは重要です。また、マイクが漏れた音声を拾う恐れがあるので、耳を覆うタイプのヘッドフォンが最適です。
- **録音ソフトウェア** さまざまな録音ソフトウェアを利用することができます。ソフトウェアの重要な機能には、間違いを訂正する編集機能、音楽および音声エフェクトオプション、そして必要なファイル形式 (MP3 または WAV など) で作成できる機能などが含まれます。audacity.sourceforge.net から入手できる Audacity は、簡単に使用できる優れたフリーソフトです。

- **録音場所** 必要な録音機器を入手した後、録音を始める前に、最も重要なアクションが残っています。当然のことですが、録音するために適した静かな場所を見つけることです。ドアを閉め、不要なコンピュータ機器の電源を切り、雑音を出す可能性がある照明を切るかまたは落とし、電話、ビーバー、およびページャーの呼び出し音を切ります。もちろん、録音中であることを同僚に伝えます。

録音のヒント

できる限り最高品質の音声を録音するには、次のヒントに従います。

設定：必要な音声記録装置を入手したら、正しく設定する必要があります。まず、マイクをミキサーまたはプリアンプに接続し、その装置の出力をご使用のコンピュータサウンドカードの "ラインイン" に接続します。コンピュータにヘッドホンを接続します。その後、ミキサーまたはプリアンプの音量を設定します。音量レベルをテストするために話し始め、注意深く音量を上げて、音量が 0 より少し低くなるようにします。

サウンドカードの設定：サウンドカードを制御するソフトウェアアプリケーションを開きます。ほとんどの Windows OS では、左下角にある [スタート] をクリックして、[設定]-[コントロールパネル]-[サウンド] を選択すると、音声の設定を見ることができます。録音ソース (ラインイン) を選択し、音量を 100% に調整します。

メモ：実際の録音レベルは、ミキサーまたはプリアンプで制御します。

録音ソフトウェアの設定：音声記録ソフトウェアを起動します。必要に応じて、設定を変更します。ミキサーおよびプリアンプには音声レベル制御がないため、録音時はメーターを確認します。録音中は、メーターが 0 を超えていないか、または音声に歪みがないかを確認します。

マイクの位置：マイクを正しく配置すると、完成した音声ファイルの品質に大きな違いが生じます。最初に、マイクを約 10 ～ 15 cm 以内に近づけ、雑音が録音されないようにします。マイクを口より下に配置して俯いて話すことは避けます。鼻の上から口を指すように、マイクを下に向けて配置します。最後に、マイクを口の横へわずかにずらします。こうすることで、" さ " 行および " ば " 行の音を和らげることができます。

マイク関連のテクニック：手元に水を用意して、口が渴かないようにします。録音を開始する前に、マイクから顔を背け、何回か深呼吸し、口を開けてからマイクに向かって話し始めます。この要領で録音すると、音声トラックの初めによく録音されることがある、呼吸音および唇の音が解消されます。ゆっくりと注意深く話します。不自然なくらいゆっくり話していると感じる場合がありますが、速度は録音ソフトウェアを使用して後で調整することができます。最初からすべてを正しく録音する必要はありません。後で録音を聞いて評価し、必要に応じて再録音できます。

音声の編集：音声の編集はテキストの編集と同様です。録音を注意深く聞きます。不要な音声を削除し、ソフトウェアで使用可能なオプションを使用してトラックを仕上げます。必要な音楽や音声エフェクトを追加します。音声トラックを正しい形式 (MP3 または WAV ファイル) で保存します。

音声ファイルを Captivate に追加：音声ファイルが完成したら、そのファイルを Captivate プロジェクトに追加します。

その他のフィードバック：音声 Captivate プロジェクトに追加されたら、音声を再度聞いてみます。ユーザーが通常行うのと同様にムービーを再生します。最後に、他の人にムービーおよび音声ファイルをレビューしてもらいます。必要に応じて、音声ファイルを再編集します。

録音オプションを設定する

音声ファイルには、サイズに対する質のバランスという、共通の課題があります。音声の質を高くすると、ファイルサイズが大きくなります。音声の圧縮率を高くしてサンプリングレートを低くするほど、サイズは小さくなりますが、音質は低下します。**Captivate** では、入力および出力条件に基づいて、録音および圧縮の方法を制御することができます。

Captivate での音声作成は、2つのプロセスから構成されています。音声は **WAV** 形式で録音され、その後で **Captivate** が **WAV** ファイルを **MP3** ファイルに変換します。ファイルが **WAV** 形式の場合、ある程度の柔軟性があります。音質を下げた編集および調整し、再生シナリオに合わせて **MP3** ファイルに圧縮することができます。

音声を処理する場合は、ユーザーのことを考慮します。ユーザーがダイヤルアップモデムで **Captivate** ムービーにアクセスする場合は、**56 Kbps** のような高圧縮率および低サンプリングレートを使用します。一方、ムービーを **CD-ROM** で配布する場合は、**144 Kbps** のような低圧縮率および高サンプリングレートを使用します。最良の開発には、ユーザーに提供するムービーの音質とファイルサイズの最適なバランスを見つけるために、試してみることが重要です。

録音オプションを設定するには：

1. **Captivate** プロジェクトを開きます。
2. [音声を録音する] ダイアログボックスを開くには、次の操作のうち、いずれかを行います。
 - ストーリーボードビュー で、ツールバーの [音声] をクリックします。
 - 編集ビュー で、ツールバーの [音声] をクリックします。
3. [オプション] をクリックします。
 - [音声のオプション] ダイアログボックスが表示されます。
4. 次のオプションを設定します。
 - 入力ソース：録音に使用する録音デバイスのタイプを指定します。マイクを使用する場合は [マイク] を選択し、録音デバイスがマイク以外の場合は、[ラインイン] を選択します。
 - 音質：音質のレベルを指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。音質を高くすると、音声ファイルのサイズが大きくなることに留意します。
 - 入力測定：クリックすると、[マイクを測定する] ダイアログボックスが表示されます。最適な録音をするために、録音装置を測定することは重要です。
5. 完了したら [OK] をクリックします。

録音用マイクの最適化

プロジェクトの音声を録音する場合は、マイクや録音デバイスを適切な録音レベルに設定する必要があります。これは録音デバイスの最適化と呼ばれます。最適化では、自動的に適切なマイクレベルを設定して記録感を調整します。

メモ： **Captivate** で録音デバイスを検出してから、最適化を実行してください。マイクまたは録音デバイスが " ラインイン " を使用してコンピュータに適切に接続されていることを確認し、最適化を実行する前に電源を入れてください。

マイクまたは録音デバイスを最適化するには：

1. 新たに音声ファイルを録音する Captivate プロジェクトを開きます。
2. [音声] メニューから [記録] を選択します。
[音声を録音する] ダイアログボックスが表示されます。
3. [オプション] をクリックします。
[音声のオプション] ダイアログボックスが表示されます。
4. [入力測定] をクリックします。
[マイクを測定する] ダイアログボックスが表示されます。
5. 適切な録音デバイスレベルを設定するには、赤い記録ウィンドウが緑になるまで、次のメッセージを読みます。
"最適化するために、マイクの録音レベルを設定しています。"
6. 完了したら [OK] をクリックします。

音声を録音する

ご使用のコンピュータにマイクが接続されている場合、スライドに含める音声を録音することができます。多くのタイプのナレーションや指示に、音声を使用できます。たとえば、ムービーにテキストキャプションがある場合、キャプションのテキストを読み上げて、ナレーションを録音することができます。

音声を録音するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. [音声を録音する] ダイアログボックスを開くには、次の操作のうち、いずれかを行います。
 - ストーリーボードビュー で、ツールバーの [音声] をクリックします。
 - 編集ビュー で、ツールバーの [音声] をクリックします。
3. 記録オプションを設定するには、[オプション] をクリックして、必要な変更を加えます。ナレーションや音楽などの記録タイプ、または EXE ファイルやインターネット経由などの再生方法によっては、音声設定の調整が必要な場合があります。
4. (オプション) スクリプト (読み上げ原稿または台本など) として使用できるテキストキャプションまたはスライドメモを作成した場合、[スクリプトを表示] オプションを選択します。テキストが右側に表示されます。
5. [記録] をクリックして録音を始めます。
6. マイクまたは記録デバイスに向かって話します。
7. 完了したら [停止] をクリックします。
音声は MP3 形式に変換されます。
8. [再生] をクリックして、録音した音声を聞きます。
9. 完了したら [OK] をクリックします。

ムービー作成時に音声を録音する

Captivate では、新しいムービーを記録するとき、音声も同時に記録できます。これは、フル装備のムービーを作成するのに、たいへん効率の良い方法です。

アプリケーションについての Captivate ムービーを作成する過程で、音声を同時に記録する方法を以下で説明します。カスタムサイズまたはフルスクリーンの Captivate ムービーを作成する方法と似ています。

音声と新規 Captivate ムービーを同時に記録するには：

1. 記録したいアプリケーションを開きます。記録を開始する前に、アプリケーションを開く必要があります。
2. 録音装置の用意をします。
3. Captivate を開きます。
4. スタートページで [新規作成] をクリックします。
[新規ムービーオプション] ダイアログボックスが表示されます。
5. [アプリケーション] を選択して、[OK] をクリックします。
記録ウィンドウが表示されます。
6. [記録ウィンドウの選択] ポップアップメニューから、記録するアプリケーションを選択します。
7. [ナレーションを記録する] を選択します。
8. (オプション) [オプション] をクリックして、スクリーンショットの自動キャプチャ、およびテキストキャプションの自動生成など、幅広い記録オプションを設定します。
9. (オプション) 必要に応じて、ウィンドウのサイズおよび位置を調整します。赤い枠の上でサイズ変更ハンドルを選択し、それをドラッグしてウィンドウのサイズを変更できます。ウィンドウの位置を変更するには、四方向矢印が表示されるまで赤い枠の上でマウスを動かし、ウィンドウ全体をドラッグして新しい位置に移動します。[赤枠の記録領域をウィンドウに合わせて吸着させる] をクリックすると、アプリケーションのサイズに合わせて、記録領域を素早くサイズ変更できます。
10. オプションの設定が完了したら、[記録] をクリックします。
これが最初の録音の場合、音声レベルをテストするかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。最適な録音をするためには、[はい] をクリックして、録音装置の測定をします。指示に従い、完了したら [OK] をクリックします。
11. Captivate がスクリーン上の操作を記録し始めます。
 - ムービーの記録と同時に、音声サウンドトラック用のマイクまたは録音装置に向かって話します。たとえば、現在の操作についての説明、またはテキストキャプションを読みます。
 - ムービーを自動的に記録している場合 (手順 8 で、[自動記録を有効化] オプションを選択した場合)、メニューの選択、ボタンのクリック、またはテキスト入力などの操作をするたびに、その操作のスクリーンショットを Captivate が自動的にキャプチャします。
 - ムービーを手動で記録している場合 (手順 8 で、[自動記録を有効化] オプションを選択しなかった場合)、Print Screen キー (またはキャプチャに指定した別のキー) を押して、スクリーンショットをキャプチャします。

操作の実演をだれかに見せているときに、アプリケーションを使います。使用しているコンピュータにサウンド機能があり、オプションを選択した場合は、カメラのシャッター音が聞こえます。

メモ：スクリーン上の操作を記録しているときは、通常よりもさらにゆっくりとその操作を行います。たとえば、キーボード操作を記録している場合、テキストをゆっくりと入力します。

12. 記録が完了したら、End キー（または記録終了に指定した別のキー）を押して 記録を終了します。

スライドが生成され、新しく作成したムービーがストーリーボードビューに表示されます。記録した音声ファイルは該当するスライドに割り当てられ、個々の MP3 ファイルとして保存されます。[音声ライブラリ] でそのファイルを確認できます。

ヒント：ムービーの記録プロセスを一時停止したい場合は、Pause/Break キーを押します。再びムービーの記録を開始する場合は、Pause/Break キーをもう一度押します。

バックグラウンド音声を作成する

プロジェクト用に、バックグラウンド音声を作成することができます。ムービーのスライドを表示している間、音声は再生されます。バックグラウンド音声には、音楽、サウンドエフェクト、または読み込みまたは記録できるほとんどすべての種類の音声を使用できます。

個々のスライドにある音声とバックグラウンド音声を一緒に使用して、洗練された効果を出すことができます。Captivate には、スライドに設定された音声は再生されるとき、バックグラウンド音声の音量を下げるオプションがあります。たとえば、音楽ファイルをインポートし、バックグラウンド音声として繰り返して再生することができます。同じムービーで、個々のスライドでナレーションを記録し、ナレーションが再生されるときに、バックグラウンドに流れる音楽の音量を下げるすることができます。

バックグラウンド音声を作成するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [バックグラウンド音声] タブをクリックします。
4. 既存の音声ファイルを読み込むには、[読み込み] をクリックし、目的のファイルに移動してファイルを選択したら、[開く] をクリックします。ムービー内にすでに存在する音声ファイルを使用するには、[音声ライブラリ] をクリックします。
5. (オプション) [再生] をクリックして音声ファイルを聞きます。
6. 次のオプションを設定します。

[フェードイン] および [フェードアウト] では、ムービーの最初と最後に音声ファイルをフェードインまたはフェードアウトさせる時間を、秒単位で設定することができます。

[音声を追加したスライドではバックグラウンド音声の音量を下げる] を選択すると、ナレーションなどの個々の音声ファイルを追加したスライドでは、バックグラウンド音声の音量を自動的に下げます。

[音声を繰り返す] を選択すると、バックグラウンド音声を繰り返し再生します。

[ムービー終了時に音声を停止する] を選択すると、ムービーが終わると同時にバックグラウンド音声の再生も停止します。完了したら [OK] をクリックして、バックグラウンド音声をムービーに追加します。

カスタムのキーボード打ち込み音について

Captivate には、ムービーを記録時にキーボードを押す度にキーボードの打ち込み音を録音する機能があります。打ち込み音を含めることも含めないこともできます。また、カスタムのキーボード打ち込み音を作成して使用することもできます。

カスタムのキーボード打ち込み音を使用するには：

1. キーストロークの新しい音を作成、または既存の MP3 ファイル (Windows に用意されている音声ファイルなど) を使用します。
2. 新しい音声ファイルに KeyClick.mp3 と名前を付けます。
3. ファイルを保存して、ファイルの保存場所を記録します。
4. Windows エクスプローラーを使用して、Captivate の音声エフェクトのフォルダを参照します。デフォルトの場所は、C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery\SoundEffects です。
5. KeyClick.mp3 という名前のファイルを探します。これは、Captivate のデフォルトのキーストロークの音声ファイルです。

メモ： ファイルを上書きする前に、オリジナルの KeyClick.mp3 ファイルをバックアップ用のフォルダに置いておくと、必要に応じて再度使用することができます。

6. 新しいキーボード打ち込み音を手順 3 の場所からコピーして、Captivate の音声エフェクトのフォルダに貼り付けます。
7. キーボードの打ち込み音のオプションが選択されていることを確認します。

音声ファイルに静寂を挿入する

Captivate プロジェクトの任意の音声ファイルに静寂時間を追加することができます。この機能は、音声ファイルを読み込んだり、オブジェクトやスライドと音声を同期化させる場合に便利です。静寂期間を追加すると、既存の音声ファイルを Captivate プロジェクトで使用する場合に、音声ファイルを頻繁に編集する必要がなくなります。

音声ファイルに静寂期間を追加するには：

1. 音声ファイルのある Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声ファイルのあるスライドを選択します。ストーリーボードビューでは、音声ファイルを含むスライドの下に、音声アイコンを表示します。
3. [編集] メニューから [音声を編集] を選択します。
[音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。
4. 音声ファイルの最初または最後に、または音声ファイルの特定の場所に、静寂を挿入できます。音声ファイル内に静寂期間を追加するには、波形上で追加したい正確な場所を直接クリックします。

ヒント： ダイアログボックスの下部のボックスに表示されるプレイヘッドや選択範囲の情報は、音声ファイルの正確な場所を知るのに役立ちます。たとえば、4 秒の静寂を追加したい場合には、プレイヘッドの情報ボックスに表示される値が 4 秒 (00:04.00) を示す場所まで、波形をクリックします。

5. [静寂を挿入] をクリックします。
[静寂を挿入] ダイアログボックスが表示されます。

6. 音声ファイルに追加する静寂時間の単位は秒です。[静寂を挿入] ダイアログボックスで、静寂時間を数値で指定します。
7. テキストボックスの右側で、ポップアップメニューをクリックして、静寂を追加したい音声ファイルの場所を選択します。[現在の選択]、[音声の開始時]、[音声の終了時] から選択します。
8. [OK] をクリックします。
音声ファイルに静寂時間が追加され、波形上で静寂時間を確認することができます。
9. 静寂時間を追加した音声ファイルをテストするには、左角にある [再生] ボタンをクリックします。

音量の調節

Captivate プロジェクトに含まれる音声ファイルの音量を調節できます。

音声ファイルの音量を調節するには：

1. 音声ファイルのある Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声ファイルのあるスライドを選択します。ストーリーボードビューでは、音声ファイルを含むスライドの下に、音声アイコンを表示します。
3. [編集] メニューから [音声を編集] を選択します。
[音声を編集] ダイアログボックス が表示されます。
4. [音量調節] をクリックします。
[音量調節] ダイアログボックスが表示されます。
5. 音量を変更するには、左側の音量スライダをクリックします。ドラッグして上げると音量は上がり、ドラッグして下げると音量は下がります。
6. 必要に応じて、音声の処理オプションを変更します。

最適化：Captivate が自動的に音量を調整する場合は、このオプションを選択します。音声を最適化すると、複数のスライド間で一定の音声レベルを保持することができます。

動的：このオプションを選択すると、音声の静音部を強調して、音量のばらつきを補うために役立ちます。

- 比率：強調する際に使用する、最大増幅率を指定します。2.0 のデフォルト設定は、最も静かな部分を 2 倍に増幅します。より高い設定は、音声の大きな部分と静かな部分に大差があるプロジェクトを改善することができますが、バックグラウンドの雑音も増幅します。
 - ノイズ閾値：バックグラウンド雑音の増幅を制御します。ノイズ閾値より静かな場合は、増幅しません。バックグラウンドの雑音が増幅され過ぎた場合は、ノイズ閾値をより高く設定することで、問題を解決できることがあります。[動的] オプションは、雑音レベルが高い場合、あまり効果がありません。
7. 完了したら [OK] をクリックします。

既存の音声をボックスおよびボタンに追加する

ボタン、ハイライトボックス、クリックボックス、またはテキスト入力ボックスで使用する音声ファイルを読み込むことができます。また、音声ライブラリを使用して、既存する音声ファイルを現在のプロジェクトに追加することもできます。

音声ファイルを読み込むには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声を追加するボタンまたはボックスのあるスライドをダブルクリックします。ボタンまたはボックスをダブルクリックします。
3. [音声] タブをクリックします。
4. [読み込み] をクリックします。

ヒント：Captivate にはボタン、音声、およびアニメーション (SWF 形式) のギャラリーが含まれていて、プロジェクトに使用することができます。ギャラリーは、Captivate インストール時のデフォルトで、次の場所に保存されています。C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery

5. 追加する音声を参照し、ファイルを選択して [開く] をクリックします。
6. (オプション) 音声ファイルを聞く、またはテストするには [再生] をクリックします。
7. 必要に応じて、他のオプションを選択します。
 - 音量変更、静寂の挿入、および音声の長さ調整など、音声ファイルを編集するには [編集] をクリックします。
 - 音声をフェードイン、またはフェードアウトさせる場合には、[フェードイン] および [フェードアウト] の矢印を使用して秒数を設定します。
8. 完了したら [OK] をクリックします。

音声ライブラリから音声ファイルを選択するには：

メモ：音声ライブラリオプションを使用するには、Captivate プロジェクトに音声ファイルが1つ以上含まれている必要があります。音声ファイルがプロジェクトに存在しない場合は、音声ライブラリオプションを使用できません。

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声を追加するボタンまたはボックスのあるスライドをダブルクリックします。ボタンまたはボックスをダブルクリックします。
3. [音声] タブをクリックします。
4. [音声ライブラリ] をクリックします。
5. [音声クリップ] 一覧で、音声ファイルを選択します。
6. (オプション) 音声ファイルを聞くには [再生] をクリックします。
7. 選択した音声ファイルをボタンまたはボックスに追加するには、[OK] をクリックします。

ヒント：ボックスおよびボタンで使用するために、新規音声ファイルを記録することもできます。

ヒント：音声ファイルをボタンやクリックボックスに割り当てて、ユーザーがボタンやクリックボックスをクリックしたときに、ボタンやクリックボックスを表示する代わりに音声を再生することができます。これを実行するには、ボタンやクリックボックスを作成し、[成功のキャプション] オプションを選択します。[成功のキャプション] を透明にし、テキストを追加しません。音声ファイルを [成功のキャプション] に追加します。

ボックスおよびボタンの音声を録音する

ボタン、ハイライトボックス、クリックボックス、またはテキスト入力ボックスに使用する、音声ファイルを録音することができます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

メモ：既存の音声をボックスおよびボタンに追加することもできます。

音声ファイルを録音するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声を追加するボタンまたはボックスのあるスライドをダブルクリックします。ボタンまたはボックスをダブルクリックします。

または

ボタンを追加するスライドをダブルクリックします。[挿入] メニューから [ハイライトボックス] [クリックボックス]、[テキスト入力ボックス]、または [ボタン] を選択します。
3. [音声] タブをクリックします。
4. [新しく記録] をクリックします。
5. [音声を記録する] ダイアログボックスで [記録] をクリックします。
6. 記録が終了したら [停止] をクリックします。
7. (オプション) 音声ファイルを聞く、またはテストするには [再生] をクリックします。
8. 完了したら [OK] をクリックします。
9. もう一度 [OK] をクリックします。

打ち込み音を設定する

キーボード打ち込み音を含めることも含めないこともできます。記録中にキーボードのキーを押すたびに、Captivate ムービー内に打ち込み音が含まれます。打ち込み音を最終的なムービーに含めたくない場合には、打ち込み音を削除する次の方法を実行します。打ち込み音はムービーレベルでの設定なので、すべてのスライドで再生することも、すべてのスライドから削除することも可能です。

キーボードの打ち込み音を設定するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [環境設定] タブをクリックします。
4. [ムービー生成時、タイプを打つ音声を再生する] オプションの横にチェックマークが表示されている場合、キーボード打ち込み音がムービーで再生されます。チェックマークが表示されていなければ、打ち込み音はムービー内で再生されません。

音声ファイルを編集する

Captivate ムービー内の音声ファイルは、随時編集することができます。[音声編集] ダイアログボックスで、音声ファイルの再生、静寂の挿入、音量調節、およびさまざまなオプションの変更ができます。

音声ファイルを編集するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声を含むスライドをダブルクリックします。ストーリーボードビューでは、音声ファイルを含むスライドの下に、音声アイコンを表示します。
3. [編集] メニューから [音声編集] を選択します。
4. 必要に応じて、編集します。音声ファイルの一部を切り取り貼り付ける、静寂期間を挿入して音声ファイルを長くする、音量調節をする、別の音声ファイルを読み込むなど、数多くのオプションを利用することができます。

切り取り：クリックして音声ファイルの選択した部分を切り取ります。

コピー：クリックして音声ファイルで選択した部分をコピーします。

貼り付け：クリックしてクリップボードから情報を貼り付けます。たとえば、音声ファイルの一部を選択して、[切り取り] または [コピー] ボタンをクリックすると、選択した音声クリップボードに配置されます。その後、[貼り付け] 機能を使って、クリップボードにある音声を、音声ファイル内の任意の場所へ戻すことができます。

削除：クリックして音声ファイルで選択した部分を削除します。

操作を元に戻す：クリックして最後に行った操作を元に戻します。

操作をやり直す：クリックして最後に行った操作をやり直します。

静寂を挿入：クリックすると、音声ファイルの最初または最後に、または音声ファイルの特定の場所に、静寂を挿入します。

音量調節：クリックして音声ファイルの音量を調節します。また、音声ファイルの静音部を微調整するオプションもあります。

ズームイン：クリックして波形を拡大します。

ズームアウト：クリックして波形を縮小します。

オプション：クリックして、記録デバイス、音質レベル、および記録デバイス測定など、さまざまなオプションを設定します。

新規音声の録音または挿入：クリックして録音を開始します。録音するには、マイクが必要です。

再生：クリックして音声ファイルを再生します。

停止：クリックして音声ファイルの再生を停止します。

読み込み：クリックして別の音声ファイルをスライドに追加します。

5. 音声ファイルの編集が完了したら、[OK] をクリックします。

音声のタイミングを編集する

Captivate では、音声ファイルを録音した後、または読み込んだ後に、タイミングを編集することができます。音声ファイルのタイミングを制御できると、さまざまな長さの音声ファイルを使うことを可能にし、ムービーへ音声をスムーズに組み入れることができます。

音声ファイルを録音した後、または読み込んだ後、[音声のタイミング編集] ダイアログボックスに、ファイルが波形で表示されます。複数の音声ファイルを含むプロジェクトの場合、どの音声ファイルが特定のスライドに割り当てられているかを見ることができます。

音声のタイミングを編集するには：

1. 音声ファイルを含む Captivate プロジェクトを開きます。
2. [音声] メニューから [タイミングを編集] を選択します。

[音声のタイミング編集] ダイアログボックスが表示されます。

Captivate プロジェクトに関連付けられているすべての音声ファイルが、波形で表示されます。スライド番号が波形の上に表示され、現在、音声ファイルがどのようにスライドへ分配されているかを、正確に見ることができます。

- 音声ファイルが複数のスライドにわたって割り当てられている場合、その割り当てを変更するには、赤いスライドマーカラインの上にあるスライドデバイダをクリックして、デバイダを左右に移動させると変更することができます。波形は静止したままですが、Captivate ムービー内で音声ファイルの再生開始場所を変更します。長い音声ファイルを1枚のスライドに割り当てるか、または複数のスライドにわたって再生するかを試す場合に、このオプションは特に便利です。
- 音声ファイルと聞くには、波形上の任意の場所をクリックし、[再生] をクリックします。選択した場所からムービー内にあるすべての音声の最後まで、音声再生されます。[停止] をクリックして、音声の再生を随時停止することができます。
- 波形の特定の領域を拡大または縮小するには、波形上をクリックして、ズームインまたはズームアウトをクリックします。別の方法では、波形をクリックし、マウスホイールを使ってズームインおよびズームアウトします。ダイアログボックスの右下角付近にある [拡大縮小] 情報欄には、現在見ている波形の拡大縮小率が表示されます。
- 音声を切り取りまたはコピーして貼り付けるには、波形上で音声ファイルを直接選択し、[切り取り] または [コピー] をクリックします。その後、波形上の別の場所をクリックし、[貼り付け] をクリックします。
- 音声を削除するには、波形上で音声ファイルを直接選択し、[削除] をクリックします。
- 音声ファイルに静寂期間を挿入することができます。音声ファイルの特定の場所に静寂期間を挿入するには、波形上で挿入したい場所を直接クリックします。[静寂を挿入] をクリックします。挿入する静寂期間の長さを入力した後、ポップアップメニューをクリックして静寂期間の場所を選択します。波形上でクリックした場所、音声開始時、または音声終了時のいずれかを選択します。
- 音声ファイルの音量を調節するには、[音量調節] をクリックします。スライダバーを使って音量を調節し、音声処理オプションを選択します。
- 記録デバイスおよび音質のオプションを設定するには、[オプション] をクリックします。
- 新しい音声ファイルを追加するには、波形上の任意の場所をクリックし、左下角にある [読み込み] を選択して [開く] をクリックします。音声ファイルが Captivate ムービー内で指定した場所に直接読み込まれます。

音声の詳細を表示する

すべての音声の詳細を Captivate の 1 つの便利なダイアログで表示できます。これは、1 つのムービー内にあるすべての音声ファイルの再生時間、サイズ、およびその他の属性を確認するのに便利です。

音声詳細を表示するには

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [音声] メニューから [音声の詳細] を選択します。
[高度な音声管理] ダイアログボックスが表示されます。
3. 音声情報のウィンドウにすべての音声詳細が表示されます。

オブジェクト : スライド番号を表示します。

音声 : 音声ファイルの有無 ([はい] または [いいえ]) を表示します。

長さ : 音声ファイルの長さを秒数で表示します。

フェードイン : フェードインエフェクトの有無 ([はい] または [いいえ]) を表示します。

フェードアウト : フェードアウトエフェクトの有無 ([はい] または [いいえ]) を表示します。

サイズ : 音声ファイルのサイズを表示します。

オリジナルファイル名 : 音声ファイルのオリジナルのファイル名を表示します。

音声サンプルレート (Hz) : このレートは、オリジナル波形がデジタル形式に変換される毎秒回数です。高サンプルレートは、音声のデジタル表現をより正確にします。CD の音声のサンプルレートは毎秒 44,100 サンプル (44 kHz) です。

ビットレート (kbps) : このレートは、特定の期間デジタルファイルが使用するビット数です。通常は、毎秒キロビットで表示されます。音声ファイルが高ビットレートでコード化されるほど、音質は高くなります。128 Kbps が一般に使用されているレートです。

4. 必要に応じて、スライドをクリックし次のオプションを選択します。

再生 : 選択したスライドの音声を再生します。

停止 : 再生中の音声を停止します。

削除 : 選択したスライドの音声を削除します。

書き出し : [フォルダの参照] ダイアログボックスが表示され、選択した音声ファイルをフォルダに書き出せます。

オブジェクトレベルの音声を表示 : ムービー内のオブジェクト (クリックボックス、キャプション、ボタン、ハイライトボックスなど) に関連する音声ファイルを表示します。

5. 完了したら [OK] をクリックします。

音声をプレビューする

フレームに音声を追加したら、その音声をプレビューしてテストできます。

音声をプレビューするには、2つの方法があります。まず、Captive ムービー全体をプレビューして、オブジェクトやスライド、バックグラウンドに関連付けられた音声を聞くことができます。この方法では、ムービー内で音声が始まる場所と終わるの場所を正確に確認でき、ムービーの閲覧者と同じように音声を再現できます。

次に、ムービーの内容にかかわらず、音声のみをプレビューする必要がある場合には、オブジェクトやスライド、バックグラウンドの音声プロパティを開いて、音声ファイルを再生します。

オブジェクトの音声をプレビューするには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声が関連付けられたオブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. 音声が関連付けられたオブジェクトをダブルクリックします。
4. [音声] タブをクリックします。
5. (オプション) [再生] をクリックして音声ファイルを聞きます。
6. 完了したら [OK] をクリックします。

スライドの音声をプレビューするには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声を含むスライドをダブルクリックします。
3. ツールバーの [音声] をクリックします。
4. [再生] ボタンをクリックして音声ファイルを聞きます。
5. 完了したら [OK] をクリックします。

バックグラウンドの音声をプレビューするには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [バックグラウンド音声] タブをクリックします。
4. [再生] をクリックして音声ファイルを聞きます。
5. 完了したら [OK] をクリックします。

音声を削除する

スライドから音声ファイルを削除するのは、簡単です。また、バックグラウンド音声として使用されている音声ファイルも削除できます。

スライドから音声を削除するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 次のいずれかの操作を実行します。
 - ストーリーボードビューで、スライドを選択してツールバーの [音声] をクリックします。
 - 編集ビューで、ツールバーの [音声] をクリックします。
3. [音声の削除] をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。
4. [はい] をクリックして、削除を確認します。
5. [OK] をクリックします。

バックグラウンド音声を削除するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [バックグラウンド音声] タブをクリックします。
4. [音声の削除] をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。
5. [はい] をクリックして、削除を確認します。
6. [OK] をクリックします。

第 6 章

画像およびアニメーションを追加する

さまざまな画像やアニメーションを Captivate プロジェクトに追加することができます。

画像を追加する

画像は、Captivate ムービーに新たな広がりを加えます。ロゴ、Splash スクリーン、ポインタ、背景、ボタンなどに使用して、画像をプロジェクトに組み込むさまざまな方法があります。

追加できる画像の形式は、JPG、JPEG、GIF、PNG、BMP、ICO、EMF、または WMF です。

ヒント：Captivate にはボタン、音声、およびアニメーション (SWF 形式) のギャラリーが含まれていて、プロジェクトに使用することができます。ギャラリーは、Captivate インストール時のデフォルトで、次の場所に保存されています。C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery

画像を追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビューで、画像を追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから [画像] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
4. 一覧から画像を選択するか、または新しい場所を参照して別の画像を選択し、[開く] をクリックします。
[新規画像] ダイアログボックスが表示されます。
5. 必要に応じて、プロパティとオプションを設定します。

[画像] タブ

透明度：画像ファイルの透明度を指定します。0 ～ 100% の範囲内で値を選択します。低い数値を選択すると非常に鮮やかな画像になり、高い数値を選択するとより淡い画像を表示します。

透明な背景：背景色を透明にして四角形以外の画像を定義できます。たとえば、丸いボタンを Captivate ムービーに追加できます。

プレビュー：画像を表示します。透明度の値などの変更を加えた場合、変更はプレビューに反映されます。

元のサイズにリセットする：画像を元のサイズに戻す場合には、このオプションを選択します。

画像の変更:[ファイルを開く] ダイアログボックスを開き、他の画像のある場所まで移動する場合に選択します。画像を選択して、[OK] をクリックします。新しい画像がスライドに追加されます。この機能は、同じ画像を異なる形式 (GIF、JPEG、または BMP) でテストし、どれが一番スライド上で見た目が良いかを判断する場合に便利です。

ムービー中のすべての画像ボックスにプロパティを適用する: このタブで加えた変更をムービー中のすべての画像に適用する場合に選択します。

[オプション] タブ

表示時間: 画像のタイミングを指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。表示時間を指定するオプションを選択した場合、画像を表示する時間を秒数で入力します。

表示開始までの時間 (秒): 指定した秒数の間スライドを表示した後に、画像を表示します。

エフェクト: ドロップダウンボックスで、画像のトランジションエフェクトを選択します。たとえば、[フェードインのみ] または [トランジションなし] を選択します。

イン: 画像が完全にフェードインするまでの時間を秒数で指定します。

アウト: 画像が完全にフェードアウトするまでの時間を秒数で指定します。

ムービー中のすべての画像ボックスにエフェクトを適用する: このタブで加えた変更をムービー中のすべての画像に適用する場合に選択します。

[音声] タブ

再生: クリックして音声ファイルを再生します。

停止: クリックして音声ファイルの再生を停止します。

削除: クリックして音声ファイルを画像から削除します。

編集: [音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、静寂の挿入および音量調節など、いろいろな方法で音声ファイルを編集します。

音声: 画像に関連する音声ファイルが存在する場合、そのファイル名を表示します。

新しく記録: クリックすると、[音声の記録] ダイアログボックスが開きます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

読み込み: [音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、音声ファイルを参照して読み込むことができます。

音声ライブラリ: クリックして、[音声ライブラリ] を開きます。[音声ライブラリ] は、現在開いている Captivate ムービーの一部になっている、すべての音声ファイルを一覧表示します。

フェードイン (秒): 音声がフルボリュームまでフェードインするときの秒数を指定します。

フェードアウト: 音声が静寂になるまでフェードアウトするときの秒数を指定します。

6. [OK] をクリックします。

ヒント: 透明化手法で透かし画像を作成できます。透かし画像を作成するには、画像を挿入し、透明度を 50% に設定します。会社ロゴを使用する場合に便利です。

ロールオーバー画像を追加する

ロールオーバー画像は独自の画像です。画像とロールオーバー領域 (" ホット " 領域) から構成されます。ロールオーバー画像は、ユーザーが実行時にホット領域の上にマウスを動かすと表示されます。ロールオーバー画像は、複雑なスライドや、説明が必要なボタンやツールバーが含まれているスライドに適しています。

従来の画像に使用するものと同じタイプのグラフィックをロールオーバー画像に使用できます。また、ロールオーバー画像のロールオーバー領域の位置、アウトライン、およびサイズもカスタマイズできます。

ロールオーバー画像を追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビューで、ロールオーバー画像を追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから [ロールオーバー画像] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
4. 一覧から画像を選択するか、または新しい場所を参照して別の画像を選択し、[開く]をクリックします。
[新規ロールオーバー画像] ダイアログボックスが表示されます。
5. 必要に応じて、プロパティとオプションを設定します。

[ロールオーバー画像] タブ

透明度：ロールオーバー画像ファイルの透明度を指定します。0 ～ 100% の範囲内で値を選択します。低い数値を選択すると鮮やかなロールオーバー画像になり、高い数値を選択すると淡いロールオーバー画像を表示します。

透明な背景：背景色を透明にして四角形以外のロールオーバー画像を定義できます。

プレビュー：ロールオーバー画像を表示します。透明度の値などの変更を加えた場合、変更はプレビューに反映されます。

元のサイズにリセットする：ロールオーバー画像を元のサイズに戻す場合には、このオプションを選択します。

画像の変更：[ファイルを開く] ダイアログボックスを開き、他の画像のある場所まで移動する場合に選択します。画像を選択して、[OK] をクリックします。新しい画像がスライドに追加されます。この機能は、同じ画像を異なる形式 (GIF、JPEG、または BMP) でテストし、どれが一番スライド上で見た目が良いかを判断する場合に便利です。

ムービー中のすべてのロールオーバー画像にプロパティを適用する：このタブで加えた変更をムービー中のすべてのロールオーバー画像に適用する場合に選択します。

[オプション] タブ

エフェクト：ドロップダウンボックスで、ロールオーバー画像のトランジションエフェクトを選択します。たとえば、[フェードインのみ] または [トランジションなし] を選択します。

イン：ロールオーバー画像が完全にフェードインするまでの時間を秒数で指定します。

アウト：ロールオーバー画像が完全にフェードアウトするまでの時間を秒数で指定します。

ムービー中のすべてのロールオーバー画像にエフェクトを適用する：このタブで加えた変更をムービー中のすべてのロールオーバー画像に適用する場合に選択します。

[音声] タブ

再生 : クリックして音声ファイルを再生します。

停止 : クリックして音声ファイルの再生を停止します。

削除 : クリックして音声ファイルをロールオーバー画像から削除します。

編集 : [音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、静寂の挿入および音量調節など、いろいろな方法で音声ファイルを編集します。

音声 : ロールオーバー画像に関連する音声ファイルが存在する場合、そのファイル名を表示します。

新しく記録 : クリックすると、[音声の記録] ダイアログボックスが開きます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

読み込み : [音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、音声ファイルを参照して読み込むことができます。

音声ライブラリ : クリックして、[音声ライブラリ] を開きます。[音声ライブラリ] は、現在開いている Captivate ムービーの一部になっている、すべての音声ファイルを一覧表示します。

フェードイン (秒) : 音声が入力ボリュームまでフェードインするときの秒数を指定します。

フェードアウト : 音声が無音になるまでフェードアウトするときの秒数を指定します。

6. [OK] をクリックします。

画像がスライドに追加されます。ロールオーバー領域がスライドに追加されます。

7. 画像を目的の位置までドラッグします。

8. 必要に応じてロールオーバー領域を調整します。

画像をスライドとして挿入する

既存の画像 (JPG、JPEG、GIF、PNG、BMP、ICO、EMF、または WMF) を、Captivate ムービーにスライドとして挿入することができます。画像スライドはさまざまなムービーで利用できますが、特に、製品や Web サイトの概要で利用すると便利です。また、画像スライドは、ムービーの導入スライドとして企業ロゴなどの画像を使用する場合にも便利です。

画像をスライドとして挿入するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 新しいスライドを配置する場所の、すぐ前のスライドを選択します。たとえば、ムービーのスライド 6 として画像スライドを挿入する場合は、現在のスライド 5 のスライドをクリックします。
3. [挿入] メニューから [画像スライド] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
4. 一覧から画像を選択するか、または新しい場所を参照して別の画像を選択し、[開く]をクリックします。
5. (オプション) トリミングまたはサイズ変更をするかどうかを質問される場合があります。
 - トリミング : 画像を中央に配置し、キャプチャ サイズ領域に合わない画像の周囲を切り取ります。
 - サイズ変更 : 画像のサイズをキャプチャサイズ領域に合わせて変更して、変更後のサイズでの画質を向上させます。

画像スライドがムービーに追加されます。

ヒント: 複数の画像スライドを同時に作成するには、[ファイルを開く] ダイアログボックスで Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数の画像を選択します。

透かし画像を作成する

画像の透明度を設定して、透かし画像を作成できます。

透かし画像を作成するには:

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビューで、透かし画像を追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから [画像] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
4. 画像を選択するか、または新しい場所を参照して別の画像を選択し、[開く] をクリックします。
[新規画像] ダイアログボックスが表示されます。
5. [透明度] テキストボックスに 50% (またはそれ以上) を入力して透明度を設定します。高い数字は淡い画像になり、低い数字はより鮮やかな画像になります。
6. 完了したら [OK] をクリックします。
画像がスライドに追加されます。
7. 必要に応じて、画像を配置します。

JPEG 画質を変更する

ムービー内の JPEG 画質は、Captivate が自動的に設定します。ムービーで使用する画像によっては、この設定を調整できます。パーセンテージが高いほど画質は高くなりますが、ファイルサイズも大きくなります。

JPEG 画質を変更するには:

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [環境設定] タブをクリックします。
4. [JPEG 画質] テキストボックスに、新しい値を入力します。
5. [OK] をクリックします。

画像を削除する

スライドは、随時削除することができます。

画像を削除するには:

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビューから、削除する画像を含むスライドをダブルクリックします。
3. 画像を右クリックして、[削除] を選択します。
4. [確認] ダイアログボックスが表示されたら、[はい] をクリックします。

Captivate のアニメーションについて

Captivate では、Captivate SWF ファイルにアニメーションを追加することができます。効果的で、ユーザーの目を引くモーションエレメントを取り入れます。スライドに既存のアニメーションファイルを追加する、または Captivate のテキストアニメーション機能を使用します。

- SWF、AVI、または GIF 形式の既存のアニメーションファイルがある場合は、スライドに直接追加することができます。アニメーションファイルを含むスライドは、オブジェクトを含む他のスライドと同様に編集することができます。

ヒント : Captivate にはボタン、音声、およびアニメーション (SWF 形式) のギャラリーが含まれていて、プロジェクトに使用することができます。ギャラリーは、Captivate インストール時のデフォルトで、次の場所に保存されています。C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery

- テキストアニメーションを追加するには、Captivate が用意した興味深いエフェクトの中から選択できます。さまざまなフォント、色、およびエフェクトを試して、最適な外観に近づけます。テキストアニメーションを含むスライドは、テキストと動きを兼ね備え、音声の追加を選択した場合は音声も加わり、ムービーのすばらしいオープンスライドになります。
- 既存の AVI ソフトウェアチュートリアルがある場合は、Captivate にファイルを読み込み、新しいムービーを作成することもできます。AVI チュートリアルの各スライドは、Captivate スライドに変換されます。新しいムービーが開いた後、オブジェクトの追加、タイミングの変更、ムービーのパブリッシュなど、通常の Captivate タスクを操作することができます。

メモ : Captivate では、デバイスフォントは表示されません。デバイスフォントで作成したテキストが、読み込んだアニメーションファイルに含まれていた場合、Captivate でアニメーションは表示されますが、テキストは表示されません。Captivate に読み込むアニメーションのテキストには、埋め込みフォントを使用します。

アニメーションを追加する

SWF、AVI、または GIF 形式のアニメーションファイルが既にある場合は、Captivate スライドに直接追加することができます。他のコンテンツを追加するのと同様に、アニメーションファイルをスライドに追加できます。他のスライドと同様に、アニメーションファイルを含んだスライドを編集することもできます。

ヒント : Captivate にはボタン、音声、およびアニメーション (SWF 形式) のギャラリーが含まれていて、プロジェクトに使用することができます。ギャラリーは、Captivate インストール時のデフォルトで、次の場所に保存されています。C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery

スライドにアニメーションを追加するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビュー 内で、アニメーションを追加したいスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから [アニメーション] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
4. スライドに追加するアニメーションファイル (SWF ファイル拡張子) を参照し、そのファイルを選択して [開く] をクリックします。
[新規アニメーション] ダイアログボックスが表示されます。

5. 必要に応じて、プロパティとオプションを設定します。

[アニメーション] タブ

統計: バージョン、幅、高さ、およびファイルを構成するスライド数など、選択したアニメーションファイルに関する主要な情報を表示します。アニメーションファイルの長さも表示されます。

透明度: アニメーションファイルの透明度を指定します。0 ~ 100% の範囲内で値を選択します。低い数値を選択すると鮮やかな画像になり、高い数値を選択すると淡い画像を表示します。

アニメーションの変更: [ファイルを開く] ダイアログボックスを開き、他のアニメーションファイルがある場所まで移動する場合に選択します。アニメーションファイルを選択して、[OK] をクリックします。新しいアニメーションがスライドに追加されます。この機能は、同じアニメーション画像を異なる形式 (SWF、GIF、または AVI) でテストし、どれが一番スライド上で見た目が良いかを判断する場合に便利です。

[オプション] タブ

表示時間: アニメーションのタイミングを指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。表示時間を指定するオプションを選択した場合、アニメーションを表示する時間を秒数で入力します。

表示開始までの時間 (秒): 数字を入力するか、または矢印を使用して、アニメーション表示開始までの時間を秒数で設定します。

ムービーと同期化: タイムラインのスピードにアニメーションファイル再生のスピードを同期化する場合に、このオプションを選択します。アニメーションファイルがスムーズに再生されない場合は、このオプションを選択および選択解除をして、どちらがより良い結果になるかを確認します。

ループ: ムービーの再生時、アニメーションファイルを繰り返し再生する場合は、このオプションを選択します。

エフェクト: ポップアップメニューで、トランジションエフェクトを選択します。たとえば、[フェードインのみ] または [トランジションなし] を選択します。

イン: アニメーションが完全にフェードインするまでの時間を秒数で指定します。

アウト: アニメーションが完全にフェードアウトするまでの時間を秒数で指定します。

ムービー中のすべてのアニメーションにエフェクトを適用する: このタブで加えた変更をムービー中のすべてのアニメーションに適用する場合に選択します。

[音声] タブ

再生: クリックして音声ファイルを再生します。

停止: クリックして音声ファイルの再生を停止します。

削除: クリックして音声ファイルをアニメーションから削除します。

編集: [音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、静寂の挿入および音量調節など、いろいろな方法で音声ファイルを編集します。

音声: アニメーションに関連する音声ファイルが存在する場合、そのファイル名を表示します。

新しく記録: クリックすると、[音声の記録] ダイアログボックスが開きます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

読み込み: [音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、音声ファイルを参照して読み込むことができます。

音声ライブラリ: クリックして、[音声ライブラリ]を開きます。[音声ライブラリ]は、現在開いている Captivate ムービーの一部になっている、すべての音声ファイルを一覧表示します。

フェードイン (秒): 音声フルボリュームまでフェードインするときの秒数を指定します。

フェードアウト: 音声静寂になるまでフェードアウトするときの秒数を指定します。

6. 完了したら [OK] をクリックします。

アニメーションがスライドに追加されます。

メモ: AVI ソフトウェアチュートリアルを読み込んで、新しい Captivate ムービーを作成することもできます。

メモ: Captivate では、デバイスフォントは表示されません。デバイスフォントで作成したテキストが、読み込んだアニメーションファイルに含まれていた場合、Captivate でアニメーションは表示されますが、テキストは表示されません。Captivate に読み込むアニメーションのテキストには、埋め込みフォントを使用します。

テキストアニメーションを追加する

テキストアニメーションは、スペシャルエフェクトを適用したテキストです。Captivate では、さまざまなテキストアニメーションエフェクトを用意しており、実際に試していただけます。たとえば、ムービーのオープニングスライドには、人目を引くようにテキストをフライインまたはフェードインさせることができます。

テキストアニメーションを含んだスライドは、Captivate の 2 つのビュー、ストーリーボードビューと編集ビュー、および編集ビューのオプションであるフィルムストリップに表示されます。

テキストアニメーションを追加するには:

1. Captivate ムービーを開きます。
2. テキストアニメーションを追加するスライドを開きます。
3. [挿入] メニューから [テキストアニメーション] を選択します。
[新規テキストアニメーション] ダイアログボックスが表示されます。
4. [テキストアニメーション] タブをクリックします。
5. [テキスト] ボックスに、アニメーション化するテキストを入力します。
プレビューウィンドウにテキストが表示されます。
6. [エフェクト] ポップアップメニューを選択して、さまざまなアニメーションエフェクトから選択します。さまざまなエフェクトを選択して、左のプレビューウィンドウに表示します。
7. フォント、透明度、および遅延オプションを設定します。

フォントの変更: フォント名、スタイル、サイズ、エフェクト、および色など、フォントオプションをクリックして指定します。

透明度: テキストアニメーションの透明度を指定します。非常に淡いテキストアニメーションにするには 90 などの高い値を選択し、濃いテキストアニメーションにするには 10 などの低い値を選択します。

遅延 (スライド): Flash フレームで、テキストアニメーションの文字が表示される間隔を時間で指定します。0 または 1 などの低い数字を設定すると、すべての文字は次から次へと素早く表示されます。30 または 40 などの高い数字を設定すると、文字は別々に表示されます。さまざまな数字を試して、プレビューウィンドウに表示されるテキストを確認し、適切な数字を選択します。

メモ：[遅延] で指定した数字は、テキストアニメーションの表示時間の絶対量は変更しません。たとえば、[オプション] タブでテキストアニメーションエフェクトの表示を 8 秒に指定した場合、遅延オプションで 1 または 30 を指定しても、8 秒のスライド表示絶対時間には変更がありません。

8. [オプション] タブをクリックします。このタブでは、テキストアニメーションのタイミングおよびトランジションを設定します。次のオプションを設定します。

表示時間：テキストアニメーションのタイミングを指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。表示時間を指定するオプションを選択した場合、テキストアニメーションを表示する時間を秒数で入力します。

表示開始までの時間 (秒)：スライド表示後、指定した秒数が経った後にテキストアニメーションを表示します。

ループ：ムービーの再生中、アニメーションファイルを繰り返し再生する場合は、このオプションを選択します。

エフェクト：ドロップダウンボックスを使用して、フェードインおよびフェードアウトなど、アニメーションのトランジションエフェクトを選択します。

イン：アニメーションが完全にフェードインするまでの時間を秒数で指定します。

アウト：アニメーションが完全にフェードアウトするまでの時間を秒数で指定します。

ムービー中のすべてのテキストアニメーションにエフェクトを適用する：このタブで加えた変更を、ムービー中のすべてのテキストアニメーションに適用する場合に選択します。

9. (オプション) [音声] タブをクリックして、テキストアニメーションの音声オプションを設定します。

再生：クリックして音声ファイルを再生します。

停止：クリックして音声ファイルの再生を停止します。

削除：クリックして音声ファイルをテキストアニメーションから削除します。

編集：[音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、静寂の挿入および音量調節など、いろいろな方法で音声ファイルを編集します。

音声：テキストアニメーションに関連する音声ファイルが存在する場合、そのファイル名を表示します。

新しく記録：クリックすると、[音声の記録] ダイアログボックスが開きます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

読み込み：[音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、音声ファイルを参照して読み込むことができます。

音声ライブラリ：クリックして、[音声ライブラリ] を開きます。[音声ライブラリ] は、現在開いている Captivate ムービーの一部になっている、すべての音声ファイルを一覧表示します。

フェードイン (秒)：音声がフルボリュームまでフェードインするときの秒数を指定します。

フェードアウト：音声が静寂になるまでフェードアウトするときの秒数を指定します。

10. [OK] をクリックします。

アニメーションスライドを追加する

SWF、AVI、またはアニメーション化された GIF ファイルがある場合、これらのファイルを新しいスライドとして Captivate ムービーに追加することができます。これにより、すでに作成したコンテンツを使いながら、素早く簡単にムービーを情報豊かな内容にすることができます。

メモ： アニメーションをスライドとして追加することは、大きいアニメーションファイルに最適です。

アニメーションスライドを追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [挿入] メニューから [アニメーション] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
3. 挿入するアニメーションファイル (SWF、AVI、またはアニメーション化された GIF) がある場所に移動し、[開く] をクリックします。アニメーションスライドが生成され、ムービーに追加されます。

メモ：正しいフレームレートに設定することは重要です。読み込まれたすべてのアニメーションファイルは、[ムービー環境設定] ダイアログボックスで選択されたレートで再生され、ファイルが読み込まれる以前に設定されたレートには関係しません。ほとんどの場合に適する、1秒あたり 30 Flash フレームにデフォルトで設定されています。Captivate SWF をフレームレートが 30 以外の別の SWF ファイルに埋め込むときは、レートを変更する必要がある場合もあります。

メモ：アニメーションスライドを作成するとき、ムービーでのスライド表示時間は、自動的にアニメーションファイル自体の長さがデフォルトになります。たとえば、新しく作成するアニメーションスライドに使用するアニメーションファイルの長さが 1.2 秒の場合、アニメーションスライドの表示時間は 1.2 秒になります。スライドの表示時間を変更するには、編集ビューでスライドを開いて [スライド] メニューから [プロパティ] を選択し、[表示時間] 欄に新しい秒数を入力します。または、[タイムライン] を使用してスライドの表示時間を変更します。

第7章

ボックスおよびボタンを追加する

Captivate では、さまざまなボタンおよびボックスをスライドに追加することができます。いくつかのタイプはインタラクティブであり、学習過程でユーザーが実際に参加することを可能にします。以下のタイプのボタンとボックスを追加することができます。

ハイライトボックス

これらのボックスはスライド内の領域をハイライトします。注意を払う場所およびデータを入力する箇所をユーザーに示し、または単に強調する場合などにハイライトボックスを使用します。ハイライトボックスのサイズ、色、透明度、および表示オプションを設定します。

クリックボックス

これらのクリックできるボックスは、インタラクティブなボックスです。クリックボックスを使用すると、たとえばメニューやボタンのクリックをユーザーに指示することによって、アプリケーションの機能をデモンストレーションできます。ユーザーが正しくクリックした場合に起こる動作を定義します。たとえば、次のスライドに進む、URL を開く、または電子メールを送るなどの動作を指定できます。また、クリックボックスのサイズや位置を変更することもできます。

テキスト入力ボックス

このボックスにはユーザーがテキストを入力します。ユーザーに適切な場所にテキストを入力させることにより、アプリケーションおよび Web サイトの機能を実演することができます。また、テキスト入力ボックスを使って、簡単なクイズの出題ができます。

ボタン

ボタンを使用することにより、Captivate プロジェクトのインタラクティビティを向上します。ボタンの外観や機能を大幅にコントロールすることができます。また、ボタンのサイズ変更およびスライド上での位置変更をすることもできます。

ハイライトボックスを追加する

ハイライトボックスを追加して、スライド内の領域にスポットライトをあてることができます。紙面上で使用するマーカーペンと同様に、オンラインではハイライトボックスを使用します。注意を払う個所およびデータを入力する場所をユーザーに示す、または単に強調する場合に、ハイライトボックスを使用します。ハイライトボックスのサイズ、色、透明度、および表示オプションを制御できます。

ハイライトボックスを追加するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. ハイライトボックスを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから [ハイライトボックス] を選択します。

[新規ハイライトボックス] ダイアログボックスが表示されます。

4. [ハイライトボックス] タブで、オプションを設定します。

枠線の色：ハイライトボックスの枠線の色です。色を変更するには、カラーボックスをクリックします。

塗りつぶしの色：ハイライト ボックスの塗りつぶしの色です。色を変更するには、カラーボックスをクリックします。

枠幅：ハイライトボックスの枠線の幅です。

透明度：塗りつぶし色の透明度の度合いです。0 ～ 100% の範囲から値を選択します。10% の透明度はよりベタ塗りで、90% の透明度はより透明です。

プレビュー：上の [外観] で選択した設定が、ここに表示されます。

ムービー中のすべてのハイライトボックスにプロパティを適用する：このタブで加えた変更を、ムービー中のすべてのハイライトボックスに適用する場合に選択します。

5. [オプション] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

表示時間：ハイライトボックスのタイミングを指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。表示時間を指定するオプションを選択した場合、ハイライトボックスを表示する時間を秒数で入力します。

表示開始までの時間 (秒)：スライドの表示が開始してから、指定した秒数が経過した後、ハイライトボックスを表示します。

エフェクト：ハイライトボックスのトランジションエフェクトを選択するには、ポップアップメニューを使用します。[フェードイン]、[フェードアウト]、または [トランジションなし] のいずれかを選択します。[フェードイン] または [フェードアウト] を選択するときは、矢印を使用してエフェクトの時間を秒数で設定します。

ムービー中のすべてのハイライトボックスにエフェクトを適用する：このタブで加えた変更を、ムービー中のすべてのハイライトボックスに適用する場合に選択します。

6. ハイライトボックスに音声を追加する場合は、[音声] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

再生：クリックして音声ファイルを再生します。

停止：クリックして音声ファイルの再生を停止します。

削除：音声ファイルをハイライトボックスから削除します。

編集：[音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、静寂の挿入および音量調節など、いろいろな方法で音声ファイルを編集します。

音声 : ハイライトボックスに関連する音声ファイルが存在する場合、そのファイル名を表示します。

新しく記録 : クリックすると、[音声の記録] ダイアログボックスが開きます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

読み込み : [音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、音声ファイルを参照して読み込むことができます。

音声ライブラリ : クリックすると、現在開いている **Captivate** プロジェクトのすべての音声ファイルを一覧できる [音声ライブラリ] が開きます。

フェードイン (秒) : 音声が入力ボリュームまでフェードインするときの秒数を指定します。

フェードアウト : 音声が無音になるまでフェードアウトするときの秒数を指定します。

7. [OK] をクリックします。

ハイライトボックスがスライド上に表示されます。

8. 目的に合わせて、ハイライトボックスのサイズを設定し、ドラッグして位置を変更します。

クリックボックスを追加する

Captivate では、クリックボックスを使用してインタラクティブなムービーを作成できます。クリックボックスとは、サイズや位置の変更が可能なクリックできるボックスのことです。たとえば、クリックボックスを使用して、メニューまたはボタンをクリックするようユーザーに指示し、アプリケーションの機能を実演することができます。また、ユーザーが正しくクリックした場合に起こる動作を定義することも可能です。たとえば、次のスライドに進む、URL を開く、電子メールを送るなどの動作を指定できます。

クリックボックスを追加するには :

1. Captivate プロジェクトを開きます。

2. クリックボックスを追加するスライドをダブルクリックします。

3. [挿入] メニューから、[クリックボックス] を選択します。

[新規クリックボックス] ダイアログボックスが表示されます。

4. [クリックボックス] タブをクリックします。

このタブでは、ムービーのユーザーインタラクションを定義します。オプションは基本的な 2 つのカテゴリに分かれます。クリックボックスの内側をクリックした場合と外側をクリックした場合の 2 つの対応方法に分類されます。

ユーザーがクリックボックスの内側をクリックした場合

成功の場合 : ボックスの領域内を、ユーザーが正しくクリックしたときに起こる動作を指定します。
[続行]、[前のスライドに戻る]、[次のスライドに進む]、[スライドにジャンプする]、[URL またはファイルを開く]、[他のムービーを開く]、[電子メールを送る]、[JavaScript を実行する]、または [アクションなし] から選択することができます。

続行 : このボックスは、上記でどの操作を選択したかによって、移動先情報を入力できるようになります。

ユーザーがクリックボックスの外側をクリックした場合

ユーザーに許可する試行回数 : 矢印をクリックし、他の動作が起こる前にユーザーに許可する試行回数を選択します。デフォルトでは、試行回数無制限が選択されています。試行制限回数を入力するには、最初に [試行回数無制限] の選択を解除する必要があります。

試行回数無制限 : このオプションを選択すると、ユーザーは無制限に試行することができます。

最後の試行後:最後の試行後、どのような動作を望むかを指定します。[続行]、[前のスライドに戻る]、[次のスライドに進む]、[スライドにジャンプする]、[URL またはファイルを開く]、[他のムービーを開く]、[電子メールを送る]、[JavaScript を実行する]、または [アクションなし] から選択することができます。

続行:このボックスは、上記でどの操作を選択したかによって、移動先情報を入力できるようになります。

メモ: [URL またはファイルを開く] または [他のムービーを開く] を選択した場合は、ポップアップメニューをクリックし、URL、ファイル、またはムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。[新規]、[親]、または [トップ] を選択した場合、URL、ファイル、またはムービーを開いたとき、元のムービーの [再生を続行する] オプションがあります。

メモ: [電子メールを送る] を選択した場合は、電子メールの準備から送信するまでの間、ムービーの [再生を続行する] オプションがあります。

メモ: [URL またはファイルを開く] オプションを選択して URL を指定した場合、Captivate でスライドを編集するときに URL が表示されますが、ユーザーには見えません。URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをスライドに追加し、その画像上にクリックボックスを配置します。

ショートカットキーを設定する

ユーザーが解答を送信するために使用するキーの組み合わせを選択するには、[キーの選択] をクリックします。現在のショートカットはボタンの左側に表示されます。

メモ: Captivate ムービーをブラウザで表示する場合、ブラウザでよく使用するショートカットキーを避けて設定します。たとえば、F1 はヘルプを表示するショートカットキーによく使用されています。

5. [オプション] タブをクリックします。このタブでは、クリックボックスの外観をデザインすることができます。次のオプションを設定します。

表示時間:クリックボックスのタイミングを指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。表示時間を指定するオプションを選択した場合は、クリックボックスの表示時間を秒数で入力することができます。

表示開始までの時間 (秒): スライドの表示が開始してから、指定した秒数が経過した後、クリックボックスを表示します。

成功のキャプション:「おめでとう!」など、成功を知らせるキャプションを表示するオプションです。

失敗のキャプション:「残念でした。もう一度試してください。」など、失敗を知らせるキャプションを表示するオプションです。

ヒントのキャプション:ヒントのキャプションを表示するオプションです。ヒントのキャプションは、ユーザーがマウスをクリックボックス上に移動したときに表示されます。

ヒット領域上でハンドカーソルを表示:ユーザーがクリックボックス上にマウスを移動させたときに、ハンドカーソルを表示する場合はこのオプションを選択します。

クリック時に音声を停止:ユーザーがクリック ボックスをクリックしたときに音声を停止するためのオプションです。このオプションはスライドの音声を停止しますが、バックグラウンド音声は停止しません。また、マウスでクリックボックスをクリックした場合のみ音声を停止し、ショートカットキーでは音声を停止しません。

ユーザーがクリックするまでムービーを一時停止:ユーザーがクリックボックスをクリックするまでプロジェクトを停止するためのオプションです。

ダブルマウスクリック:ユーザーにクリックボックスのダブルクリックを許可するオプションです。

成功または失敗キャプションのために一時停止する: 成功または失敗キャプション (キャプションの詳細は上記参照) を表示したとき、ムービーを一時停止して、ユーザーにキャプションを読む時間を与えるオプションです。

6. クリックボックスに音声を追加する場合は、[音声] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

再生: クリックして音声ファイルを再生します。

停止: クリックして音声ファイルの再生を停止します。

削除: クリックして音声ファイルをクリックボックスから削除します。

編集: [音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、静寂の挿入および音量調節など、いろいろな方法で音声ファイルを編集します。

音声: クリックボックスに関連する音声ファイルが存在する場合、そのファイル名を表示します。

新しく記録: クリックすると、[音声の記録] ダイアログボックスが開きます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

読み込み: [音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、音声ファイルを参照して読み込むことができます。

音声ライブラリ: クリックすると、現在開いている Captivate プロジェクトのすべての音声ファイルを一覧できる [音声ライブラリ] が開きます。

フェードイン (秒): 音声フルボリュームまでフェードインするときの秒数を指定します。

フェードアウト: 音声静寂になるまでフェードアウトするときの秒数を指定します。

7. クリックボックスのスコアを保持する場合、または学習管理システムとスコアを連携させる場合は、[報告] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

クイズに含める: このオプションを選択した場合、クイズの結果がクイズ終了時に表示されます。また、このオプションを選択すると、[報告] タブにある他のオプションも利用できるようになります。

解答を報告する: クイズのスコアを保持するオプションです。

目的 ID: これは、オプションのパラメータです。クリックボックスを使った質問が、学習管理システムで設定した目的に関連している場合は、ここにその目的を入力します。

インタラクション ID: Captivate ムービーから追跡情報を学習管理システムに送信するには、その学習管理システムで指定されているインタラクション ID を使用する必要があります。

重要度: クリックボックスによる質問の相対的な重要度を指定します。任意の数値を入力できますが、小数は使用できません。すべての質問に同じ値 ("1" など) を設定すると、同じスコアが記録されます。質問ごとに異なる値を設定する場合、重要度はそれぞれと相対関係があることに注意します。つまり、重要度が "2" の質問の値は、重要度が "1" の質問の 2 倍になります。この機能を使用すると、初歩的な質問には小さな値を指定し、難しい質問には大きな値を指定できます。

8. [OK] をクリックします。

クリックボックスがスライド上に表示されます。

9. 目的に合わせて、クリックボックスのサイズを設定し、ドラッグして位置を変更します。
10. 成功、失敗、またはヒントキャプションのオプションを選択した場合は、テキストボックスをダブルクリックしてテキストを編集します。

テキスト入力ボックスを追加する

テキスト入力ボックスを使用して、Captivate プロジェクトのインタラクションを素早く簡単に向上させることができます。たとえば、テキスト入力ボックスを使って、クイズの出題ができます。

テキスト入力ボックスを追加するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. テキスト入力ボックスを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから、[テキスト入力ボックス] を選択します。
[テキスト入力ボックス] ダイアログボックスが表示されます。
4. [テキスト入力ボックス] タブをクリックします。このタブでは、ムービーのユーザーインタラクションを定義します。オプションは基本的な 2 つのカテゴリに分かれます。正しいテキストを入力した場合の対応方法と間違えた入力をした場合の対応方法の 2 つに分類されます。

ユーザーがテキストを正しく入力した場合

正しいエントリ：正しいテキストをここに入力します。正解は複数でもかまいません。

フォント：[フォント] ダイアログボックスを開き、テキストのフォント、フォントスタイル、フォントサイズ、およびフォントエフェクトを設定します。

追加：他の正解エントリを入力するために、新しい入力ボックスを追加して開きます。

削除：一覧から選択したエントリを削除します。

成功の場合：テキスト入力ボックスに、ユーザーが正しいテキストを入力した場合の動作を指定します。[続行]、[前のスライドに戻る]、[次のスライドに進む]、[スライドにジャンプする]、[URL またはファイルを開く]、[他のムービーを開く]、[電子メールを送る]、[JavaScript を実行する]、または [アクションなし] から選択することができます。

続行：このボックスは、上記でどの操作を選択したかによって、移動先情報を入力できるようになります。

ユーザーがテキストを間違えて入力した場合

ユーザーに許可する試行回数：矢印をクリックし、他の動作が起こる前にユーザーに許可する試行回数を選択します。デフォルトでは、試行回数無制限が選択されています。試行制限回数を入力するには、最初に [試行回数無制限] の選択を解除する必要があります。

試行回数無制限：このオプションを選択すると、ユーザーは無制限に試行することができます。

最後の試行後：最後の試行後、どのような動作を望むかを指定します。[続行]、[前のスライドに戻る]、[次のスライドに進む]、[スライドにジャンプする]、[URL またはファイルを開く]、[他のムービーを開く]、[電子メールを送る]、[JavaScript を実行する]、または [アクションなし] から選択することができます。

続行：このボックスは、上記でどの操作を選択したかによって、移動先情報を入力できるようになります。

メモ：[URL またはファイルを開く] または [他のムービーを開く] を選択した場合は、ポップアップメニューをクリックし、URL、ファイル、またはムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。[新規]、[親]、または [トップ] を選択した場合、URL、ファイル、またはムービーを開いたとき、元のムービーの [再生を続行する] オプションがあります。

メモ：[電子メールを送る] を選択した場合は、電子メールの準備から送信するまでの間、ムービーの [再生を続行する] オプションがあります。

メモ：[URL またはファイルを開く] オプションを選択して URL を指定した場合、Captivate でスライドを編集するときに URL が表示されますが、ユーザーには見えません。URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをスライドに追加し、その画像上にクリックボックスを配置します。

ショートカットキーを設定する

ユーザーが解答を送信するために使用するキーの組み合わせを選択するには、[キーの選択] をクリックします。現在のショートカットはボタンの左側に表示されます。

メモ：Captivate ムービーをブラウザで表示する場合、ブラウザでよく使用するショートカットキーを避けて設定します。たとえば、F1 はヘルプを表示するショートカットキーによく使用されています。

5. [オプション] タブを選択します。このタブでは、テキスト入力ボックスをさまざまな方法でカスタマイズすることができます。次のオプションを設定します。

表示時間：テキスト入力ボックスのタイミングを指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。表示時間を指定するオプションを選択した場合、テキスト入力ボックスを表示する時間を秒数で入力します。

表示開始までの時間 (秒)：スライドの表示が開始してから、指定した秒数が経過した後、テキスト入力ボックスを表示します。

指定した秒数後にムービーを一時停止：ユーザーがテキスト入力ボックスにテキストを入力するために、何秒後にムービーを一時停止するかを指定します。たとえば、このオプションを 5 秒に設定すると、テキスト入力ボックスが表示されてから 5 秒後にムービーを一時停止して、ユーザーがテキストを入力するまで待ちます。

エフェクト：ポップアップメニューをクリックして テキスト入力ボックスのトランジションエフェクトを選択します。[フェードイン]、[フェードアウト]、または [トランジションなし] のいずれかを選択します。

ムービー中のすべてのテキスト入力ボックスにエフェクトを適用する：このタブで加えた変更をプロジェクト中のすべてのテキスト入力ボックスに適用する場合に選択します。

透明度：テキスト入力ボックスの透明度です。0 ～ 100% の範囲から値を選択します。10% の透明度はよりベタ塗り、90% の透明度はより透明です。

メモ：テキスト入力ボックスの透明度エフェクトは編集ビューでは表示されません。透明度エフェクトをテストするには、F4 キーを押してスライドをプレビューします。

成功のキャプション：「おめでとう！」など、成功を知らせるキャプションを表示するオプションです。

失敗のキャプション：「残念でした。もう一度試してください。」など、失敗を知らせるキャプションを表示するオプションです。

ヒントのキャプション：ヒントのキャプションを表示するオプションです。ヒントのキャプションは、ユーザーがマウスをテキスト入力ボックス上に移動したときに表示されます。

成功または失敗キャプションのために一時停止する：成功または失敗キャプション (キャプションの詳細は上記参照) を表示したとき、ムービーを一時停止して、ユーザーにキャプションを読む時間を与えるオプションです。

ボタンを表示：「入力」または「完了」などのテキストがあるボタンを表示する場合に選択します。ボタンにテキストを追加または編集するには、スライドを編集ビューで開き、ボタンをダブルクリックして [ボタン] ダイアログボックスを開きます。

テキストボックス枠を表示する：テキスト入力ボックスの枠をユーザーに見えるようにするオプションです。このオプションを選択しない場合、テキストのみが表示されます。

パスワード:パスワードフィールドを表示する場合に選択します。

大文字と小文字を区別:テキスト入力ボックスで大文字と小文字を区別する場合に選択します。ユーザーは小文字と大文字を正しく組み合わせて入力する必要があります。

6. テキスト入力ボックスに音声を追加する場合は、[音声] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

再生:クリックして音声ファイルを再生します。

停止:クリックして音声ファイルの再生を停止します。

削除:クリックして音声ファイルをテキスト入力ボックスから削除します。

編集:[音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、静寂の挿入および音量調節など、いろいろな方法で音声ファイルを編集します。

音声:テキスト入力ボックスに関連する音声ファイルが存在する場合、そのファイル名を表示します。

新しく記録:クリックすると、[音声の記録] ダイアログボックスが開きます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

読み込み:[音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、音声ファイルを参照して読み込むことができます。

音声ライブラリ:クリックすると、現在開いている **Captivate** プロジェクトのすべての音声ファイルを一覧できる [音声ライブラリ] が開きます。

フェードイン (秒): 音声フルボリュームまでフェードインするときの秒数を指定します。

フェードアウト: 音声静寂になるまでフェードアウトするときの秒数を指定します。

7. テキスト入力ボックスのスコアを保持する場合、または学習管理システムとスコアを連携させる場合は、[報告] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

クイズに含める: このオプションを選択した場合、クイズの結果がクイズ終了時に表示されます。また、このオプションを選択すると、[報告] タブにある他のオプションも利用できるようになります。

解答を報告する: クイズのスコアを保持するオプションです。

目的 ID: これは、オプションのパラメータです。テキスト入力ボックスを使った質問が、学習管理システムで設定した目的に関連している場合、ここにその目的を入力します。

インタラクション ID: **Captivate** ムービーから追跡情報を学習管理システムに送信するには、その学習管理システムで指定されているインタラクション ID を使用する必要があります。

重要度: テキスト入力ボックスによる質問の相対的な重要度を指定します。任意の数値を入力できますが、小数は使用できません。すべての質問に同じ値 ("1" など) を設定すると、同じスコアが記録されます。質問ごとに異なる値を設定する場合、重要度はそれぞれと相対関係があることに注意します。つまり、重要度が "2" の質問の値は、重要度が "1" の質問の 2 倍になります。この機能を使用すると、初歩的な質問には小さな値を指定し、難しい質問には大きな値を指定できます。

8. [OK] をクリックします。

スライドにテキスト入力ボックスが表示されます。

9. 目的に合わせて、テキスト入力ボックスのサイズを設定し、ドラッグして位置を変更します。

10. 成功、失敗、またはヒントキャプションのオプションを選択した場合は、テキストボックスをダブルクリックしてテキストを編集します。

ボタンを追加する

クリックできるボタンを追加することにより、Captivate プロジェクトのインタラクティブ性を向上することができます。ボタンを手早く追加するには、デフォルトボタンスタイルである白一色の四角形を使用するか、または既存のカスタムボタン画像を読み込みます。ボタンのサイズ変更およびスライド上での位置変更をすることができます。また、ユーザーがボタンをクリックした後の動作、たとえば、次のスライドに進む、URL を開く、電子メールを送るなどを定義することもできます。

ボタンを追加するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. ボタンを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから [ボタン] を選択します。
[ボタン] ダイアログボックスが表示されます。
4. [ボタン] タブをクリックします。

このタブでは、Captivate ムービーでのユーザーインタラクションを定義します。オプションは基本的な 2 つのカテゴリに分かれます。ボタンをクリックした場合の対応方法とボタン以外の領域をクリックした場合の対応方法に分かれます。

ユーザーがボタンをクリックした場合

成功の場合：ユーザーがボタンを正しくクリックした場合に起こる動作をします。[続行]、[前のスライドに戻る]、[次のスライドに進む]、[スライドにジャンプする]、[URL またはファイルを開く]、[他のムービーを開く]、[電子メールを送る]、[JavaScript を実行する]、または [アクションなし] から選択することができます。

続行：このボックスは、上記でどの操作を選択したかによって、移動先情報を入力できるようになります。

ユーザーがボタン以外をクリックした場合

ユーザーに許可する試行回数：矢印をクリックし、他の動作が起こる前にユーザーに許可する試行回数を選択します。デフォルトでは、試行回数無制限が選択されています。試行制限回数を入力するには、最初に [試行回数無制限] の選択を解除する必要があります。

試行回数無制限：このオプションを選択すると、ユーザーは無制限に試行することができます。

最後の試行後：最後の試行後、どのような動作を望むかを指定します。[続行]、[前のスライドに戻る]、[次のスライドに進む]、[スライドにジャンプする]、[URL またはファイルを開く]、[他のムービーを開く]、[電子メールを送る]、[JavaScript を実行する]、または [アクションなし] から選択することができます。

続行：このボックスは、上記でどの操作を選択したかによって、移動先情報を入力できるようになります。

メモ：[URL またはファイルを開く] または [他のムービーを開く] を選択した場合は、ポップアップメニューをクリックし、URL、ファイル、またはムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。[新規]、[親]、または [トップ] を選択した場合、URL、ファイル、またはムービーを開いたとき、元のムービーの [再生を続行する] オプションがあります。

メモ：[電子メールを送る] を選択した場合は、電子メールの準備から送信するまでの間、ムービーの [再生を続行する] オプションがあります。

メモ：[URL またはファイルを開く] オプションを選択して URL を指定した場合、Captivate でスライドを編集するときに URL が表示されますが、ユーザーには見えません。URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをスライドに追加し、その画像上にクリックボックスを配置します。

ボタンタイプ

タイプ: ポップアップメニューをクリックして、作成するボタンのタイプを選択します。3種類のボタンタイプについての詳細と、それぞれのボタンで使用可能なオプションは下記で説明します。

テキストボタン

テキストを表示するボタンを作成する場合に選択します。[ボタン] テキストボックス内に表示するテキストを入力します。

フォント: このオプションを選択して[フォント] ダイアログボックスを開くと、ボタン用テキストのフォント、フォントスタイル、フォントサイズ、色、およびエフェクトを選択することができます。

透明: ボタンを透明にする場合はこのオプションを選択します。テキストボタンを透明にした場合、テキストのみが表示されます。

透明ボタン

完全に透明または半透明のボタンを作成する場合に、このオプションを選択します。透明度を選択します。

枠線の色: カラーボックスをクリックして[色の設定] ダイアログボックスを開き、ボタンの枠線の色を選択します。

塗りつぶしの色: カラーボックスをクリックして[色の設定] ダイアログボックスを開き、ボタンの色を選択します。

枠幅: 下向き矢印をクリックし、ボタンの枠線のサイズを選択します。

透明度: ボタンの透明度を指定します。非常に淡いボタンにするには 90 などの高い値を選択し、濃いボタンにするには 10 などの低い値を選択します。

画像ボタン

画像をボタンとして使用する場合に選択します。

デフォルトのボタンを使用: デフォルトの画像である白い四角形を使用する場合に選択します。

アップイメージ、ダウンイメージ、オーバーイメージ: [参照] をクリックして、アップ、ダウン、およびオーバーなどのボタンの状態で使用する画像を参照します。

透明ボタン: ボタンの透明度を設定する場合にこのオプションを選択します。Captivate は、画像左上のピクセルの色を認識して、ボタン全体の色や透明度を設定します。画像ボタンをテストして希望どおりに表示されなかった場合は、その画像を Fireworks などの画像処理プログラムで開き、左上のピクセルの色を変更して試してください。

ショートカットキーを設定する

ユーザーが解答を送信するために使用するキーの組み合わせを選択するには、[キーの選択] をクリックします。現在のショートカットはボタンの左側に表示されます。

メモ: Captivate ムービーをブラウザで表示する場合、ブラウザでよく使用するショートカットキーを避けて設定します。たとえば、F1 はヘルプを表示するショートカットキーによく使用されています。

5. [オプション] タブをクリックします。このタブでは、ボタンの外観をデザインできます。次のオプションを設定します。

表示時間: ボタンのタイミングを指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。表示時間を指定するオプションを選択した場合、ボタンを表示する時間を秒数で入力します。

表示開始までの時間 (秒): スライドの表示が開始してから、指定した秒数が経過した後、ボタンを表示します。

指定した秒数後にムービーを一時停止: ユーザーがボタンをクリックするために、何秒後にムービーを一時停止するかを指定します。たとえば、このオプションを 5 秒に設定すると、ボタンが表示されてから 5 秒後にムービーを一時停止して、ユーザーがボタンをクリックするまで待ちます。

成功のキャプション: 「おめでとう!」など、成功を知らせるキャプションを表示するオプションです。

失敗のキャプション: 「残念でした。もう一度試してください。」など、失敗を知らせるキャプションを表示するオプションです。

ヒントのキャプション: ヒントのキャプションを表示するオプションです。ヒントのキャプションは、ユーザーがマウスをボタン上へ移動したときに表示されます。

成功または失敗キャプションのために一時停止する: 成功または失敗キャプション (キャプションの詳細は上記参照) を表示したとき、ムービーを一時停止して、ユーザーにキャプションを読む時間を与えるオプションです。

クリック時に音声を停止: ユーザーがボタンをクリックしたときに音声を停止する場合に選択します。このオプションはスライドの音声を停止しますが、バックグラウンド音声は停止しません。また、マウスでボタンをクリックした場合のみ音声を停止させ、ショートカットキーでは音声を停止させません。

ダブルマウスクリック: ユーザーにボタンのダブルクリックを許可するオプションです。

ボタン上でハンドカーソルを表示する: ユーザーがボタン上にマウスを移動させたときに、ハンドカーソルを表示する場合はこのオプションを選択します。

6. ボタンに音声を追加する場合は、[音声] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

再生: クリックして音声ファイルを再生します。

停止: クリックして音声ファイルの再生を停止します。

削除: クリックして音声ファイルをボタンから削除します。

編集: [音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、静寂の挿入および音量調節など、いろいろな方法で音声ファイルを編集します。

音声: ボタンに関連する音声ファイルが存在する場合、そのファイル名を表示します。

新しく記録: クリックすると、[音声の記録] ダイアログボックスが開きます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

読み込み: [音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、音声ファイルを参照して読み込むことができます。

音声ライブラリ: クリックすると、現在開いている Captivate ムービーのすべての音声ファイルを一覧できる、[音声ライブラリ] が開きます。

フェードイン (秒): 音声が入力ボリュームまでフェードインするときの秒数を指定します。

フェードアウト: 音声が入力ボリュームからフェードアウトするときの秒数を指定します。

7. ボタンのスコアを保持する場合、または学習管理システムとスコアを連携させる場合は、[報告] タブをクリックして、次のオプションを設定します。

クイズに含める : このオプションを選択した場合、クイズの結果がクイズ終了時に表示されます。また、このオプションを選択すると、[報告] タブにある他のオプションも利用できるようになります。

解答を報告する : クイズのスコアを保持するオプションです。

目的 ID : これは、オプションのパラメータです。ボタンを使った質問が、学習管理システムで設定した目的に関連している場合、ここにその目的を入力します。

インタラクション ID : Captivate ムービーから追跡情報を学習管理システムに送信するには、その学習管理システムで指定されているインタラクション ID を使用する必要があります。

重要度 : ボタンを使った質問の相対的な重要度を指定します。任意の数値を入力できますが、小数は使用できません。すべての質問に同じ値 ("1" など) を設定すると、同じスコアが記録されます。質問ごとに異なる値を設定する場合、重要度はそれぞれと相対関係があることに注意します。つまり、重要度が "2" の質問の値は、重要度が "1" の質問の 2 倍になります。この機能を使用すると、初歩的な質問には小さな値を指定し、難しい質問には大きな値を指定できます。

8. [OK] をクリックします。

ボタンがスライド上に表示されます。

9. 必要に応じて、ボタンのサイズを設定し、ドラッグして位置を変更します。

10. 成功、失敗、またはヒントキャプションのオプションを選択した場合は、テキストボックスをダブルクリックしてテキストを編集します。

ボックスやボタンに JavaScript を追加する

Captivate ムービーでは、クリックボックス、テキスト入力ボックス、およびボタンに JavaScript を追加することができます。ユーザーがボックスまたはボタンの内側、または外側をクリックしたときに、JavaScript を実行することができます。JavaScript を使用すると、ムービーにインタラクティブ性を加えながら、あらゆる方法でムービーの用途の幅を広げます。

JavaScript は、新しくボックスやボタンを作成したときに追加することができます。また、既存のボックスやボタンに追加することもできます。

JavaScript を新しいボックスまたはボタンに追加するには :

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. JavaScript を設定したボックスやボタンを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから [クリックボックス]、[テキスト入力ボックス]、または [ボタン] を選択します。
4. [成功した場合] または [最終試行の後] のいずれかで、[JavaScript を実行する] オプションを選択します。
5. [参照] をクリックします。

[JavaScript] ダイアログボックスが表示されます。

6. テキストボックスに JavaScript コードを入力します。他の場所に JavaScript がある場合、コピーしたコードをこのテキストボックスにペーストすることもできます。
7. [OK] をクリックします。
8. もう一度 [OK] をクリックします。

JavaScript を既存のボックスまたはボタンに追加するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. JavaScript を追加するボックスやボタンのあるスライドをダブルクリックします。
3. JavaScript を追加するボックスやボタンをダブルクリックします。
4. [成功した場合] または [最終試行の後] のいずれかで、[JavaScript を実行する] オプションを選択します。
5. [参照] をクリックします。
[JavaScript] ダイアログボックスが表示されます。
6. テキストボックスに JavaScript コードを入力します。他の場所に JavaScript がある場合、コピーしたコードをこのテキストボックスにペーストすることもできます。
7. [OK] をクリックします。
8. もう一度 [OK] をクリックします。

既存の音声をボックスおよびボタンに追加する

ボタン、ハイライトボックス、クリックボックス、またはテキスト入力ボックスで使用する音声ファイルを読み込むことができます。また、音声ライブラリを使用して、既存する音声ファイルを現在のプロジェクトに追加することもできます。

音声ファイルを読み込むには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声を追加するボタンまたはボックスのあるスライドをダブルクリックします。ボタンまたはボックスをダブルクリックします。
3. [音声] タブをクリックします。
4. [読み込み] をクリックします。

ヒント： Captivate にはボタン、音声、およびアニメーション (SWF 形式) のギャラリーが含まれていて、プロジェクトに使用することができます。ギャラリーは、Captivate インストール時のデフォルトで、次の場所に保存されています。C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery

5. 追加する音声を参照し、ファイルを選択して [開く] をクリックします。
6. (オプション) 音声ファイルを聞く、またはテストするには [再生] をクリックします。
7. 必要に応じて、他のオプションを選択します。
音量変更、静寂の挿入、および音声の長さ調整など、音声ファイルを編集するには [編集] をクリックします。
音声をフェードイン、またはフェードアウトさせる場合には、[フェードイン] および [フェードアウト] の矢印を使用して秒数を設定します。
8. 完了したら [OK] をクリックします。

音声ライブラリから音声ファイルを選択するには：

メモ： 音声ライブラリオプションを使用するには、Captivate プロジェクトに音声ファイルが1つ以上含まれている必要があります。音声ファイルがプロジェクトに存在しない場合は、音声ライブラリオプションを使用できません。

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 音声を追加するボタンまたはボックスのあるスライドをダブルクリックします。ボタンまたはボックスをダブルクリックします。
3. [音声] タブをクリックします。
4. [音声ライブラリ] をクリックします。
5. [音声クリップ] 一覧で、音声ファイルを選択します。
6. (オプション) 音声ファイルを聞くには [再生] をクリックします。
7. 選択した音声ファイルをボタンまたはボックスに追加するには、[OK] をクリックします。

ヒント： ボックスおよびボタンで使用するために、新規音声ファイルを記録することもできます。

ヒント： 音声ファイルをボタンやクリックボックスに割り当てて、ユーザーがボタンやクリックボックスをクリックしたときに、ボタンやクリックボックスを表示する代わりに音声を再生することができます。これを実行するには、ボタンやクリックボックスを作成し、[成功のキャプション] オプションを選択します。[成功のキャプション] を透明にし、テキストを追加しません。音声ファイルを [成功のキャプション] に追加します。

ボタンとボックスを削除する

ボタンまたはボックスは、ムービーから削除することができます。下記の方法でボタン、ハイライトボックス、クリックボックス、およびテキスト入力ボックスを削除します。

ボタンまたはボックスを削除するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 削除するボタンまたはボックスを含むスライドを開きます。
3. 次のいずれかの操作を実行します。
 - 削除するボタンまたはボックスを選択して、キーボードの Delete キーを押します。
 - ボタンまたはボックスを右クリックして、[削除] を選択します。

メモ： ボタンまたはボックスを削除した場合、それに関連付けられたすべてのオブジェクト (成功および失敗メッセージなど) も同時に削除されます。

第 8 章

マウス動作を編集する

Captivate プロジェクトでは、マウス動作の画面表示をすべて制御することができます。マウスパスの編集やマウスポインタの選択、さらに特定のスライドでマウスを表示するかどうかを選択できます。

マウスポインタを変更する

特定のスライドのマウスポインタを、ハンド、垂直方向のサイズ変更ポインタ、ドラッグポインタなどのアイコンに変更できます。システムポインタまたは既存の .cur ファイルをポインタ画像として選択できます。

メモ：新しいマウスポインタを選択すると、ポインタが既に設定されている個々のスライドに反映されます。ただし、フレームごとにではなくムービー全体についてマウスポインタを選択することもできます。ストーリーボードビューまたは編集ビューで Captivate ムービーを開きます。[スライド] メニューから、[マウス]-[現在のマウスポインタを全フレームで使用] を選択します。

マウスポインタを変更するには

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 編集ビューで目的のスライドを開きます。
3. [スライド] メニューから、[マウス]-[プロジェクトポインタ] または [現在のテーマのポインタ] を選択します。
4. ポップアップメニューから別のマウスポインタを選択します。

メモ：[現在のテーマのポインタ] ポップアップメニューのオプションは、現在使用している Windows テーマを反映します。Windows テーマを変更すると、このメニューのオプションも変わります。ポインタ ファイルが Captivate プロジェクトに含まれている場合、ユーザーは選択した Windows テーマをインストールする必要はありません。

カスタムマウスポインタを選択するには

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 編集ビューで目的のスライドを開きます。
3. [スライド] メニューから、[マウス]-[プロジェクトポインタ]-[参照] を選択します。
4. 一覧からカスタムマウスポインタを選択します。
5. [開く] をクリックします。

マウスのポインタサイズを変更する

マウスポインタのサイズを 2 倍にすることができます。これは、スライドでマウスの最終的な動作を強調する場合に便利です。また、アクセシブルムービーを作成する場合にも役に立ちます。

マウスのサイズはスライドごとに設定できるため、大きいサイズのマウスを使用したいスライドを正確に選択できます。

マウスポインタのサイズを変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 編集ビューで目的のスライドを開きます。
3. [スライド] メニューから、[マウス]-[プロパティ] を選択します。
4. [ダブルマウスサイズ] オプションを選択します。
5. [OK] をクリックします。

スライドに新しく 2 倍の大きさのマウスが表示されます。

メモ： 通常のマウスポインタのサイズに戻すには、同じ手順を実行し [ダブルマウスサイズ] の選択を解除します。

マウスのクリック音を変更する

マウスがマウスパスの最終地点に到達した際に再生する、デフォルトのマウスクリック音を変更することができます。

マウスのクリック音を変更する大きな理由は、2 つあります。まず、アクションを実行するためにシングルクリックとダブルクリックの両方を使用するアプリケーションのムービーを作成している際に、それぞれにマウスのクリック音を設定したい場合です。次に、ムービーの再生中にマウスのクリック音を完全に消したい場合です。

個々のスライドでマウスのクリック音を変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 編集ビューで目的のスライドを開きます。
3. [スライド] メニューから、[マウス]-[プロパティ] を選択します。マウスのクリック音のオプションを選択してください。

マウスのクリック音を再生したくない場合には、[マウスのクリック音] の横のボックスのチェックマークを外します。

シングルクリック音 (マウスボタンを 1 回押した場合のクリック音) には、[マウスのクリック音] の横のボックスを選択し (緑のチェックマークが表示されます)、矢印をクリックして [シングルクリック] を選択します。

ダブルクリック音 (マウスボタンを 2 回押した場合のクリック音) には、[マウスのクリック音] の横のボックスを選択し (緑のチェックマークが表示されます)、矢印をクリックして [ダブルクリック] を選択します。

マウスクリックに使用する別の音を参照するには、[マウスのクリック音] の横のボックスを選択し (緑のチェックマークが表示されます)、矢印をクリックして [参照] を選択します。[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示され、MP3 ファイルを参照できます。

ヒント： 選択したマウスクリック音をテストするには、[再生] をクリックします。

4. 完了したら [OK] をクリックします。

マウスのクリックエフェクトを設定する

マウスクリックに色やエフェクトを設定できます。ここでは、ムービー再生時にマウスをクリックしたときに、マウスポインタの周囲に瞬間的に色を付けたり、特別なエフェクトを付けたりして、強調することができます。

マウスにクリックエフェクトを設定するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. マウス動作を含むスライドをダブルクリックします。
3. [スライド] メニューから、[マウス]-[プロパティ] を選択します。
4. [マウスクリックを表示] を選択します。
5. 次のいずれかの操作を実行します。
 - [デフォルト] を選択します。カラーボックスをクリックして、[色の設定] ダイアログボックスを開きます。好みの色を選択して、[OK] をクリックします。
 - [カスタム] を選択します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。[VisualClick] と [VisualdblClick] の 2 つのオプションがあります。これらのオプションをプレビューするには、選択した後で [再生] をクリックします。SWF ファイルが右側の小さいプレビューウィンドウで再生されます。また、ポップアップメニューから [参照] をクリックして、SWF ファイルを指定することもできます。
6. [OK] をクリックします。

メモ：マウスのクリック色を表示するには、ムービーをプレビューします。

マウス動作を変更する

個々のスライドのマウス動作を変更することができます。マウス操作のスクリーンショットを撮った後、ユーザーによりはっきりと見せるために、マウス動作を変更したい場合に便利です。

マウス動作の開始地点または終了地点を変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 編集ビューで目的のスライドを開きます。
3. マウスを使って、ポインタがハンドカーソルに変わるまで、スライド上のマウスラインの終わりにポインタを移動させます。
4. マウスの左ボタンを押さながら、マウスポインタをスライド内の異なる場所にドラッグします。

メモ：スライド上のマウスポイントを変更すると、次のスライド上のマウス開始地点が変更されます。ムービーをプレビューして、マウス動作がスライド間でスムーズに流れることを確認します。

メモ：ムービーの最初のスライドにマウス動作が含まれている場合、" 前の " スライドに揃えることができないので、マウス動作の開始地点を手動で変更することができます。

マウスパスを揃える

スライド再生中にマウスポインタを完全に静止させて、前後のスライドと適切に揃えることが必要な場合があります。このような場合、マウスポインタを手動で正しく配置することは容易くありません。Captivate では、マウスポインタの位置をムービー内の前後のスライドに正確に合わせて自動的に揃えることで、このような問題を解決できます。

スライド間でマウスパスを揃えるには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 編集ビューで目的のスライドを開きます。
3. マウスポインタ上を右クリックして、[前のスライドに揃える] または [次のスライドに揃える] を選択します。
4. ムービーをプレビューして、マウスポインタがスライド間でどのように揃っているかを確認します。

メモ：ムービーの最初のスライドにマウス動作が含まれている場合、" 前の " スライドに揃えることができないので、マウス動作の開始地点を手動で変更することができます。

直線および曲線マウスパスを使用する

より現実味のある動作を実現するために、Captivate ではデフォルトで曲線のマウスパスを作成します。ただし、直線のマウスパスが適切な場合もあります。たとえば、ツールバーの直線を直線に沿ってマウスが動作するムービーを作成する場合などです。

個々のスライドに曲線または直線のマウス動作を設定することができます。このため、ムービーに直線と曲線のマウス動作を組み合わせることができます。

マウス動作を直線に変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 編集ビューで目的のスライドを開きます。
3. [スライド] メニューから、[マウス]-[ストレートポインタパス] を選択します。

オプションの横にチェックマークが表示されます。

メモ：マウス動作を曲線に戻すには、同じ手順を実行し [ストレートポインタパス] を再度選択して、オプションの横のチェックマークを解除します。

マウスポインタを非表示する

マウスポインタを表示または非表示にできます。ムービーを記録し、後でマウスポインタが不要になった場合は、マウスを非表示にできると便利です。

個々のスライドまたはムービー全体で、マウスポインタを非表示にすることができます。

個々のスライドでマウスポインタを非表示にするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 編集ビューで目的のスライドを開きます。
3. [スライド] メニューから、[マウス]-[マウスを表示する] を選択します。

オプションの左にあるチェックマークが消えます。

ムービー全体でマウスポインタを非表示にするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [環境設定] タブをクリックします。
4. [ムービー生成時、マウスを含める] のオプションの選択を解除します。
オプションの左にあるチェックマークが消えます。

第 9 章

タイミングを変更する

Captivate のタイムラインは、スライド上にあるオブジェクトの整理や、オブジェクトのタイミングの厳密なコントロールを可能にします。スライドとそのスライド上のすべてのオブジェクトのスナップショットを、タイムラインで見ることができます。

オブジェクトを表示するタイミング、また複数のオブジェクトの同時表示などをコントロールすることができます。たとえば、1つのスライドにキャプション、ハイライトボックス、およびアニメーションがある場合、キャプションを最初に表示し、その 4 秒後にハイライトボックスを表示し、さらに 2 秒後にアニメーションを表示することができます。タイムラインは、スライドおよびスライド上のオブジェクトに関連付けられた音声も表示し、オブジェクトとのタイミングを簡単に調整することもできます。

タイムラインでは、スライド上のすべてのオブジェクトと、それらの相対的な関係を簡単に見ることができます。タイムラインの主なコンポーネントは、オブジェクト、ヘッダー、およびプレイヘッドです。タイムラインの左側には、ムービースライドのオブジェクトが重なったバーで表示されます。タイムラインの上部にあるヘッダーは、時間を秒単位で示します。プレイヘッドは、スライドで再生しているポイントを表します。

タイムラインの外観をカスタマイズする

デフォルトで、タイムラインは編集ビューのスライド上部にドッキングした状態で表示されます。しかし、好みによってカスタマイズすることができます。たとえば、次のようなことができます。

- メインアプリケーションの上部または下部に、タイムラインをドッキングする
- タイムラインを専用ウィンドウで表示する
- タイムラインを非表示にする
- 表示に必要なスペースに応じて、タイムラインの高さを変更する
- ズームレベルを変更する

メモ： Captivate はタイムラインの位置およびサイズを記憶するので、タイムラインを表示している状態で Captivate を閉じた場合、次回 Captivate を開いたときは、同じ位置にタイムラインが表示されます。

タイムラインをドッキングするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. スライドのいずれかをダブルクリックして、編集ビューと [タイムライン] を開きます。[タイムライン] が表示されていない場合は、[表示] メニューをクリックして [タイムラインを表示] を選択します。

- [タイムライン] が新しいウィンドウで表示され、それをドッキングしたい場合は、[タイムライン] のタイトルバーをクリックし、スライドの上端または下端に [タイムライン] をドラッグします。
- [タイムライン] がスライドの上部に表示され、それを下部に配置したい場合 (またはその逆の場合) は、四方向矢印が表示されるまで、[タイムライン] 表示矢印の左で垂直に並ぶ 4 つの点をクリックします。その後、スライドの上部または下部の新しい場所に [タイムライン] をドラッグします。

新しいウィンドウでタイムラインを表示するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. スライドのいずれかをダブルクリックして、編集ビューと [タイムライン] を開きます。[タイムライン] が表示されていない場合は、[表示] メニューをクリックして [タイムラインを表示] を選択します。
3. 四方向矢印が表示されるまで、[タイムライン] の表示矢印の左で垂直に並ぶ 4 つの点をクリックします。
4. [タイムライン] を少し左にドラッグします。
5. マウスボタンを離します。

Captivate アプリケーションのメインウィンドウより上に、[タイムライン] が新しいウィンドウで表示されます。

タイムラインを非表示にするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. いずれかのスライドをダブルクリックして、編集ビューを開きます。
3. [表示] メニューから [タイムラインを表示] を選択します。オプションの横にあるチェックマークが消えて、編集ビューで [タイムライン] が非表示になります。

タイムラインのサイズを変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. スライドのいずれかをダブルクリックして、編集ビューと [タイムライン] を開きます。[タイムライン] が表示されていない場合は、[表示] メニューをクリックして [タイムラインを表示] を選択します。
3. タイムラインがアプリケーションウィンドウにドッキングされている場合は、バーをドラッグしてタイムラインをアプリケーションウィンドウから分離させます。タイムラインがアプリケーションウィンドウにドッキングされていない場合は、右下角をドラッグします。

ズームレベルを変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. スライドのいずれかをダブルクリックして、編集ビューと [タイムライン] を開きます。[タイムライン] が表示されていない場合は、[表示] メニューをクリックして [タイムラインを表示] を選択します。
 - [タイムラインルーラー] をクリックして、ご使用のマウスのホイールを回転すると、ズームレベルを拡大縮小します。
 - また、キーを押してズームレベルを変更することもできます。ルーラーをクリックして、CTRL + [を押すとズームレベルが縮小し、CTRL +] を押すとズームレベルを拡大します。また、CTRL + W を押すと、現在の [タイムライン] の幅に合わせて、すべてのオブジェクトが入るズームレベルに設定します。

オブジェクトレイヤーの順序を変更する

タイムラインは、クリックボックス、テキストキャプション、ハイライトボックス、マウス動作、および音声など、スライド上のすべてのオブジェクトを表示します。タイムラインの左側には、ムービースライドのオブジェクトが重なったバーで表示されます。スライド上でオブジェクトが他のオブジェクトと重なっている場合は、他よりも前に表示するオブジェクトを制御するために、タイムライン上で重なっている順序を設定することは重要です。

タイムライン上でオブジェクトレイヤーの順序を変更するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. オブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. [タイムライン] がまだ開いていない場合は、スプリッターバーの上をクリックして [タイムライン] を表示します。タイムラインを展開させるには、表示矢印をクリックします。
4. [タイムライン] 上で、ハンドカーソルが表示されるまでマウスをオブジェクトの上に移動させ、オブジェクトを上下にドラッグして配置し直します。
5. スライド上で 2 つのオブジェクトがオーバーラップしている場合、オブジェクトの重なっている順序を設定して、前に表示するオブジェクトを選択します。重なっている順序の変更では、オブジェクトをスライドステージで前後に移動させます。重要な点は、ステージの一番後ろにあるオブジェクトは、他のオブジェクトよりも後ろに表示されることです。重なり順序を設定するには、以下のいずれかの方法で行います。

- 編集ビューで、スライド上のオブジェクトキャプションを右クリックして、オブジェクト順序のオプションのいずれかを選択します。必要に応じて、他のオブジェクトも右クリックして、順序を調整します。

最前面へ移動：このオプションは選択したオブジェクトを最前面に移動させます。ムービー再生時、このオブジェクトは他のオブジェクトの上に表示されます。

最背面へ移動：このオプションは選択したオブジェクトを最背面に移動させます。ムービー再生時、このオブジェクトは他のオブジェクトの後ろに表示されます。

前へ移動：このオプションはオブジェクトを一層だけ前に移動させます。

背面へ移動：このオプションはオブジェクトを一層だけ後ろに移動させます。

- 編集ビューの [タイムライン] で、ハンドカーソルが表示されるまでマウスをオブジェクトの上に移動させます。その後、オブジェクトを上下にドラッグして、重なっている順序の位置を変更します。オブジェクトを上に移動させると、重なっている順序はステージの前に移動します。また、オブジェクトを下に移動させると、重なっている順序はステージの後ろに移動します。

ヒント：[タイムライン] のズームレベルは、簡単に調整することができます。[タイムラインルーラー] をクリックして、マウスのホイールを回転すると、ズームレベルを拡大縮小します。また、キーを押してズームレベルを変更することもできます。ルーラーをクリックして、CTRL + [を押すとズームレベルが縮小し、CTRL +] を押すとズームレベルを拡大します。また、CTRL + W を押すと、現在の [タイムライン] の幅に合わせて、すべてのオブジェクトが入るズームレベルに設定します。

プレイヘッドを使ってスライドをプレビューする

プレイヘッドはタイムラインを移動して、現在表示されているスライドが、ムービー再生時にどのように動作するかを示します。1枚のスライドをプレビューしてオブジェクトのタイミングを確認するには、素早く効率的な方法です。タイムラインのヘッダーは時間を秒単位 (1s は 1 秒、2s は 2 秒など) で表示するので、オブジェクト表示のタイミングを正確に見ることができます。

プレイヘッドでスライドをプレビューするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. スライドをダブルクリックします。
3. [タイムライン] がまだ開いていない場合は、スプリッターバーの上をクリックして [タイムライン] を表示します。タイムラインを展開させるには、表示矢印をクリックします。
4. 次のいずれかの操作を実行します。
 - [プレイヘッド] を左右にドラッグして、スライドを "擦ります"。[プレイヘッド] を移動すると、ユーザーがスライドを見ているときのように、オブジェクトが表示されて消えていくのが見えます。これにより、速度を制御することができ、非常に遅い速度から非常に早い速度まで、自由な速度でスライドを見ることができます。
 - [タイムライン] 上のいずれの位置にある [プレイヘッド] でも、スペースバーまたは F3 を押すと、スライドの再生を開始します。
 - [タイムライン] 上のいずれの位置にある [プレイヘッド] でも、[タイムライン] 左下角にある [再生] を押して操作できます。再生を終了するには [停止] を押します。しばらく待つ場合は、[一時停止] を押します。

スライドタイミングを変更する

各スライドが表示される時間は、ムービー全体の長さと同様に重要な要素です。画面に表示されるスライドを、ユーザーが読んで理解するために、十分な時間を取ることは重要です。[タイムライン] を使って、スライドのタイミングを何度でも変更できます。スライドの表示にかかる時間を設定する場合にも役立ちます。

メモ：スライドのタイミングは、表示時間の一番長いオブジェクトよりも短くはできません。たとえば、6 秒間表示するキャプションを含むスライドの場合、そのスライドの表示時間を 4 秒間に設定することはできません。

スライドのタイミングを変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. タイミングを変更したいスライドをダブルクリックします。
3. [タイムライン] がまだ開いていない場合は、スプリッターバーの上をクリックして [タイムライン] を表示します。タイムラインを展開させるには、表示矢印をクリックします。
4. スライドのタイミングは、[タイムライン] の "スライド" という名前のオブジェクトに含まれています。スライドの再生時間を延長または短縮する場合は、サイズ変更ポイントが表示されるまでスライドオブジェクトの右端をクリックして、オブジェクトの端を左右いずれかにドラッグします。Captivate では、"スライド" というオブジェクト名の横にあるかっこ内に、スライドの再生時間を表示します。スライド 1 枚の最長表示時間は 1 時間 (3600 秒) です。

キャプションの速度を自動設定する

Captivate には、キャプションのタイミングを自動的に計算するオプションが含まれています。このデフォルトオプションは、キャプションテキストの長さによって、キャプションの表示時間を定義します。

キャプションの速度を自動設定するには：

1. キャプションを含む Captivate ムービーを開きます。
2. [オプション]メニューから[キャプションのタイミングを計算]を選択します。選択されると、オプションの前にチェックマークが表示されます。

キーストロークの速度を変更する

ムービーでキーストロークをゆっくり再生する、または早く再生するなど、キーストロークの速度を定義することができます。ムービーに多数のキーストロークが含まれている場合は、速度を上げるとムービーのペースが早くなります。ただし、キーストロークがムービーで重要な役割を担っている場合などは、再生をゆっくりに設定して、ユーザーがキーストロークをはっきり見るようにします。キーストロークの速度を変更するには、[タイムライン]を使用します。

キーストロークの速度を変更するには：

1. キーストロークを含む Captivate ムービーを開きます。
2. キーストロークを含むスライドをダブルクリックします。
3. [タイムライン]がまだ表示されていない場合は、[タイムライン]の文字左にある表示矢印をクリックして展開させます。
4. キーストロークは、[文字入力]というタイムラインオブジェクトに含まれています。キーストロークの速度を増加または減少するには、サイズ変更ポイントが表示されるまで[文字入力]オブジェクトの右端をクリックして、左右に端をドラッグします。

マウスポインタの速度を変更する

ムービーのスライド上で移動するマウスの速度を定義します。マウスの速度が速くなると、ムービーの再生速度も速くなります。ただし、マウス動作が複雑な場合は、ユーザーがすべての動作を理解できるようにマウス速度を遅くします。

マウスポインタの速度を変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. マウス動作を含むスライドをダブルクリックします。
3. [タイムライン]がまだ表示されていない場合は、[タイムライン]の文字左にある表示矢印をクリックして展開させます。
4. マウス動作は、[マウス]というタイムラインオブジェクトに含まれています。マウス動作の再生時間を延長または短縮する場合は、サイズ変更ポイントが表示されるまでマウスオブジェクトの左端をクリックして、オブジェクトの端を左右いずれかにドラッグします。

オブジェクトのタイミングを変更する

キャプション、テキスト入力ボックス、または画像など、オブジェクトのスライド上での表示時間を変更することができます。この機能は、いくつかの状況で便利に活用できます。たとえば、ハイライトボックスとナレーションのタイミングを正確に合わせて、「ここに日付を入力してください」というナレーションを再生したときに合わせて、ハイライトボックスを表示したい場合があります。

オブジェクト表示時間の設定または [タイムライン] を使用して、オブジェクトのタイミングを変更することができます。

オブジェクト表示時間を設定してオブジェクトのタイミングを変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. オブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. タイミングを変更するオブジェクトをダブルクリックします。
4. [オプション] タブをクリックします。
5. [表示] で、オブジェクトを画面上に表示する時間 (秒単位) を選択します。数値を入力するか、矢印を使って数値を設定します。ポップアップメニューをクリックして、残りのスライドのオプションを選択することもできます。オブジェクトに残りのスライドのオプションを選択してからスライドの再生時間を増やすと、オブジェクトのタイミングが新しいスライドの再生時間に合わせて変更されます。
6. [OK] をクリックします。

タイムラインを使用してオブジェクトのタイミングを変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. オブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. [タイムライン] がまだ開いていない場合は、スプリッターの上をクリックして [タイムライン] を表示します。タイムラインを展開させるには、表示矢印をクリックします。
4. 必要に応じて、オブジェクトのタイミングを変更します。
 - オブジェクトの表示タイミングおよび表示時間を変更するには、変更ポインタが表示されるまでマウスを [タイムライン] 上にあるオブジェクト右端または左端に移動して、左右に端をドラッグします。
 - 2 つのオブジェクトを同時に表示するには、それらの左端および右端を合わせます。たとえば、ハイライトボックスを画像と同時に表示する設定にして、ハイライトボックスを画像の上へ表示させることができます。

ヒント：複数のオブジェクトを同時に選択することができます。連続して重なっている複数のオブジェクトを選択するには SHIFT キーを押したままオブジェクトをクリックします。一方、連続していない複数のオブジェクトを選択するには、CTRL キーを押して移動するオブジェクトをクリックします。

ヒント：[タイムライン] のズームレベルは、簡単に調整することができます。[タイムラインルーラー] をクリックして、ご使用のマウスのホイールを回転すると、ズームレベルを拡大縮小します。また、キーを押してズームレベルを変更することもできます。ルーラーをクリックして、CTRL + [を押すとズームレベルが縮小し、CTRL +] を押すとズームレベルを拡大します。また、CTRL + W を押すと、現在の [タイムライン] の幅に合わせて、すべてのオブジェクトが入るズームレベルに設定します。

Captivate ムービーを変数で制御する

タイムラインで設定できる変数を使用して、Captivate ムービーを制御することができます。カスタム SWF 再生コントロールを作成する場合、またはムービーを Flash FLA ファイルに統合する場合には、変数によるムービー制御が便利です。

メモ：変数の使用は高度な機能であり、その使用は Macromedia Flash の知識が十分にあるユーザーに限られます。

次のコマンドは再生コントロールおよびプレビューに使用されます。

`rdcmndPrevious`

前のスライドに戻るには 1 に設定

`rdcmndNextSlide`

次のスライドに進むには 1 に設定

`rdcmndPause`

ムービーを一時停止するには 1 に設定

`rdcmndResume`

ムービーの一時停止を解除するには 1 に設定

`rdcmndRewindAndStop`

最初に戻りムービーを停止

`rdcmndRewindAndPlay`

最初に戻りムービーを再生

`rdcmndGotoFrame|`

特定のフレームに行く

`rdcmndExit`

終了

`rdcmndInfo`

情報ウィンドウを表示

次の変数は再生コントロールおよびプレビューで提供される情報を提供します。

`rdinfoFrameCount`

ムービー内の swf フレームの合計数 (主なタイムラインのフレーム数ではなく、すべてのスライドのフレーム合計数)

`rdinfoSlidesInProject`

ムービー内のスライド数 (非表示スライドも含む)

`rdinfoCurrentFrame`

現在のフレーム (ムービー再生時、1 から `rdinfoFrameCount` に)

`rdinfoCurrentSlide`

現在再生しているスライド (ゼロベース)

`rdinfoSlideCount`

ムービー内のスライド数 (非表示スライドを含まない)

`rdlsMainMovie`

Captivate ムービーを識別するために使用

第 10 章 スライド

Captivate はスライドで構成されています。ムービーの個々のスライドは 1 つの " ショット " を示します。各スライドが順次表示されることによって、ムービーはスムーズに再生され、マウス動作などのすべての動作もスライド間でスムーズに流れます。スライドを何枚でも組み合わせてムービーを作成することができます。

Captivate で行う作業の大半はスライドレベルで行います。実際、ムービー環境設定およびオプションを設定して画面動作を記録した後は、ほとんどの作業をスライドレベルで行います。これらの作業をすべて終了すると、ムービーのプレビューやパブリッシュの準備が整います。

Captivate には、さまざまな種類のスライドがあります。1 つのムービーに、数種類のスライドを含めることも、またすべての種類のスライドを含めることも可能です。

- 画像スライドには JPG、JPEG、GIF、PNG、BMP、ICO、EMF、または WMF 形式が含まれます。
- 空白スライドは完全な空白になっています。グラフィック、クレジット、またはロゴなどを追加する場合に便利です。
- 質問スライドにはクイズ機能が備わっています。質問、答え、および操作間でインタラクティブ性をフルに発揮できます。
- PowerPoint スライドは、PowerPoint プレゼンテーションから読み込んだ個々のスライドです。
- アニメーションスライドには、SWF、GIF、または AVI 形式のアニメーションが含まれます。

ムービーのスライドを追加する

Captivate では、ムービーにスライドを追加するときのために、記録、インポートおよびコピーを含め幅広いさまざまなオプションが用意されています。空白、画像、質問、アニメーションなど、別の種類のスライドを追加することもできます。

新規スライドを記録する

Captivate ムービーを記録しているとき、スライドレベルで作業を開始してみたら、さらにスライドの記録が必要な場合があります。このような場合は、ムービー全体を記録し直さずに、いくつかの操作だけを追加で記録します。Captivate では、新規スライドを記録して、既存のムービーに挿入することができます。

新規スライドを記録するには：

1. 新規スライドを記録して挿入する **Captivate** ムービーを開きます。
2. [挿入] メニューから [追加スライドを記録する] を選択します。
3. 追加スライドを配置する場所を決めます。ムービーの最後に新しいスライドを追加する、または一覧からスライドをクリックして選択し、選択したスライドの後に新しいスライドを追加することもできます。
4. 完了したら [OK] をクリックします。

記録ウィンドウが表示されます。

5. 必要に応じて、オプションを選択します。たとえば、開いてあるアプリケーションを記録する場合、[記録したいウィンドウを選択します (オプション)] の横にあるポップアップメニューをクリックして、アプリケーションを選択します。また、[オプション] をクリックして、さまざまな記録オプションを設定することもできます。

メモ： キャプチャ領域は、画面上の任意の位置に配置できます。ただし、スライドを追加するムービーと同じサイズにキャプチャ領域は設定されているため、キャプチャ領域のサイズを変更することはできません。

6. オプションの選択が完了したら、[記録] をクリックします。
7. 新規スライドを記録します。
8. 記録が完了したら、キーボードの End (または記録終了に指定した別のキーの組み合わせ) を押して記録を終了します。

新しく記録されたスライドが、ムービー内で指定した場所に挿入されます。

メモ： Captivate ムービーまたは PowerPoint ファイルからスライドを読み込むこともできます。

スライドを読み込む

Captivate では、1つの Captivate ムービーから別のムービーにスライドを読み込むことができます。これにより、貴重な開発時間を短縮することができます。

1つの Captivate ムービーから別のムービーにスライドを読み込むには：

1. 既存のスライドを追加する Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [読み込み・書き出し] - [他の Captivate プロジェクトからスライドまたはオブジェクトを読み込み] を選択します。
3. 読み込むスライドを含むムービーを選択し、[開く] をクリックします。
[プロジェクトを読み込む] ダイアログが表示されます。
4. 現在のムービーに読み込むスライドを選択します。[読み込み] で、ポップアップメニューをクリックして、[スライドとオブジェクト] または [スライドのみ] のいずれかを選択します。スライドバー、左向き矢印、および右向き矢印を使って、ムービー内のスライド間を移動します。[すべて選択] をクリックすると、ムービー内のすべてのスライドを選択します。[すべてクリア] をクリックすると、ムービー内のすべてのスライドの選択を解除します。
5. 完了したら、[OK] をクリックします。
開いているムービーにスライドが追加されます。
6. 新しいスライドを正しい位置に移動します。不要なスライドを削除します。

スライドのコピーおよび貼り付け

ストーリーボードビューまたはフィルムストリップを含む編集ビューでスライドをコピーおよび貼り付けることができます。

ヒント：複数のスライドを選択するには、キーボードの Shift または Ctrl を押しながら、目的のスライドをクリックします。すべてのスライドを選択するには、Ctrl+A を押すか、または [編集] メニューから [すべてのスライドを選択] を選択します。

スライドをコピーするには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. コピーするスライドを右クリックします。
3. ポップアップメニューから [スライドをコピー] オプションを選択します。

スライドを貼り付けるには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 新しいスライドを配置する場所の、すぐ前のスライドを右クリックします。たとえば、ムービーのスライド 6 としてコピーしたスライドを貼り付ける場合、現在のスライド 5 のスライドをクリックします。
3. ポップアップメニューから [スライドを貼り付け] オプションを選択します。

他のプロジェクトからスライドをコピーして貼り付ける

他のプロジェクトのスライドをコピーおよび貼り付けることができます。これにより、かなりの時間をかせぐことができます。たとえば、再使用可能な重要なテキストを含んだキャプションがある詳細なスライドがある場合、これをコピーして、新しいムービーに貼り付けます。

ヒント：複数のスライドを選択するには、キーボードの Shift または Ctrl を押しながら、目的のスライドをクリックします。すべてのスライドを選択するには、Ctrl+A を押すか、または [編集] メニューから [すべてのスライドを選択] を選択します。

他のプロジェクトのスライドをコピーするには

1. コピーするスライドを含む Captivate ムービーを開きます。
2. スライドを右クリックします。
3. ポップアップメニューから [スライドをコピー] オプションを選択します。

他のプロジェクトのスライドを貼り付けるには：

1. 上述の手順でコピーしたスライドを追加する Captivate ムービーを開きます。
2. 新しいスライドを配置する場所の、すぐ前のスライドを右クリックします。たとえば、ムービーのスライド 6 としてコピーしたスライドを貼り付ける場合、現在のスライド 5 のスライドをクリックします。
3. ポップアップメニューから [スライドを貼り付け] オプションを選択します。

空白スライドを挿入する

ムービーに空白スライドを挿入して、" 真っ白なキャンバス " のスライドを用意することができます。空白スライドは、クレジット、ロゴ、または他のテキストをムービー内に追加する必要がある場合に便利です。

空白スライドを挿入するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 新しいスライドを配置する場所の、すぐ前のスライドを選択します。たとえば、ムービーのスライド 6 として空白スライドを挿入する場合、現在のスライド 5 のスライドをクリックします。
3. [挿入] メニューから [空白スライド] を選択します。

空白スライドがムービーに追加されます。ムービー内の他のスライドと同様に、新しいスライドを編集および操作することができます。

画像をスライドとして挿入する

既存の画像 (JPG、JPEG、GIF、PNG、BMP、ICO、EMF、または WMF) を、Captivate ムービーにスライドとして挿入することができます。画像スライドはさまざまなムービーで利用できますが、特に、製品や Web サイトの概要で利用すると便利です。また、画像スライドは、ムービーの導入スライドとして企業ロゴなどの画像を使用する場合にも便利です。

画像をスライドとして挿入するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 新しいスライドを配置する場所の、すぐ前のスライドを選択します。たとえば、ムービーのスライド 6 として画像スライドを挿入する場合は、現在のスライド 5 のスライドをクリックします。
3. [挿入] メニューから [画像スライド] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
4. 一覧から画像を選択するか、または新しい場所を参照して別の画像を選択し、[開く]をクリックします。
5. (オプション) トリミングまたはサイズ変更をするかどうかを質問される場合があります。
 - トリミング: 画像を中央に配置し、キャプチャ サイズ領域に合わない画像の周囲を切り取ります。
 - サイズ変更: 画像のサイズをキャプチャサイズ領域に合わせて変更して、変更後のサイズでの画質を向上させます。

画像スライドがムービーに追加されます。

ヒント：複数の画像スライドを同時に作成するには、[ファイルを開く] ダイアログボックスで Shift または Ctrl を押しながら、複数の画像を選択します。

質問スライドを作成する

Captivate では、最先端技術による e ラーニングムービーの作成が可能です。パワフルなクイズ機能を使って、多肢選択問題、短い答えの問題、照合問題、○×形式問題、リッカート問題、および空欄埋め問題など、さまざまな種類の問題を簡単にデザインできます。

ユーザーが正解した場合、または不正解だった場合に、どのような動作を実行させるかを完全にコントロールできます。たとえば、正解のときは " 次のスライドに進む " などの動作を設定し、不正解のときは "URL またはファイルを開く " などの別の動作を設定できます。一般に、これをブランチと呼びます。

どのようなテストでも、報告機能を使用して生徒の成績を判定できます。試行回数、正解および不正解の応答を記録し、LMS (Learning Management System: 学習管理システム) に合格、または不合格のデータを送信します。正解または不正解の解答に基づいて、生徒にフィードバックを送るかどうかを選択できます。

Captivate では、6 種類の質問スライドを作成することができます。

- 多肢選択問題
- ○×形式問題
- 空欄埋め問題
- 短い答えの問題
- 照合問題
- リッカート問題

質問スライドの詳細については、[165 ページ](#)、[第 13 章](#)の「[e ラーニングコンテンツを作成する](#)」を参照してください。

アニメーションスライドを追加する

SWF、AVI、またはアニメーション化された GIF ファイルがある場合、これらのファイルを新しいスライドとして Captivate ムービーに追加することができます。これにより、すでに作成したコンテンツを使いながら、素早く簡単にムービーを情報豊かな内容にすることができます。

メモ： アニメーションをスライドとして追加することは、大きいアニメーションファイルに最適です。

アニメーションスライドを追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [挿入] メニューから [アニメーション] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
3. 挿入するアニメーションファイル (SWF、AVI、またはアニメーション化された GIF) がある場所に移動し、[開く] をクリックします。アニメーションスライドが生成され、ムービーに追加されます。

メモ： 正しいフレームレートに設定することは重要です。読み込まれたすべてのアニメーションファイルは、[ムービー環境設定] ダイアログボックスで選択されたレートで再生され、ファイルが読み込まれる以前に設定されたレートには関係しません。ほとんどの場合に適する、1 秒あたり 30 Flash フレームにデフォルトで設定されています。Captivate SWF をフレームレートが 30 以外の別の SWF ファイルに埋め込むときは、レートを変更する必要がある場合もあります。

メモ： アニメーションスライドを作成するとき、ムービーでのスライド表示時間は、自動的にアニメーションファイル自体の長さがデフォルトになります。たとえば、新しく作成するアニメーションスライドに使用するアニメーションファイルの長さが 1.2 秒の場合、アニメーションスライドの表示時間は 1.2 秒になります。スライドの表示時間を変更するには、編集ビューでスライドを開いて [スライド] メニューから [プロパティ] を選択し、[表示時間] 欄に新しい秒数を入力します。または、[タイムライン] を使用してスライドの表示時間を変更します

スライドを編集する

Captivate プロジェクトにスライドを記録、読み込み、作成、コピーしたら、さまざまな方法でスライドを編集できます。

スライドを複製する

ストーリーボードビューまたはフィルムストリップを含む編集ビューでスライドを複製することができます。スライドの複製は、ムービーを拡張するための簡単な方法です。たとえば、特定の背景色、レイアウト、キャプション、およびハイライト ボックスを含むスライドを丁寧にデザインした場合、そのスライドを複製し、いくつかの要素やテキストを変更すると、ムービーにより多くの情報を追加できます。

スライドを複製するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 次のいずれかの操作を実行します。
 - 複製するフレームを右クリックし、[スライドを複製] を選択します。
 - スライドを選択し、Ctrl+D キーを押します。

ヒント：複数のスライドを選択するには、キーボードの Shift または Ctrl を押しながら、目的のスライドをクリックします。すべてのスライドを選択するには、Ctrl+A を押すか、または [編集] メニューから [すべてのスライドを選択] を選択します。

選択した1つまたは複数のスライドが複製され、ムービーに配置されます。複製されたスライドは、オリジナルのスライドと同様に編集および操作できます。

クリップボードにスライドをコピーする

Captivate には、スライドをクリップボードにコピーする簡単な方法が備わっています。Fireworks または Photoshop などの画像処理プログラムに貼り付けてスライドを編集し、Captivate に再び貼り付けて戻すことができます。これは、スライドへ変更を少し加える必要があるにも関わらずその時間がない場合に、特に便利な機能です。

たとえば、ムービーがほとんど完成した段階になって、Web ブラウザのスクリーンショットを含む1枚のスライドで、社内サーバーアドレスがアドレス行に表示されているとします。この問題を速やかに解決するには、スライドをクリップボードにコピーし、Macromedia Fireworks で開きます。白のペイントでアドレスフィールドの情報を " 消去 " し、スライドを JPEG などの画像ファイルとして保存します。続いて、Captivate から画像をムービーに貼り付けて戻します。このようにスライドを編集すると、記録し直す必要はありません。

メモ：スライドをクリップボードにコピーすると、背景のみがコピーされます。スライド上にあるいずれのオブジェクトもコピーされません。画像として保存したスライドをムービーの同じ場所に戻すことができます。スライドに元から関連付けられていたすべてのオブジェクトは、新しい画像スライド上に表示されます。

クリップボードにスライドをコピーする：

1. 編集ビューで Captivate プロジェクトを開きます。
2. ビットマップとしてコピーするスライドを選択します。
3. [編集] メニューから [背景をコピー] を選択します。
4. 画像処理プログラムを開き、Ctrl+V を押してスライドをプログラム内へ貼り付けます。
5. スライドに必要な変更を加えます。
6. 画像処理プログラム内で、Ctrl+C を押して画像をコピーし、クリップボードに画像を保存します。
7. Captivate に戻って、[編集] メニューから [背景として貼り付け] を選択します。
8. 確認のメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。

画像として新しく更新されたスライドがムービー内に配置されます。キャプションまたはハイライトボックスなどのオブジェクトが元のスライドに含まれていた場合、それらのオブジェクトは新しいスライド上に表示されます。

オブジェクトをスライドにマージする

画像、キャプション、クリックボックス、ハイライトボックス、テキスト入力ボックス、ボタンなど、スライド上に作成および配置するすべてのオブジェクトは、スライドにマージすることができます。マージをすると、オブジェクトは永久に削除され、スライドの一部になります。

マージは、さまざまな状況で便利な機能です。たとえば、大きな画像を他のオブジェクトを含むスライドに読み込む場合、画像をスライドにマージして、オブジェクトの背景に使用することができます。キャプションスタイルが "transparent" のテキストキャプションを作成して、そのキャプションをスライドにマージすると、テキストは永久にスライドの一部になります。

オブジェクトをスライドにマージするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. マージするオブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. スライドにマージするオブジェクトを右クリックします。(例：画像、キャプション、クリックボックス)
4. ポップアップメニューから [背景にマージ] を選択します。
5. マージが "元に戻す" ことのできない操作であることを伝え、マージの確認を求める警告が表示されます。[はい] をクリックします。

オブジェクトがスライドにマージされます。

スライドの順序を変更する

スライドの順序は、ムービーを記録した後で簡単に変更できます。ストーリーボードビューまたはフィルムストリップを含む編集ビューでスライドの順序を変更できます。

ヒント：時として、スライドラベルを割り当てると、スライドの移動や追跡がより簡単にできるようになります。スライドラベルとは各フレームの短いタイトルで、番号でなくより特定の方法でスライドを識別することができます。

ストーリーボードビューでスライドの順序を変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 移動するスライドをクリックし、マウスの左ボタンを押さえます。
3. マウスポインタを目的の場所にドラッグして、マウスボタンを放します。

フィルムストリップを含む編集ビューでスライドの順序を変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [編集] タブをクリックします。
3. フィルムストリップ内で移動するスライドをクリックし、マウスの左ボタンを押さえます。
4. マウスポインタをフィルムストリップ内の目的の場所にドラッグして、マウスボタンを放します。

ヒント：ストーリーボードビューまたはフィルムストリップのいずれの場合でも、複数のスライドを選択するには、キーボードの Shift または Ctrl を押しながら、目的のスライドをクリックします。すべてのスライドを選択するには、Ctrl+A を押すか、または [編集] メニューから [すべてのスライドを選択] を選択します。

スライドの色を変更する

スライドは任意の色に変更できます。スライドの色は、スライドの種類やスライドのキャプチャ方法によって左右されます。たとえば、ムービーに背景色を設定していると、追加するすべての空白スライドにその背景色が適用されます。スライドプロパティを使ってスライドの色を変更できます。

スライドの色を変更するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 背景色を変更したいスライドをダブルクリックします。
3. スライドをもう1度ダブルクリックします。
4. [色] で、[カスタム] を選択し、カラーボックスをクリックします。
5. [基本] カラーパレットから色を選択するか、新しい色を作成します。
6. 完了したら [OK] をクリックします。
7. もう一度 [OK] をクリックします。

スライドラベルを作成する

スライドラベルとは、各スライドに割り当てる短いタイトルです。スライドの番号の代わりにラベルを割り当てると、スライドの移動および追跡が簡単になります。

スライドに追加したラベルはストーリーボードビューまたはフィルムストリップで、スライドの下に表示されます。スライドにマウス動作または音声に関連付けられている場合、マウスアイコンや音声アイコンがスライドラベルのすぐ後に表示されます。

スライドにラベルを追加するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. ラベルを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [スライド] タブをクリックします。
4. [ラベル] 欄にスライドの短い説明を入力します。
5. 完了したら [OK] をクリックします。

スライドメモを作成する

個々のスライドでメモを作成し、保存することができます。メモは Captivate ムービーの作成者が整理のために使用するツールであり、通常、ムービーを見ているユーザーには見えません。

メモは、スライドプロパティ、[音声を録音する] ダイアログボックスのスクリプト内、およびスライドメモオプションを選択した配布資料をパブリッシュした場合の 3 か所で見ることができます。スライドメモは、[音声を録音する] ダイアログボックスで便利な機能です。ナレーションのテキストを注釈に書き込み、記録する際に、ダイアログボックスから直接テキストを読むことができます。ムービーを Word に書き出す場合、スライドメモをドキュメントに含めるオプションがあります。また、ほかの人がレビューできるようにムービーの Word ドキュメント版を作成し、レビューする人に特定のスライドに関する補足情報を提供したい場合にも便利です。

スライドのメモを作成した後、[スライドプロパティ] ダイアログボックスの [メモ] ボタンがボールドのテキストで表示され、スライドにメモが含まれていることを示します。

スライドメモを作成するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. メモを追加するスライドを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. [メモ] をクリックします。
[スライドメモ] ダイアログボックスが表示されます。
4. スライドに関するメモを入力します。
5. 完了したら [OK] をクリックします。

スライドに普通のテキストを追加する

ムービーの編集で、スライドにテキストを追加したいが、スライド上に貼り付けたキャプションのように表示したくない、という場合があります。そういう場合は、普通のテキストをスライドに追加する簡単なトリックがあります。Transparent (透明) テキストキャプションとして、テキストを追加する方法です。

Transparent テキストキャプションを作成するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ストーリーボードビュー内で、Transparent テキストキャプションを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [挿入] メニューから、[テキストキャプション] を選択します。
[キャプションプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
4. [キャプションタイプ] でポップアップメニュー をクリックして、[transparent] を選択します。
5. 必要に応じて、テキストキャプションの他のオプションを変更します

フォント：ポップアップメニューをクリックして、テキストキャプションのフォントを選択します。

サイズ：ポップアップメニューをクリックして、テキストキャプションのフォントサイズを選択します。

色：カラーボックスをクリックして、テキストキャプションのフォントカラーを選択します。

キャプションスタイル：テキストのみを表示するので、キャプションスタイルは透明 (Transparent) キャプションだけです。

表示オプション：必要に応じて、ボールド、イタリック、アンダーライン、両端揃えなど、さらに詳細な表示オプションを設定します。

キャプションテキストをここに入力してください：表示するキャプションテキストを正確に入力します。

ムービー中のすべてのキャプションにプロパティを適用する：このダイアログボックスで加えた変更を、ムービー中のすべてのテキストキャプションに適用する場合に選択します。すべてのテキストキャプションに適用したプロパティは、キャプションスタイル、フォントタイプ、フォントサイズ、フォントカラー、およびトランジションです。テキスト、ボールド、中央揃えなどのテキストプロパティ、および表示時間はすべてのテキストキャプションに適用されませんが、個々のテキストキャプションの設定として残ります。

6. [OK] をクリックします。

メモ： 透明なキャプションを追加した場合、太字テキストの使用は避けてください。透明なキャプション内で適切に強調表示するには、フォントの表示方法を使用する必要がありますが、テキストの品質が下がる可能性があります。

スクリーンリーダー用のテキストをスライドに追加する

スクリーンリーダーは、視覚障害を持ったユーザーなどによく使われています。スクリーンリーダーは、コンピュータの画面に表示されるテキストを音声で読み上げることができます。Captivate では、個別のスライドにスクリーンリーダーで読み上げることが可能なテキストを追加できます。

スクリーンリーダー用のテキストをスライドに追加するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. アクセシブルテキストを追加するスライドをダブルクリックします。
3. [スライド] タブをクリックします。
4. [アクセシビリティ] をクリックします。
5. スクリーンリーダーで読み上げるためのテキストを入力します。キャプションなどスライド上にテキストがある場合や、スライドメモが書き込まれている場合、[スライドテキストを挿入する] または [スライドメモを挿入する] をクリックして、スライドアクセシビリティテキスト追加できます。

トランジションを追加する

トランジションとは、Captivate プロジェクトのスライド間に設定できる特殊なエフェクトです。ムービーのコンテンツの種類にもよりますが、トランジションによって、スライドから次のスライドへの切り替わりをスムーズに演出できます。トランジションを追加して、ムービーがどのように表示されるかをプレビューしてみてください。

メモ：トランジションの種類を設定すると、ムービー内のすべてのスライド間のトランジションエフェクトが表示されます。トランジションを設定しない場合、スライドはそのまま、トランジションも表示されません。

スライド間にトランジションを追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [スライド] メニューから [トランジション] を選択し、以下のオプションのいずれかを選択します。
 - フェードイン / アウト：背景色からスライドをフェードインするためのオプションです。
 - スライド間でフェード：次のスライドにスムーズにフェードするためのオプションです。

メモ：フェードするスライドが質問スライドの場合は、[フェードインイン・フェードアウト] オプションを使用し、[スライド間でフェード] は使用しません。

スライドデータを圧縮する

Captivate では、スライド間で共有しているデータを圧縮するオプションが用意されています。このオプションはデフォルトで設定されていて、全体のファイルサイズを減らすことができます。

メモ：状況によっては、Macromedia Flash に読み込んだとき、圧縮されたムービーが正しく表示されない場合があります。Captivate ムービーを Flash に読み込む予定がある場合には、高度圧縮を選択しないでください。圧縮を適用しないとムービーのサイズが大きくなります。

スライド間の時間を圧縮するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [環境設定] タブをクリックします。
4. [ムービーの高度圧縮] を選択します。

オプションの横にチェックマークが表示されます。

スライドの色を訂正する

通常、Captivate ムービーでは、色は正しく表示されます。しかし、スライド間でカラースキームが根本的に異なるなど、色が正しく表示されない場合もあります。スライド A でカラーパレット ABC を使用し、スライド B ではカラーパレット XYZ を使っており、2 つのスライドが根本的に異なる場合、スライド B にパレット ABC を用いる必要があります。

これらの問題の大半は、スライドのビデオ品質を変更することで解決できます。Captivate では 3 レベルのビデオ品質が用意されています。ただし、通常は [標準] オプションの使用をお勧めします。

スライドのビデオ品質を変更するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 修正したい色を含むスライドをダブルクリックします。
3. [スライド] メニューから、[ビデオ品質] および次のビデオオプションのいずれかを選択します。

標準：スライドのデフォルトの形式です。[標準] は、最適化された 256 色を使用しているため、大半のスクリーンショットで最も効果的な形式です。[標準] のスライドは、圧縮率も高いため、ファイルサイズを小さく抑えられます。

JPEG：スライドに写真が含まれている場合に最適なオプションです。[ムービー環境設定] ダイアログボックスを使用して JPEG 画像の画質および圧縮率を変更できます。

高品質：標準形式が 256 色なのに対して、この形式では数百万色を表現できます。このオプションは、[標準] または [最適化] オプションを使用しても、適切な色深度が再現できない場合にのみ使用してください。このオプションを使用すると、ファイルサイズが大幅に大きくなります。

メモ：[JPEG] または [高品質] 形式を選択すると、ファイルサイズが大きくなり、ムービーのダウンロードに時間がかかります。このため、これらの [標準] 以外の形式は、適切な場合にのみ使用してください。

スライドを削除する

スライドを削除すると、ムービーからそのスライドが永久に削除されます。ストーリーボードビューまたはフィルムストリップを含む編集ビューでスライドを削除することができます。

ストーリーボードビューでスライドを削除するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 削除するスライドを右クリックします。
3. ポップアップメニューから [スライドを削除] オプションを選択します。

編集ビューでスライドを削除するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 削除するスライドをダブルクリックします。
3. スライドを右クリックして、ポップアップメニューから [スライドを削除] を選択します。

ヒント：ストーリーボードビューで複数のスライドを選択するには、キーボードの Shift または Ctrl を押しながら、目的のスライドをクリックします。すべてのスライドを選択するには、Ctrl+A を押すか、または [編集] メニューから [すべてのスライドを選択] を選択します。

ムービーの開始および終了を変更する

ムービーをどのように開始および終了するかを定義することができます。Captivate は、フェードイン、フェードアウト、ムービーの繰り返し、およびロード画面の表示など、数多くのオプションを提供しています。

ムービーの開始および終了を定義するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [開始および終了] タブをクリックします。
4. 必要に応じてオプションを変更します。

ロード画面：ムービーの最初にロード画面を表示する場合は、このオプションを選択します。ムービーの最初のスライドが大きい場合、または音声を含んでいて表示されるまでに時間がかかる場合などに、ロード画面は便利です。[参照] をクリックして、画像を選択します。

メモ：Captivate には、数種類のロード画面用の画像が含まれています。また、カスタム画像を作成することもできます。カスタム画像をロード画面のオプションで使用するには、Windows エクスプローラを使って、画像を下記の場所にコピーします。ProgramFiles¥Macromedia¥Captivate ¥Gallery ¥Preloaders にコピーします。サポートされるファイル形式は JPG、JPEG、GIF、PNG、BMP、ICO、EMF、WMF、および SWF です。

パスワード保護されたムービー：このオプションは、ユーザーがムービーを見るために入力するパスワードを設定します。パスワードオプションを設定するには、[参照] をクリックします。

ムービーの期限日：ムービーの有効期限が切れる日付を設定します。有効期限が切れたムービーは表示できなくなります。

メッセージ 1 行目：有効期限メッセージを入力します。このメッセージは、ムービーが上にあるオプションで設定した有効期限に達した後、ユーザーがムービーを表示しようとしたときに表示されます。

メッセージ 2 行目：必要に応じて、有効期限メッセージ 2 行目を入力します。

最初のスライドをフェードインする：ムービーの最初のスライドをフェードインする場合は、このオプションを選択します。

ムービー完了オプション

アクション：ポップアップメニューをクリックして、ムービー完了後のアクションを選択します。

- ムービーを中止：一度再生した後、ムービーを停止します。
- ムービーをループ：ムービーを連続的に再生します。終わりに達すると、ムービーが再び始まります。
- ムービーを閉じる：ムービーの終わりにブラウザ ウィンドウを閉じます。

- URL またはファイルを開く : ムービーの終わりに開く URL またはファイルを指定します。

URL をロードするには、Web サイトの完全なパスを入力します (例 : <http://www.website.com>)。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。

ファイルを開くには、[参照] でファイルを参照して選択し、[開く] をクリックします。ポップアップメニューをクリックして、ファイルを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。

JavaScript を実行する : 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。

他のムービーを開く : 現在のムービーが終わるとき、別のムービーを開きます。[参照] をクリックし、ムービーファイル (SWF、RD、または CP) を選択して、[開く] をクリックします。下向き矢印をクリックして、ファイルを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。

電子メールを送る : デフォルトの電子メールブラウザを開き、ムービーが終わるときに電子メールでメッセージを送るオプションです。完全な電子メールアドレスを入力します (例 : jdoo@companyzyx.com)。

最後のスライドをフェードアウトする : ムービーの最後のスライドをフェードアウトする場合は、このオプションを選択します。

5. 完了したら [OK] をクリックします。

導入スライドのヒント

印象的な導入スライドを作成するためのいくつかのヒントを次に説明します。

- 最初のスライドの画像を使用する : ムービーの最初のスライドには画像を作成するか、会社のロゴを使用します。画像をスライドとして挿入するか、グラフィックを空白スライドに追加します。
- 音声を追加する : Captivate ではムービーに音声を簡単に追加することができ、導入部分に音声をいれどと強力な効果を得られます。既存の音声ファイルを追加したり、画面外の独自のナレーションを記録することができます。たとえば、スタートアップメッセージを含めたり、曲の一節を再生したりすることができます。

ヒント : Captivate にはボタン、音声、およびアニメーション (SWF 形式) のギャラリーが含まれていて、プロジェクトに使用することができます。ギャラリーは、Captivate インストール時のデフォルトで、次の場所に保存されています。C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery

- 特殊効果を使用する : ムービーに特殊効果を使用するなら、このようなギャラリーから始めてはどうでしょう。高品質の特殊効果 (フェードなど) は、ムービー開始直後から洗練され専門技術を駆使した映像を作成します。
- アニメーションテキストを使用する : 簡単に印象的な導入スライドを作成するには、Captivate に備わったテキストアニメーション機能を使用します。これは、洗練されたムービーを速やかに作成できる方法です。
- キャプションを戦略的に使用する : 導入スライドに複数のキャプションを追加し、1 つずつフェードイン / フェードアウトするように詳細にタイミングを設定します。
- 読み込み画面を考慮する : 読み込み画面は、ムービーが始まる前に一時的に表示される画面です。通常、能読み込み画面は、ムービーの最初のスライドが大きい場合や、音声が含まれている場合に有効です。このような場合、読み込み画面を使用すると、視聴者の注意が逸れている間にムービーを読み込むことができます。

再生コントロールを追加する

再生コントロールを含んだムービーでは、ユーザーは [再生]、[一時停止] などのボタンでムービーを制御することができます。これらのボタンを使用すると、ムービーのペースを制御できます。たとえば、ムービーに段階的な手順がある場合は、必要な情報を読んでその処理を終えるまで、[一時停止] ボタンでムービーを一時停止できます。

再生コントロールを設定する

再生コントロールを含んだムービーでは、ユーザーは [再生]、[一時停止] などのボタンでムービーを制御することができます。これらのボタンを使用すると、ムービーのペースを制御できます。たとえば、ムービーに段階的な手順がある場合は、必要な情報を読んでその処理を終えるまで、[一時停止] ボタンでムービーを一時停止できます。

完成したムービーに表示される再生コントロールボタンを選択できます。これらのボタンは、ムービーの指定した場所に " 浮いて " 表示されます。

メモ：ムービーのカスタム再生コントロールを作成することもできます。また、ムービーを変数で制御することもできます。

ムービーの再生コントロールを選択するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [再生コントロール] タブをクリックします。
4. [位置] では、ポップアップメニューをクリックして、[再生コントロール] ボタンを配置する場所を選択します。
5. [スタイル] では、ポップアップメニューをクリックして、ボタンスタイルを選択します。スタイルは再生コントロールボタンの外観だけでなく、実際にどのボタンが表示されるかにも関連しています。スタイルによってはボタンの数が多くなります。スタイルをクリックすると、プレビューウィンドウに選択したスタイルボタンが表示されます。ボタンが表示されない場合は、[プレビュー] ウィンドウの下部にあるスライダを使用してすべてのボタンを表示します。
6. 進行状況を表示 (オプション) : 再生コントロールスタイルには、ムービーの進行状況をグラフィックで示す進行状況バーがある場合があります。これらの再生コントロールスタイルを選択した場合、スタイル一覧の下に進行状況バー表示オプションが表示されます。このオプションを選択すると進行状況バーが表示され、選択しないと進行状況バーは表示されません。
7. [OK] をクリックします。

メモ：[フルスクリーン] オプションで Captivate ムービーを作成する場合は、ユーザーへの配慮として [閉じる] ボタンが含まれている再生コントロールスタイルを選択します。これによってユーザーは、ムービーを素早く簡単に閉じて別のアプリケーションにアクセスできます。

メモ：すべての再生コントロールスタイルに情報ボタンがあります。[情報] ボタンをクリックすると、作成者、会社名、Web サイト URL などのムービー情報が表示されます。表示される情報を変更するには、ムービープロパティの情報を変更します。

カスタムの再生コントロールを作成する

ユーザーは、[再生]、[一時停止] などの再生コントロールボタンで、**Captivate** ムービーをコントロールします。これらのボタンを使用すると、必要に応じてムービーのペースを調整することができます。

たとえば、ムービーに段階的な手順がある場合は、必要な情報を読んでその処理を終えるまで、[一時停止] ボタンでムービーを一時停止できます。

完成したムービーで表示する再生コントロールボタンを選択することができます。これらのボタンは、ムービーの指定した場所に " 浮いて " 表示されます。**Captivate** は、ムービーに使用できる多くの再生コントロールを用意していますが、カスタム再生コントロールボタンを作成することもできます。

各再生コントロールは、連続した Bitmap 画像 (BMP) で構成されています。画像は、"C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery\Captions" フォルダに保存されています。再生コントロールには次のボタンを含むことができます。

- 再生 : ムービーを再生します (一時停止をクリックしていた場合は、ムービーを再始動します)。
- 戻る : 1 スライド戻ります。
- 次へ進む : 1 スライド進みます。
- 一時停止 : ムービーを一時停止します。再生をクリックするまで解除されません。
- 終了 : Web ブラウザまたはムービーのウィンドウを閉じます。
- 最初に戻る : ムービーを最初から再生します。
- 情報 : 作成者名、会社名、および著作権などの情報を表示します。この情報はムービープロパティから引き出されます。

名称規則

各ボタンには 2 種類の Bitmap 画像があります。1 つの Bitmap はボタンが普通の状態 (アップ) を表し、もう 1 つの Bitmap はボタンが押された状態 (ダウン) を表します。これが、この 2 種類の Bitmap 画像の名称規則です。

- style-playbuttonup.bmp
- style-playbuttondown.bmp

ファイル名には以下の要素が含まれていることに留意します。

- 再生コントロールの名前 ("style")
- ハイフン ("-")
- ボタンの名前 ("play")
- "buttonup" または "buttondown"
- Bitmap ファイル拡張子 (".bmp")

カスタムの再生コントロールを作成するには :

1. Macromedia Fireworks または Adobe Photoshop などの画像処理ソフトウェアを使用して、新しいボタンを作成します。ボタンを、それぞれ別の Bitmap (BMP) 画像として保存します。Bitmap 画像を保存するときは、上記の名称規則に従って名前を付けます。

2. コントロール全体のプレビュー画像を含む Bitmap 画像を作成します。この画像は、再生コントロール一覧に表示され、再生コントロールをプレビューすることができます。このファイル名は、controlname-preview.bmp を使用します。controlname には、新しいコントロールの名前を入れます。
3. Windows エクスプローラで、Bitmap 画像を Captivate 再生コントロールフォルダに保存します。場所は C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery\PlaybackControls です。
4. Captivate でムービーを開き、ムービーに再生コントロールを追加します。

メモ：再生コントロールボタンは、すべてが同じ幅と高さで作成する必要があります。画像のサイズが同じでないときは、完成したムービーで適切に表示されない場合があります。

スライドを保護する

Captivate プロジェクトでは、個々のスライドをロックしたり、非表示にすることができます。この機能は、他のユーザーがプロジェクトの最初のドラフトをレビューする場合などに便利です。

スライドをロックする

Captivate では、個々のスライドをロックするオプションを備えています。スライドをロックすると、スライド上のすべてのオブジェクトは表示されますが、編集することができなくなります。これは、ムービーを他の人にレビュー用に送信するが、変更を加えて欲しくない場合に便利な機能です。

スライドがロックされると、小さなロックアイコンが表示されるので、ロックされていることを確認することができます。アイコンは、ストーリーボードビューおよびフィルムストリップで、ロックされたスライドの下に表示されます。

スライドをロックするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ロックするスライドを右クリックし、[スライドのロック] を選択します。

ヒント：複数のスライドを選択するには、キーボードの Shift または Ctrl を押しながら、目的のスライドをクリックします。すべてのスライドを選択するには、Ctrl+A を押すか、または [編集] メニューから [すべてのスライドを選択] を選択します。

スライドを非表示にする

Captivate では、ムービー内の個々のスライドを非表示することができます。スライドはムービー内に残りますが、ムービーの再生時には表示されません。これは、他の人が見るムービーの中で、特定のスライドの情報に変更があるため、修正するまでそのスライドを隠したいときなど、いくつかの状況で便利なオプションです。

スライドプロパティまたはスライドタスクを使って、スライドを非表示にすることができます。また、配布資料をパブリッシュするときには、スライドを非表示にする選択肢があります。

スライドプロパティを使ってスライドを非表示するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. スライドを右クリックして、[スライドの非表示] を選択します。

スライドがストーリーボードビュー内に淡色で表示されます。

スライドタスクを使ってスライドを非表示するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 非表示にするスライドを一度クリックします。
3. 左側にある [スライドタスク] で、[スライドの非表示] をクリックします。
スライドがストーリーボードビュー内に淡色で表示されます。

配布資料をパブリッシュするとき、非表示のスライドを含めるまたは除外するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [パブリッシュ] を選択します。
3. [配布資料] を選択します。
4. [レイアウトオプション] で、[非表示スライドを含める] を選択します。[非表示スライドを含める] の横に緑のチェックマークが表示されていると、非表示のスライドは Word 文書に含められます。配布資料から非表示のスライドを除外するには、選択を解除してチェックマークを消します
5. [パブリッシュ] をクリックします。

第 11 章

オブジェクトを追加する

オブジェクトは、Captivate スライドに追加できるエレメントです。Captivate には、さまざまな種類のオブジェクトがあります。

- テキストキャプション: テキストキャプションは、スライドについて説明したり、追加情報を提供するのに使用できる、テキストを含む "吹き出し" です。
- ハイライトボックス: ハイライトボックスは、強調する場合、および注意を払う個所、またはデータを入力する場所をユーザーに示すのに使用できます。
- 画像: 画像をムービーに追加して、スプラッシュ画面、ポインタ、および背景などに使用することができます。
- ロールオーバーキャプション: ロールオーバーキャプションは、画像とロールオーバー領域 ("ホット" 領域) から構成されています。ロールオーバーキャプションは、ユーザーが実行時に "ホット" 領域上にマウスを動かすと表示されます。
- ロールオーバー画像: ロールオーバー画像は、画像とロールオーバー領域 ("ホット" 領域) から構成されています。ロールオーバー画像は、ユーザーが実行時に "ホット" 領域上にマウスを動かすと表示されます。
- アニメーション: アニメーションを追加することによって、既にある情報を使いながら、Captivate ムービーにコンテンツと興味深さを追加できます。アニメーション化された GIF ファイル、SWF ファイル、FLA ファイル、および AVI ファイルを読み込むことができます。
- テキストアニメーション: Captivate のテキストアニメーションをムービーに取り入れて、プロジェクト自体の質を向上し、プロフェッショナルな外観を提供します。アニメーション化されたテキストは、ムービーの最初のスライドおよび最後のスライドで、特に効果を発揮します。

下記のオブジェクトのすべてが、ムービーにインタラクティビティを持たせます。

- クリックボックス: クリックボックスは、インタラクティビティを向上する、クリックできるボックスのことです。ユーザーがメニューやボタンをクリックして、アプリケーション機能を疑似体験することにも使用できます。
- テキスト入力ボックス: テキスト入力ボックスを使用すると、Captivate ムービーの対話性を簡単に向上させることができます。たとえば、テキスト入力ボックスを使って、クイズの出題ができます。
- ボタン: ボタン は、Captivate ムービーのインタラクティビティを向上させます。必要に応じて追加し、サイズ変更およびスライド上での位置変更ができます。

オブジェクトを読み込む

1つの Captivate ムービーから別のムービーに、画像、キャプション、音声、ボックスなどのオブジェクトを読み込むことができます。この機能は、2つの状況で活用できます。1つめの状況は、既存のムービーを削除するとき、そのオブジェクトを他のムービーに追加する場合です。2つめの状況は、ムービーのスライドを作成し直すとき、既存のオブジェクトを保持して時間を節約する場合です。

1つの Captivate ムービーから別のムービーにオブジェクトを読み込むには：

1. 既存のオブジェクトを追加する Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル]メニューから[読み込み・書き出し]-[他の Captivate プロジェクトからスライドまたはオブジェクトを読み込み]を選択します。
3. 読み込むオブジェクトを含むムービーを選択し、[開く]をクリックします。
[プロジェクトを読み込む]ダイアログが表示されます。
4. 現在のムービーに追加するオブジェクトを選択します。各スライドの[読み込み]の横にあるポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。スライドバー、左向き矢印、および右向き矢印を使って、ムービー内のスライド間を移動します。[すべて選択]をクリックすると、ムービー内のすべてのオブジェクトを選択します。[すべてクリア]をクリックすると、ムービー内にあるすべてのオブジェクトの選択を解除します。オブジェクトのみを読み込むには、[オブジェクトのみ]オプションを選択します。
[オブジェクトのみ]オプションを選択すると、現在のムービー内のどのスライドにオブジェクトを追加するかを、正確に指定することができます。[オブジェクトを配置する]の横にあるポップアップメニューを使って、現在のムービーのスライド番号を選択します。
5. 完了したら、[OK]をクリックします。
開いているムービーにオブジェクトが追加されます。
6. 編集ビューからスライドを開いて、オブジェクトが読み込まれたことを確認します。

オブジェクトを複製する

編集ビューで作業中にオブジェクトを複製できます。オブジェクトの複製は、コンテンツを再使用する簡単な方法です。たとえば、特に詳細なキャプションを複製し、テキストを多少変えれば、ムービーにより多くの情報をすばやく追加することができます。

オブジェクトを複製するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 複製するオブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. オブジェクトを右クリックし、[複製]を選択します。
選択したオブジェクトが複製され、新しいオブジェクトがスライドに配置されます。新しいオブジェクトは元のオブジェクトと同様に編集や作業を行うことができます。

オブジェクトをコピーして貼り付ける

キャプション、ハイライトボックス、クリックボックスなど、一度作成したオブジェクトは、コピーして同じスライド内やムービー内の異なる1つのスライドに貼り付けたり、ムービー内の複数のスライドに同時に貼り付けることができます。これはとりわけ、特定のサイズ、色、および書式を備えた複雑なオブジェクトを作成する場合、時間を削減することができます。

ヒント：異なるムービー間でオブジェクトをコピーおよび貼り付けることができます。

オブジェクトをコピーして別のスライドに貼り付けるには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. コピーするオブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. オブジェクトを右クリックします。
4. コンテキストメニューから [コピー] を選択します。
5. オブジェクトのコピー先のスライドを開きます。フィルムストリップが表示されたら、任意のスライド上でクリックできます。または、[ストーリーボード] タブをクリックし、個々のスライドをダブルクリックします。
6. 右クリックして、メニューから [オブジェクトを貼り付け] を選択します。

オブジェクトをコピーして複数のフレームに貼り付けるには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. コピーするオブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. オブジェクトを右クリックします。
4. コンテキストメニューから [コピー] を選択します。
5. オブジェクトのコピー先スライドを選択します。連続しているスライドを選択するには Shift キーを押したままクリックします。連続していないスライドを選択するには、Ctrl キーを押してクリックします。フィルムストリップまたは [ストーリーボード] タブを使用できます。
6. 再度右クリックして、メニューから [オブジェクトを貼り付け] を選択します。

他のプロジェクトからオブジェクトをコピーして貼り付ける

他のプロジェクトのオブジェクトをコピーおよび貼り付けることができます。これにより、かなりの時間をかせぐことができます。たとえば、特に詳細なオブジェクトを他のムービーで作成した場合、そのオブジェクトをコピーして、作成した新しいムービーに貼り付けることができます。

他のプロジェクトのオブジェクトをコピーするには：

1. コピーするオブジェクトを含む Captivate ムービーを開きます。
2. オブジェクトを右クリックします。
3. コンテキストメニューから [コピー] を選択します。

他のプロジェクトのオブジェクトを貼り付けるには：

1. 上記の手順でコピーしたオブジェクトを追加する Captivate ムービーを開きます。
2. オブジェクトを追加するスライドを右クリックします。

3. コンテキストメニューから [貼り付け] を選択します。

ヒント : 1つまたは複数のオブジェクトを他のムービーにインポートすることもできます。

オブジェクトを揃える

スライド上に複数のオブジェクトがある場合、Captivate が自動的にオブジェクトを完全に整列します。これにより、正確で洗練されたムービースライドを簡単に作成できます。

RoboDemo には、オブジェクト垂直方向および水平方向に整列する数多くのオプションが備わっています。整列オプションの中には、アンカーオブジェクトの場所に依存するものもあります。アンカーオブジェクトとは、最初を選択したオブジェクトのことです。一番大きなオブジェクト、または最初に表示されるオブジェクトをアンカーオブジェクトにしても構いません。こうすると、アンカーオブジェクトを簡単に識別できます。アンカーオブジェクトには白いサイズ変更ハンドルが、それ以外のオブジェクトには黒いサイズ変更ハンドルが表示されます。

スライド内の複数のオブジェクトを整列するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 2つのキャプションなど、複数のオブジェクトを含むスライドを開きます。または、スライドを開き、複数のオブジェクトをスライドに追加することもできます。
3. 整列ツールバーが表示されていない場合は、[表示] メニューをクリックし、[整列ツールバー] を選択します。
4. スライド上の複数のオブジェクトを選択するには、Shift キーを押さながら個々のオブジェクトをクリックしてください。
5. 整列ツールバーの整列オプションをクリックします。

ヒント : マウスを動かすと、Captivate プロジェクトウィンドウの右下隅に、マウスの x (水平) および y (垂直) 座標値が自動的に表示されます。正確な座標値がわかると、オブジェクトをスライド内で正確に配置する場合に便利です。オブジェクトを整列する際は、グリッドを表示するのに役立ちます。

ヒント : キーボードだけを使ってオブジェクトを移動することもできます。オブジェクトを選択し、キーボードの矢印キーを押すと、1ピクセルずつ移動できます。グリッドに定義されたピクセルの倍数で項目を移動するには、オブジェクトを選択して Ctrl + 矢印キーを押します。

タイムライン上でオブジェクトを調整する

タイムラインでは、オブジェクトを簡単に調整することができます。たとえば、オブジェクトをプレイヘッドに、スライドの開始時に、スライドの終了時に、別のオブジェクトに、または特定の時間に合わせることができます。

Captivate タイムラインを表示するには :

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 調整するオブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. [タイムライン] がまだ開いていない場合は、スプリッターバーの上をクリックして [タイムライン] を表示します。[タイムライン] を展開させるには、表示矢印をクリックします。

オブジェクトをプレイヘッドに合わせるには：

- [タイムライン] 上のオブジェクトを右クリックして、[プレイヘッドと同期化] を選択します。

オブジェクトをスライド開始時に合わせるには：

- [タイムライン] 上のオブジェクトをクリックして、[タイムライン] の左端にドラッグします。

スライド終了時までオブジェクトの再生時間を延長するには：

- [タイムライン] 上のオブジェクトを右クリックして、[残りのスライドで表示] を選択します。

オブジェクトを特定の時間に合わせるには：

- [タイムライン] 上のオブジェクトをクリックして左右にドラッグし、ヘッダーに表示されている時間とオブジェクトバーの左端を正確に合わせます。

たとえば、現在スライドと同じタイミングで表示しているキャプションを少し遅らせて表示したい場合は、キャプションをドラッグして左端をヘッダーの 2s (2 秒遅れ) または 4s (4 秒遅れ) に合わせます。

ヒント：複数のオブジェクトを同時に選択して移動することができます。連続して重なっている複数のオブジェクトを選択するには Shift キーを押したままオブジェクトをクリックします。一方、連続していない複数のオブジェクトを選択するには、Ctrl キーを押して移動するオブジェクトをクリックします。

ヒント：[タイムライン] のズームレベルは、簡単に調整することができます。[タイムラインルーラー] をクリックして、ご使用のマウスのホイールを回転すると、ズームレベルを拡大縮小します。また、キーを押してズームレベルを変更することもできます。ルーラーをクリックして、CTRL + [を押すとズームレベルが縮小し、CTRL +] を押すとズームレベルを拡大します。また、CTRL + W を押すと、現在の [タイムライン] の幅に合わせて、すべてのオブジェクトが入るズームレベルに設定します。

オブジェクトの表示順序を変更する

Captivate ではキャプション、ハイライトボックス、アニメーション、または画像など、複数のオブジェクトをスライドに追加できます。オブジェクトの表示順序も指定できます。タイムラインでは、スライド上にあるすべてのオブジェクトのタイミングを、正確に調整することができます。

タイムラインを使用してキャプションの順序を変更するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 順序を変更したいオブジェクトがあるスライドに移動します。
3. タイムラインがまだ開いていない場合は、スプリッターバーの上をクリックして、タイムラインを表示します。[タイムライン] を展開させるには、表示矢印をクリックします。
4. 必要に応じて、オブジェクトの順序やタイミングを変更します。

サイズ変更カーソルが表示されるまで、タイムライン上のオブジェクトの左端または右端にマウスを移動させます。その後、端を右か左にドラッグします。これにより、オブジェクトをいつ、どのくらいの時間表示するかを変更します。

現在、スライドとオブジェクトが同じ時間表示される設定になっていて、そのオブジェクトを少し遅れて表示したい場合は、ハンドカーソルが表示されるまでマウスをオブジェクトの中央に移動させます。そして、オブジェクト全体をドラッグしてキャプションの左端がヘッダーの 2 秒 (2 秒遅れ)、または 4 秒 (4 秒遅れ) の位置まで移動させます。

5. スライド上で 2 つのオブジェクトがオーバーラップしている場合、オブジェクトの重なっている順序を設定して、前に表示するオブジェクトを選択します。重なっている順序の変更では、オブジェクトをスライドステージで前後に移動させます。重要な点は、ステージの一番後ろにあるオブジェクトは、他のオブジェクトよりも後ろに表示されることです。重なり順序を設定するには、以下のいずれかの方法で行います。
- 編集ビューで、スライド上のオブジェクトキャプションを右クリックして、オブジェクトの順序オプションのいずれかを選択します。必要に応じて、他のオブジェクトも右クリックして、順序を調整します。
 - 編集ビューの [タイムライン] で、ハンドカーソルが表示されるまでマウスをオブジェクトの上に移動させます。その後、オブジェクトを上下にドラッグして、重なっている順序の位置を変更します。オブジェクトを上に移動させると、重なっている順序はステージの前に移動します。また、オブジェクトを下に移動させると、重なっている順序はステージの後ろに移動します。

複数のオブジェクトのサイズを変更する

キャプション、ハイライトボックス、クリックボックスなど、スライド上に複数のオブジェクトがある場合、すべてのオブジェクトのサイズを同時に変更できます。オブジェクトは正確な寸法に、またはオブジェクト同士相対的にサイズ変更できます。

複数のオブジェクトをサイズ変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 2 つのキャプションなど、複数のオブジェクトを含むスライドを開きます。または、スライドを開き、複数のオブジェクトをスライドに追加することもできます。
3. 複数のオブジェクトを選択するには、Shift キーを押さえながら個々のオブジェクトをクリックしてください。
4. [編集]メニューから [サイズ] を選択するか、または選択したオブジェクト上を右クリックして [サイズ] を選択します。
5. 幅と高さを選択します。

幅

変更なし：選択したオブジェクトの幅をそのまま保持する場合に選択します。

最小まで縮小：選択したオブジェクトの幅を一番小さいオブジェクトの幅に合わせて変更する場合に選択します。

最大まで拡大：選択したオブジェクトの幅を一番大きなオブジェクトの幅に合わせて変更する場合に選択します。

カスタム幅：選択したオブジェクトの幅を正確に設定する場合に選択します。新しい幅の数値を入力するか、矢印を使って数値を設定します。

高さ

変更なし：選択したオブジェクトの高さをそのまま保持する場合に選択します。

最小まで縮小：選択したオブジェクトの高さを一番小さいオブジェクトの高さに合わせて変更する場合に選択します。

最大まで拡大：選択したオブジェクトの高さを一番大きなオブジェクトの高さに合わせて変更する場合に選択します。

カスタム高さ : 選択したオブジェクトの高さを正確に設定する場合に選択します。

新しい高さの数値を入力するか、矢印を使って数値を設定します。

6. 完了したら [OK] をクリックします。

ヒント : マウスを動かすと、Captivate プロジェクトウィンドウの右下隅に、マウスの x (水平) および y (垂直) 座標値が自動的に表示されます。正確な座標値がわかると、オブジェクトをスライド内で正確に配置する場合に便利です。

オブジェクトをグリッドに揃える

Captivate ではオプションとして、編集ビューで個々のスライドを操作中にグリッドを表示することができます。グリッドを使用すると、より正確にオブジェクトをスライド上に配置および位置を決定できます。

[グリッドに合わせる] オプションを選択すると、オブジェクトを近くのグリッド線に自動的に ナップ させることができます。

編集ビューでグリッドを表示するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. いずれかのスライドをダブルクリックして、編集ビューを開きます。
3. [表示] メニューから [グリッドの表示] を選択します。

グリッドが薄い点線でスライド上に表示されます。

[グリッドに合わせる] オプションを使用するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. いずれかのスライドをダブルクリックして、編集ビューを開きます。
3. [表示] メニューから [グリッドに合わせる] を選択します。
4. この機能をテストするには、ハイライトボックスなどのオブジェクトをスライドに追加し、ボックスを移動します。移動する際、ボックスが自動的にグリッド線に揃えて配置されます。

グリッドのサイズを変更するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [オプション] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [グリッドのサイズ] に新しい数値を入力します。より大きい数字はグリッドラインを少なめに表示し、より小さい数字は、オブジェクトを正確に配置するために、より多くのグリッドラインを表示します。

ヒント : マウスを動かすと、Captivate プロジェクトウィンドウの右下隅に、マウスの x (水平) および y (垂直) 座標値が自動的に表示されます。正確な座標値がわかると、オブジェクトをスライド内で正確に配置する場合に便利です。

ヒント : キーボードだけを使ってオブジェクトを移動することもできます。オブジェクトを選択し、キーボードの矢印キーを押すと、1ピクセルずつ移動できます。グリッドに定義されたピクセルの倍数で項目を移動するには、オブジェクトを選択して Ctrl + 矢印キーを押します。

ヒント : また、オプションメニューをクリックして [環境設定] を選択しても、[グリッドの表示] および [グリッドに合わせる] オプションを使用できます。

オブジェクトをスライドにマージする

画像、キャプション、クリックボックス、ハイライトボックス、テキスト入力ボックス、ボタンなど、スライド上に作成および配置するすべてのオブジェクトは、スライドにマージすることができます。マージをすると、オブジェクトは永久に削除され、スライドの一部になります。

マージは、さまざまな状況で便利な機能です。たとえば、大きな画像を他のオブジェクトを含むスライドに読み込む場合、画像をスライドにマージして、オブジェクトの背景に使用することができます。キャプションスタイルが "transparent" のテキストキャプションを作成して、そのキャプションをスライドにマージすると、テキストは永久にスライドの一部になります。

オブジェクトをスライドにマージするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. マージするオブジェクトを含むスライドをダブルクリックします。
3. スライドにマージするオブジェクトを右クリックします (例: 画像、キャプション、クリックボックス)。
4. ポップアップメニューから [背景にマージ] を選択します。
5. マージが "元に戻す" ことのできない操作であることを伝え、マージの確認を求める警告が表示されます。[はい] をクリックします。

オブジェクトがスライドにマージされます。

第 12 章

ムービーを編集する

Captivate プロジェクトを記録または作成した後、多くの編集オプションを使用できます。

ムービーのサイズを決定する

場合によっては、ムービーの正確な幅と高さを知る必要があります。ムービーをどのようにパブリッシュし表示するかを決定する際には、この情報がたいへん重要になります。

ムービーのサイズを決定するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [ムービーサイズ変更] を選択します。

[サイズ] には、ムービーの幅と高さがピクセル値で表示されます。

メモ：必要に応じて、[ムービーサイズ変更] ダイアログボックスで、ムービーのサイズを変更することもできます。ムービーは拡大または縮小することが可能です。

ムービーまたはテンプレートを削除する

Captivate ムービープロジェクト (CP ファイル) またはテンプレート (CPTL) は、随時削除することができます。Captivate ムービーまたはテンプレートが作成されると、デフォルトで以下の場所に保存されます。

- ムービーの保存場所：¥My Documents¥My Captivate Projects
- テンプレートの保存場所：¥My Documents¥My Captivate Projects¥Templates

ムービーまたはテンプレートを削除するには：

1. Windows エクスプローラを開きます。
2. Captivate ムービーまたはテンプレートのある場所に移動します。デフォルトの保存場所は上記を参照してください。
3. ムービーまたはテンプレートを右クリックして、[削除] を選択します。

メモ：Captivate スタートページの [最近のムービーを開く] 一覧は、ムービーを 10 作品まで表示します。

メモ：ご使用のコンピュータからムービーを削除せずに、スタートページからムービーを非表示にすることができます。

ムービーを非表示にする

Captivate のスタートページで、ムービーを非表示にすることができます。ムービーは、ご使用のコンピュータのマイドキュメント内の "My Captivate Projects" フォルダに保存されたまま、Captivate を開いたときのスタートページでは表示されなくなります。これは、保持したいムービーであっても、Captivate を開くたびに表示する必要がない古いムービーがある場合に便利なオプションです。

スタートページでムービーを非表示にするには：

1. Captivate を起動します。
2. [最近のムービーを開く] で、ムービーを右クリックして [ムービーの非表示] を選択します。

メモ： Captivate スタートページの [最近のムービーを開く] 一覧は、ムービーを 10 作品まで表示します。

ムービーをプレビューする

Captivate ムービーの作成時に、プレビューすることができます。ユーザーに表示される状態でムービーを見ることができます。

ムービーをプレビューするには：

1. Captivate を開きます。
2. プレビューする Captivate ムービーを開きます。
3. いずれかのスライドをダブルクリックして、編集ビューを開きます。ストーリーボードビューからでもプレビューはできますが、利用できるプレビューオプションが少なくなります。
4. ツールバーの [プレビュー] をクリックして、以下のオプションのいずれかを選択します。

このスライドを再生する：現在のスライドのみをプレビューする場合に選択します。

ムービー：最初から最後までムービー全体をプレビューする場合に選択します。

このスライドから：現在のスライドからムービーの最後までをプレビューする場合に選択します。

次のスライド 5 枚：現在のスライドおよび次のスライド 4 枚のみをプレビューする場合に選択します。

Web ブラウザ：Internet Explorer、Netscape、Opera などの、デフォルト Web ブラウザでムービーをプレビューする場合に選択します。

5. Captivate はムービーを生成し、プレビューウィンドウで表示します。

ヒント： タイムラインを使用して、単一のスライドをプレビューすることもできます。

ムービーの名前を変更する

Captivate ムービープロジェクト (CP ファイル) は、Windows エクスプローラを使用して、随時名前を変更することができます。

Captivate ムービーを作成すると、デフォルトで、"マイドキュメント" フォルダ内の "My Captivate Projects" フォルダに保存されます。ムービーは任意の場所に保存することができます。

ムービーの名前を変更するには：

1. Windows エクスプローラを開きます。
2. 名前を変更する Captivate プロジェクト (CP ファイル) に移動します。
3. CP ファイル上を右クリックし、[名前の変更] を選択します。
4. ムービーの新しい名前を入力して、Enter キーを押します。

ムービーのサイズを変更する

Captivate ムービーは、記録した後からでもサイズを変更することができます。これは、ムービー全体を再び記録しなくて済むため、たいへん便利な機能です。たとえば、ムービーを幅 640 ピクセル、高さ 480 ピクセルで記録した後で、少しサイズを小さくする、または大きくする必要がある場合などに使用できます。

メモ：ムービーのサイズ変更は、ツールバーのボタンや Ctrl + Z などのキーコンビネーションで元に戻すことはできません。

メモ：ムービーのサイズを何度も変更すると、結果として質の低下を招くことがあります。できる限り、ムービーのサイズ変更は一度のみにします。

ムービーのサイズを変更するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [ムービーサイズ変更] を選択します。
3. [サイズ] で、カスタムサイズの [幅] と [高さ] (最小サイズ 100 × 100) をピクセル値で入力します。または、現在のサイズを 100% として、[幅] と [高さ] の希望するサイズをパーセンテージで入力します。たとえば、ムービーを少し大きくしたい場合は 110% を入力し、ある程度小さくしたい場合は 50% を入力します。また、[規定サイズ] オプションを選択して、640 × 480 など、一般によく使用されるサイズをポップアップメニューから選択することもできます。

必要に応じて、[縦横比の維持] オプションを選択し、画像のサイズが変更されたときでも高さや幅の比率を維持します。このオプションを使うと、画像が歪まずに正しく表示させることができます。

4. 新しいサイズを元のサイズより大きくするか、または小さくするかによって、違ったオプションを利用できます。

新しいサイズが大きい場合

新しいサイズに合わせてムービーをサイズ変更：このオプションでは、ムービー全体が指定した大きなサイズに変更されます。ムービー内のオブジェクトを拡大縮小するには、キャプション、ハイライトボックス、およびその他のオブジェクトを拡大縮小するオプションを選択します。

ムービーは同じサイズに保持し、背景を塗りつぶす：このオプションでは、ムービー自体のサイズはそのままにし、ムービーの背景を指定したサイズに変更します。たとえば、元のサイズが 550 × 400 ピクセルのムービーに、新しいサイズ 640 × 480 ピクセルを指定したとします。このオプションを使用すると、ムービー自体は 550 × 400 ピクセルのままで、ムービーの周りに 90 × 80 ピクセルの余白が作られます。背景には希望する色を選択できます。また、中央、右上端など、ムービーの位置も選択することもできます。

キャプション、ハイライトボックス、または他のオブジェクトのサイズを変更する：キャプション、ハイライトボックス、クリックボックス、およびテキスト入力ボックスなど、ムービー内にあるすべてのオブジェクトを、新しい小さいサイズに合わせて自動的にサイズを変更する場合に選択します。

新しいサイズが小さい場合

サイズ変更: このオプションは、ムービーのサイズを変更して、高品質のムービーを提供します。ムービー内のオブジェクトを拡大縮小するには、キャプション、ハイライトボックス、およびその他のオブジェクトを拡大縮小するオプションを選択します。

トリミング: ムービーを新しいサイズにトリミングします。トリミング後に背景の一部が見える場合、[トリミング塗りつぶし] をクリックして、背景色を選択することができます。トリミングオプションを選択した場合は、[次へ] をクリックして [トリミング領域] ダイアログボックスを開き、トリミング領域の定義をします。

キャプション、ハイライトボックス、または他のオブジェクトのサイズを変更する: キャプション、ハイライトボックス、クリックボックス、およびテキスト入力ボックスなど、ムービー内にあるすべてのオブジェクトを、新しい小さいサイズに合わせて自動的にサイズを変更する場合に選択します。

5. [完了] をクリックします。

選択したオプションどおり、ムービーのサイズが変更されます。

ムービーを保存する

ムービーを作成しているとき、定期的に保存することをお勧めします。作業した部分を保存してあれば、システムに問題が発生した場合にも保護することができます。ムービーは随時手動で保存できますが、Captivate では、自動保存を設定することもできます。

ムービーを手動で保存するには:

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ツールバーの [保存] をクリックします。

ムービーを自動的に保存するには:

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [オプション] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [自動オプション] で、[自動保存を有効化] を選択します。緑のチェックマークがオプションの横に表示されます。
4. ムービーを自動保存する間隔を分単位で設定します。数値を入力するか、矢印を使って数値を設定してください。
5. [OK] をクリックします。

メモ: 最初にムービーを保存するときは、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。ファイルを保存するフォルダに移動して、ファイル名を入力します。デフォルトで、ムービーは "マイドキュメント" フォルダ内の "My Captivate Projects" フォルダに保存されます。Captivate を起動させると、"My Captivate Projects" フォルダにあるムービーは、スタートページの一覧に自動的に表示されます。このデフォルトの場所に保存するか、または別の場所を参照します。

背景色を設定する

ムービーの背景色を指定することができます。スライドタイプおよびスクリーンショットのキャプチャ方法によっては、背景色がすべてのスライドに表示されたり表示されなかったりする場合があります。

背景色を設定するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [環境設定] タブをクリックします。
4. [ムービーの背景色] の横のボックスをクリックして、[カラー] ダイアログボックスを開きます。
5. 好みの色を選択して、[OK] をクリックします。
6. もう一度 [OK] をクリックします。

ムービー環境を設定する

ムービーのさまざまな環境を設定することができます。環境設定は、現在開いているムービーにのみ適用され、ムービーごとに違った環境を設定することができます。

ヒント：ムービーの環境を設定して、それと同じ環境を将来別のムービーに使用したい場合、下記の要領で簡単にできます。空白のムービーを作成し、以下の手順に従って環境を設定します。その後、その空白のムービーをテンプレートとして保存します。新しいテンプレートを使って、必要な数だけムービーを作成することができます。

環境を設定するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
[ムービー環境設定] ダイアログボックスが表示されます。
3. 必要に応じて次のタブで変更を行います。

[開始および終了]

ロード画面：ムービーの最初に読み込み画面を表示します。ムービーの最初のスライドが大きい場合、または音声を含んでいて表示されるまでに時間がかかる場合などに、ロード画面は便利です。[参照] をクリックして、画像を選択します。

メモ：Captivate には、数種類のロード画面用の画像が含まれています。また、カスタム画像を作成することもできます。カスタム画像をロード画面のオプションで使用するには、Windows エクスプローラを使って、画像を C:\Program files\Macromedia\Captivate\Gallery\Preloaders にコピーします。サポートされるファイル形式は JPG、JPEG、GIF、PNG、BMP、ICO、EMF、WMF、および SWF です。

パスワード保護されたムービー：このオプションは、ユーザーがムービーを見る前に入力するパスワードを設定します。[参照] をクリックして、パスワードの設定およびユーザーへのメッセージを入力します。

ムービーの期限日：ムービーの有効期限が切れる日付を設定します。有効期限が切れたムービーは表示できなくなります。

メッセージ 1 行目：有効期限メッセージを入力します。このメッセージは、ムービーが上にあるオプションで設定した有効期限に達した後、ユーザーがムービーを表示しようとしたときに表示されます。

メッセージ 2 行目：必要に応じて、有効期限メッセージ 2 行目を入力します。

最初のスライドをフェードインする : ムービーの最初のスライドをゆっくりフェードインします。

アクション : ポップアップメニューをクリックして、ムービー完了後のアクションを選択します。

- ムービーを停止 : 一度再生した後、ムービーを停止します。
- ムービーを繰り返す : ムービーを連続的に再生します。終わりに達すると、ムービーが再び始まります。
- ムービーを閉じる : ムービーの終わりにブラウザウィンドウを閉じます。
- URL またはファイルを開く : ムービーの終わりに開く URL またはファイルを指定します。

URL をロードするには、Web サイトの完全なパスを入力します (例 : <http://www.website.com>)。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。

ファイルを開くには、[参照] でファイルを参照して選択し、[開く] をクリックします。ポップアップメニューをクリックして、ファイルを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。

- JavaScript を実行する : 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- 他のムービーを開く : 現在のムービーが終わるとき、別のムービーを開きます。[参照] をクリックし、ムービーファイル (SWF、RD、または CP) を選択して、[開く] をクリックします。ポップアップメニューをクリックして、ファイルを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る : デフォルトの電子メールブラウザを開き、ムービーが終わるときに電子メールでメッセージを送るオプションです。完全な電子メールアドレスを入力します (例 : jdoe@companyzyx.com)。

最後のスライドをフェードアウトする : ムービーの最後のスライドをゆっくりフェードアウトします。

[環境設定]

ムービーの高度圧縮 : このオプションは、スライド間で共有するスライドデータを圧縮して、ファイル全体のサイズを小さくします。

メモ : 状況によっては、Macromedia Flash に読み込んだとき、圧縮されたムービーが正しく表示されない場合があります。このような場合は、ムービーの高度圧縮を選択しないでください。圧縮オプションを選択しない場合、ファイルサイズは大きくなります。

コンパイルした SWF ファイルを圧縮する : SWF ファイルを圧縮し、サイズを小さくします。小さい SWF ファイルは、とりわけ旧式のコンピュータで簡単に再生、開く、電子メールでの送信ができます。圧縮した SWF ファイルは Macromedia Flash 6 またはそれ以降でのみ使用できます。これより前のバージョンの Flash では圧縮した SWF ファイルを再生できません。

Breeze メタデータを含む : Macromedia Breeze に簡単にプロジェクトを統合できるようにする情報を Captivate プロジェクトファイル (SWF) に追加するには、このオプションを選択します。埋め込まれたデータは、プロジェクトを Breeze サーバーにパブリッシュするときに Captivate CP ファイルを SWF ファイルにリンクし、Breeze で行われる検索中に、Captivate 出力ファイルを見つけやすくなります。

メモ:[Breeze メタデータを含む] オプションは、デフォルトでオンになっています。このオプションを選択すると、プロジェクトのサイズが大きくなります。Macromedia Breeze でプロジェクトを使用しない場合は、このオプションの選択を解除し、完成したプロジェクトファイル (SWF) のサイズを減らすことができます。ただし、出力ファイル (SWF) を Breeze で使用する可能性がある場合は、[Breeze メタデータを含む] オプションを選択することをお勧めします。

第 508 条準拠: 第 508 条に準拠し、障害のあるユーザーがアクセス可能な Captivate プロジェクトを作成する必要がある場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、プロジェクトがスクリーンリーダーに読まれやすくなります。

1 秒あたりのフレーム数: このオプションでは、1 秒あたりの Flash フレーム数を設定します。ほとんどの場合に適する、1 秒あたり 30 フレームにデフォルトで設定されています。たとえば、デフォルト設定では、1 秒間のキャプションには 30 の Flash フレームが必要になります。ムービーのフレーム数を 30 で除算すると、ムービーの再生時間 (秒数) になります。Captivate SWF をフレームレートが 30 以外の別の SWF ファイルに埋め込むときは、レートを変更する必要がある場合もあります。

ムービーの背景色: このオプションでは、ムービーの背景色を指定します。スライドのタイプおよびスクリーンショットのキャプチャ方法によっては、背景色がすべてのスライドに表示されない場合があります。カラーボックスをダブルクリックして [色の設定] ダイアログボックスを開き、新しい色を選択します。

JPEG 画質: JPEG 画質のレベルを指定します。ムービーで使用する画像によっては、この設定を調整できます。JPEG 画像は詳細で多数の色を含んでいることが多く、画質レベルを大幅に下げると見た目にも明らかになります。パーセンテージが高いほど、画質が高くなりますが、ファイルサイズは大きくなります。矢印をクリックして、画質のレベルを示す数字を選択して変更します。

音質: ムービーに含まれる音質のレベルを指定します。高い質に設定すると、ファイルサイズは大きくなります。

メモ: 高い質の設定を選択すると、音声のファイルサイズは大きくなります。しかし、音声の質を顕著に高くしたとき、ファイルサイズも同時に大幅に大きくなるとは限りません。違った音質のレベルを試して、最適な設定を見つけます。

ムービー生成時、マウスを含める: これは、記録したマウスの動きをムービーに含めるオプションです。

ムービー生成時、音声を含める: ムービーに追加した音声ファイルを含めるオプションです。

ムービー生成時、タイプを打つ音声を再生する: 最終的なムービーで、タイプを打つ音声を再生するオプションです。たとえば、電子メールのメッセージが送られる模様を記録していて、電子メールの受取人のアドレスを入力する場合、タイプしているときの音を録音し、このオプションを使用してキーを押すたびにその音を再生できます。

[再生コントロール]

位置: 再生コントロール ボタンを配置する画面上の場所を選択します。ポップアップメニューをクリックして、オプションを選択します。

スタイル: 再生コントロール ボタンのスタイルを選択します。スタイルは再生コントロールボタンの外観だけでなく、実際にどのボタンが表示されるかにも関連しています。スタイルによってはボタンの数が多くなります。スタイルをクリックすると、プレビューウィンドウに選択した再生コントロールが表示されます。

進行状況を表示: このオプションは、上の [スタイル] ポップアップメニューで、進行状況表示バーを含む再生コントロールを選択した場合にのみ表示されます。ムービーの進行状況をグラフィックで示す進行状況バーを表示する場合は、このオプションを選択します。

[バックグラウンド音声]

再生 : クリックして音声ファイルを再生します。

停止 : クリックして音声ファイルの再生を停止します。

削除 : クリックしてバックグラウンド音声ファイルを削除します。

編集 : [音声を編集] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、静寂の挿入および音量調節など、いろいろな方法で音声ファイルを編集します。

音声 : 音声ファイルのファイル名を表示します。

新しく記録 : クリックすると、[音声の記録] ダイアログボックスが開きます。録音するにはいくつかの基本的な音響機器が必要です。

読み込み : [音声の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、音声ファイルを参照して読み込むことができます。

音声ライブラリ : クリックして、[音声ライブラリ] を開きます。[音声ライブラリ] は、現在開いている Captivate ムービーの一部になっている、すべての音声ファイルを一覧表示します。

フェードイン (秒) : 音声フルボリュームまでフェードインするときの秒数を指定します。数値を入力するか、矢印を使って数値を設定します。

フェードアウト (秒) : 音声が静寂になるまでフェードアウトするときの秒数を指定します。数値を入力するか、矢印を使って数値を設定します。

音声を追加したスライド上ではバックグラウンド音声の音量を下げる : 他に音声ファイルがあるスライドで、バックグラウンド音声のボリュームを落とす場合には、このオプションを選択します。

音声を繰り返す : ムービーの再生時、音声ファイルを繰り返し再生する場合は、このオプションを選択します。これは、ムービーより音声ファイルの方が短い場合に便利です。

ムービー終了時にムービーを停止する : ムービーの終わりに音声ファイルの再生を停止する場合、このオプションを選択します。

4. [OK] をクリックします。

ロード画面を追加する

ムービーの最初にロード画面を追加できます。ムービーの最初のスライドが大きい場合、または音声を含んでいて表示されるまでに時間がかかる場合などに、ロード画面は便利です。

Captivate には、数種類のロード画面用の画像が含まれています。また、カスタム画像を作成することもできます。カスタム画像をロード画面のオプションで使用するには、Windows エクスプローラを使って、画像を ProgramFiles¥Macromedia¥Captivate ¥Gallery¥Preloaders にコピーします。

ロード画面として使用する SWF ファイルを作成することもできます。Captivate の "Preloaders" フォルダには、"DefaultPreloader" という名前の単純な SWF ファイルおよび FLA ファイルがあります。これらのファイルをテンプレートとして使用して独自の SWF ファイルを作成できます。カスタムロード画面を追加すると、SWF ファイルの主なタイムライン上に存在する場合は次の関数を呼び出します。

```
function initialize(movieWidth:Number,  
movieHeight:Number)  
function  
onProgress(loadedBytes:Number,totalBytes:Number)  
function isDone():Boolean
```


ロード画面を追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [開始および終了] タブをクリックします。
4. ロード画面を選択します。"Preladers" フォルダからファイルを選択します。ロード画面オプションを選択し、ファイルを指定しない場合は、"DefaultPreloader" ファイルが使用されます。

ムービーのプロパティを設定する

ムービーのプロパティを設定するとき、一般的なムービー情報を指定します。この情報は、すべての再生コントロールに含まれる [情報] ボタンから、ユーザーも見ることができます。

障害のあるユーザーにもアクセシブルな、第 508 条規格準拠のムービーを作成している場合、ムービーのプロパティを設定することは重要です。

ムービーのプロパティを設定するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [プロパティ] を選択します。
3. 次のテキストボックスに、必要に応じて情報を入力します。

ムービーの名前：固有かつ記述的なムービー名を入力します。

作成者：ムービー作成者の名前。

会社：会社または団体の名前。

電子メール：電子メールアドレス。通常、会社または団体の一般的な電子メールアドレスを入力します。該当する場合は、技術サポート部の電子メールアドレスを入力します。

Web サイト：会社または団体の Web アドレス (URL)。

著作権：ムービーに関する重要な著作権情報をすべて入力します。

説明：ムービーの内容に関する簡単な説明を入力します。たとえば、「このムービーは製品 "XYZ" の概要です。」と入力します。

4. [OK] をクリックします。

カスタムのキーボード打ち込み音について

Captivate には、ムービーの記録中にキーボードの打ち込み音を記録する機能が含まれています。キーボード打ち込み音は含めることも除外することもできます。カスタムキーボード打ち込み音を作成することもできます。

カスタムのキーボード打ち込み音を使用するには：

1. キーボード打ち込み音を作成するか、既存の MP3 ファイル (たとえば Windows 音声ファイルの 1 つ) を使用します。
2. 新しい音声ファイルに "KeyClick.mp3" と名付けます。
3. ファイルを保存し、ファイルを保存する場所を覚えておきます。

4. Windows Explorer を使用して、Captivate の音声エフェクトフォルダを参照します。デフォルトの場所は C:\Program Files\Macromedia\Captivate\Gallery\SoundEffects です。
5. "KeyClick.mp3" というファイルを見つけます。これは、Captivate のデフォルトのキーボード打ち込み音ファイルです。

メモ：ファイルを上書きする前に、必要に応じて後で使用できるように元のファイルをコピーしてバックアップフォルダに置くことができます。

6. 上記の手順 3 の場所から新しいキーボード打ち込み音をコピーし、Captivate の音声エフェクトフォルダにペーストします。
7. キーボード打ち込み音オプションが選択されていることを確認します。

Captivate プロジェクトのスペルチェックをする

Captivate では、プロジェクト内のほとんどの場所にあるテキストで、スペルチェック機能を使用することができます。キャプション、スライドメモ、スライド名、テキストアニメーション、クイズなどに含まれているテキストのスペルを確認できます。

ヒント：スペルチェックをする前に、スペルチェックオプションを設定します。

スペルをチェックするには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. [ムービー]メニューから[スペルチェック]を選択します。または、F7を押しても、スペルをチェックすることができます。
3. Captivate が認識できない単語があった場合は、[辞書にない単語]テキストボックスに表示されます。目的に合わせて、適切なオプションを選択します。
 - [一度無視]は、認識できなかった単語をこのインスタンスでは無視します。
 - [すべて無視]は、認識できなかった単語のすべてのインスタンスを無視します。
 - [辞書に追加]は、認識できなかった単語を、個人の辞書に追加します。
 - [削除]は、認識できなかった単語を削除します。
 - [変更]は、認識できなかった単語のこのインスタンスを、[辞書にない単語]テキストボックスに入力した単語、または[修正候補]一覧で選択した単語と置き換えます。
 - [すべて変更]は、認識できなかった単語のすべてのインスタンスを同様に置き換えます。
4. (オプション) 英語のスペルチェックには、デフォルトの辞書が使用されます。言語を変更する場合は、[メインの辞書言語]のポップアップメニューをクリックして、言語を選択します。
5. (オプション) スペルのチェック方法を変更する場合は、[オプション]をクリックします。
6. 完了したら[閉じる]をクリックします。

スペルチェックオプションを設定する

Captivate では、プロジェクト内のほとんどの場所にあるテキストで、スペルチェック機能を使用することができます。キャプション、スライドメモ、スライド名、テキストアニメーション、クイズなどに含まれているテキストのスペルを確認できます。スペルチェック機能を使用する前に、スペルチェックオプションを確認し、必要に応じて変更します。

スペルチェックのオプションを設定するには：

1. Captivate を開きます。
2. [オプション] メニューから [環境設定] を選択します。
3. スペリング環境設定で、[変更] をクリックします。
4. 次のオプションを設定します。

[大文字で始まる言葉は無視する] は、"Captivate" のように、大文字で始まる言葉をスペルチェックから省略します。固有名詞を多く含んでいる場合は、このオプションを考慮します。

[すべてが大文字の言葉は無視する] は、"MIDI" のように、大文字だけの言葉をスペルチェックから省略します。頭文字を多く含んでいる場合は、このオプションを考慮します。

[数字を含む言葉は無視する] は、"Q2" のように、数字を含む言葉をスペルチェックから省略します。数字を含むシンボルやコードを多く含んでいる場合は、このオプションを考慮します。

[大文字と小文字が混在する言葉は無視する] は、"ActionScript" のように、大文字と小文字が混在する言葉をスペルチェックから省略します。

[ドメイン名は無視する] は、"www.macromedia.com" のように、インターネットのドメイン名はスペルチェックから省略します。

[重複している言葉を報告する] は、"the the" のように、同じ言葉が重複している場合は報告します。

[大文字と小文字を区別する] は、大文字を使用したバージョンと大文字を使用しないバージョンを別々に分析します。たとえば、"chicago" と "Chicago" がスペルチェックされるとき、"chicago" の方はスペルが間違っていると認識されます。

[音声上の提案] は、間違ったスペルの言葉には、音声上類似する言葉を修正候補として提案します。

[印刷上の提案] は、間違ったスペルの言葉には、印刷上類似する言葉を修正候補として提案します。

[言葉の分割を提案する] は、間違ったスペルの言葉で、2つの言葉が一緒になったと思われる場合は、分割を提案します。たとえば、"pressthe" を "press the" に分割するように提案します。

メインの辞書言語：スペルチェックで使用する辞書の言語を指定します。デフォルトの辞書は英語です。言語を変更するには、ポップアップメニューをクリックして、新しい言語を選択します。

5. (オプション) スペルチェックに使用するメインの辞書言語を変更するには、ポップアップメニューをクリックして、新しい言語を選択します。ご使用のコンピュータにインストールされているすべての辞書が一覧に表示されます。
6. 完了したら [OK] をクリックします。

スペルチェックの辞書を変更する

デフォルトで、スペルチェッカーは英語 (米国) 辞書を使用します。ご使用のコンピュータにインストールされている辞書に、随時変更することができます。

スペルチェッカーの辞書を変更するには：

1. Captivate を開きます。
2. [オプション] メニューから [環境設定] を選択します。
3. スペリング環境設定で、[変更] をクリックします。
4. [メインの辞書言語] ポップアップメニューから、使用する辞書を選択します。ご使用のコンピュータにインストールされているすべての辞書が一覧に表示されます。
5. [OK] をクリックします。
6. もう一度 [OK] をクリックします。

第 13 章

e ラーニングコンテンツを作成する

Captivate を使って、SCORM および AICC に完全準拠した、インタラクティブな e ラーニングムービーを作成できます。Captivate では、以下のことができます。

- LMS (Learning Management System : 学習管理システム) と自動的に統合可能なクイズ (またはテスト) を作成します。クリックボックス、テキスト入力ボックス、ボタン、およびクイズなど、すべてのインタラクティブエレメントから得点をキャプチャします。各インタラクティブエレメントには、重要度、目的 ID、および LMS との統合に用いるインタラクション ID を指定できます。
- Captivate ムービーが LMS とより良く連携するために、マニフェストファイルを作成します。
- 多肢選択問題、○×形式問題、照合問題、リッカート問題、空欄埋め問題、および短い答えの問題など、ムービーにはバラエティに富んだ質問の種類があります。
- ブランチを使用して、ユーザーの解答に応じたコンテンツにカスタマイズします。ブランチは正解と不正解の解答に別のパスを付けます。
- 正解、不正解、未解答などの状況に合わせて、ユーザーにそれぞれ別のフィードバックを即座に提供します。

e ラーニングにアクセスするには、[ムービー] メニューから [クイズマネジャー] を選択します。クイズを追加するには、[挿入] メニューから [質問スライド] を選択します。

Captivate ムービーでブランチ (分岐) を作成する

効果的な e ラーニング教材を作る上で、ブランチは重要なコンセプトです。" 偶発ブランチ " と呼ばれるブランチは、学習者がプログラムを通じてたどるパスが、質問に対する解答によって決定されることを意味します。これは、学習者の能力に合わせて学習資料を変える優れた方法です。ブランチは、質問への正解、不正解、学習者の選択したオプション、または学習者の経験、職業別カテゴリ、レベル、またはその他のカテゴリに基づいて作成できます。

Captivate ムービーでは、賢明で洗練されたブランチを作成できます。下記は、ブランチをムービーに簡単に追加する方法の例です。これらのどのオプションでも、個別にまたは組み合わせて使用でき、結果を採点できる機能があります。また、Captivate ムービーのスライドには、複数のオブジェクトを含むことができるため、クリックボックスをメニュー項目に追加したり、ボタンをツールバーに追加することもできます。

質問スライドを作成し、正解または不正解で異なるパスを指定します。これは最も単純なブランチの追加方法です。解答パスには、ムービーを続行する、特定のスライドに移動する、または URL を開くなど、数多くのオプションがあります。Captivate では、不正解に対しての不正解メッセージや「もう一度試してください」などの再試行メッセージを、簡単に追加することもできます。

クリックボックスを追加し、ユーザーがクリックボックス内をクリックした場合と、クリックボックス外をクリックした場合で、異なるパスを選択します。クリックボックスには質問スライドと同じ解答オプションがあります。ただし、独自のスライドを作らなくても、既存のスライドに挿入することができます。これにより、ムービーにブランチとインタラクティビティを同時に追加できます。クリックボックスには、クリックしたときにスライドの音声を停止する、クリックするまでムービーを一時停止する、またはヒント、合格、不合格オプションを追加するなど、多数の機能がオプションとして備わっています。

テキスト入力ボックスを追加し、正しいテキストを入力した場合と、間違ったテキストを入力した場合に、異なるブランチを作成します。テキスト入力ボックスは、非常に柔軟性に富んだボックスで、創造性を活かした数多くの用途があります。たとえば、アプリケーションでデータ入力をシミュレートする優れた方法となります。独自のスライドを必要とせず、既存のスライド内に配置できるため、質問スライドほどムービーの流れを遮断しません。テキスト入力ボックスには、パスワードの要求、大文字と小文字の区別、およびヒント、合格、不合格キャプションなどの追加オプションがあります。

ボタンを追加し、ボタンをクリックする場合と、ボタン外をクリックする場合で、異なるパスを作成します。ボタンは、多くのユーザーにとって使い心地のよい方法で、ブランチやインタラクティビティをムービーに素早く追加できる方法です。ムービーを進める、特定のスライドにジャンプする、または電子メールプログラムを開くなど、ユーザーがボタンをクリックしたときに起こるイベントを完全に制御できます。また、塗りつぶし色、テキストオプション、透明度、枠線の色を変更して、ご使用のムービーと調和するように、ボタンをデザインすることもできます。

質問スライドを作成する

Captivate では、最先端技術による e ラーニングムービーの作成が可能です。パワフルなクイズ機能を使って、多肢選択問題、短い答えの問題、照合問題、○×形式問題、リッカート問題、および空欄埋め問題など、さまざまな種類の問題を簡単にデザインできます。

ユーザーが正解した場合、または不正解だった場合に、どのような動作を実行させるかを完全にコントロールできます。たとえば、正解のときは " 次のスライドに進む " などの動作を設定し、不正解のときは "URL またはファイルを開く " などの別の動作を設定できます。一般に、これをブランチと呼びます。

どのようなテストでも、報告機能を使用して生徒の成績を判定できます。試行回数、正解および不正解の応答を記録し、LMS (Learning Management System: 学習管理システム) に合格、または不合格のデータを送信します。正解または不正解の解答に基づいて、生徒にフィードバックを送るかどうかを選択できます。

Captivate では、6 種類の質問スライドを作成することができます。

- 多肢選択問題
- ○×形式問題
- 空欄埋め問題
- 短い答えの問題
- 照合問題
- リッカート問題

クイズの要領およびヒント

Captivate のクイズ機能には柔軟性があり、e ラーニング用のコンテンツを含むムービーを作成するとき、多数のデザインオプションを提供します。たとえば、シンプルで簡単なクイズを作成できる一方、詳細なブランチ（分岐）を使用して、さらに複雑なクイズにすることもできます。クイズを追加するときの要領とヒントを以下でご紹介します。

- ユーザーが質問をスキップすることを許可し、後でその質問に戻って答える機会をユーザーに与える場合は、[次へ] ボタンを追加します。このボタンはオプションですが、ユーザーがクイズに取り組む間、クイズ間を移動する手段を提供することができます。
- 照合問題を作成している場合、ドラッグ & ドロップで項目をリストに追加します。
- ムービーのユーザーと通信するためにフィードバックメッセージを追加します。
- ユーザーの解答が正解だった場合と、不正解だった場合のために多くのオプションがあります。ブランチを試して、異なるタイプのユーザー用にムービーをカスタマイズします。
- クイズマネジャーで、[クイズの最後にスコアを表示] の設定を編集します。カスタムの合格メッセージおよび不合格メッセージを作成したり、背景色やスライドを使用したスライドをデザインしたり、スコアの表示方法を選択したりできます。

空欄埋め問題の新規質問スライドを作成する

ユーザーが複数のテキストオプションから解答を選択して、文章内の空欄を埋める問題を作成するには、このオプションを選択します。

空欄埋め問題の質問スライドを作成するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 質問スライドを挿入する場所の前のスライドを選択します。たとえば、新規スライドをムービー中で 7 番目に挿入したい場合は、6 番目のスライドをクリックします。
3. [挿入] メニューから [質問スライド] を選択します。
[質問の種類] ダイアログボックスが表示されます。
4. [空欄を埋める] を選択して [OK] をクリックします。
5. デフォルトの質問タイトルおよび詳細をそのまま使用するか、または新しいテキストをテキストボックスに直接入力します。ムービーの再生時、スライド上にタイトルおよび詳細が表示されます。

ヒント：1つのムービーに同じ種類の質問を多数作成する場合は、各スライドにそれぞれ違ったタイトルを付けることで、区別しやすくなります。

6. [文章] テキストボックスに、ユーザーが空欄を埋める文章または語句を入力します。
7. [文章] テキストボックスの単語または語句を選択して、[空欄を追加] をクリックします。
8. [空欄の解答] ダイアログボックスで、ユーザーが正しい答えを選択する方法を、オプションから選択します。
 - ユーザーが独自の答えを入力する場合は、[ユーザーが入力した答えを下のリストと比較します] を選択します。
 - ユーザーに解答候補の一覧を提供して、ユーザーはそこから答えを選べる場合は、[ユーザーは下のリストから答えを選びます] を選択します。

9. [追加] をクリックして、質問の空欄を正しく埋める単語または語句を入力します。必要に応じて、[追加] および [削除] をクリックして、一覧を完成させます。
10. (オプション)[解答内の大文字と小文字を区別する]を選択すると、ユーザーが空欄を埋めるために入力する文字を、大文字と小文字の正しいコンビネーションである場合のみ、正解と認識します。たとえば、正解が "Window" の問題で大文字と小文字を区別するオプションを選択した場合、"windows" という解答を入力すると不正解になります。
11. [OK] をクリックします。
12. [オプション] タブを選択します。
13. [タイプ] のポップアップメニューをクリックして、この質問が採点対象になる、またはアンケート調査の質問で採点対象にはならない、のいずれかを選択します。
14. [正解の場合] および [不正解の場合] のポップアップメニューを使って、解答が正解の場合または不正解の場合に、それぞれの結果に基づいた動作を選択します。多数のオプションがあります。

正解の場合

ジャンプ先: ユーザーが質問に正解したときに実行する操作、または移動先を選択します。

- 続行: ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る: 前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む: 次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする: 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く: インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く: 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る: デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する: 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし: 失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ: [URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む: このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

正解時のメッセージを表示する: ユーザーが正解したとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

不正解の場合

ユーザーに許可する試行回数: 矢印を使って、他の動作が起こる前にユーザーに許可する試行回数を選択します。

試行回数無制限 : このオプションを選択すると、ユーザーは無制限に試行することができます。

ジャンプ先 : 最後の試行後に起こす動作 / 移動先をクリックします。次に一覧されたオプションから選択できます。

- 続行 : ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る : 前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む : 次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする : 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く : インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く : 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る : デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する : 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし : 失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ : [URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む : このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

不正解時のメッセージを表示する : ユーザーが正解しなかったとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。不正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

再試行のメッセージを表示する : ユーザーの解答が不正解のとき、" もう一度試してください " などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。試行回数がまだ残っている場合に使用できます。

未解答のメッセージを表示する : ユーザーが質問に解答しなかったとき、" 続行するには、答えを選択してください " などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。

メモ : クイズマネジャーで正解、不正解、再試行、および未解答のメッセージを編集できます。[ムービー] メニューをクリックして、[クイズマネジャー] を選択し、[クイズ] タブをクリックします。

15. ユーザーがスライド間を簡単に移動するために、質問スライド上で [クリア]、[戻る]、および [次へ] ボタンを表示する場合は、これらのオプションを選択します。
16. [報告] タブを選択して、フィールドのオプションを変更します。

解答を報告する : クイズのスコアを保持するオプションです。

目的 ID : これは、オプションのパラメータです。クイズの質問が、学習管理システムで設定した目的に関連している場合は、このフィールドにその目的を入力してください。

インタラクション ID : Captivate ムービー (SWF ファイル) から追跡情報を学習管理システムに送信するには、その学習管理システムで指定されているインタラクション ID を使用する必要があります。

重要度 : 質問の相対的な重要度を指定します。任意の数値を入力できますが、小数は使用できません。すべての質問に同じ値 ("1" など) を設定すると、同じスコアが記録されます。質問ごとに異なる値を設定する場合は、重要度はそれぞれと相対関係であることに注意します。つまり、重要度が "2" の質問の値は、重要度が "1" の質問の 2 倍になります。この機能を使用すると、初歩的な質問には小さな値を指定し、難しい質問には大きな値を指定できます。

制限時間 : ユーザーが質問に答えるときの時間を制限する場合は、このオプションを選択して制限時間を設定します。ボックスに時間 : 分 : 秒の形式で制限時間を入力します。

17. 完了したら [OK] をクリックします。

ムービー内で指定した場所に、空欄埋め問題の新規質問スライドが表示されます。変更がある場合は、スライドの左上にある [編集] をクリックします。

リッカート問題の新規質問スライドを作成する

ある声明に対して、ユーザーが同意するレベルを示すための質問を作成するには、このオプションを選択します。たとえば、" この Captivate ムービーは、価値のある情報を提供した " という文章に対して、反対、やや反対、どちらとも言えない、やや賛成、または賛成のいずれに該当するか、ユーザーに質問します。

メモ : リッカート問題はアンケート調査用の質問なので、採点の対象にはなりません。リッカート問題に重要性を指定することはできません。これはアンケート調査用の質問のため、解答に正解または不正解はなく、正解または不正解の解答によるブランチを作成することもできません。ただし、ユーザーがリッカート問題を完了したとき、次のスライドの続行、別のムービーを開く、または URL を開くなどの動作を指定することはできます。

リッカート問題の質問スライドを作成するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 質問スライドを挿入する場所の前のスライドを選択します。たとえば、新規スライドをムービー中で 7 番目に挿入したい場合は、6 番目のスライドをクリックします。
3. [挿入] メニューから [質問スライド] を選択します。
[質問の種類] ダイアログボックスが表示されます。
4. [リッカート] を選択して、[OK] をクリックします。
5. デフォルトの質問タイトルおよび詳細をそのまま使用するか、または新しいテキストをテキストボックスに直接入力します。ムービーの再生時、スライド上にタイトルおよび詳細が表示されます。

ヒント : 1 つのムービーに同じ種類の質問を多数作成する場合は、各スライドにそれぞれ違ったタイトルを付けることで、区別しやすくなります。

6. [質問] 欄で [追加] をクリックして、テキストボックスにリッカートの質問を直接入力します。1 枚のスライドにリッカート問題を 8 つまで加えることができます。
7. [答え] 欄で、デフォルトのテキストを答えとして使用する、テキストを編集する、または新しい答えを入力することができます。テキストを編集するには、" 中立 " などの既存のテキストをダブルクリックして、新しいテキストを入力します。他の解答タイプを追加するには、[追加] をクリックして、新しいテキストを入力します。
8. [オプション] タブを選択します。

9. [調査の後] のポップアップメニューを使って、質問に答えた後に起こる動作を選択します。多数のオプションがあります。

ジャンプ先: ユーザーが解答したときに実行する操作、または移動先を選択します。

- 続行: ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る: 前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む: 次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする: 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く: インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く: 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る: デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する: 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし: 失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ: [URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む: このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

10. ユーザーがスライド間を簡単に移動するために、質問スライド上で [クリア]、[戻る]、および [次へ] ボタンを表示する場合は、これらのオプションを選択します。

11. [報告] タブを選択して、フィールドのオプションを変更します。

解答を報告する: クイズのスコアを保持するオプションです。

目的 ID: これは、オプションのパラメータです。クイズの質問が、学習管理システムで設定した目的に関連している場合は、このフィールドにその目的を入力してください。

インタラクション ID: Captivate ムービー (SWF ファイル) から追跡情報を学習管理システムに送信するには、その学習管理システムで指定されているインタラクション ID を使用する必要があります。

重要度: リッカート問題はアンケートなどの調査なので、重要度オプションは利用できません。

制限時間: ユーザーが質問に答えるときの時間を制限する場合は、このオプションを選択して制限時間を設定します。ボックスに時間: 分: 秒の形式で制限時間を入力します。

12. 完了したら [OK] をクリックします。

ムービー内で指定した場所に、リッカート問題の新規質問スライドが表示されます。変更がある場合は、スライドの左上にある [編集] をクリックします。

照合問題の新規質問スライドを作成する

2つのリストを照合して、該当する項目をそれぞれのリストから選択し、マッチさせる問題を作成するオプションです。

照合問題の質問スライドを作成するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 質問スライドを挿入する場所の前のスライドを選択します。たとえば、新規スライドをムービー中で7番目に挿入したい場合は、6番目のスライドをクリックします。
3. [挿入]メニューから[質問スライド]を選択します。
[質問の種類]ダイアログボックスが表示されます。
4. [照合]を選択して、[OK]をクリックします。
5. デフォルトの質問タイトルをそのまま使用するか、または新しい質問タイトルをテキストボックスに直接入力します。ムービーの再生時、スライド上にタイトルが表示されます。

ヒント：1つのムービーに同じ種類の質問を多数作成する場合は、各スライドにそれぞれ違ったタイトルを付けることで、区別しやすくなります。

6. [質問]のテキストボックスに、照合問題の質問を入力します。たとえば、「以下のリストを照合して、リスト1の役職名とリスト2の管轄部署をマッチさせてください。」などです。
7. [答え]の欄で、各リストの下にある[追加]ボタンをクリックして、マッチさせる項目、単語、または語句などを入力します。必要に応じて、[削除]をクリックして不要になった答えを削除します。また、上下ボタンを使って、リスト内での位置を上下に変更することもできます。
8. 正しい照合マッチを確定するには、最初のリストの1項目をクリックして、次のリストの1項目をクリックし、[照合]ボタンをクリックします。2つの項目間に線が引かれ、この項目間の関係が示されます。照合マッチの間違いを訂正する場合は、[不一致]ボタンをクリックしてその照合をクリアします。
9. [番号]のポップアップメニューをクリックして、大文字、小文字、または数字から選択します。
10. [オプション]タブを選択します。
11. [タイプ]のポップアップメニューをクリックして、この質問が採点対象になる、またはアンケート調査の質問で採点対象にはならない、のいずれかを選択します。
12. [正解の場合]および[不正解の場合]のポップアップメニューを使って、解答が正解の場合または不正解の場合に、それぞれの結果に基づいた動作を選択します。多数のオプションがあります。

正解の場合

ジャンプ先：ユーザーが質問に正解したときに実行する操作、または移動先を選択します。

- 続行：ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る：前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む：次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする：特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く：インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを[現在]、[新規]、[親]、または[トップ]から選択します。

- 他のムービーを開く : 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る : デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する : 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし : 失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ : [URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む : このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

正解時のメッセージを表示する : ユーザーが正解したとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

不正解の場合

ユーザーに許可する試行回数 : 矢印を使って、他の動作が起こる前にユーザーに許可する試行回数を選択します。

試行回数無制限 : このオプションを選択すると、ユーザーは無制限に試行することができます。

ジャンプ先 : 最後の試行後に起こす動作 / 移動先をクリックします。次に一覧されたオプションから選択できます。

- 続行 : ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る : 前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む : 次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする : 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く : インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く : 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る : デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する : 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし : 失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ : [URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む : このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

不正解時のメッセージを表示する：ユーザーが正解しなかったとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。不正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

再試行のメッセージを表示する：ユーザーの解答が不正解のとき、"もう一度試してください"などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。試行回数がまだ残っている場合に使用できます。

未解答のメッセージを表示する：ユーザーが質問に解答しなかったとき、"続行するには、答えを選択してください"などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。

メモ：クイズマネジャーで正解、不正解、再試行、および未解答のメッセージを編集できます。[ムービー]メニューをクリックして、[クイズマネジャー]を選択し、[クイズ]タブをクリックします。

13. ユーザーがスライド間を簡単に移動するために、質問スライド上で[クリア]、[戻る]、および[次へ]ボタンを表示する場合は、これらのオプションを選択します。

14. [報告]タブを選択して、フィールドのオプションを変更します。

解答を報告する：クイズのスコアを保持するオプションです。

目的 ID：これは、オプションのパラメータです。クイズの質問が、学習管理システムで設定した目的に関連している場合は、このフィールドにその目的を入力してください。

インタラクション ID：Captivate ムービー (SWF ファイル) から追跡情報を学習管理システムに送信するには、その学習管理システムで指定されているインタラクション ID を使用する必要があります。

重要度：質問の相対的な重要度を指定します。任意の数値を入力できますが、小数は使用できません。すべての質問に同じ値 ("1" など) を設定すると、同じスコアが記録されます。質問ごとに異なる値を設定する場合は、重要度はそれぞれと相対関係であることに注意します。つまり、重要度が "2" の質問の値は、重要度が "1" の質問の 2 倍になります。この機能を使用すると、初歩的な質問には小さな値を指定し、難しい質問には大きな値を指定できます。

制限時間：ユーザーが質問に答えるときの時間を制限する場合は、このオプションを選択して制限時間を設定します。ボックスに時間：分：秒の形式で制限時間を入力します。

15. 完了したら [OK] をクリックします。

ムービー内で指定した場所に、照合問題の新規質問スライドが表示されます。変更がある場合は、スライドの左上にある [編集] をクリックします。

多肢選択問題の新規質問スライドを作成する

ユーザーが一覧から該当する解答を 1 つ以上選択する形式の質問を作成するには、このオプションを選択します。

多肢選択問題の質問スライドを作成するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 質問スライドを挿入する場所の前のスライドを選択します。たとえば、新規スライドをムービー中で 7 番目に挿入したい場合は、6 番目のスライドをクリックします。
3. [挿入]メニューから[質問スライド]を選択します。
4. [質問の種類]ダイアログボックスが表示されます。
[多肢選択]を選択して、[OK]をクリックします。

5. デフォルトの質問タイトルをそのまま使用するか、または新しい質問タイトルをテキストボックスに直接入力します。ムービーの再生時、スライド上にタイトルが表示されます。

ヒント : 1つのムービーに同じ種類の質問を多数作成する場合は、各スライドにそれぞれ違ったタイトルを付けることで、区別しやすくなります。

6. [質問] のテキストボックスに、多肢選択問題の質問を入力します。
7. [答え] の [追加] をクリックして、解答候補を入力します。必要に応じて、[削除] をクリックして一覧から答えを削除し、[上へ移動] または [下へ移動] をクリックして、一覧内での答えの位置を変更します。
8. 正しい解答の横にあるラジオボタンをクリックして、どの解答が正解かを定義します。
9. [スタイル] で、[複数解答] または [単一解答] のいずれかを選択します。
10. [番号] のポップアップメニューをクリックして、大文字、小文字、または数字から選択します。
11. [オプション] タブを選択します。
12. [タイプ] のポップアップメニューをクリックして、この質問が採点対象になる、またはアンケート調査の質問で採点対象にはならない、のいずれかを選択します。
13. [正解の場合] および [不正解の場合] のポップアップメニューを使って、質問に答えた後の動作を選択します。多数のオプションがあります。

正解の場合

ジャンプ先 : ユーザーが質問に正解したときに実行する操作、または移動先を選択します。

- 続行 : ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る : 前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む : 次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする : 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く : インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く : 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る : デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する : 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。
- [参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし : 失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ : [URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む : このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

正解時のメッセージを表示する：ユーザーが正解したとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

不正解の場合

ユーザーに許可する試行回数：矢印を使って、他の動作が起こる前にユーザーに許可する試行回数を選択します。

試行回数無制限：このオプションを選択すると、ユーザーは無制限に試行することができます。

ジャンプ先：最後の試行後に起こす動作 / 移動先をクリックします。次に一覧されたオプションから選択できます。

- 続行：ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る：前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む：次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする：特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く：インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く：異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る：デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する：特定の JavaScript を実行する場合に選択します。
- [参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし：失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ：[URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む：このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

不正解時のメッセージを表示する：ユーザーが正解しなかったとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。不正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

再試行のメッセージを表示する：ユーザーの解答が不正解のとき、" もう一度試してください " などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。試行回数がまだ残っている場合に使用できます。

未解答のメッセージを表示する：ユーザーが質問に解答しなかったとき、" 続行するには、答えを選択してください " などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。

メモ：クイズマネジャーで正解、不正解、再試行、および未解答のメッセージを編集できます。[ムービー] メニューをクリックして、[クイズマネジャー] を選択し、[クイズ] タブをクリックします。

14. ユーザーがスライド間を簡単に移動するために、質問スライド上で[クリア]、[戻る]、および[次へ]ボタンを表示する場合は、これらのオプションを選択します。
15. [報告] タブを選択して、フィールドのオプションを変更します。
- 解答を報告する : クイズのスコアを保持するオプションです。
- 目的 ID : これは、オプションのパラメータです。クイズの質問が、学習管理システムで設定した目的に関連している場合は、このフィールドにその目的を入力してください。
- インタラクション ID : Captivate ムービー (SWF ファイル) から追跡情報を学習管理システムに送信するには、その学習管理システムで指定されているインタラクション ID を使用する必要があります。
- 重要度 : 質問の相対的な重要度を指定します。任意の数値を入力できますが、小数は使用できません。すべての質問に同じ値 ("1" など) を設定すると、同じスコアが記録されます。質問ごとに異なる値を設定する場合は、重要度はそれぞれと相対関係であることに注意します。つまり、重要度が "2" の質問の値は、重要度が "1" の質問の 2 倍になります。この機能を使用すると、初歩的な質問には小さな値を指定し、難しい質問には大きな値を指定できます。
- 制限時間 : ユーザーが質問に答えるときの時間を制限する場合は、このオプションを選択して制限時間を設定します。ボックスに時間 : 分 : 秒の形式で制限時間を入力します。
16. 完了したら [OK] をクリックします。
- ムービー内で指定した場所に、多肢選択問題の新規質問スライドが表示されます。変更がある場合は、スライドの左上にある [編集] をクリックします。

短い答えの新規質問スライドを作成する

ユーザーが単語または語句で解答する形式の質問を作成するには、このオプションを選択します。

短い答えの質問スライドを作成するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 質問スライドを挿入する場所の前のスライドを選択します。たとえば、新規スライドをムービー中で 7 番目に挿入したい場合は、6 番目のスライドをクリックします。
3. [挿入] メニューから [質問スライド] を選択します。
[質問の種類] ダイアログボックスが表示されます。
4. [短い答え] を選択して、[OK] をクリックします。
5. デフォルトの質問タイトルをそのまま使用するか、または新しい質問タイトルをテキストボックスに直接入力します。ムービーの再生時、スライド上にタイトルが表示されます。

ヒント : 1 つのムービーに同じ種類の質問を多数作成する場合は、各スライドにそれぞれ違ったタイトルを付けることで、区別しやすくなります。
6. [質問] のテキストボックスに、短い答えの問題の質問を入力します。
7. 単語または語句の一覧を作成して、ユーザーの解答とその一覧を比較するには、[答えを下の一覧と比べる] を選択します。その後、[追加] をクリックして、テキストを入力します。必要に応じて、[追加] および [削除] をクリックして、一覧を完成させます。このオプションを選択しない場合、ユーザーからの解答を単に受け入れ、アンケート調査用の質問扱いになります。アンケート調査用の質問に対する答えには、正解または不正解になることはありません。

8. (オプション)[解答内の大文字と小文字を区別する]を選択すると、ユーザーが答えを入力する文字が大文字と小文字の正しいコンビネーションである場合のみ、正解と認識します。たとえば、正解が"Window"の問題で大文字と小文字を区別するオプションを選択した場合、"windows"という解答を入力すると不正解になります。

9. [オプション]タブを選択します。

[質問]タブ(上記の手順7を参照)で、[答えを下のリストと比べる]オプションを選択した場合は、次のオプションがこのタブにあります。

タイプ:ポップアップメニューをクリックして、この質問が採点対象になる、またはアンケート調査の質問で採点対象にはならない、のいずれかを選択します。

正解の場合

ジャンプ先:ユーザーが質問に正解したときに実行する操作、または移動先を選択します。

- 続行:ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る:前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む:次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする:特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URLまたはファイルを開く:インターネット上の特定のURLまたは、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URLを表示するウィンドウを[現在]、[新規]、[親]、または[トップ]から選択します。
- 他のムービーを開く:異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを[現在]、[新規]、[親]、または[トップ]から選択します。
- 電子メールを送る:デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScriptを実行する:特定のJavaScriptを実行する場合に選択します。
- [参照]をクリックして、実行するJavaScriptを入力します。
- アクションなし:失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ:[URL]オプションを使用すると、Captivateでスライドを編集する際にURLが表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるようにURLを表示するには、URLテキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む:このボックスは[ジャンプ先]で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

正解時のメッセージを表示する:ユーザーが正解したとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

不正解の場合

ユーザーに許可する試行回数:矢印を使って、他の動作が起こる前にユーザーに許可する試行回数を選択します。

試行回数無制限:このオプションを選択すると、ユーザーは無制限に試行することができます。

ジャンプ先:最後の試行後に起こす動作 / 移動先をクリックします。次に一覧されたオプションから選択できます。

- 続行:ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る:前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む:次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする:特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く:インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く:異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る:デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する:特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし:失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ: [URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む:このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

不正解時のメッセージを表示する:ユーザーが正解しなかったとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。不正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

再試行のメッセージを表示する:ユーザーの解答が不正解のとき、" もう一度試してください " などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。試行回数がまだ残っている場合に使用できます。

未解答のメッセージを表示する:ユーザーが質問に解答しなかったとき、" 続行するには、答えを選択してください " などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。

メモ: クイズマネジャーで正解、不正解、再試行、および未解答のメッセージを編集できます。[ムービー] メニューをクリックして、[クイズマネジャー] を選択し、[クイズ] タブをクリックします。

[質問] タブ (上記の手順 7 を参照) で、[答えを下のリストと比べる] オプションを選択しなかった場合は、次のオプションがこのタブにあります。

タイプ:ポップアップメニューをクリックして、この質問が採点対象になる、またはアンケート調査の質問で採点対象にはならない、のいずれかを選択します。

調査の後

- ジャンプ先 : ユーザーが解答したときに実行する操作、または移動先を選択します。
- 続行 : ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る : 前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む : 次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする : 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く : インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く : 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る : デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する : 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。
- [参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし : 失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ : [URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む : このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

正解時のメッセージを表示する : ユーザーが正解したとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

10. ユーザーがスライド間を簡単に移動するために、質問スライド上で [クリア]、[戻る]、および [次へ] ボタンを表示する場合は、これらのオプションを選択します。
11. [報告] タブを選択して、フィールドのオプションを変更します。

解答を報告する : クイズのスコアを保持するオプションです。

目的 ID : これは、オプションのパラメータです。クイズの質問が、学習管理システムで設定した目的に関連している場合は、このフィールドにその目的を入力してください。

インタラクション ID : Captivate ムービー (SWF ファイル) から追跡情報を学習管理システムに送信するには、その学習管理システムで指定されているインタラクション ID を使用する必要があります。

重要度 : [質問] タブで、[答えを下のリストと比べる] オプションを選択した場合、この質問の重要度を設定することができます。質問の相対的な重要度を指定します。任意の数値を入力できますが、小数は使用できません。すべての質問に同じ値 ("1" など) を設定すると、同じスコアが記録されます。質問ごとに異なる値を設定する場合は、重要度はそれぞれと相対関係であることに注意します。つまり、重要度が "2" の質問の値は、重要度が "1" の質問の 2 倍になります。この機能を使用すると、初歩的な質問には小さな値を指定し、難しい質問には大きな値を指定できます。

[質問] タブで、[答えを下のリストと比べる] オプションを選択しなかった場合、この短い答えの問題はアンケート調査用の質問扱いになり、重要度を指定できません。

制限時間：ユーザーが質問に答えるときの時間を制限する場合は、このオプションを選択して制限時間を設定します。ボックスに時間：分：秒の形式で制限時間を入力します。

12. 完了したら [OK] をクリックします。

ムービー内で指定した場所に、短い答え問題の新規質問スライドが表示されます。変更がある場合は、スライドの左上にある [編集] をクリックします。

○×形式問題の新規質問スライドを作成する

ユーザーが "○" または "×" から答えを選ぶ形式の問題を作成するには、このオプションを選択します。

○×形式問題の質問スライドを作成するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 質問スライドを挿入する場所の前のスライドを選択します。たとえば、新規スライドをムービー中で7番目に挿入したい場合は、6番目のスライドをクリックします。
3. [挿入] メニューから [質問スライド] を選択します。
[質問の種類] ダイアログボックスが表示されます。
4. [○×形式問題] を選択して、[OK] をクリックします。
5. デフォルトの質問タイトルをそのまま使用するか、または新しい質問タイトルをテキストボックスに直接入力します。ムービーの再生時、スライド上にタイトルが表示されます。

ヒント：1つのムービーに同じ種類の質問を多数作成する場合は、各スライドにそれぞれ違ったタイトルを付けることで、区別しやすくなります。

6. [質問] のテキストボックスに、○×形式問題の質問を入力します。
7. [答え] 欄で、[○] または [×] の横にあるラジオボタンをクリックして、いずれの答えが正しいかを定義します。[上へ移動] または [下へ移動] をクリックして、一覧内での答えの位置を変更します。
8. [スタイル] 欄で、[○×形式] または [はい / いいえ] のいずれかを選択します。
9. [番号] のポップアップメニューをクリックして、大文字、小文字、または数字から選択します。
10. [オプション] タブを選択します。
11. [タイプ] のポップアップメニューをクリックして、この質問が採点対象になる、またはアンケート調査の質問で採点対象にはならない、のいずれかを選択します。
12. [正解の場合] および [不正解の場合] のポップアップメニューを使って、解答が正解の場合または不正解の場合に、それぞれの結果に基づいた動作を選択します。多数のオプションがあります。

正解の場合

ジャンプ先：ユーザーが質問に正解したときに実行する操作、または移動先を選択します。

- 続行：ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る：前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む：次のスライドに進む場合に選択します。

- スライドにジャンプする : 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く : インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く : 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る : デフォルトの電子メールブラウザを開く場合を選択します。
- JavaScript を実行する : 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。
- [参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし : 失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ : [URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む : このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

正解時のメッセージを表示する : ユーザーが正解したとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

不正解の場合

ユーザーに許可する試行回数 : 矢印を使って、他の動作が起こる前にユーザーに許可する試行回数を選択します。

試行回数無制限 : このオプションを選択すると、ユーザーは無制限に試行することができます。

ジャンプ先 : 最後の試行後に起こす動作 / 移動先をクリックします。次に一覧されたオプションから選択できます。

- 続行 : ムービーを続けて再生する場合に選択します。
- 前のスライドに戻る : 前のスライドに戻る場合を選択します。
- 次のスライドに進む : 次のスライドに進む場合を選択します。
- スライドにジャンプする : 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く : インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く : 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る : デフォルトの電子メールブラウザを開く場合を選択します。
- JavaScript を実行する : 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。
- [参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。
- アクションなし : 失敗または再試行などのメッセージは表示するが、その他のアクションを希望しない場合は、このオプションを選択します。

メモ：[URL] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

次のスライドに進む：このボックスは [ジャンプ先] で選択した項目によって、移動先情報を入力できるようになります。

不正解時のメッセージを表示する：ユーザーが正解しなかったとき、テキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。不正解に対してフィードバックを行わない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

再試行のメッセージを表示する：ユーザーの解答が不正解のとき、"もう一度試してください"などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。試行回数がまだ残っている場合に使用できます。

未解答のメッセージを表示する：ユーザーが質問に解答しなかったとき、"続行するには、答えを選択してください"などのテキストメッセージを表示する場合には、このオプションを選択します。

メモ：クイズマネジャーで正解、不正解、再試行、および未解答のメッセージを編集できます。[ムービー]メニューをクリックして、[クイズマネジャー]を選択し、[クイズ]タブをクリックします。

13. ユーザーがスライド間を簡単に移動するために、質問スライド上で [クリア]、[戻る]、および [次へ] ボタンを表示する場合は、これらのオプションを選択します。

14. [報告] タブを選択して、フィールドのオプションを変更します。

解答を報告する：クイズのスコアを保持するオプションです。

目的 ID：これは、オプションのパラメータです。クイズの質問が、学習管理システムで設定した目的に関連している場合は、このフィールドにその目的を入力してください。

インタラクション ID：Captivate ムービー (SWF ファイル) から追跡情報を学習管理システムに送信するには、その学習管理システムで指定されているインタラクション ID を使用する必要があります。

重要度：質問の相対的な重要度を指定します。任意の数値を入力できますが、小数は使用できません。すべての質問に同じ値 ("1" など) を設定すると、同じスコアが記録されます。質問ごとに異なる値を設定する場合は、重要度はそれぞれと相対関係であることに注意します。つまり、重要度が "2" の質問の値は、重要度が "1" の質問の 2 倍になります。この機能を使用すると、初歩的な質問には小さな値を指定し、難しい質問には大きな値を指定できます。

制限時間：ユーザーが質問に答えるときの時間を制限する場合は、このオプションを選択して制限時間を設定します。ボックスに時間：分：秒の形式で制限時間を入力します。

15. 完了したら [OK] をクリックします。

ムービー内で指定した場所に、○×形式問題の新規質問スライドが表示されます。変更がある場合は、スライドの左上にある [編集] をクリックします。

e ラーニングの出力オプションを設定する

Captivate では、e ラーニング要素を備えるムービーのために、多数の出力オプションを提供しています。たとえば、ムービーを SCORM または AICC 準拠に設定することができます。

e ラーニングの出力オプションを設定するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [クイズマネジャー] を選択します。
[クイズマネジャー] ダイアログボックスが表示されます。
3. [報告] タブをクリックします。
4. [出力オプションを有効化] を選択します。
5. 次の中から、目的の出力を選択します。

Breeze : Macromedia Breeze で追跡を有効化する場合、このオプションを選択します。

AICC : AICC サポートを有効化する場合、このオプションを選択します。

SCORM : SCORM サポートを有効化する場合、このオプションを選択します。

メモ : ムービーに AICC または SCORM オプションを選択した場合は、フルスクリーンのパブリッシュオプションを適用できません。

メモ : フルスクリーンオプションを選択した場合、Windows XP Service Pack 2 に対応するために Captivate は html ファイルを 2 つ作成します。両方の html ファイルと SWF を使用することで、ムービーをパブリッシュしたとき、ユーザーは SP2 警告メッセージを受け取らずに済みます。html ファイルにリンクするときは、"fs" を追加し、たとえば "myproject_fs.htm" のようにします。"fs" の追加された html ファイルは自動的に 2 番目の html ファイルにリンクし、2 番目のファイルによってムービーが再生されます。

マニフェスト : [マニフェスト] ダイアログボックスをクリックすると、多数の学習管理システムが必要とする、マニフェストファイルを作成するためのオプションを設定することができます。

QuestionMark Perception : このオプションを選択すると、ムービーに QuestionMark Perception との互換性を持たせます。Captivate シミュレーションを Perception に素早くインポートできるように、QML ファイルが自動生成されます。

Authorware : このオプションを選択すると、ムービーに Macromedia Authorware との互換性を持たせます。簡単な書き出しコマンドで、Captivate シミュレーションを Authorware プロジェクトに組み込むことができます。Authorware で、すべての Captivate スコアデータを追跡することができます。

セパレータ : Authorware の目的のフィールドセパレータを入力します。

電子メール : このオプションを選択すると、指定した電子メールアドレスにスコアの結果を自動的に送信します。テキストボックスに、完全な電子メールアドレスを直接入力します (例 : name@mycompany.com)。結果はコンマを境界に使用した形式で送信され、Excel などのスプレッドシートプログラムへ簡単にコピーおよびペーストすることができます。

報告レベル : ユーザーに報告する情報のタイプを選択します。ポップアップメニューからオプションを選択します。

合格または不合格を報告 : ユーザーがクイズの結果を受け取る場合、[合格 / 不合格] または [完了 / 未完] のいずれかのオプションを選択します。

スコアを LMS (Learning Management System: 学習管理システム) に報告 : ユーザーが受け取る結果が、スコアまたはパーセンテージのいずれの形式かを指定します。

6. [OK] をクリックします。

e ラーニングの合格基準を設定する

ムービーにクイズを追加した場合は、ユーザーのための合格基準を設定します。クイズに合格するためには、ユーザーはパーセンテージまたは数値で指定された合格基準に達成する必要があります。たとえば、合格基準を 80% に設定すると、質問の 80% 以上の正解率でユーザーは合格になります。

e ラーニングの合格基準を設定するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [クイズマネジャー] を選択します。
[クイズマネジャー] ダイアログボックスが表示されます。
3. [報告] タブを選択します。
4. [出力オプションを有効化] を選択して、目的の出力を選択します。

メモ： ムービーに AICC または SCORM オプションを選択した場合は、フルスクリーンのパブリッシュオプションを適用できません。

メモ： フルスクリーンオプションを選択した場合、Windows XP Service Pack 2 に対応するために Captivate は html ファイルを 2 つ作成します。両方の html ファイルと SWF を使用することで、ムービーをパブリッシュしたとき、ユーザーは SP2 警告メッセージを受け取らずに済みます。html ファイルにリンクするときは、"fs" を追加し、たとえば "myproject_fs.htm" のようにします。"fs" の追加された html ファイルは自動的に 2 番目の html ファイルにリンクし、2 番目のファイルによってムービーが再生されます。

5. クイズの合格または不合格の設定を選択します。
 - "#" % 以上のスコアで合格 : 生徒が合格するために達成する必要があるパーセンテージを入力します。たとえば 80 と入力すると、クイズの 80% に正解する必要があります。10 個の質問を含むプロジェクトでは、少なくとも 8 個正解しなければなりません。
 - "#" % 以上のスコアで合格 : 生徒が合格するために達成する必要がある数値を入力します。たとえば 8 と入力すると、8 個のクイズに正解する必要があります。プロジェクトに含まれるクイズの数に制限はありませんが、少なくとも 8 個正解しなければなりません。
6. [OK] をクリックします。

e ラーニングのスコア表示を設定する

すべての e ラーニングサポートオプションは、[クイズマネジャー] からアクセスします。

e ラーニングのスコア表示を設定するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [クイズマネジャー] を選択します。
[クイズマネジャー] ダイアログボックスが表示されます。
3. [クイズ] タブをクリックします。
4. [クイズの最後にスコアを表示] を選択します。
5. [設定] をクリックします。
6. [スコア] オプションのいずれかを選択します。[スコアを表示] または [パーセントスコアを表示]
7. (オプション) このダイアログボックスで、合格および不合格のメッセージを編集することもできます。
8. [OK] をクリックします。

クイズのフィードバックメッセージを作成する

クイズはインタラクティブであるため、プロジェクトに配置した質問スライドでユーザーをガイドすることが重要です。ユーザーと通信するために簡単な方法は、フィードバックメッセージを使用することです。たとえば、ユーザーが正しい解答または正しくない解答を選択したときに表示されるメッセージがあります。

フィードバックメッセージにはデフォルトのテキストがありますが、いつでも編集できます。

質問スライドにフィードバックメッセージを追加するには：

1. Captivate ムービーを開くか作成し、[挿入] メニューから [質問スライド] を選択して、質問スライドを作成します。
2. 質問の種類を選択して、[OK] をクリックします。
3. [オプション] タブをクリックします。
4. 表示したいフィードバックメッセージを選択します。
 - ユーザーが正しい解答を選択したときに " 正解 - 続けるにはクリック " などのテキストを表示するには、[正解時のメッセージを表示する] を選択します。
 - ユーザーが正しくない解答を選択したときに " 不正解 - 続けるにはクリック " などのテキストを表示するには、[不正解時のメッセージを表示する] を選択します。
 - ユーザーの解答が不正解で、試行回数がまだ残っているとき、" もう一度試してください " などのテキストメッセージを表示する場合には、[再試行のメッセージを表示する] を選択します。このオプションが使用できない場合、[ユーザーに許可する試行回数] オプションに 2 以上の数値を入れるか、[試行回数無制限] を選択して、ユーザーに許可する試行回数を変更します。
 - ユーザーが質問に解答しなかったとき、" 続行するには、答えを選択してください " などのテキストメッセージを表示する場合には、[未解答のメッセージを表示する] を選択します。
5. 完了したら [OK] をクリックします。

フィードバックメッセージテキストを編集するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [クイズマネージャー] を選択します。
3. [クイズ] タブをクリックします。
4. [デフォルトのフィードバックメッセージ] で、表示したいフィードバックメッセージを選択します。
5. テキストを変更するには、テキストボックス内をクリックして必要に応じて編集します。たとえば、デフォルトの正解メッセージを " 正解です。続行するには [Go] をクリックしてください " に変更できます。

マニフェストファイルを作成する

Captivate には、マニフェストファイルを作成するための e ラーニング機能が用意されています。マニフェストファイルは、SCORM 1.2 または 2004 に準拠する LMS (Learning Management System: 学習管理システム) から、管理および起動できる e ラーニングコース用に Captivate ムービーをパッケージにする場合に便利です。

Captivate が作成するマニフェストファイルは、"imsmanifest.xml" というファイル名になっており、すべてのコンテンツリソースの参照項目を含んでいます。XML ファイルは定義済みタグを使用して、パッケージのコンポーネント、構造、および特別なビヘイビアについて記述します。

マニフェストファイルを作成するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [クイズマネジャー] を選択します。
[クイズマネジャー] ダイアログボックスが表示されます。
3. [報告] タブで、[出力オプションを有効化] を選択します。
4. SCORM を選択します。
5. [マニフェスト] をクリックします。
6. [SCORM バージョン] のポップアップメニューをクリックして、1.2 または 2004 を選択します。
7. マニフェストオプションを設定します。

コースオプション

ID : ID は LMS (Learning Management System: 学習管理システム) で異なったマニフェストを識別するために使われます。このフィールドには、Captivate ムービーの名前から付けた、デフォルトの ID が自動的に追加されます。ID は随時変更できます。ID を変更するには、テキストを選択して新しいテキストを入力します。(必須のフィールド)

タイトル : LMS を使用している生徒は、タイトルを見ることができます。このフィールドには、Captivate ムービーの名前から付けたデフォルトのタイトルが自動的に追加されます。タイトルは随時変更できます。タイトルを変更するには、テキストを選択して新しいテキストを入力します。(必須のフィールド)

説明 : LMS が学習者にコースの説明をする場合に使用するテキストです。このフィールドには、Captivate ムービーの名前から付けたデフォルトの説明が自動的に追加されます。説明のテキストは随時編集できます。(必須のフィールド)

バージョン : 同じ ID のマニフェストでも、違ったバージョン番号を使って複数のマニフェストを区別できます。(必須のフィールド)

長さ : この Captivate ムービーを使った学習にかかるおおよその時間を指定するには、このオプションを選択します。次の形式で時間を設定します。hh:mm:ss (オプションフィールド)

主題 : Captivate ムービーについて、キーワードや語句を使って短い説明文を提供する場合は、このオプションを選択します。(オプションフィールド)

SCO オプション

ID : ID は LMS で異なった SCO (Shareable Content Objects: 共有可能なコンテンツオブジェクト) を識別するために使われます。このフィールドには、Captivate ムービーの名前から付けた、デフォルトの ID が自動的に追加されます。ID は随時変更できます。ID を変更するには、テキストを選択して新しいテキストを入力します。(必須のフィールド)

タイトル : このフィールドには、Captivate ムービーの名前から付けたデフォルトのタイトルが自動的に追加されます。タイトルは随時変更できます。タイトルを変更するには、テキストを選択して新しいテキストを入力します。(必須のフィールド)

合格点 : Captivate ムービーを使った学習で、合格に値するスコアを指定する場合は、このオプションを選択します。スコアは 0 から 100 までの数字のみで指定します。合格点は、質問スライド、テキスト入力ボックス、クリックボックス、およびボタンなど、採点と報告が可能なオブジェクトを含む Captivate ムービーにのみ該当します。(オプションフィールド)

許容時間 : Captivate ムービー完了までの許容時間に対して制限を指定する場合は、このオプションを選択します。(オプションフィールド)

制限時間アクション : ムービー完了までの許容時間を超えたとき、動作を指定する場合はこのオプションを選択します。ポップアップメニューをクリックして、4 つのオプションのうち、いずれかを選択します。メッセージと共に終了する、メッセージなしで終了する、メッセージと共に続行する、またはメッセージなしで続行する。(オプションフィールド)

起動データ : リソースが望む初期化データを指定する場合は、このオプションを選択します。(オプションフィールド)

8. [OK] をクリックします。

マニフェストファイルが生成されます。マニフェストファイルを見るには、Captivate ムービーをパブリッシュして、SWF ファイルを作成します。デフォルトの保存場所を使用している場合、SWF ファイルと "imsmanifest.xml" ファイルは "My Documents¥My Captivate Projects" フォルダで見ることができます。

メモ : 必要に応じて、PIF を作成し、Captivate ムービーの出力ファイルおよびマニフェストファイルをパッケージにします。SCORM 2004 オプションを使用している場合は、これ以外のファイルも含んでパッケージにします。

PIF を作成する

Captivate には、パッケージ互換ファイル (PIF) の作成サポートが含まれています。SCORM ガイドラインでは、システム間でコンテンツパッケージを移動する場合、PIF の使用を強制はしていませんが推奨しています。PIF には、マニフェストおよびコンテンツファイル (Rdmovie.htm および RdMovie.swf) のすべてがセットになった ZIP ファイルが含まれます。

PIF を作成するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [パブリッシュ] を選択します。
3. Flash (SWF) を選択します。
4. [ムービータイトル] に、ファイル拡張子 (SWF) を付けずに、ファイル名を入力します。
5. [フォルダ] に、ファイルを保存するフォルダの完全なパスを入力します。または、[参照] をクリックしてフォルダに移動します。
6. [出力オプション] で、[Zip ファイル] および [HTML 書き出し] を選択します。Flash (SWF) ファイルおよび .HTML ファイルを含む Zip ファイルを作成して、コース内容を PIF にパッケージ化します。
7. [パブリッシュ] をクリックします。

クイズマネジャーでクイズを管理する

クイズマネジャーでクイズオプションを設定することができます。これらのオプションはムービーに追加するすべてのクイズに適用されます。SCORM または AICC 準拠、ユーザーへのフィードバックメッセージ、移動ボタン、および採点機能などのオプションを利用できます。

クイズマネジャーを使用するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [クイズマネジャー] を選択します。

[報告] タブオプション

出力オプションを有効化：すべての出力の選択肢を有効化する場合、このオプションを選択します。

Breeze：Macromedia Breeze で追跡を有効にします。

AICC：AICC サポートを有効にします。

SCORM：SCORM サポートを有効にします。

メモ：ムービーに AICC または SCORM オプションを選択した場合は、フルスクリーンのパブリッシュオプションを適用できません。

マニフェスト：[マニフェスト] ダイアログボックスをクリックすると、多数の学習管理システムが必要とする、マニフェストファイルを作成するためのオプションを設定することができます。

QuestionMark Perception：ムービーに QuestionMark Perception との互換性を持たせます。Captivate プロジェクトを Perception に素早くインポートできるように、QML ファイルが自動生成されます。

Authorware：このオプションを選択すると、ムービーに Macromedia Authorware との互換性を持たせます。簡単な書き出しコマンドで、Captivate シミュレーションを Authorware プロジェクトに組み込むことができます。Authorware で、すべての Captivate スコアデータを追跡することができます。

セパレータ：Authorware の目的のフィールド セパレータを入力します。

電子メール：このオプションを選択すると、指定した電子メールアドレスにスコアの結果を自動的に送信します。テキストボックスに、完全な電子メールアドレスを直接入力します（例：name@mycompany.com）。結果はコンマを境界に使用した形式で送信され、Excel などのスプレッドシートプログラムへ簡単にコピーおよび貼り付けをすることができます。

報告レベル：ユーザーに報告する情報のタイプを指定します。ポップアップメニューからオプションを選択します。

合格または不合格を報告：ユーザーがクイズの結果を受け取る場合、[合格／不合格] または [完了／未完] のいずれかを指定します。

スコアを LMS (Learning Management System: 学習管理システム) に報告：ユーザーが、スコア (10 点満点中 8 点など) またはパーセンテージ (80% 正解など) のどちらで結果を受け取るかを指定します。

[#] % 以上のスコアで合格：生徒が合格するために達成する必要があるパーセンテージを入力します。

[#] 以上の合計点で合格：生徒が合格するために達成する必要がある数値を入力します。

[クイズ] タブオプション

名前：他のクイズで使用していないクイズの名前を指定します。

必須：ユーザーがクイズを受ける必要がある場合は指定します。ポップアップメニューをクリックして、オプションのいずれかを選択します。

目的 ID：これは、オプションのパラメータです。質問が学習管理システムで設定した目的に関連している場合は、このフィールドにその目的を入力します。

逆方向への移動を許可：このオプションを選択すると、ユーザーがクイズを受けているとき、前のスライドへ戻ることを可能にします。

採点済みクイズの表示を許可: このオプションを選択すると、ユーザーは採点後のクイズを見ることができます。[設定] をクリックして、ユーザーへのメッセージを入力します。

クイズの最後にスコアを表示: このオプションを選択すると、ユーザーはクイズ終了時にスコアを見ることができます。[設定] をクリックして、ユーザーへの合格または不合格のメッセージを入力し、クイズの最終スコアがどのように表示されるかを設定します。

進行状況を表示: このオプションを選択すると、ユーザーがクイズ内のどの質問に現在取り組んでいるか、質問の番号で表示することができます。ポップアップメニューをクリックして、オプションのいずれかを選択します。

正解メッセージ: ユーザーが質問に正しく答えた場合に表示するメッセージを指定します。デフォルトのテキストを使用するか、または新しいテキストを入力することができます。

不正解の場合: ユーザーの答えが正しくない場合に表示するメッセージを指定します。デフォルトのテキストを使用するか、または新しいテキストを入力することができます。

再試行メッセージ: ユーザーの答えが不正解ですが試行回数がまだ残っている場合に表示するメッセージを指定します。デフォルトのテキストを使用するか、または新しいテキストを入力することができます。

未解答メッセージ: ユーザーが質問に答えなかった場合に表示するメッセージを指定します。デフォルトのテキストを使用するか、または新しいテキストを入力することができます。

時間切れメッセージ: ユーザーが制限時間内に質問に答えなかった場合に表示するメッセージを指定します。デフォルトのテキストを使用するか、または新しいテキストを入力することができます。

[オプション] タブオプション

合格点の場合

ジャンプ先: ユーザーが合格点を受け取った場合に起こる動作を指定します。

- アクションなし: ユーザーが合格点を受け取ったとき、何のアクションもしない場合に選択します。
- 前のスライドに戻る: 前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む: 次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする: 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く: インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く: 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る: デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する: 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。

メモ: [URL またはファイルを開く] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

落第点の場合

ユーザーに許可する試行回数: 矢印を使って、他の動作が起こる前にユーザーに許可する試行回数を選択します。

試行回数無制限: このオプションを選択すると、ユーザーは無制限に試行することができます。

ジャンプ先: 最後の試行後、どのような動作を望むか指定します。次のオプションから選択することができます。

- アクションなし: ユーザーが不合格点を受け取ったとき、何のアクションもしない場合に選択します。
- 前のスライドに戻る: 前のスライドに戻る場合に選択します。
- 次のスライドに進む: 次のスライドに進む場合に選択します。
- スライドにジャンプする: 特定のスライドにジャンプする場合に選択します。
- URL またはファイルを開く: インターネット上の特定の URL または、ローカルファイルにジャンプする場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、URL を表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 他のムービーを開く: 異なるムービーを再生する場合に選択します。ポップアップメニューをクリックして、ムービーを表示するウィンドウを [現在]、[新規]、[親]、または [トップ] から選択します。
- 電子メールを送る: デフォルトの電子メールブラウザを開く場合に選択します。
- JavaScript を実行する: 特定の JavaScript を実行する場合に選択します。[参照] をクリックして、実行する JavaScript を入力します。

メモ: [URL またはファイルを開く] オプションを使用すると、Captivate でスライドを編集する際に URL が表示されますが、ユーザーには見えません。ユーザーに見えるように URL を表示するには、URL テキストが表示される簡単な画像を作成し、それをムービースライドに追加し、その画像の上にクリックボックスを配置します。

ボタン

[次へ] ボタンのテキスト: 次のスライドに移動するためにクリックするボタンのテキストを指定します。

[送信] ボタンのテキスト: クイズの答えを送信するためにクリックするボタンのテキストを指定します。

[戻る] ボタンのテキスト: 前のスライドに戻るためにクリックするボタンのテキストを指定します。

クリア: 既に入力したクイズの答えを白紙に戻し、最初からやり直すためにクリックするボタンのテキストを指定します。

3. クイズおよび質問への変更が完了したら、[OK] をクリックします。

第 14 章

Captivate ムービーのメニューを作成する

MenuBuilder は、Captivate の独自のコンポーネントです。このツールは、Captivate プロジェクトを上演する上で便利な方法を提供します。ムービーを Web または CD のいずれの方法で配布する場合でも、MenuBuilder を使って 1 つの中心的場所を設定し、ユーザーが複数のムービーにアクセスできるようにします。

MenuBuilder では、関連した Captivate プロジェクトや他のファイルへのリンクの整理も、完全にインタラクティブな方法を使って行うことができます。MenuBuilder を使って、複数の Captivate プロジェクト、および他のファイルへのリンクを含む "メニュー" ページを作成することができます。このメニューページは Macromedia Flash SWF ファイルなので、自由にカスタマイズできます。何よりも素晴らしいのは、MenuBuilder ではプログラミングが必要ないことです。MenuBuilder で作成したプロジェクトは、いろいろな形式で書き出すことができます。Flash、HTML、EXE、Word、および Mac ファイルなど、あらゆる形式に書き出せます。

プロジェクトを作成する

さまざまな作成オプションを使用して、異なるタイプの MenuBuilder プロジェクトを作成できます。

ウィザードで新規 MenuBuilder プロジェクトを作成する

MenuBuilder では、MenuBuilder ウィザードを使って簡単にプロジェクトを作成できます。

MenuBuilder ウィザードを使って新規プロジェクトを作成するには：

1. Captivate を開きます。
2. Captivate のスタートページから [MenuBuilder プロジェクトを作成する] をクリックします。
[MenuBuilder] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、新規 MenuBuilder プロジェクトを作成することも、既存のプロジェクトを開くこともできます。
3. [プロジェクトウィザード] を選択して [OK] をクリックします。
MenuBuilder ウィザードが開きます。
4. [テンプレート] で、MenuBuilder プロジェクトで使用するテンプレートを選択します。
テンプレートは PowerPoint と同様に作動し、背景の画像やテキストスタイルが含まれます。選択したテンプレートのプレビューがプレビューウィンドウに表示されます。

メモ：ご使用のコンピュータに PowerPoint がインストールされている場合、PowerPoint テンプレートがここに一覧表示されます。MenuBuilder で以前作成したテンプレートが存在する場合は、それもここに一覧表示されます。

メモ：MenuBuilder はすべてのテンプレートをデフォルトのディレクトリに格納します。必要に応じて、ディレクトリにアクセスおよび変更することもできます。

5. [次へ] をクリックします。

6. [テキスト] に、プロジェクトで表示するテキストを入力します。

後から表示されるダイアログボックスで、フォント、テキストの色、サイズなどのさまざまな表示オプションを設定できます。

7. [リンク] ポップアップメニューから有効化するリンクのタイプを選択します。

選択できるタイプは、Captivate Flash Movie、Web Address、Email Address、FTP Address、および Newsgroup Address です。[参照] をクリックして、他の選択を探します。[参照] ボタンを使用すると、ほとんどすべてのファイルタイプにリンクできます。[リンク] テキストボックスに適切なテキストを入力します。たとえば、[Web アドレス] を選択したら、適切な URL をこのテキストボックスに入力します。

8. Captivate SWF ファイル (Flash ムービー) にリンクすると、MenuBuilder は関連付けられた HTML ファイルへのリンクを自動的に作成します。各 Captivate SWF ファイルには関連する HTML ファイルが必要です。このファイルには、Captivate SWF ファイルを正しく再生するために必要な情報が含まれています。[ファイルをプロジェクトと共に保存する] を選択すると、Captivate SWF ファイルと関連する HTML ファイルが保存されます。SWF ファイルを書き出すと、リンクした HTML ファイルも書き出されます。

9. URL または HTML ファイルにリンクすると、[詳細設定] ボタンがアクティブになります。リンクがあるブラウザウィンドウの表示オプションを設定するには、このボタンをクリックします。

10. (オプション)[ツールヒント] のフィールドに、ローラーオーバーツールヒントとして使用するテキストを入力します。

11. 最初のテキスト項目が完了したら、[新規項目] または [新規サブ項目] をクリックして、次の項目を追加します。必要に応じて、手順 6 ～ 10 を繰り返してください。

12. [次へ] をクリックします。

13. [プロジェクト] で、完成したプロジェクトダイアログボックスの一番上に表示するテキストを入力します。

14. プロジェクトを EXE ファイルでエクスポートする場合は、[参照] をクリックして CD アイコンを選択します。アイコンファイル (ICO) を選択します。

15. [背景] で、ポップアップメニューから枠線のスタイルを選択します。

16. ポップアップメニューを使って、透明度の値を選択します。0% は不透明で、100% は完全に透明です。

17. [ウィンドウサイズ] で、[フルスクリーン] または [カスタム] のいずれかを選択します。[カスタム] を選択した場合は、[幅] と [高さ] をテキストボックスに入力します。

18. [完了] をクリックします。

空白の MenuBuilder プロジェクトを作成する

MenuBuilder ウィザードを使ってプロジェクトを作成しない場合は、空白プロジェクトを作成して、それを編集することができます。

空白プロジェクトを作成するには：

1. Captivate を開きます。
2. [その他のムービータイプ] で、[MenuBuilder プロジェクトを作成する] をクリックします。
[MenuBuilder] ダイアログボックスが表示されます。
3. [空白のプロジェクト] を選択して [OK] をクリックします。
MenuBuilder の新規空白プロジェクトが開きます。
4. 必要に応じて、項目をプロジェクトに追加します。

既存の MenuBuilder プロジェクトを開く

既存の MenuBuilder プロジェクトを簡単に開くことができます。

既存のプロジェクトを開くには：

1. Captivate を開きます。
2. Captivate のスタートページから [MenuBuilder プロジェクトを作成する] をクリックします。
[MenuBuilder] ダイアログボックスが表示されます。
3. [既存プロジェクトを開く] を選択して、一覧にあるプロジェクトをクリックします。開きたいプロジェクトが一覧内にない場合は、[参照] をクリックしてプロジェクトのある場所に移動します。
4. [OK] をクリックします。

MenuBuilder テンプレートを選択する

MenuBuilder のテンプレートは、Microsoft PowerPoint など他のソフトウェアで使用するテンプレートと同じような働きをします。テンプレートには、背景画像やテキストスタイルが含まれています。MenuBuilder はすべてのユーザー定義テンプレートをデフォルトのディレクトリに格納します。必要に応じて、ディレクトリにアクセスおよび変更することもできます。

通常、MenuBuilder ウィザードを使った最初の開発段階で、テンプレートを選択します。

テンプレートを選択するには：

1. Captivate を開きます。
2. Captivate のスタートページから [MenuBuilder プロジェクトを作成する] をクリックします。
[MenuBuilder] ダイアログボックスが表示されます。
3. [プロジェクトウィザード] を選択して [OK] をクリックします。
MenuBuilder ウィザードが開きます。
4. [テンプレート] から、プロジェクトで使用するテンプレートを選択します。
選択したテンプレートのプレビューが右側のプレビューウィンドウに表示されます。
5. [次へ] をクリックして、新規 MenuBuilder プロジェクト の作成プロセスを完了します。

MenuBuilder のテンプレートを変更する

最初にプロジェクトを開発する段階で、新しい MenuBuilder プロジェクトのテンプレートを定義すること、その後既存のユーザー定義テンプレートを変更することも可能です。

テンプレートを変更するには：

1. 既存のユーザー定義テンプレートを開きます。
2. [オプション] メニューから [プロジェクトオプション] を選択します。
3. [画像] のテキストボックスで、選択したファイルに留意します。通常、ここに一覧された画像は選択したテンプレートの背景画像です。画像を変更する場合は、[参照] ボタンを使って、別の画像ファイルを選択します。
4. また、プロジェクトをテンプレートとして保存し、将来他のプロジェクトに使用することもできます。

ドラッグして項目を追加する

MenuBuilder では、開いているプロジェクトにドラッグして項目を簡単に追加できます。事実上、ほとんどすべての項目 (ファイル、画像、アクティブな Web アドレスなど) をドラッグして追加できます。

ドラッグして項目を追加するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. アプリケーションウィンドウのサイズを変更し、他の項目を表示するスペースを確保します。
3. 項目 (ファイル、画像、アクティブな Web アドレスなど) をドラッグして、MenuBuilder に挿入します。
適切なテキストまたは画像項目が、正しいリンクと共に挿入されます。
4. 項目のプロパティを編集するには、項目をダブルクリックします。

MenuBuilder で操作を元に戻すまたはやり直す

MenuBuilder の [元に戻す] コマンドを使うと、最後に行った操作を元に戻すことができます。また、[元に戻す] コマンドで元に戻した操作は、[やり直す] コマンドを使ってやり直すこともできます。

操作を元に戻すには：

1. [編集] メニューから [元に戻す] を選択、または Ctrl+Z を押します。
2. [元に戻す] を選択する度に、行った操作が一つずつ元に戻ります。必要に応じて、[元に戻す] をクリックし続け、前に加えた変更を削除します。

ヒント：[元に戻す] コマンドが使用不可 (淡色表示) の場合は、最後に行った操作を元に戻すことができません。

ヒント：操作は、プロジェクトを開いたときから閉じるまで追跡されます。プロジェクトが開いている間は、[元に戻す] コマンドを必要なだけ何度でも使用できます。

操作をやり直すには：

- [元に戻す] コマンドを使った後、[編集] メニューから [やり直す] を選択する、または Shift + Ctrl + Z を押します。

MenuBuilder のプロジェクトをプレビューする

インタラクティブなエレメントを含む MenuBuilder プロジェクトが、ユーザーからどのように見えるかを確認するには、[プレビュー] コマンドを使用する必要があります。

プロジェクトをプレビューするには：

1. プレビューする MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. [ファイル] メニューから [プレビュー] を選択します。

MenuBuilder プロジェクトのスペルチェックをする

MenuBuilder には、標準的なスペルチェックおよび文法チェック機能が備わっています。

メモ：スペルチェック機能を使用するには、ご使用のコンピュータに Microsoft Word がインストールされている必要があります。

プロジェクトのスペルをチェックするには：

1. チェックする MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. [ツール] メニューから [スペルチェック] を選択します。または、F7 キーを押しても、スペルをチェックすることができます。

MenuBuilder のプロジェクトを印刷する

MenuBuilder プロジェクトは、随時印刷することができます。MenuBuilder プロジェクトの印刷は、他の人にコンテンツを見せたいとき、または配布資料が必要なときなどに役立ちます。

プロジェクトを印刷するには：

1. 印刷する MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. [ファイル] メニューから [印刷] を選択します。
3. 必要に応じて印刷の設定を変更し、[OK] をクリックします。

MenuBuilder プロジェクトを保存する

MenuBuilder でプロジェクトを作成しているとき、作業は定期的に保存する方が良いでしょう。作業した部分を保存してあれば、システムに問題が発生した場合にも保護することができます。プロジェクトを最初に保存する場合、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示され、プロジェクト名を割り当てます。

プロジェクトを保存するには：

1. 保存する MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. [ファイル] メニューから [保存] を選択します。

MenuBuilder プロジェクトをテンプレートとして保存する

既存の MenuBuilder プロジェクトをテンプレートとして保存し、将来プロジェクトを作成する際に使用することができます。MenuBuilder テンプレートは .mgt ファイル拡張子を使用します。

プロジェクトをテンプレートとして保存するには：

1. 保存する MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. [ファイル] メニューから [テンプレートとして保存] を選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
3. [ファイル名] のテキストボックスにテンプレートの名前を入力します。
テンプレートは好きな場所に保存できます。ただし、MenuBuilder ウィザードは、特定のテンプレートディレクトリに保存されたテンプレートのみを表示します。必要に応じて、ディレクトリを変更することもできます。
4. [保存] をクリックします。

MenuBuilder のテキストを使用する

MenuBuilder ウィザードを使って MenuBuilder プロジェクトを始めて作成する場合、まず最初にテキストとリンクを追加します。ただし、テキストは後からプロジェクトに追加することもできます。

MenuBuilder にテキストを追加する

MenuBuilder プロジェクトにテキストを追加するには、次の手順に従います。

テキストを追加するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. [挿入] メニューから [テキスト] を選択します。
3. [スタイル] ポップアップメニューで、テキストスタイルを選択します。Captivate は、一覧にある styles.om をインポートして新しいスタイルを作成します。
4. [フォント] ポップアップメニューで、フォントを選択します。サイズやスタイルのオプションも選択します。
5. [テキスト] ボックスにプロジェクトで表示するテキストを入力します。
6. [リンク] ポップアップメニューから有効化するリンクのタイプを選択します。[参照] をクリックして、他の選択を探します。
7. [リンク] テキストボックスに適切なテキストを入力します。たとえば、[Web アドレス] を選択したら、適切な URL をこのテキストボックスに入力します。
8. Captivate SWF ファイルにリンクすると、MenuBuilder は自動的に関連付けられた HTM ファイルへのリンクを作成します。各 Captivate SWF ファイルには関連する HTM ファイルが必要です。このファイルには、Captivate SWF ファイルを正しく再生するために必要な情報が含まれています。[ファイルをプロジェクトと共に保存する] をクリックすると、Captivate SWF ファイルと関連する HTM ファイルが保存されます。SWF ファイルを書き出すと、リンクした HTM ファイルも書き出されます。
9. URL または HTM ファイルにリンクすると、[詳細設定] ボタンがアクティブになります。リンクがあるブラウザウィンドウの表示オプションを設定するには、このボタンをクリックします。
10. [ツールヒント] テキストボックスに、ロールオーバーツールヒントのテキストを入力します。
11. [標準色] および [ポイント時の色] の隣にあるカラーボックスをクリックして、各状態のテキストの色を選択します。ポイント時の色とは、ユーザーがテキスト上にロールオーバーしたときに表示される色です。

12. 必要に応じて、[変更をすべての項目に適用する] をクリックします。このオプションは、このダイアログボックスで加えた変更を、プロジェクト内の同じような項目すべてに適用します。
13. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

MenuBuilder のテキストオプションを設定する

MenuBuilder のテキストオプションの中には、MenuBuilder ウィザードを使ってテキスト項目を作成するときに設定できるものもあります。ただし、テキスト項目を作成した後は、より数多くのオプションを設定できます。

テキストのオプションを設定するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 編集するテキスト項目をダブルクリックします。
[テキストプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
3. テキストのオプションを調整する：

[スタイル] ポップアップメニューを使って、テキストスタイルを選択します。一覧されたスタイルは、選択したテンプレートから読み込まれます。新しいスタイルを作成するには [カスタム] を選択します。
[フォント] ポップアップメニューを使って、フォントを選択します。サイズやスタイルのオプションも選択します。

[テキスト] ボックスにプロジェクトで表示するテキストを入力します。

[リンク] ポップアップメニューを使って、有効化するリンクのタイプを選択します。[参照] をクリックして、他の選択を参照します。ほとんどのファイルタイプにリンクを作成できます。[リンク] のテキストボックスに適切なテキストを入力します。たとえば、Web アドレスを選択したら、適切な URL を入力します。

Captivate SWF ファイルにリンクすると、MenuBuilder は自動的に関連付けられた HTM ファイルへのリンクを作成します。各 Captivate SWF ファイルには関連する HTM ファイルが必要です。このファイルには、Captivate SWF ファイルを正しく再生するために必要な情報が含まれています。[ファイルをプロジェクトと共に保存する] をクリックすると、Captivate SWF ファイルと関連する HTM ファイルが保存されます。SWF ファイルを書き出すと、リンクした HTM ファイルも書き出されます。

URL または HTM ファイルにリンクすると、[詳細設定] ボタンがアクティブになります。リンクがあるブラウザウィンドウのオプションを設定するには、このボタンをクリックします。

[ツールヒント] ボックスに、ロールオーバーツールヒントのテキストを入力します。

[標準色] および [ポイント時の色] の隣にあるカラーボックスをクリックして、各状態のテキストの色を選択します。ポイント時の色とは、ユーザーがテキスト上にロールオーバーしたときに表示される色です。

必要に応じて、[変更をすべての項目に適用する] をクリックします。このオプションは、このダイアログボックスで加えた変更を、プロジェクト内の同じような項目すべてに適用します。

4. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

MenuBuilder のテキストを移動する

MenuBuilder のテキスト項目はドラッグして移動できます。

テキスト項目を移動するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 移動するテキスト項目を選択して、新しい位置にドラッグします。

ヒント：複数のテキスト項目を同時に移動するには、Shift キーを押しながら移動するテキスト項目をクリックします。テキスト項目を目的の位置までドラッグします。

ヒント：ピクセル単位で、テキスト項目を移動することもできます。移動するテキスト項目を選択します。Control キーを押したまま、矢印キーで方向を選択します。テキストが矢印の方向にピクセル単位で移動します。

ヒント：また、隣にあるグリッドの境界線までテキスト項目を移動することもできます。移動するテキスト項目を選択します。Control と Shift の両キーを押したまま、矢印キーで方向を選択します。テキストが隣のグリッド境界線まで移動します。

MenuBuilder のテキストを整列させる

MenuBuilder プロジェクト内のテキスト項目を水平方向、垂直方向、および他の項目との相互関係で整列させることができます。

テキスト項目を整列させるには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. Shift キーを押して、整列させるテキスト項目を選択します。
3. [編集] メニューから [整列] を選択します。
[整列] ダイアログボックスが表示されます。
4. 以下の整列オプションから選択します。

水平方向

変更なし：このオプションは変更を加えません。

左端：このオプションは項目の左端を揃えて整列します。

中央：このオプションは項目の中央を揃えて整列します。

右端：このオプションは項目の右端を揃えて整列します。

均等揃え：項目を水平方向に均等に整列します。

ウィンドウの中央：このオプションは項目を水平方向の中央に整列します。

垂直方向

変更なし：このオプションは変更を加えません。

上端：このオプションは項目の上端を揃えて整列します。

中央：このオプションは項目の中央を揃えて整列します。

下端：このオプションは項目の下端を揃えて整列します。

均等揃え：項目を垂直方向に均等に配置します。

ウィンドウの中央：このオプションは項目を垂直方向の中央に整列します。

5. [OK] をクリックします。

MenuBuilder のテキストをコピーする

MenuBuilder のテキスト項目を簡単に素早くコピーおよび貼り付けができます。

ヒント：複数のテキスト項目を同時にコピーするには、Shift を押しながらコピーするテキスト項目を次々にクリックしていきます。

テキストをコピーするには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. コピーするテキスト項目を選択します。
3. [編集] メニューから [コピー] を選択します。または、右クリックで [コピー] を選択することもできます。

テキストをペーストするには：

1. ペーストするテキスト項目をコピーします。
2. [編集] メニューから [貼り付け] を選択します。または、右クリックで [貼り付け] を選択することもできます。

MenuBuilder のテキストを並び替える

MenuBuilder では、テキストや、クリックボックス、画像などのオブジェクトをプロジェクトに追加できます。テキストが他のオブジェクト上に重なっている (またはその逆の) 場合、重なり順を設定して、他よりも前に表示するオブジェクトを制御することは重要です。

重なり順の変更では、オブジェクトをステージで前後に移動させます。重要なポイントは、ステージの後ろにあるオブジェクトが他のオブジェクトよりも後ろに表示されるということです。

テキスト項目を並び替えるには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 重なり順を変更したいテキストを右クリックし、[最前面へ移動] または [最背面へ移動] を選択します。

MenuBuilder でピクセルの位置を確認する

MenuBuilder では、クリックボックス、画像、またはテキスト項目の正確な場所をピクセル値で確認することができます。

位置をピクセル値で表示するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 項目を選択します。
3. [詳細情報] バー (左側) に、項目の座標値が表示されます。これは、項目の左上角の位置をピクセル値で示したものです。ウィンドウの左上角は 0,0 の値になります。項目を右方向に移動させると最初の値が増加し、項目を下方向に移動させると 2 番目の値が増加します。

MenuBuilder のテキストを削除する

MenuBuilder の不要になったテキスト項目を簡単に素早く削除できます。

ヒント：複数のテキスト項目を同時に削除するには、Shift キーを押しながら削除するテキスト項目をクリックします。

テキストを削除するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 削除するテキスト項目を選択します。
3. [編集] メニューから [削除] を選択します。または、右クリックで [削除] を選択することもできます。
4. 定義した MenuBuilder の環境設定によっては、確認を促すダイアログボックスが表示されることがあります。その場合は、[はい] をクリックして項目を削除します。

MenuBuilder プロジェクトで画像を使用する

MenuBuilder プロジェクトに画像をいつでも追加できます。画像をインタラクティブなリンクに変換することもできます。

MenuBuilder に画像を追加する

MenuBuilder では、インタラクティブなリンクを含む画像を追加できます。

メモ：画像は JPEG、GIF、BMP、ICO、EMF、または WMF 形式のファイルをサポートします。

画像を追加するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. [挿入] メニューから [画像] を選択します。
3. 追加する画像を選択し、[開く] をクリックします。
[新規画像] ダイアログボックスが表示されます。
4. [リンク] ポップアップメニューから有効化するリンクのタイプを選択します。[参照] をクリックして、他の選択を探します。
5. [リンク] テキストボックスに適切なテキストを入力します。たとえば、[Web アドレス] を選択したら、適切な URL をこのテキストボックスに入力します。
6. Captivate SWF ファイルにリンクすると、MenuBuilder は自動的に関連付けられた HTM ファイルへのリンクを作成します。各 Captivate SWF ファイルには関連する HTM ファイルが必要です。このファイルには、Captivate SWF ファイルを正しく再生するために必要な情報が含まれています。[ファイルをプロジェクトと共に保存する] をクリックすると、Captivate SWF ファイルと関連する HTM ファイルが保存されます。SWF ファイルを書き出すと、リンクした HTM ファイルも書き出されます。
7. URL または HTM ファイルにリンクすると、[詳細設定] ボタンがアクティブになります。リンクがあるブラウザウィンドウの表示オプションを設定するには、このボタンをクリックします。
8. 必要に応じて、[ツールヒント] テキストボックスにローラーオーバーツールヒントのテキストを入力します。
9. 画像の背景色に透明を希望する場合は、[透明な背景] を選択します。画像自体は透明になりません。

10. 画像を透明、または半透明にする場合は [透明度] を選択します。0 ~ 100% の範囲から値を選択します。0% は不透明で、100% は完全に透明です。
11. 必要に応じて、[変更をすべての項目に適用する] をクリックします。このオプションは、このダイアログボックスで加えた変更を、プロジェクト内の同じような項目すべてに適用します。
12. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

MenuBuilder の画像オプションを設定する

MenuBuilder の画像プロパティは、随時編集することができます。

画像のオプションを設定するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 編集する画像をダブルクリックします。

[画像プロパティ] ダイアログボックスが開きます。

3. 画像のオプションを変更します。

[画像] から、[参照] をクリックして画像ファイルを選択します。使用できる画像の形式は、JPEG、GIF、BMP、ICO、EMF、または WMF です。

[リンク] で、ポップアップメニューを使用して有効化するリンクのタイプを選択します。[参照] をクリックして、他の選択を探します。[リンク] のテキストボックスに適切なテキストを入力します。たとえば、Web アドレスを選択したら、適切な URL をこのテキストボックスに入力します。

Captivate SWF ファイルにリンクすると、MenuBuilder は自動的に関連付けられた HTM ファイルへのリンクを作成します。各 Captivate SWF ファイルには関連する HTM ファイルが必要です。このファイルには、Captivate SWF ファイルを正しく再生するために必要な情報が含まれています。[ファイルをプロジェクトと共に保存する] をクリックすると、Captivate SWF ファイルと関連する HTM ファイルが保存されます。SWF ファイルを書き出すと、リンクした HTM ファイルも書き出されます。

URL または HTM ファイルにリンクすると、[詳細設定] ボタンがアクティブになります。リンクがあるブラウザウィンドウのオプションを設定するには、このボタンをクリックします。

[ツールヒント] テキストボックスに、ロールオーバーツールヒントのテキストを入力します。

[透明な背景] を選択して、画像に透明な背景を設定します。画像の背景色は透明になりますが、画像自体は透明になりません。

[透明度] ポップアップメニューを使って、画像自体の透明度の値を選択します。0% は不透明で、100% は完全に透明です。

4. 必要に応じて、[変更をすべての項目に適用する] をクリックします。

このオプションは、このダイアログボックスで加えた変更を、プロジェクト内の同じような項目すべてに適用します。

5. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

MenuBuilder の画像を移動する

MenuBuilder の画像はドラッグして移動できます。

画像を移動するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 移動する画像を選択して、新しい位置にドラッグします。

ヒント：複数の画像を同時に移動するには、Shift キーを押しながら移動する画像をクリックします。画像を目的の位置までドラッグします。

ヒント：ピクセル単位で、画像を移動することもできます。移動する画像を選択します。Ctrl キーを押したまま、矢印キーで方向を選択します。画像が選択した方向にピクセル単位で移動します。

ヒント：また、隣にあるグリッドの境界線まで画像を移動することもできます。画像を隣のグリッド境界線まで移動するには、まず、移動する画像を選択します。Ctrl と Shift の両キーを押したまま、矢印キーで方向を選択します。画像が隣のグリッド境界線まで移動します。

MenuBuilder の画像を整列させる

MenuBuilder プロジェクト内の画像を水平方向、垂直方向、および他の項目との相互関係で整列させることができます。

画像を整列させるには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. Shift キーを押して、整列させる画像を選択します。
3. [編集] メニューから [整列] を選択します。
[整列] ダイアログボックスが表示されます。
4. 以下の整列オプションから選択します。

水平方向

変更なし：このオプションは変更を加えません。

左端：このオプションは項目の左端を揃えて整列します。

中央：このオプションは項目の中央を揃えて整列します。

右端：このオプションは項目の右端を揃えて整列します。

均等揃え：項目を水平方向に均等に整列します。

ウィンドウの中央：このオプションは項目を水平方向の中央に整列します。

垂直方向

変更なし：このオプションは変更を加えません。

上端：このオプションは項目の上端を揃えて整列します。

中央：このオプションは項目の中央を揃えて整列します。

下端：このオプションは項目の下端を揃えて整列します。

均等揃え：項目を垂直方向に均等に配置します。

ウィンドウの中央：このオプションは項目を垂直方向の中央に整列します。

5. [OK] をクリックします。

MenuBuilder の画像をコピーする

MenuBuilder の画像を簡単に素早くコピーおよび貼り付けができます。

ヒント : 複数の画像を同時にコピーするには、Shift キーを押しながらコピーする画像を次々にクリックしていきます。

画像をコピーするには :

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. コピーする画像を選択します。
3. [編集] メニューから [コピー] を選択します。または、右クリックで [コピー] を選択することもできます。

画像をペーストするには :

1. 画像をコピーします。
2. [編集] メニューから [貼り付け] を選択します。または、右クリックで [貼り付け] を選択することもできます。

MenuBuilder の画像を並び替える

MenuBuilder では、画像や、クリックボックス、テキストなどのオブジェクトをプロジェクトに追加できます。画像が他のオブジェクト上に重なっている (またはその逆の) 場合、重なり順を設定して、他よりも前に表示するオブジェクトを制御することは重要です。

重なっている順序の変更では、オブジェクトをステージで前後に移動させます。重要な点は、ステージの一番後ろにあるオブジェクトは、他のオブジェクトよりも後ろに表示されることです。

画像を並び替えるには :

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 重なり順を変更したい画像を右クリックし、[最前面へ移動] または [最背面へ移動] を選択します。

MenuBuilder でピクセルの位置を確認する

MenuBuilder では、クリックボックス、画像、またはテキスト項目の正確な場所をピクセル値で確認することができます。

位置をピクセル値で表示するには :

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 項目を選択します。
3. [詳細情報] バー (左側) に、項目の座標値が表示されます。これは、項目の左上角の位置をピクセル値で示したものです。ウィンドウの左上角は 0,0 の値になります。項目を右方向に移動させると最初の値が増加し、項目を下方向に移動させると 2 番目の値が増加します。

MenuBuilder の画像サイズを変更する

MenuBuilder では、画像のサイズを高さや幅を使って、または他の画像と相対的に設定できます。また、元のサイズにリセットすることもできます。

ヒント : 複数の画像を同時にサイズ変更するには、Shift キーを押しながら画像をクリックします。

画像のサイズを変更するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. サイズを変更する画像を選択します。
3. [編集] メニューから [サイズ] を選択します。
4. 画像サイズのオプションを選択します。

幅

変更なし：画像の幅に変更を加えません。

最小まで縮小：複数の画像を選択した場合、すべての画像が一番小さな画像のサイズになります。

最大まで拡大：複数の画像を選択した場合、すべての画像が一番大きな画像のサイズになります。

幅：このテキストボックスは、画像の幅をピクセル単位で示します。この値は編集できます。

高さ

変更なし：画像の高さに変更を加えません。

最小まで縮小：複数の画像を選択した場合、すべての画像が一番小さな画像のサイズになります。

最大まで拡大：複数の画像を選択した場合、すべての画像が一番大きな画像のサイズになります。

高さ：このテキストボックスは、画像の高さをピクセル単位で示します。この値は編集できます。

5. [OK] をクリックします。

メモ：画像のサイズは、サイズ変更ハンドルをドラッグしても設定できます。この方法は、[サイズ] ダイアログボックスを使う方法よりも精度に欠けますが、より便利な方法と言えます。

画像のサイズを元のサイズにリセットするには：

1. MenuBuilder で画像を作成します。
 2. 必要に応じて、画像のサイズを変更します。
 3. 画像を右クリックして、[リセット] を選択します。
- 画像が元のサイズに戻ります。

MenuBuilder の画像を拡大縮小する

MenuBuilder では、画像を比例的に拡大または縮小することができます。MenuBuilder の画像は1つでも複数でも拡大縮小できます。

ヒント：複数の画像を同時に拡大縮小するには、Shift を押しながら拡大縮小する画像を次々にクリックしていきます。

画像を拡大縮小するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 拡大縮小する画像を選択します。
3. [編集] メニューから [拡大縮小] を選択します。または、右クリックで [拡大縮小] を選択することもできます。
4. [拡大縮小率] テキストボックスに拡大縮小率を入力します。オリジナル画像のサイズを元にして、拡大縮小率をパーセンテージで表します。
5. [OK] をクリックします。

MenuBuilder で透明画像を作成する

MenuBuilder では、画像をカスタマイズして透明度を目的に合わせて調整できます。

透明な画像を作成するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 編集する画像をダブルクリックします。
[画像プロパティ] ダイアログボックスが開きます。
3. 画像の背景色を透明にしたい場合は、[透明な背景] を選択します。画像自体は透明になりません。
4. [透明度] を選択して、画像自体を透明にします。0 ～ 100% の範囲から値を選択します。0% は不透明で、100% は完全に透明です。
5. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

MenuBuilder から画像を削除する

MenuBuilder の不必要になった画像を簡単に素早く削除できます。

ヒント：複数の画像を同時に削除するには、Shift キーを押しながら削除する画像を次々にクリックしていきます。

画像を削除するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 削除する画像を選択します。
3. [編集] メニューから [削除] を選択します。または、右クリックで [削除] を選択することもできます。
4. 定義した MenuBuilder の環境設定によっては、確認を促すダイアログボックスが表示されることがあります。その場合は、[はい] をクリックして項目を削除します。

MenuBuilder プロジェクト内のクリックボックスを使用する

MenuBuilder 内のクリックボックスは、画像を含まないインタラクティブなボックスです。テキストや画像と同様に、クリックボックスをファイルにリンクすることができます。クリックボックスを他のエLEMENTの前に浮かせることもできます。

MenuBuilder にクリックボックスを追加する

MenuBuilder 内のクリックボックスを簡単に追加し、編集できます。

クリックボックスを追加するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. [挿入] メニューから [クリックボックス] を選択します。
3. [リンク] ポップアップメニューから有効化するリンクのタイプを選択します。[参照] をクリックして、他の選択を探します。
4. [リンク] テキストボックスに適切なテキストを入力します。たとえば、Web アドレスを選択したら、適切な URL を入力します。

5. Captivate SWF ファイルにリンクすると、MenuBuilder は自動的に関連付けられた HTM ファイルへのリンクを作成します。各 Captivate SWF ファイルには関連する HTM ファイルが必要です。このファイルには、Captivate SWF ファイルを正しく再生するために必要な情報が含まれています。[ファイルをプロジェクトと共に保存する] をクリックすると、Captivate SWF ファイルと関連する HTM ファイルが保存されます。SWF ファイルを書き出すと、リンクした HTM ファイルも書き出されます。
6. URL または HTM ファイルにリンクすると、[詳細設定] ボタンがアクティブになります。リンクがあるブラウザウィンドウのオプションを設定するには、このボタンをクリックします。
7. 必要に応じて、[ツールヒント] テキストボックスにロールオーバーツールヒントのテキストを入力します。
8. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

MenuBuilder クリックボックスのオプションを設定する

MenuBuilder のクリックボックスは、随時編集することができます。

クリックボックスのオプションを設定するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. プレビューウィンドウで、編集するクリックボックスをダブルクリックします。

[クリックボックスプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. クリックボックスのオプションを変更する：

[リンク] ポップアップメニューから有効化するリンクのタイプを選択します。[参照] をクリックして、他の選択を探します。[リンク] テキストボックスに適切なテキストを入力します。たとえば、[Web アドレス] を選択したら、適切な URL をこのテキストボックスに入力します。

Captivate SWF ファイルにリンクすると、MenuBuilder は自動的に関連付けられた HTM ファイルへのリンクを作成します。各 Captivate SWF ファイルには関連する HTM ファイルが必要です。このファイルには、Captivate SWF ファイルを正しく再生するために必要な情報が含まれています。[ファイルをプロジェクトと共に保存する] をクリックすると、Captivate SWF ファイルと関連する HTM ファイルが保存されます。SWF ファイルを書き出すと、リンクした HTM ファイルも書き出されます。

URL または HTM ファイルにリンクすると、[詳細設定] ボタンがアクティブになります。リンクがあるブラウザウィンドウのオプションを設定するには、このボタンをクリックします。

必要に応じて、[ツールヒント] テキストボックスにロールオーバーツールヒントのテキストを入力します。

4. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

MenuBuilder のクリックボックスを移動する

MenuBuilder のクリックボックスはドラッグして移動することができます。

クリックボックスを移動するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 移動するクリックボックスを選択して、新しい位置にドラッグします。

ヒント：複数のクリックボックスを同時に移動するには、Shift キーを押しながら移動するクリックボックスをクリックします。クリックボックスを新しい位置にドラッグします。

ヒント：ピクセル単位で、クリックボックスを移動することもできます。移動するクリックボックスを選択します。Ctrl キーを押したまま、矢印キーで方向を選択します。クリックボックスが選択した方向にピクセル単位で移動します。

ヒント：また、隣にあるグリッドの境界線までクリックボックスを移動することもできます。移動するクリックボックスを選択します。Ctrl と Shift の両キーを押したまま、矢印キーで方向を選択します。クリックボックスが隣のグリッド境界線まで移動します。

MenuBuilder のクリックボックスを整列させる

MenuBuilder プロジェクト内のクリックボックスを水平方向、垂直方向、および他の項目との相互関係で整列させることができます。

クリックボックスを整列させるには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. Shift キーを押して、整列させるクリックボックスを選択します。
3. [編集] メニューから [整列] を選択します。
[整列] ダイアログボックスが表示されます。
4. 以下の整列オプションから選択します。

水平方向

変更なし：このオプションは変更を加えません。

左端：このオプションは項目の左端を揃えて整列します。

中央：このオプションは項目の中央を揃えて整列します。

右端：このオプションは項目の右端を揃えて整列します。

均等揃え：項目を水平方向に均等に整列します。

ウィンドウの中央：このオプションは項目を水平方向の中央に整列します。

垂直方向

変更なし：このオプションは変更を加えません。

上端：このオプションは項目の上端を揃えて整列します。

中央：このオプションは項目の中央を揃えて整列します。

下端：このオプションは項目の下端を揃えて整列します。

均等揃え：項目を垂直方向に均等に配置します。

ウィンドウの中央：このオプションは項目を垂直方向の中央に整列します。

5. [OK] をクリックします。

MenuBuilder のクリックボックスをコピーする

MenuBuilder のクリックボックスを簡単に素早くコピーおよびペーストできます。

ヒント：複数のクリックボックスを同時にコピーするには、Shift キーを押しながらコピーするクリックボックスをクリックします。

クリックボックスをコピーするには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. コピーするクリックボックスを選択します。
3. [編集] メニューから [コピー] を選択します。または、右クリックで [コピー] を選択することもできます。

クリックボックスをペーストするには：

1. クリックボックスをコピーします。
2. [編集] メニューから [貼り付け] を選択します。または、右クリックで [貼り付け] を選択することもできます。

MenuBuilder のクリックボックスを並び替える

MenuBuilder では、クリックボックスや、画像、テキストなどのオブジェクトをプロジェクトに追加できます。クリックボックスが他のオブジェクト上に重なっている (またはその逆の) 場合、重なり順を設定して、他よりも前に表示するオブジェクトを制御することは重要です。

重なっている順序の変更では、オブジェクトをステージで前後に移動させます。重要な点は、ステージの一番後ろにあるオブジェクトは、他のオブジェクトよりも後ろに表示されることです。

クリックボックスを並び替えるには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 重なり順を変更したいクリックボックスを右クリックし、[最前面へ移動] または [最背面へ移動] を選択します。

MenuBuilder でピクセルの位置を確認する

MenuBuilder では、クリックボックス、画像、またはテキスト項目の正確な場所をピクセル値で確認することができます。

位置をピクセル値で表示するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 項目を選択します。
3. [詳細情報] バー (左側) に、項目の座標値が表示されます。これは、項目の左上角の位置をピクセル値で示したものです。ウィンドウの左上角は 0,0 の値になります。項目を右方向に移動させると最初の値が増加し、項目を下方向に移動させると 2 番目の値が増加します。

MenuBuilder のクリックボックスを削除する

MenuBuilder の不必要になったクリックボックスを簡単に素早く削除できます。

ヒント：複数のクリックボックスを同時に削除するには、Shift キーを押しながら削除するクリックボックスをクリックします。

クリックボックスを削除するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. 削除するクリックボックスを選択します。

3. [編集]メニューから[削除]を選択します。または、右クリックで[削除]を選択することもできます。
4. 定義した MenuBuilder の環境設定によっては、確認を促すダイアログボックスが表示されることがあります。その場合は、[はい]をクリックして項目を削除します。

MenuBuilder プロジェクトのオプションを設定する

プロジェクトを最初に作成するとき、いくつかの MenuBuilder プロジェクトオプションを設定できます。

MenuBuilder プロジェクトのオプションを設定する

MenuBuilder ウィザードを使って新しいプロジェクトを作成する場合、ムービーのサイズ、タイトル、背景の透明度などのオプションを設定できます。ただしプロジェクトを開くと、さらに数多くのオプションを設定できます。

プロジェクトのオプションを設定するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. [オプション]メニューから[プロジェクトオプション]を選択します。
3. [プロジェクト]セクションで、オプションを調整します。

タイトル：このテキストボックスには、完成したプロジェクトのダイアログボックスの一番上に表示するタイトルテキストが表示されます。このテキストは編集できます。

CD アイコン：このテキストボックスには、プロジェクトを EXE ファイルとして書き出す場合に使用するアイコンがあります。アイコンファイルを作成または編集する場合は、[参照]をクリックして、ICO ファイルを選択します。

4. [背景]セクションで、オプションを調整します。

画像：このテキストボックスでは背景画像を設定します。通常、これがテンプレートの背景になる画像です。画像を変更する場合は、[参照]をクリックして、別の画像ファイルを選択します。画像を選択すると、小さいプレビューウィンドウに画像が表示されます。

色：このテキストボックスはプロジェクトの背景色を参照します。画像が背景を埋め尽くす場合、背景色は見えません。ただし、次の 2 つのケースでは背景色が見えます。1 つは背景画像がプロジェクトのサイズより小さい場合、もう 1 つは透明の背景画像を使用している場合です。

レイアウト：ポップアップメニューを使って、背景画像の配置場所を指定します。選択肢には[ストレッチ]、[中央]、および[タイル]があります。

枠線のスタイル：このテキストボックスでは枠線のスタイルを設定します。ポップアップメニューを使って、プロジェクトの枠線スタイルを選択します。

透明度：このテキストボックスではプロジェクトの透明度の値を設定します。ポップアップメニューを使って、透明度の値を選択します。0% は不透明で、100% は完全に透明です。

5. [ウィンドウのサイズ]セクションで、オプションを調整します。

フルスクリーン：全画面のプロジェクトを作成するためのオプションです。

カスタム：カスタムサイズのプロジェクトを作成するためのオプションです。

幅：スクリーンの幅をピクセル単位で入力します。

高さ：スクリーンの高さをピクセル単位で入力します。

6. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

アイコンを MenuBuilder プロジェクトと関連付ける

MenuBuilder では、アイコンを MenuBuilder プロジェクトと関連付けることができます。これは、プロジェクトを EXE ファイルとして書き出す際、たいへん役立ちます。MenuBuilder プロジェクトを EXE ファイルとして書き出すと、ファイルをダブルクリックするだけで実行可能なファイルが作成されます。projectname.exe などのファイル名をダブルクリックしても EXE ファイルを開けます。しかし、アイコンをプロジェクトに関連付けてあり、ファイルをデスクトップに配置している場合、ファイル名の代わりにアイコンをダブルクリックして実行ファイルを起動できます。

メモ : MenuBuilder プロジェクトアイコンには、ICO ファイルを使用する必要があります。

アイコンをプロジェクトに関連付けるには 2 つの方法があります。最初にプロジェクトを作成するときに MenuBuilder ウィザードを使用してアイコンをプロジェクトに添付する方法、またプロジェクトオプションを調整してアイコンを添付する方法です。

最初にプロジェクトを作成する段階で、アイコンをプロジェクトに添付するには :

- MenuBuilder ウィザードを使ってプロジェクトを作成します。ウィザードの 3 番目の画面で、[CD アイコン] テキストボックスの隣の [参照] をクリックしてプロジェクトのアイコンを選択します。ICO ファイルを使用します。

アイコンを既存のプロジェクトと関連付けるには :

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. [オプション] メニューから [プロジェクトオプション] を選択します。
3. [CD アイコン] テキストボックスの隣の [参照] をクリックしてプロジェクトのアイコンを選択します。ICO ファイルを使用します。
4. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

透明な背景の MenuBuilder プロジェクトを作成する

透明な MenuBuilder プロジェクトには、指定できる透明度値があります。0 ~ 100% の範囲から値を選択します。0% は不透明で、100% は完全に透明です。この極端な 2 つの値の間には、おもしろい視効果をもたらす値があります。

透明なプロジェクトを作成するには 2 とおりの方法があります。MenuBuilder ウィザードを使って、最初にプロジェクトを作成するときにプロジェクトの背景を透明にできます。また、プロジェクトオプションを使って、既存プロジェクトの背景を透明にする方法もあります。

プロジェクト作成時に背景を透明にするには :

- MenuBuilder ウィザードを使ってプロジェクトを作成します。ウィザードの 3 番目の画面で、ポップアップメニューから透明度の値を選択します。0% は不透明で、100% は完全に透明です。

既存プロジェクトの背景を透明にするには :

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. [オプション] メニューから [プロジェクトオプション] を選択します。

3. [透明度] ポップアップメニューで、透明度の値を選択します。0% は不透明で、100% は完全に透明です。
4. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに変更を見て確認します。または、[OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

MenuBuilder プロジェクトに音声を追加する

音声 (WAV、MP3、および WMA ファイル) を MenuBuilder プロジェクトに追加することができます。

プロジェクトに音声を追加するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. [オプション] メニューから 音声のオプションを選択します。
3. 音声を再生するアクションを選択します。

マウスクリックを選択し、ユーザーがマウスをクリックしたときに再生する音声ファイルを選択します。[参照] をクリックして、音声ファイルに移動します。[再生] をクリックしてそのファイルを聞きます。

[マウスホバー] を選択して、ユーザーがリンク項目を " ロールオーバー " したときに再生する音声ファイルを選択します。[参照] をクリックして、音声ファイルに移動します。[再生] をクリックしてそのファイルを聞きます。

[開始時] をクリックし、プロジェクトの開始時に再生する音声ファイルを選択します。[参照] をクリックして、音声ファイルに移動します。[再生] をクリックしてそのファイルを聞きます。

[バックグラウンド] を選択して、ユーザーがプロジェクトを見ている間、バックグラウンドで再生する音声ファイルを選択します [参照] をクリックして、音声ファイルに移動します。[再生] をクリックしてそのファイルを聞きます。

4. [OK] をクリックして変更を認め、ダイアログボックスを閉じます。

MenuBuilder プロジェクトのサイズを変更する

通常、MenuBuilder プロジェクトのサイズは、[環境設定] ダイアログボックス (デフォルトのプロジェクトサイズを指定)、または [MenuBuilder プロジェクトオプション] ダイアログボックス (個々のプロジェクトサイズを指定) を使って指定します。一方、作業中にプロジェクトのサイズを変更することもできます。

プロジェクトのサイズを変更するには：

1. MenuBuilder プロジェクトを開きます。
2. MenuBuilder アプリケーションを、フルスクリーンモードに展開します。
3. プロジェクトの右下角にマウスを移動します。カーソルの形が両サイド矢印に変わります。
4. プロジェクトが新しいサイズになるまで、マウスの左ボタンを使って角をドラッグします。ドラッグすると、変更になった幅と高さがプログラムウィンドウの右下角に表示されます。プロジェクト内のすべてが新しいサイズに合わせて拡大縮小します。

MenuBuilder のショートカットキーについて

次に挙げるキーを使用すると、MenuBuilder での操作時間を節約できます。

ショートカットキー	アクション
Ctrl + I	新規画像の作成
Ctrl + N	新規プロジェクトの作成
Ctrl + P	プロジェクトの印刷
Ctrl + S	プロジェクトおよびテンプレートの保存
Ctrl + T	新規テキスト項目の作成
Ctrl + W	MenuBuilder の新規インスタンス
F1	ヘルプにアクセス
F4	プロジェクトのプレビュー
F5	音声のプレビュー
F7	スペルチェック
F11	フルスクリーンモード

MenuBuilder 環境を設定する

MenuBuilder では、アプリケーションに関する数多くの環境設定を行うことができます。これらの設定はアプリケーション全体に反映されます。個々の MenuBuilder プロジェクトに特有な設定ではありません。

環境を設定するには：

1. MenuBuilder を開きます。
2. [オプション] メニューから [環境設定] を選択します。
[環境設定] ダイアログボックスが表示されます。
3. [環境設定] タブをクリックして、オプションを設定します。

グリッドのオプション

グリッドの表示 : MenuBuilder でグリッドを表示するにはこのオプションを選択します。グリッドは最終的なプロジェクトには表示されません。開発段階でテキストや画像を配置および整列するために使用します。

グリッドに合わせる : テキストや画像をグリッドに合わせるためのオプションです。

グリッドのサイズ : 上向きまたは下向き矢印を使って、グリッドサイズの数値を選択します。値は 2 ～ 100 の間です。

自動保存オプション

プロジェクト : 確認のためのダイアログボックスを表示せずに、プロジェクトを保存するためのオプションです。

デスクトップ : MenuBuilder で最後に使用したプロジェクトを開くためのオプションです。

新規プロジェクトのオプション

幅 : 新規 MenuBuilder プロジェクト用に、デフォルトの幅をピクセル単位で入力します。

高さ : 新規 MenuBuilder プロジェクト用に、デフォルトの高さをピクセル単位で入力します。

表示オプション

スタートアップダイアログ:最後に使用したプロジェクトや空白プロジェクトを開く代わりに、最初の [MenuBuilder] ダイアログボックスを開くためのオプションです。[自動保存オプション]-[デスクトップ] が選択されていて、[表示オプション]-[スタートアップダイアログ] が選択されていない場合には、最後に使用したプロジェクトが開きます。[自動保存オプション]-[デスクトップ] または [表示オプション]-[スタートアップダイアログ] のどちらも選択されていない場合は、空白のプロジェクトが開きます。

削除の確認:削除するたびに、削除することを確認するダイアログボックスを表示するためのオプションです。

マージの確認:マージするたびに、マージすることを確認するダイアログボックスを表示するためのオプションです。

リンク読み込みの確認:リンクを読み込むたびに、読み込むことを確認するダイアログボックスを表示するためのオプションです。

リンクリダイレクトの確認:リンクがリダイレクトするたびに、リダイレクトすることを確認するダイアログボックスを表示するためのオプションです。

外部 SWF 警告:外部 SWF をリンクするたびに、リンクすることを確認するダイアログボックスを表示するためのオプションです。

ドッキング:

自動ドラッグドッキング:MenuBuilder のツールバーを新しい場所にドラッグするためのオプションです。ツールバーをドラッグするには、ツールバーのボタンではない部分をクリックし、ツールバーを新しい場所にドラッグします。

4. [OK] をクリックします。

MenuBuilder のデフォルトディレクトリを設定する

MenuBuilder では、プロジェクトに関連した項目のためのデフォルトディレクトリを選択することができます。たとえば、複数の画像を保存している画像ディレクトリが既にある場合は、そのディレクトリを MenuBuilder のデフォルト画像ディレクトリに設定できます。

デフォルトのディレクトリを設定するには:

1. MenuBuilder を開きます。
2. [オプション] メニューから [環境設定] を選択します。
[環境設定] ダイアログボックスが表示されます。
3. [ディレクトリ] タブをクリックして、オプションを設定します。

プロジェクトディレクトリ:このオプションは、MenuBuilder プロジェクトを含むフォルダを参照します。このフォルダの内容は、最初に表示される [MenuBuilder] ダイアログボックスに表示されます。これにより、移動しなくても既存の MenuBuilder プロジェクトを見ることができます。デフォルトのフォルダは Program Files¥Macromedia¥Captivate¥MenuBuilder¥Projects です。他のフォルダを選択するには、[参照] をクリックします。

背景ディレクトリ：このオプションは、背景画像を含むフォルダを参照します。背景画像とは、通常、テンプレートの背景グラフィックを指します。使用しているコンピュータに Microsoft PowerPoint がインストールしてあり、カスタムのテンプレートを作成していない場合、MenuBuilder は PowerPoint のテンプレートをデフォルトオプションとして使用します。したがって、デフォルトの背景フォルダは Program Files¥Macromedia¥Captivate ¥MenuBuilder¥Background です。他のフォルダを選択するには、[参照] をクリックします。

音声ディレクトリ：このオプションは、MenuBuilder の音声を含むフォルダを参照します。デフォルトのフォルダは Program Files¥Macromedia¥Captivate ¥MenuBuilder¥Audio です。他のフォルダを選択するには、[参照] をクリックします。

アイコンディレクトリ：このオプションは、MenuBuilder のアイコン (ICO ファイル) を含むフォルダを参照します。デフォルトのフォルダは Program Files¥Macromedia¥Captivate ¥MenuBuilder¥Icons です。他のフォルダを選択するには、[参照] をクリックします。

テンプレートディレクトリ：このオプションは、MenuBuilder のテンプレートを含むフォルダを参照します。これらは、MenuBuilder のテンプレートであり、PowerPoint のテンプレートではありません。デフォルトのフォルダは Program Files¥Macromedia¥Captivate ¥MenuBuilder¥Templates です。他のフォルダを選択するには、[参照] をクリックします。

画像ディレクトリ：このオプションは、MenuBuilder の画像を含むフォルダを参照します。デフォルトのフォルダは Program Files¥Macromedia¥Captivate ¥MenuBuilder¥Images です。他のフォルダを選択するには、[参照] をクリックします。

書き出しディレクトリ：このオプションは、MenuBuilder が書き出したプロジェクトファイルを保存するフォルダを参照します。デフォルトでは、このフォルダは Program Files¥Macromedia¥Captivate ¥MenuBuilder¥Exports です。他のフォルダを選択するには、[参照] をクリックします。

参照ディレクトリ：このオプションは、MenuBuilder の参照先を含むフォルダを参照します。デフォルトのフォルダは Program Files¥Macromedia¥Captivate ¥Projects です。他のフォルダを選択するには、[参照] をクリックします。

4. [OK] をクリックします。

MenuBuilder プロジェクトの書き出し

次のような形式で MenuBuilder プロジェクトを書き出すことができます。

- Flash
- EXE
- HTML
- Word
- Mac

MenuBuilder プロジェクトを Flash ファイルとして書き出す

Flash 形式、SWF ファイルは、MenuBuilder プロジェクトでよく使用される書き出しオプションです。

プロジェクトを Flash ファイルとして書き出すには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. [ファイル] メニューから [エクスポート] を選択します。
3. [Flash ムービー] を選択して、[次へ] をクリックします。
4. [ファイル名] テキストボックスに新しい名前を入力するか、またはデフォルトの名前を使用します。
5. [ディレクトリ] のテキストボックスでデフォルトを使用するか、またはエクスポートするプロジェクトを保存する新しいパスおよびフォルダを入力します。また、[参照] をクリックして、別のフォルダに移動できます。
6. Flash SWF ファイルが確実に自動的に実行できるように、[CD 配布用の自動実行ファイルを生成する] を選択します。
7. Flash SWF ファイルを書き出した後すぐに開く場合は、[書き出し後にプロジェクトを表示する] を選択します。
8. [完了] をクリックします。

MenuBuilder プロジェクトを EXE ファイルとして書き出す

MenuBuilder プロジェクトを EXE ファイルとして書き出すと、ファイルをクリックするだけで実行可能なファイルが作成されます。

プロジェクトを EXE ファイルとして書き出すには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. [ファイル] メニューから [エクスポート] を選択します。
3. [EXE] を選択して、[次へ] をクリックします。
4. [ファイル名] テキストボックスに新しい名前を入力するか、またはデフォルトの名前を使用します。
5. [ディレクトリ] のテキストボックスでデフォルトを使用するか、またはエクスポートするプロジェクトを保存する新しいパスおよびフォルダを入力します。また、[参照] をクリックして、別のフォルダに移動できます。
6. EXE ファイルが確実に自動的に開くように、[CD 配布用の自動実行ファイルを生成する] を選択します。
7. EXE ファイルを書き出した後すぐに開く場合は、[書き出し後にプロジェクトを表示する] を選択します。
8. [完了] をクリックします。

MenuBuilder プロジェクトを HTML ファイルとして書き出す

プロジェクトを HTML ファイルとして書き出すと、HTML ファイルおよび必要な画像や音声ファイルが作成されます。

プロジェクトを HTML ファイルとして書き出すには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. [ファイル] メニューから [エクスポート] を選択します。

3. [HTML] を選択して、[次へ] をクリックします。
4. [ファイル名] テキストボックスに新しい名前を入力するか、またはデフォルトの名前を使用します。
5. [ディレクトリ] のテキストボックスでデフォルトを使用するか、またはエクスポートするプロジェクトを保存する新しいパスおよびフォルダを入力します。また、[参照] をクリックして、別のフォルダに移動できます。
6. HTML ファイルが確実に自動的に開くように、[CD 配布用の自動実行ファイルを生成する] を選択します。
7. HTML ファイルをエクスポートしたらすぐに開きたい場合は、エクスポート後にプロジェクトを表示する を選択します。
8. [完了] をクリックします。

MenuBuilder プロジェクトを Word ファイルとして書き出す

プロジェクトを Word ファイルとして書き出すと、プロジェクトの画像を含む DOC ファイルが作成されます。これは静的グラフィックなので、テキストや画像項目にはインタラクティブなリンクはありません。ただし、DOC ファイルには参照として表が含まれていて、種類、テキスト / 画像、リンク、およびツールのヒントを示すテーブルが含まれます。

プロジェクトを Word ファイルとして書き出すには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. [ファイル] メニューから [エクスポート] を選択します。
3. [Word] を選択して、[次へ] をクリックします。
4. [ファイル名] テキストボックスに新しい名前を入力するか、またはデフォルトの名前を使用します。
5. [ディレクトリ] のテキストボックスでデフォルトを使用するか、またはエクスポートするプロジェクトを保存する新しいパスおよびフォルダを入力します。また、[参照] をクリックして、別のフォルダに移動できます。
6. Word ファイルをエクスポートしたらすぐに開きたい場合は、[エクスポート後にプロジェクトを表示する] を選択します。
7. [完了] をクリックします。

MenuBuilder プロジェクトを Mac 用書き出す

プロジェクトを Mac プロジェクトファイルとして書き出すと、HQX ファイルが作成されます。

プロジェクトを Mac プロジェクトファイルとして書き出すには：

1. MenuBuilder プロジェクトを作成または開きます。
2. [ファイル] メニューから [エクスポート] を選択します。
3. [Mac] を選択して、[次へ] をクリックします。
4. [ファイル名] テキストボックスに新しい名前を入力するか、またはデフォルトの名前を使用します。
5. [ディレクトリ] のテキストボックスでデフォルトを使用するか、またはエクスポートするプロジェクトを保存する新しいパスおよびフォルダを入力します。また、[参照] をクリックして、別のフォルダに移動できます。
6. [完了] をクリックします。

第 15 章

ムービーをパブリッシュする

プロジェクトが完成したら、他の人がプロジェクトを見られるようにパブリッシュします。Captivate には、数多くのパブリッシュオプションが用意されており、必要に応じて多様な形式でパブリッシュすることができます。

- ムービーを Flash ファイル (SWF) としてパブリッシュする
- ムービーを Breeze サーバーにパブリッシュする
- ムービーを EXE ファイルとしてパブリッシュする
- ムービーを電子メールで送信する
- ムービーを配布資料 (Word ファイル) としてパブリッシュする
- ムービーを FTP 経由で Web サイトにパブリッシュする

メモ： 出力ファイル名にアジア言語の文字は使用できません (たとえば、SWF ファイル名にアジア言語の文字は使用しないでください)。

ムービーをスタンドアロン (EXE) ファイルとしてパブリッシュする

Captivate ムービーのスタンドアロン実行ファイルを作成することができます。このパブリッシュオプションは、Windows 実行ファイル (EXE)、Linux プロジェクトファイル (EXE)、および Macintosh プロジェクトファイル (HGX) の作成を可能にします。

ムービーを EXE ファイルとしてパブリッシュするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [パブリッシュ] を選択します。
3. [パブリッシュ] ダイアログボックスで、[スタンドアロン] を選択します。
4. [ムービータイトル] に、ファイル拡張子 (EXE) を含まないファイル名を入力します。
5. [フォルダ] に、ファイルを保存するフォルダの完全なパスを入力するか、または [参照] をクリックしてフォルダを見つけます。
6. [ファイルタイプ] で、作成する EXE ファイルのタイプを選択します。Windows 実行ファイル、Macintosh 実行ファイル、または Linux 実行ファイルのうち、いずれかを選択します。

7. 出力オプションを選択します。

Zip ファイル: EXE ファイルを含んだ ZIP ファイルを作成するオプションです。WinZip などのプログラムを使用してファイルを開きます。

フルスクリーン: EXE ファイルをフルスクリーン (全画面) モードで表示します。

メモ: ムービーに AICC または SCORM オプションを選択した場合は、フルスクリーンのパブリッシュオプションを適用できません。

CD のオートラン生成: このオプションを選択すると、CD に EXE ファイルが配置されるとき、出力ファイルが自動的に実行することを確認にします。

8. ストーリーボードビューに表示されるムービー情報領域には、サイズ (解像度)、スライド数、音声情報、e ラーニングの詳細、アクセシビリティ準拠、およびムービーに指定した再生コントロールなど、ムービーに関して役立つ統計情報が表示されます。この領域に表示されたオプションの多くは、[環境設定] をクリックして変更できます。

9. 完了したら、[パブリッシュ] をクリックします。

ムービーを Flash ファイルとしてパブリッシュする

Captivate ムービーを Flash SWF ファイルとしてパブリッシュし、Flash ファイルを個別に使用したり、Web ページに含めることができます。

ムービーを Flash ファイル (SWF) としてパブリッシュするには:

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [パブリッシュ] を選択します。
3. [パブリッシュ] ダイアログボックスで、[Flash (SWF)] を選択します。
4. [ムービータイトル] に、ファイル拡張子 (SWF) を付けずに、ファイル名を入力します。
5. [フォルダ] に、ファイルを保存するフォルダの完全なパスを入力するか、または [参照] をクリックしてフォルダを見つけます。
6. 出力オプションを選択します。

Zip ファイル: Flash (SWF) ファイルを含んだ ZIP ファイルを作成するオプションです。WinZip などのプログラムを使用してファイルを開きます。

フルスクリーン: Flash ファイルをフルスクリーン (全画面) モードで表示します。

メモ: ムービーに AICC または SCORM オプションを選択した場合は、フルスクリーンのパブリッシュオプションを適用できません。

メモ: フルスクリーンオプションを選択した場合、Windows XP Service Pack 2 に対応するために Captivate は html ファイルを 2 つ作成します。両方の html ファイルと SWF を使用することで、ムービーをパブリッシュしたとき、ユーザーは SP2 警告メッセージを受け取らずに済みます。"myproject_fs.htm" など、"fs" が追加された html ファイルにリンクする必要があります。"fs" がついた html ファイルは、ムービーを再生する 2 つめの html ファイルへ自動的にリンクします。

HTML の書き出し: Web ページに Flash ファイルを追加するために必要な HTML コードを書き出します。

7. ストーリーボードビューに表示されるムービー情報領域には、サイズ (解像度)、スライド数、音声情報、e ラーニングの詳細、アクセシビリティ準拠、およびムービーに指定した再生コントロールなど、ムービーに関して役立つ統計情報が表示されます。この領域に表示されたオプションの多くは、[環境設定] をクリックして変更できます。
8. 完了したら、[パブリッシュ] をクリックします。

ムービーを配布資料としてパブリッシュする

Captivate ムービーは、Microsoft Word 形式の配布資料としてパブリッシュすることができます。Captivate ムービーは、個別のスライドとして Word 文書にパブリッシュされます。

メモ： ムービーを配布資料としてパブリッシュする場合は、ご使用のコンピュータに Microsoft Word がインストールされている必要があります。

ムービーを配布資料としてパブリッシュするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [パブリッシュ] を選択します。
3. [パブリッシュ] ダイアログボックスで、[配布資料] を選択します。
4. [ムービータイトル] に、ファイル拡張子 (DOC) を付けずにファイル名を入力します。
5. [フォルダ] に、ファイルを保存するフォルダの完全なパスを入力するか、または [参照] をクリックしてフォルダを見つけます。
6. [書き出し範囲] を選択します。Word に書き出すスライドの範囲を指定します。[すべて] のスライド、[現在のスライド] のみ、[選択項目] のみ、または [スライド] の範囲の中から選択できます。
7. レイアウトオプションを選択します。

出力の表を使う：各ページに印刷するスライド数を選択する場合は、このオプションを選択します。

ページあたりのスライド数：Word 文書の 1 ページあたりに印刷するスライド数を指定します。右側にある小さなサムネイルに、選択したページレイアウトのプレビューが表示されます。

キャプションテキスト：スライドのすぐ下に、スライドに含まれるキャプションのテキストを印刷する場合に選択します。たとえば、スライド 2 にキャプションがある場合、ムービーを Word 文書に変換したとき、このスライドの下にキャプションのテキストが印刷されます。

メモ用に空白行を追加する：Word 文書で各スライドの下に空白行を印刷する場合、このオプションを選択します。これはユーザーにメモをとるスペースを提供できるので、Word 文書を印刷した配布資料として使用する場合、適切なオプションです。

スライドメモ：Word 文書にスライドの注釈を含める場合、このオプションを選択します。注釈は Captivate ムービーの作成者が整理のために使用するツールであり、通常、ムービーを見ているユーザーには見えません。

オブジェクト (テキストキャプション、画像など) を含める：キャプション、画像、クリックボックス、またはハイライトボックスなど、スライド上にオブジェクトを含める場合に選択します。

非表示スライドを含める：ムービーで非表示に設定したスライドを含める場合に選択します。非表示のスライドはムービーを再生するときに表示されません。

マウスパスを含める：スライドに表示されるすべてのマウスパスを含める場合に選択します。

- 完了したら、[パブリッシュ]をクリックします。

Microsoft Word で新しいムービー文書が開きます。必要に応じて、ファイルに変更を加えて保存することができます。

メモ：DOC ファイルは Microsoft Word のテンプレート (Captivate.dot) を使用して作成されます。このテンプレートには、日付のあるヘッダーとページ番号のあるフッターが含まれます。ヘッダーまたはフッターの情報を変更または削除したい場合、Word で DOT ファイルを開いて、編集することができます。Captivate インストールの際、Captivate.dot テンプレートはプログラムフォルダに自動的に保存されます。デフォルトの場所は、C:\Program Files\Macromedia\Captivate です。

ムービーを FTP 経由で Web サイトにパブリッシュする

Captivate ムービーを FTP 経由で Web サイトに直接パブリッシュすることができます。

FTP 経由でムービーをパブリッシュするには：

- Captivate ムービーを開きます。
- [ファイル]メニューから[パブリッシュ]を選択します。
- [パブリッシュ]ダイアログボックスで、[FTP]を選択します。
- [ムービータイトル]に、任意のファイル名を入力します。
- [サーバー]に、ムービーをパブリッシュする FTP サイトをホストしているサーバーの名前を入力します。
- [ディレクトリ]に、ファイルをアップロードする上記サーバー上の特定のディレクトリを入力します。
- [ユーザー名]に、上記のサーバーにファイルをパブリッシュする権限を持つユーザーの名前を入力します。
- [パスワード]に、上記ユーザー名の正しいパスワードを入力します。
- [ポート]に、ファイルのアップロード先の正しいポート番号を入力します。一般に、ポート番号 21 が使用されます。
- (オプション)[テスト設定]をクリックして、入力したサーバーの設定をテストします。接続成功の確認メッセージ、または接続が不可能な理由を説明したエラーメッセージのうち、いずれかが表示されます。
- [ファイルタイプ]を選択します。

SWF ファイル：FTP 用に Flash SWF ファイルを作成するには、このオプションを選択します。

Windows 実行ファイル：FTP 用に Windows 実行ファイルを作成するには、このオプションを選択します。実行ファイルは Windows のコンピュータ上で、スタンドアロンとして使用することができます。

プロジェクトファイル：FTP 用に Captivate プロジェクトファイル (.CP) を作成するには、このオプションを選択します。これは、他の人がプロジェクトを開く、または編集する必要がある場合に便利です。

Macintosh 実行ファイル：FTP 用に Macintosh 実行ファイルを作成するには、このオプションを選択します。実行ファイルは Macintosh のコンピュータ上で、スタンドアロンとして使用することができます。

Linux 実行ファイル：FTP 用に Linux 実行ファイルを作成するには、このオプションを選択します。実行ファイルは Linux のコンピュータ上で、スタンドアロンとして使用することができます。

- (オプション)上で入力したユーザー名とパスワードを Captivate で保存したい場合は、[ユーザー名とパスワードを保持する]を選択します。

13. 出力オプションを選択します。

Zip ファイル: ZIP ファイルを作成するオプションです。WinZip などのプログラムを使用してファイルを開きます。

フルスクリーン: ファイルをフルスクリーン (全画面) モードで表示します。

メモ: ムービーに AICC または SCORM オプションを選択した場合は、フルスクリーンのパブリッシュオプションを適用できません。

HTML の書き出し: Web ページにファイルを追加するために必要な HTML コードを書き出します。

14. ストーリーボードビューに表示されるムービー情報領域には、サイズ (解像度)、スライド数、音声情報、e ラーニングの詳細、アクセシビリティ準拠、およびムービーに指定した再生コントロールなど、ムービーに関して役立つ統計情報が表示されます。この領域に表示されたオプションの多くは、[環境設定] をクリックして変更できます。

15. [パブリッシュ] をクリックします。

完了したら、プロセスが完了した旨が表示されます。

メモ: ファイルがアップロードされたら、ブラウザから Web アドレスを入力してムービーを見ることができます。アドレスは、"http://www.yourwebaddress.com/filename.htm" の形式になります。"www.yourwebaddress.com" は URL のアドレスで、"filename.htm" は手順 3 で入力したファイル名です。

ムービーを電子メールで送信する

さまざまな形式の Captivate ムービーを電子メールで送信することができます。Captivate ファイル (CP)、EXE ファイル、数多くのファイアウォール保護システムを回避できる SWF ファイル、Macintosh 用の HQX ファイル、または Linux 用の EXE ファイルから、送信する形式を選択できます。

Captivate ムービーを電子メールで送信するには:

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [パブリッシュ] を選択します。
3. [パブリッシュ] ダイアログボックスで、[電子メール] を選択します。
4. [ムービータイトル] に、任意のファイル名を入力します。
5. [ファイルタイプ] で、作成するファイルのタイプを選択します。

SWF ファイル: 選択したメール受信者に必要な Flash ムービーファイルを送信するオプションです。

Windows 実行ファイル (EXE): 選択した電子メール受信者に実行可能なファイルを送信します。

プロジェクトファイル (CP): 選択した電子メール受信者に Captivate プロジェクトファイルを送信するオプションです。

Macintosh 実行ファイル (HGX): 選択した電子メール受信者に Mac プロジェクタ ファイルを送信します。

Linux 実行ファイル (EXE): 選択した電子メール受信者に Linux プロジェクタ ファイルを送信します。

6. (オプション) ZIP ファイルオプションを選択します。WinZip などのプログラムを使用してファイルを開きます。

7. [ムービー情報] 領域 (ストーリーボードビューに表示) には、サイズ (解像度)、スライド数、音声情報、e ラーニングの詳細、およびムービーに指定された再生コントロールなど、ムービーに関して役立つ統計情報が表示されます。この領域に表示されたオプションの多くは、[環境設定] をクリックして変更できます。
8. 完了したら、[パブリッシュ] をクリックします。
Captivate はムービーを構築し、デフォルトの電子メールプログラムを開きます。
9. 適切なフィールドに目的の電子メールアドレスを入力し、電子メールメッセージを送信します。

テキストキャプションを書き出す

ご使用のコンピュータに Microsoft Word がインストールされている場合は、テキストキャプションを既存の Captivate ムービーから DOC ファイルに書き出すことができます。Captivate で行った書式設定は、DOC ファイルとして開いたときもそのまま保持されます。DOC 形式のときにテキストキャプションのテキストおよび書式を変更した後、Captivate ムービーに読み込むこともできます。

メモ：テキストキャプションを DOC ファイルに書き出した場合、その DOC ファイルは元のムービーにのみ読み込むことができます。

テキストキャプションの書き出しを活用できる状況がいくつかあります。

- ナレーションを録音するために台本を作成する必要がある場合、書き出したテキストキャプションは台本の基礎となります。
- 手順ごとの指示書など、印刷物が必要な場合は、テキストキャプションを書き出して DOC ファイルを印刷することができます。
- ムービーのローカライズが必要な場合、テキストキャプションを DOC ファイルに書き出して翻訳者に提供できます。

テキストキャプションを書き出すには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [読み込み・書き出し]-[ムービーキャプションの書き出し] を選択します。
3. [名前を付けて保存] ダイアログボックスで、新しい DOC ファイルの名前を入力します。
4. ファイルを保存するデフォルトのディレクトリに注意します。必要に応じて、別の場所へ移動して、ファイルを保存します。
5. [保存] をクリックします。

ムービーのテキストキャプションが DOC 形式に変換されます。テキストキャプションが Word に書き出されたことを確認し、その文書を表示するかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。

6. [はい] をクリックします。

キャプションテキストを含んだ新しい DOC ファイルが Word で開きます。必要に応じて、[更新されたテキストキャプションデータ] 欄でテキストを変更します。スライド番号が参照項目として含まれます。

7. 文書を保存します。
8. テキストキャプションを Captivate ムービーに読み込みます。

第 16 章

Captivate および他のソフトウェアアプリケーション

Captivate と Flash

Flash デベロッパは、Captivate を使用して SWF ファイルを簡単に記録でき、Flash の強力な機能を使用してファイルを編集できます。

Flash から読み込む

Flash デベロッパは [ファイル] メニューの [読み込み] オプションを使って、Captivate ムービーを Flash に読み込むことができます。読み込むには、Captivate プロジェクト (CP) ファイルを参照して選択します。

メモ : Flash の [読み込み] オプションは、Flash プロジェクトが開いている場合にのみ使用できます。

Captivate ムービーを Flash に読み込むには :

1. デスクトップ上の Flash アイコンをダブルクリックして Flash を起動します。
2. Flash のスタートページの [新規作成] から [Flash ドキュメント] をクリックします。
3. [ファイル] メニューから [読み込み]-[ステージに読み込み] を選択します。
4. [ファイルタイプ] ポップアップメニューから [Captivate プロジェクト (*.cp)] を選択します。
5. ファイルのある場所まで移動し、ファイルを選択し、[開く] をクリックします。
[Captivate オプション] ダイアログボックスが表示されます。
6. 読み込む Captivate エlementを選択します。
7. [読み込み] をクリックします。

選択した Captivate プロジェクトファイル (CP) が Flash プロジェクトに読み込まれます。

8. 完了したら、ムービーを Flash プロジェクト (FLA ファイル) として保存する必要があります。これで Captivate ムービーを Flash で編集できます。

Captivate から Flash に書き出す

詳細な編集、スクリプト作業、または大きいプロジェクトへの統合の場合などに、Captivate 内から Flash 書き出しオプションを選択して、Captivate ムービーを Macromedia Flash MX 2004 に書き出すことができます。

メモ : 書き出す前に Captivate ムービーを保存する必要があります。最も簡単な保存方法は、ツールバーの [保存] をクリックすることです。

Captivate ムービーを Flash に書き出すには :

1. 書き出す Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル]メニューから[読み込み・書き出し]-[ムービーを Flash MX 2004 に書き出し]を選択します。
プロジェクトがまだ保存されていない場合は、プロンプトが表示されます。[はい] をクリックして、プロジェクトのファイル名と保存する場所を選択します。
3. Flash を開くかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[Flash MX 2004 を開く] をクリックします。
4. [名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。新しい FLA ファイルのファイル名と保存先をデフォルトのまま受け入れるか、または必要に応じて変更します。

メモ : FLA ファイルを CP ファイルと同じディレクトリに保存することは重要です。ムービーにアニメーションが存在する場合、アニメーションは CP ファイルと同じディレクトリに書き出されます。パブリッシュした SWF ファイルを正しく表示するには、アニメーションの SWF ファイルがメインの SWF ファイルと同じフォルダに存在する必要があります。プロジェクトの完了後、.CP ファイルを含む必要はありませんが、アニメーションの SWF ファイルおよび Flash で編集したメインの SWF ファイルは同じ場所に存在する必要があります。

5. [保存] をクリックします。
6. ダイアログボックスが Flash への読み込みを指示します。[OK] をクリックします。
Flash が始まり、空の FLA が開きます。
7. [ファイル]メニューから[読み込み]-[ステージに読み込み]または、[読み込み]-[ライブラリに読み込み]を選択します。[ライブラリに読み込み]は、Captivate CP ファイルをムービークリップとしてライブラリに読み込みます。
8. Captivate プロジェクト (CP) ファイルに移動し、ファイルを選択して [開く] をクリックします。
[Captivate オプション] ダイアログボックスが表示されます。
9. 読み込むための Captivate ムービーオプションを選択します。

基本的なエレメント

スライド背景 : ムービーを構成するスクリーンショットなどのスライド背景を Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

背景の変更 : キーストロークやボタン状態などの背景の変更を Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

マウス動作 : マウスパスやマウス動作を Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

スライドエレメント

ハイライトボックス : ハイライトボックスを Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

画像 : 画像を Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

キャプション : テキストキャプションを Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

アニメーション : AVI や SWF などのアニメーションを Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

クリックボックス : クリックボックスを Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

テキストボックス : テキストボックスを Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

ボタン : ボタンを Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

ロールオーバーキャプションおよび画像 : ロールオーバーキャプションおよびロールオーバー画像を Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

ムービーエレメント

音声 : Captivate プロジェクトの音声ファイルを Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

終了オプション : ムービーを繰り返すなどのインポート終了オプションを Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

ヒント : 指示の入ったヒントボックスやヒントレイヤを Flash に含めるには、このオプションを選択します (ヒントは Flash の機能であり、Flash に読み込まれる Captivate エレメントではありません。ヒントはプロジェクト SWF ファイルには含まれません)。

再生コントローラ : 再生コントローラを Flash に読み込むには、このオプションを選択します。

10. [読み込み] をクリックします。

Captivate プロジェクトが Flash ステージまたはライブラリに読み込まれます。これで Captivate ムービーを Flash で編集できます。

11. 完了したら、新しい Flash プロジェクト (FLA ファイル) を保存します。

ヒント : Captivate ムービーを変数で制御できます。

Captivate プロジェクトの変換

Captivate ムービーを Flash に書き出すと、ムービーは Flash ステージまたはライブラリへムービークリップとして読み込まれます。読み込んだムービーには各オブジェクトタイプごとのレイヤーがあり、適切な Flash メソッドを使って、マウスポインタを移動するトゥイーンなどの Captivate 特殊エフェクトが有効化されます。Captivate プロジェクト用に作成されたすべてのオブジェクトは、Flash ライブラリのパネルによって論理的に整理されてフォルダ内に表示されます。

以下の例外を除いて、Captivate プロジェクトにあるほとんどのエレメントは、Flash でも同じような外観と動作を備えるように変換されます。

- ロード画面
- パスワード
- ムービー有効期限
- 高度圧縮
- 第 508 条規格準拠
- スライド間でフェードするスライドトランジション
- 質問スライド
- LMS (Learning Management System: 学習管理システム) 統合
- リアルタイムでの同期化

Captivate ムービーを Flash で変更する

Captivate ムービーを Flash に読み込むか書き出すと、ムービーを開いて編集することができます。パワフルな Flash ライブラリおよびムービークリップオブジェクト機能により、オリジナルのムービーから再使用可能なエレメントが作成されます。

Flash でのムービー構成に精通すると、プロジェクト全体または Captivate エレメントを簡単に変更し、既存の Flash プロジェクトに配置することができます。すべての Captivate ムービーエレメントは、Flash ライブラリに格納され、フォルダ単位で整理されます。これにより、エレメント間を移動する、および選択して編集することが簡単になります。

アクション: このレイヤーはスライドラベル (上の画像では "スライド 1") を表示するので、どのスライドを編集しているかを確認できます。

再生コントローラ: このレイヤーには、Captivate ムービーで使用される再生コントロールが含まれます。再生コントローラレイヤーは、デフォルトで非表示になっています。

背景トランジション: このレイヤーには、フェードインやフェードアウトなど、ムービー内でスライドまたはムービーに使用するトランジションが含まれます。背景トランジションレイヤーは、デフォルトでロックされています。

マウスパス: このレイヤーには、ムービー内で表示されるマウスパスが含まれます。

マウス音声およびエフェクト: クリックサウンドおよびビジュアルクリックなど、マウスに関連付けられた音声またはエフェクトが含まれます。

オブジェクト: このレイヤーには、テキストキャプション、ハイライトボックス、クリックボタン、またはボタンなど、ムービー内で表示されるオブジェクトが含まれます。

音声およびエフェクト: このレイヤーには、ボタン状態またはキーストロークなど、ムービー内で使用する音声または特殊エフェクトが含まれます。

スライド背景: このレイヤーには、ムービー内のスライドで使用される背景色または背景画像が含まれます。

ムービー背景: このレイヤーには、ムービーの背景色が含まれます。

Flash でムービー間を移動する

Captivate ムービーを Flash で開いている場合、次のような方法を使ってムービー間を移動することができます。

- ライブラリパネルの **Captivate** オブジェクトというフォルダには、プロジェクト内にあるすべてのスライドとオブジェクトが含まれています。一覧内の "xrd" から始まるオブジェクトは、他のプロジェクトで使用されている画像および音声なので無視します。ライブラリの項目をダブルクリックし、変更を加えて、プロジェクトを編集します。
- もう1つの移動方法は、ステージ上のエレメントをダブルクリックする方法です。たとえば、ムービーを編集するには、ステージ上のムービー自体をダブルクリックします。スライドのエレメントに移動するには、タイムラインをクリックしてプレイヘッドを配置し、スライド上にあるキャプションやハイライトボックスなどのオブジェクトを表示します。その後、オブジェクトをダブルクリックして編集します。この方法の利点は、使用される状況でエレメントやオブジェクトを表示できることです。

移動に関する補足ヒント

- Captivate とは異なり、Flash ではすべてのオブジェクトが同時に表示されることはありません。Flash では、さまざまなオブジェクトの表示タイミングを、タイムラインを使って示すためです。タイムラインをクリックするか、またはプレイヘッドをドラッグすると、再生時にスライドがどのように見えるかを表示できます。
- ライブラリはパネルは、ムービーをはじめ、それに含まれるスライド、キャプション、音声など、すべてのエレメントを階層形式のフォルダで整理します。

ムービーを編集する

Captivate ムービーを Flash に読み込むと、ムービーの編集を開始できます。

Flash でムービーを開き、編集するには：

1. Captivate からムービーを書き出すか、Flash に読み込みます。
2. ムービーを開き、フレーム、サウンド、背景色、およびムービーを構成する他のエレメントを表示するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - シーンタイムラインから、ステージ上のムービーをダブルクリックします。
 - [シンボルの編集] アイコンをクリックし、[RoboDemo オブジェクト] を選択して、元のプロジェクト名と同じような名前のムービーを見つけます。たとえば、プロジェクトの名前が "My Project" である場合は、[RoboDemo オブジェクト] で、"mMy_Project RoboDemo" という名前の項目を探します。
 - ライブラリを開いている場合は、[RoboDemo オブジェクト] フォルダで、元のプロジェクト名と同じような名前のムービーを探します。たとえば、プロジェクトの名前が "My Project" である場合は、"mMy_Project RoboDemo" という名前の項目を探します。
3. ステージにフレームが表示されたら、フレームを変更できます。

メモ： 特定のフレームを検索する場合は、フレームの最初のビューのみが表示されることに留意してください。たとえば、フレームがフェードインする場合、最初のビューは空白の画面であることがあります。また、キャプションがフェードインする場合、最初のビューには表示されないことがあります。

Captivate と Breeze

Macromedia Breeze は、誰でも素早く簡単にオンライン会議、プレゼンテーション、およびインターネット上のトレーニングに参加することを可能にします。Breeze および Captivate 間の統合によって、インタラクティブなソフトウェアシミュレーションおよびデモンストレーションを含むことができ、より良い Breeze の利用を提供します。

主な統合機能には、次の機能が含まれます。

- Breeze Meeting と Breeze Training : Captivate デモとインタラクティブなシミュレーションを追加して、会議やトレーニングの効果を上げます。プレゼンターは [同期] ボタンを使用して、すべての参加者にプレゼンターのアクションが表示されるようにするか、同期オプションをオフにして、参加者が各自のコンピュータで Captivate デモまたはシミュレーションと完全な対話性を持つようにすることができます。
- 簡単な出力およびパブリッシュ : Captivate のシミュレーションおよびデモンストレーションは、一般の Web ブラウザを通して出力します。Breeze のユーザーは、Captivate プロジェクトを Breeze サーバーに直接パブリッシュし、他のユーザーに対して簡単にアクセス可能にできます。

- Captivate の Breeze 統合オプションを使用: Captivate では、Captivate と Breeze がスムーズに連携できるようにするための 2 つのオプションを選択できます。[Breeze メタデータを含む] オプションを選択すると、Breeze でユーザーが行う検索中に、Captivate プロジェクトとそのコンテンツを簡単に見つけられるようにする情報が Captivate プロジェクトファイルに追加されます。また、Breeze をクイズの報告出力オプションとして選択することもできます。このオプションを使用すると、Captivate プロジェクトでのユーザーによるクイズとインタラクティブなオブジェクトの操作方法を Breeze で簡単に追跡できるようになります。

メモ: Breeze 4.1 またはそれ以降のバージョンで、Captivate を使用することができます。Breeze 5 またはそれ以降のバージョンのみで、この追跡オプションを使用することができます。

メモ: 新しい Breeze 統合オプションを利用できるのは、Captivate 1.01 のみです。これは Captivate 1.0 ユーザーに対する無料のアップグレードです。詳細については、Macromedia Captivate Web サイトを参照してください。

ムービーを Breeze サーバーにパブリッシュする

Captivate のシミュレーションおよびデモンストレーションは、一般の Web ブラウザを通して届けられます。Macromedia Breeze のユーザーは、Captivate プロジェクトを Breeze サーバーに直接パブリッシュできます。

ムービーを Breeze サーバーにパブリッシュするには:

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [パブリッシュ] を選択します。
3. [パブリッシュ] ダイアログボックスで、[Breeze] を選択します。
4. [サーバーの変更] をクリックします。
[Breeze サーバー] ダイアログボックスが表示されます。
5. [追加] をクリックします。
6. [名前] と [URL] に、名前と使用する Breeze サーバーの URL を入力します。
7. [OK] をクリックします。
Breeze サーバーが一覧に表示されます。
8. 追加したサーバーを選択して、[OK] をクリックします。
9. (オプション) Breeze で Captivate プロジェクト内のすべてのインタラクションを追跡するには、[Breeze の追跡を有効化] を選択します。たとえば、クイズを含む Captivate プロジェクトを Breeze Meeting に配置すると、ユーザーがクイズに解答するときに、その解答が Breeze によって追跡されます。このオプションを選択すると、ダイアログボックスの右側の、ムービー情報の下にある e ラーニング出力リストが変更されます。
10. (オプション) プロジェクト SWF ファイルと一緒に Captivate プロジェクトファイル (.CP ファイル) を Breeze にパブリッシュする場合は、Publish プロジェクトファイルを選択します。これは、SWF ファイルだけでなく CP ファイルも他のユーザーが利用できるようにする場合に便利です。
11. [パブリッシュ] をクリックします。
12. ログイン名とパスワードを使って、Breeze にサインインします。
13. Captivate プロジェクトを保存する場所を選択します。

14. [このフォルダにパブリッシュする] をクリックします。
15. Captivate プロジェクトのタイトルを指定します。完了したら [次へ] をクリックします。
16. (オプション) [カスタマイズ] をクリックして、カスタム権限を設定します。
17. [次へ] をクリックします。
18. ダイアログボックスが表示され、プロジェクトが指定した Breeze サーバーに問題なくパブリッシュされたことを確認します。[OK] をクリックします。
19. もう一度 [OK] をクリックします。

Captivate と Macromedia Breeze Meeting について

Captivate でソフトウェアシミュレーションおよび製品デモを作成し、Breeze 会議またはトレーニングコースにコンテンツを追加することができます。これにより、Breeze 会議のインタラクティビティが向上します。

プレゼンターは、[同期] ボタンを使って、すべての参加者にプレゼンターのアクションが表示されるようにできます。プレゼンターがマウスを動かすか、デモまたはシミュレーションを操作すると、そのアクションが会議のすべての参加者のコンピュータに表示されます。プレゼンターは同期オプションをオフにして、参加者が各自のコンピュータで Captivate デモまたはシミュレーションとの完全な対話性を持つようにすることもできます。プレゼンターは、必要に応じて何回でも同期機能をオンまたはオフにすることができます。

Captivate プロジェクトを Breeze 会議で使用するには、次の 2 つの方法があります。

- Captivate プロジェクトを直接 Breeze サーバーにパブリッシュし、Breeze コンテンツライブラリから Breeze Meeting にプロジェクトを追加する (Macromedia ではこのオプションを推奨しています。コンテンツライブラリから Captivate プロジェクトを追加すると、Captivate のすべての機能が Breeze 内で正しく使用できるようになります)。
- Captivate プロジェクトをパブリッシュして、コンピュータに保存される SWF ファイルを作成する。次に、SWF ファイルを Breeze Meeting に追加する。

Breeze コンテンツライブラリから Breeze Meeting に Captivate ムービーを追加するには：

1. Captivate でムービーを作成します。
2. Breeze にムービーをパブリッシュします。
3. 既存の会議を開くか、新しい会議を作成します。
4. 参加してもらいたい人に、会議の URL を送ります。
5. 会議室に入ります。
6. [ボッド]-[共有]-[コンテンツライブラリから選択] を選択します。
7. Captivate プロジェクトを選択し、[開く] をクリックします。
8. (オプション) 必要に応じて [同期] ボタンをクリックし、参加者が、プレゼンターが行ったアクションを各自のコンピュータで表示するか、各自のコンピュータを独自に制御できるようにします。
9. [共有の停止] をクリックして Breeze 会議室に戻ります。

デスクトップから **Breeze Meeting** に **Captivate** ムービーを追加するには :

1. Captivate でムービーを作成します。
2. 新しいムービーを Flash にパブリッシュして、SWF ファイルを作成します。
SWF ファイルの保存場所に留意します。
3. Breeze にログインします。
4. 既存の会議を開くか、新しい会議を作成します。
5. 参加してもらいたい人に、会議の URL を送ります。
6. 会議室に入ります。
7. [ポッド]-[共有]-[マイコンピュータから選択] を選択します。
8. Captivate SWF ファイルのある場所まで移動し、ファイルを選択して [開く] をクリックします。
アップロードメッセージが表示されます。SWF ファイルがアップロードされたら、Captivate 再生バーの [再生] ボタンをクリックしてムービーを開始します。
9. (オプション) 必要に応じて [同期] ボタンをクリックし、参加者が、プレゼンターが行ったアクションを各自のコンピュータで表示するか、各自のコンピュータを独自に制御できるようにします。
10. [共有の停止] をクリックして Breeze 会議室に戻ります。

Breeze 追跡機能の追加

Breeze 会議またはトレーニングコースに Captivate シミュレーションを追加する場合、特にクイズが含まれるときは、ユーザーがどのようにシミュレーションを操作するかを追跡したいことがあります。Breeze での Captivate ムービーの追跡を簡単にするには、クイズマネジャーを使ってプロジェクト出力オプションとして Breeze を指定します。

Captivate プロジェクトに Breeze 追跡機能を追加するには :

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [クイズマネジャー] を選択します。
3. [報告] タブをクリックします。
4. [出力オプションを有効化] を選択します。
5. [Breeze] を選択します。
6. [OK] をクリックします。

Breeze 検索機能の有効化

Captivate プロジェクトを Breeze サーバーにパブリッシュし、会議またはトレーニングコースでプロジェクトを表示する場合は、Breeze の検索機能を有効にすることができます。このオプションを選択すると、Breeze に簡単にプロジェクトを統合できるようにする情報を Captivate プロジェクトファイル (SWF) に追加できます。埋め込まれたデータは、プロジェクトを Breeze サーバーにパブリッシュするときに Captivate CP ファイルを SWF ファイルにリンクし、Breeze で行われる検索中に、Captivate プロジェクトを見つけやすくします。

Breeze 検索機能を有効にするには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [ムービー] メニューから [環境設定] を選択します。
3. [環境設定] タブをクリックします。
4. [Breeze メタデータを含む] を選択します。
5. [OK] をクリックします。

メモ：[Breeze メタデータを含む] オプションは、デフォルトでオンになっています。このオプションを選択すると、プロジェクトのサイズが大きくなります。Macromedia Breeze でプロジェクトを使用しない場合は、このオプションの選択を解除し、完成したプロジェクトファイル (SWF) のサイズを減らすことができます。ただし、出力ファイル (SWF) を Breeze で使用する可能性がある場合は、[Breeze メタデータを含む] オプションを選択することをお勧めします。

Captivate と RoboHelp

Captivate ムービーを RoboHelp HTML オンラインヘルプシステムに追加することができます。これは、重要な情報をユーザーに表示して伝えることを可能にします。

Captivate ムービーは RoboHelp プロジェクトに簡単に追加することができます。Captivate ムービーを作成します。次に、RoboHelp プロジェクトにムービーを追加して、ムービーの表示方法を選択します。

Captivate ムービーを RoboHelp オンラインヘルプシステムに追加するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. ムービーを Flash ファイル (.SWF) としてパブリッシュします。書き出しプロセス中に、[HTML の書き出し] オプションを選択し、SWF ファイルが保存される場所に留意します。
3. RoboHelp で、Captivate ムービーを追加するヘルププロジェクトを開きます。
4. [プロジェクトマネージャー] メニューで、[マルチメディア] フォルダを一度クリックします。
5. [ファイル] メニューから [読み込み]-[HTML ファイル] を選択します。
6. 上の手順 2 で作成した Captivate ムービーの HTML ファイルに移動し、これを選択します。
7. [開く] をクリックします。

HTML ファイルと Flash ファイル (.SWF) が RoboHelp プロジェクトに読み込まれます。SWF ファイルが [マルチメディア] フォルダに追加され、ムービーのタイトルを含む新しいトピックが作成されます。

メモ：RoboHelp プロジェクトに追加される HTML ファイル (ムービーのタイトルが付いた HTML ファイル) は重要です。このトピックを削除すると、関連する SWF ファイルもプロジェクトから削除されます。ただし、このトピックを Help プロジェクト内で " 非表示 " にすることができます。非表示のトピックにはリンクはなく、目次や索引などに表示されません。

Captivate ムービーの表示方法を定義するには：

Flash ファイル (SWF) を RoboHelp プロジェクトに追加した後、ムービーの表示方法を決定する必要があります。いくつかのオプションがあります。どの表示方法も簡単に設定できますが、特定のムービーや Help プロジェクトによって最適な方法は異なります。

RoboHelp トピックに Captivate ムービーを直接配置して、このトピックを表示したときにムービーを自動的に表示し、再生することができます。

既存のトピックでムービーを表示するには

1. RoboHelp で、ムービーを開始するために使用するトピックを開きます。
2. トピック内の任意の場所をクリックします。[挿入] メニューから [マルチメディア] を選択します。
[マルチメディア] ダイアログボックスが表示されます。
3. Captivate ファイル(myproject.swf など)の場所を参照してファイルを選択し、[OK]をクリックします。
4. トピックをプレビューしてムービーの外観を確認し、ヘルプシステムを生成して表示し、ムービーがどのように表示されるかを確認します。

Captivate ムービーを新しい RoboHelp トピックに配置した後、ヘルプシステム内のいずれのトピックからでも、そのトピックにリンクを設定することができます。自動サイズ変更のポップアップウィンドウでムービートピックを開くオプションを選択している場合は、ムービーの高さと幅に合うようにウィンドウのサイズが調整されます。

自動サイズ変更ポップアップウィンドウでムービーを表示するには :

1. RoboHelp で新しいトピックを作成します。
2. このトピックに Captivate ムービーを追加します。[挿入] メニューから [マルチメディア] を選択します。
[マルチメディア] ダイアログボックスが表示されます。
3. Captivate ファイル(myproject.swf など)の場所を参照してファイルを選択し、[OK]をクリックします。
4. トピックを保存します。
5. ムービーを開始するために使用するトピックを開きます。
6. ハイパーリンクとして使用するテキストまたは画像を選択します。[挿入] メニューから [ハイパーリンク] を選択します。
7. [移動先の選択 (ファイルまたは URL)] 一覧で、Captivate ムービーを含むトピックを選択します。
8. [ハイパーリンクプロパティ] で、[自動サイズ変更ポップアップに表示] を選択します。
9. [OK] をクリックします。
10. トピックをプレビューしてムービーの外観を確認し、ヘルプシステムを生成して表示し、ムービーがどのように表示されるかを確認します。

Captivate ムービーを新しい RoboHelp トピックに配置した後、ヘルプシステム内のいずれのトピックからでも、そのトピックにリンクを設定することができます。カスタムサイズのポップアップウィンドウでムービートピックを開くオプションを選択すると、トピックの高さと幅を正確に設定できます。

カスタムサイズのポップアップウィンドウでムービーを表示するには :

1. RoboHelp で新しいトピックを作成します。
2. このトピックに Captivate ムービーを追加します。[挿入] メニューから [マルチメディア] を選択します。
[マルチメディア] ダイアログボックスが表示されます。
3. Captivate ファイル(myproject.swf など)の場所を参照してファイルを選択し、[OK]をクリックします。
4. トピックを保存します。
5. ムービーの起動に使用するトピックを開きます。
6. ハイパーリンクとして使用するテキストまたは画像を選択します。[挿入] メニューから [ハイパーリンク] を選択します。

7. [移動先の選択 (ファイルまたは URL)] 一覧で、Captivate ムービーを含むトピックを選択します。
8. [ハイパーリンクプロパティ] で、[カスタムサイズのポップアップに表示] を選択します。
9. 矢印を使用するか、または数値を入力して、ムービーの幅および高さを選択します。
10. [OK] をクリックします。
11. トピックをプレビューしてムービーの外観を確認し、ヘルプシステムを生成して表示し、ムービーがどのように表示されるかを確認します。

Captivate ムービーを新しい RoboHelp トピックに配置した後、ヘルプシステム内のいずれのトピックからでも、そのトピックにリンクを設定することができます。新しいウィンドウでムービートピックを開くオプションを選択すると、ユーザーのデフォルトの Web ブラウザにムービーが表示されます。

新しいウィンドウでムービーを表示するには：

1. RoboHelp で新しいトピックを作成します。
2. このトピックに Captivate ムービーを追加します。[挿入] メニューから [マルチメディア] を選択します。
[マルチメディア] ダイアログボックスが表示されます。
3. Captivate ファイル (myproject.swf など) の場所を参照してファイルを選択し、[OK] をクリックします。
4. トピックを保存します。
5. ムービーを開始するために使用するトピックを開きます。
6. ハイパーリンクとして使用するテキストまたは画像を選択します。[挿入] メニューから [ハイパーリンク] を選択します。
7. [移動先の選択 (ファイルまたは URL)] 一覧で、Captivate ムービーを含むトピックを選択します。
8. [ハイパーリンクプロパティ] で、[フレームに表示] を選択します。
9. [フレームに表示] の横にあるポップアップメニューで、[新規ウィンドウ] を選択します。
10. [OK] をクリックします。
11. トピックをプレビューしてムービーの外観を確認し、ヘルプシステムを生成して表示し、ムービーがどのように表示されるかを確認します。

Captivate ムービーを新しい RoboHelp トピックに配置した後、ヘルプシステム内のいずれのトピックからでも、そのトピックにリンクを設定することができます。同じスライドでトピックを開くオプションを選択すると、ユーザーのビューアでムービートピックが元のトピックと置き換えられます。

トピックからのリンクとして、同一のスライドにムービーを表示するには：

1. RoboHelp で新しいトピックを作成します。
2. このトピックに Captivate ムービーを追加します。[挿入] メニューから [マルチメディア] を選択します。
[マルチメディア] ダイアログボックスが表示されます。
3. Captivate ファイル (myproject.swf など) の場所を参照してファイルを選択し、[OK] をクリックします。
4. トピックを保存します。
5. ムービーを開始するために使用するトピックを開きます。
6. ハイパーリンクとして使用するテキストまたは画像を選択します。[挿入] メニューから [ハイパーリンク] を選択します。

7. [移動先の選択 (ファイルまたは URL)] 一覧で、Captivate ムービーを含むトピックを選択します。
8. [ハイパーリンクプロパティ] で、[フレームに表示] を選択します。
9. [フレームに表示] の横にあるポップアップメニューから、[同ースライド] を選択します。
10. [OK] をクリックします。
11. トピックをプレビューしてムービーの外観を確認し、ヘルプシステムを生成して表示し、ムービーがどのように表示されるかを確認します。

Captivate と PowerPoint

Captivate と PowerPoint の両方を使用している場合、2 つのプログラムのコンテンツを 1 つのソースにまとめることができます。次のようなオプションがあります。

- PowerPoint プレゼンテーションを Captivate に読み込み完全な PowerPoint プレゼンテーションから Captivate ムービー全体を作成します。
- PowerPoint スライドを Captivate に読み込み個々の PowerPoint スライドを Captivate プロジェクトに読み込んで、新しい Captivate スライドを作成します。
- Captivate ムービーをプレゼンテーションに追加します。Captivate ムービーを PowerPoint プレゼンテーションに挿入します。

PowerPoint スライドを読み込む

Captivate では、Microsoft PowerPoint プレゼンテーションから Captivate ムービーに、スライドを直接読み込むことができます。読み込まれた PowerPoint スライドは、Captivate ムービーのスライドになります。通常、Captivate で行う操作と同様の操作を、これらのスライドに行うことができます。たとえば、キャプションの追加およびクリックボックスの作成などを行うことができます。

Captivate には、PowerPoint スライドを読み込むためのウィザードが備わっています。

PowerPoint スライドを Captivate ムービーに読み込むには :

1. PowerPoint スライドを追加する Captivate ムービーを開きます。
2. [ファイル] メニューから [読み込み・書き出し] - [Microsoft PowerPoint スライドを読み込み] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
3. 読み込むスライドを含んでいる PowerPoint プレゼンテーション (PPT、PPS、または POT ファイル形式) のある場所に移動し、プレゼンテーションを選択します。
4. [開く] をクリックします。
[PowerPoint スライドオプション] ダイアログボックスが表示されます。
5. PowerPoint スライドを Captivate ムービー内のどこに配置するかを定義します。ムービーの最後にスライドを追加するか、または一覧からスライドをクリックして選択し、そのスライドの直後に PowerPoint スライドを追加することもできます。
6. [OK] をクリックします。
PowerPoint スライドが抽出され、[スライドを挿入する] ダイアログボックスが表示されます。

7. Captivate ムービー 슬라이드に変換する PowerPoint スライドを選択します。スライドの右上隅のチェックボックスをクリックして個々のスライドを選択すると、緑色のチェックマークがチェックボックスに表示されます。または、[すべて選択] ボタンをクリックして、すべてのスライドを選択することもできます。
8. [完了] をクリックします。
PowerPoint スライドが読み込まれ、Captivate ムービー内で指定した場所に表示されます。
9. 必要に応じて、スライドの順序を変更することができます。

PowerPoint プレゼンテーションを読み込む

Microsoft PowerPoint プレゼンテーション全体を Captivate に直接読み込むことができます。PowerPoint プレゼンテーションを読み込むと、新しい Captivate プロジェクトが作成され、個々の PowerPoint スライドは Captivate スライドになります。新しいプロジェクトが作成されたら、通常の Captivate タスクをすべて実行でき、PowerPoint で作業する必要はもうありません。

メモ： 既存の Captivate プロジェクトに選択した PowerPoint スライドを読み込むこともできます。

Captivate には、プロジェクトを読み込むためのウィザードが備わっています。

PowerPoint プレゼンテーションを読み込むには：

1. Captivate を開きます。
2. [その他のムービータイプ] で、[ムービーを読み込む] をクリックします。
3. 読み込む PowerPoint プレゼンテーションの名前を入力するか、または [参照] をクリックしてファイルに移動します。
4. [次へ] をクリックします。
5. 新しい Captivate ムービーのサイズを選択します。[ユーザー定義 (カスタム)] 欄にムービーの正確な幅および高さを入力するか、または [規定サイズ] オプションを選択して、ポップアップメニューから頻繁に使用されるサイズを選択します。
6. (オプション) ムービーのサイズを変更するとき、[縦横比の維持] を選択して、縦横比 (高さとの比率) を維持します。このオプションを使うと、ムービーをゆがまず正しく表示させることができます。
7. [次へ] をクリックします。
8. 変換する Captivate スライドを選択します。フレームの右上隅をクリックして個々のスライドを選択すると、緑色のチェックマークがチェックボックスに表示されます。または、[すべて選択] をクリックして、すべてのフレームを選択することもできます。
9. [完了] をクリックします。
ムービーが生成され、ストーリーボードビュー内に開きます。

PowerPoint プレゼンテーションにムービーを挿入する

簡単な手順で Microsoft PowerPoint プレゼンテーションに Captivate ムービーを挿入することができます。まず、Captivate ムービーを作成し、Flash (SWF) ファイルとして保存します。次に PowerPoint プレゼンテーションを開き、Captivate ムービーをスライドに挿入します。

PowerPoint プレゼンテーションに Captivate ムービーを挿入するには：

1. Captivate でムービーを作成します。
2. ムービーを Flash ファイル (.SWF) としてパブリッシュします。
SWF ファイルの保存場所に留意します。
3. Captivate ムービーを追加する PowerPoint プレゼンテーションを開きます。
4. [表示] メニューから、[ツールバー]-[コントロールツールボックス] を選択します。
5. [コントロールの選択] を選択します。
6. オブジェクトの一覧から Shockwave Flash オブジェクトを選択します。
7. 対角線上にドラッグして、ムービーに適切な位置とサイズのボックスを作成します。

ヒント：ムービーを表示するボックスは、サイズを変更することができます。PowerPoint でムービーを挿入したスライドに戻り、サイズ変更ハンドルをドラッグします。

8. ボックスを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
9. [プロパティ] ダイアログボックスで、一番上の行の [カスタム] を一度クリックします。
10. [参照] ボタンを一度クリックします。
[プロパティページ] ダイアログボックスが表示されます。
11. [ムービー URL] に、追加する Flash (SWF) ファイルの場所を入力します。ファイル名を含む完全なドライブパス (例 : C¥:My Documents¥MyFile.swf)、または再生する Flash ファイルの URL を入力します。
12. [OK] をクリックします。
13. アニメーションの再生に関して、次のようなオプションを設定できます。
手順 8 で開いた [PowerPoint プロパティ] ダイアログで、次のプロパティを設定します。
 - [再生] プロパティを [True] に設定します。これにより、スライドが表示されたとき、自動的にファイルが再生されます。Flash (SWF) ファイルに、開始および巻き戻しのコントロールが装備されている場合は、[再生] 設定を False に設定できます。
 - アニメーションを繰り返し再生しない場合は、[ループ] プロパティを [False] に設定します。下向き矢印を表示するためにセルをクリックして、[False] を選択します。
 - [ムービー埋め込み] を [True] に設定して、PowerPoint プレゼンテーションに Captivate ムービーが必ず含まれることを確かにします。
14. オプションの設定が完了したら、[プロパティ] ダイアログボックスの右上角にある、小さくて赤い "X" の [閉じる] ボタンをクリックします。
15. ムービーをテストします。[表示] メニューから [スライドショー] を選択します。Microsoft PowerPoint 2003 では、[スライドショー] メニューから [実行] をクリックします。
16. スライドショーを終了して標準表示に戻るには、Esc を押します。

第 17 章

トラブルシューティング

ここでは、よくある質問や予期される問題についてのトラブルシューティングについて説明します。

帯域幅の分析

Captivate では、選択したムービーにどの程度の帯域幅が必要かを表示できます。さまざまな接続を介してムービーを送信する場合に各スライドに必要な帯域幅やスライドのストリーミングを表示できます。これらを基に、スライドに必要な帯域幅やストリーミングなどの情報を考慮してムービーを調整できます。

ムービーの帯域幅を解析するには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. [表示] メニューから [帯域幅解析] を選択します。
[帯域幅モニタ] ダイアログボックスが表示されます。
3. このダイアログボックスには、[スライドサマリ]、[グラフ]、[ムービー サマリ] の 3 つのタブがあります。目的のタブをクリックします。

スライドサマリ：各ムービー フレームに関する情報が表示されます。

- KB/ 秒：毎秒あたりのキロバイト数です。一般に、サイズが 3 KB/ 秒より小さいフレームは、モデム経由のインターネット接続でスムーズに流れます。いくつかの要素によって、帯域幅の大きいフレームはムービー再生が一時停止になることがあります。前のフレームが必要とする帯域幅が低い場合、高帯域幅のフレームを許容できるスピードでダウンロードすることがあります。これは、先頭フレームが最初に読み込まれるフレームであり、ムービーの詳細情報を先頭フレームと共に読み込まなければならないためです。
- 秒：フレームの持続時間を秒単位で表したものです。
- ビデオ (KB)：フレームに含まれているビデオのサイズです。
- 音声 (KB)：フレームに含まれている音声のサイズです。

グラフ：各モデム速度やブロードバンド速度によるムービーの流れ具合が表示されます。高帯域幅フレームを表示できますが、この場合表示されるのは、一般的な接続によるデータとなります。

[ムービー サマリ] タブ：ムービーサマリ情報が表示されます。ムービーの各項目のサイズと毎秒あたりのキロバイト数が一覧表示されます。毎秒あたりのキロバイト数のほうがサイズよりも重要なデータです。たとえば、500 KB のムービーを 60 秒間流す場合は、毎秒あたり転送しなければならない KB 数は 8.3 KB になり、ブロードバンド接続が必要になります。一方、2000 KB のムービーを 10 分間流す場合は、毎秒あたりの KB 数は 3.3 KB で、低速のモデム接続でも対応できます。

4. (オプション) 表示された情報を印刷するには [印刷] をクリックします。

5. [OK] をクリックします。

メモ: 高帯域幅が必要なフレームを特定したら、そのフレームのタイミングを拡張するか、または高帯域幅フレームの前にあるフレームのタイミングを拡張して、高帯域幅フレームがムービーに与える影響を軽減できます。利用できる帯域幅が限られ、インターネット経由でムービーを再生中に煩わしい一時停止が発生する場合は、この対策を施す必要があります。

トラブルシューティング - アニメーションタイミング

ムービーのプレビュー時に、オブジェクトとして追加したアニメーションファイルが、アニメーションファイルの長さよりも長くまたは短く表示される場合には、タイミングを制御することにより、Captivate の [タイムライン] でアニメーションを同期することができます。アニメーションを同期するには、アニメーションをダブルクリックして [アニメーション] ダイアログボックスを開きます。[オプション] タブをクリックし、[ムービーと同期化] を選択します。

メモ: アニメーションファイルが音声とともに記録された場合、ムービーオプションで同期を選択すると、音声途切れていることに気づく場合があります。最もよい解決方法は、アニメーションファイルと音声ファイルを分けて、ムービー内で2つの別々のオブジェクトとして使用することです。

トラブルシューティング - 記録時のアプリケーションの歪み

Windows とビデオカードの特定の組み合わせで、この問題が発生します。この問題は、お使いのコンピュータのハードウェアアクセラレータを [なし] にすると解決します。この設定の変更は、次の場所で行います。

[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[画面]-[設定]-[詳細]-[トラブルシューティング]

トラブルシューティング - AVI エラー

Captivate では、AVI ファイルを読み込んで新たに Captivate ムービー、アニメーションスライド、およびアニメーションオブジェクトを作成することができます。通常、AVI ファイルの読み込みで問題が発生することはありません。AVI ファイルの読み込み時に問題が発生する場合には、次のいずれかのメッセージが表示されます。

- この AVI はサポートされていません。
- この AVI ファイルを SWF に変換できません。

これらのメッセージが表示される原因の1つに、AVI 用の CODEC がインストールされていないことが考えられます。

AVI ファイル用の CODEC がインストールされているか調べるには:

1. Windows エクスプローラを開きます。
2. AVI ファイルに移動します。
3. AVI ファイル上を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
4. [概要] タブをクリックします。
5. [ビデオ] セクションで、[ビデオ圧縮] を探します。[ビデオ圧縮] が表示されない場合には、AVI 用の CODEC はインストールされていません。

CODEC について

CODEC は AVI ファイルで使用されます。AVI ファイルはサイズが大きいため、AVI ファイルを圧縮し使用メモリを減らすために、CODEC (compressor/decompressor) が開発されました。

AVI ビデオを適切に再生するためには、AVI ファイルの圧縮時に使用された CODEC と同じ復元 CODEC でアクセスする必要があります。さまざまな CODEC を利用できますが、1つのコンピュータで作成された AVI ファイルは同じ CODEC がインストールされたコンピュータでのみ表示することができます。

特定の AVI ファイルで使用された CODEC を確定するには：

1. Windows エクスプローラを開きます。
2. AVI ファイルに移動します。
3. AVI ファイル上を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
4. [概要] タブをクリックします。
5. [ビデオ] セクションで、[ビデオ圧縮] を探します。[ビデオ圧縮] が表示されない場合には、AVI 用の CODEC はインストールされていません。

コンピュータにインストールされている CODEC の種類を確定するには：

操作手順はインストールされている Microsoft Windows のバージョンにより多少異なります。

1. [スタート] メニューをクリックして、[ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. 表示されたテキストボックスに、「msinfo32.exe」と入力して [OK] をクリックします。
3. 左側に表示された [システム情報] の下にある " コンポーネント " フォルダを展開します。
4. " マルチメディア " フォルダを展開します。
5. " ビデオ CODEC " をクリックします。
6. 右側に、コンピュータにインストールされているすべての CODEC のリストが表示されます。

独自に AVI ファイルを作成する場合、または AVI ファイルの作成者と作業する場合は、広く一般的な CODEC を使用します。一般的に使用されている CODEC には次のものがあります。

- RLE : Microsoft RLE Codec
- IV32 : Indeo Codec R3.2 by Intel
- CVID : Cinepak Codec Radius Inc.
- CRAM : Microsoft Video 1

メモ：圧縮されていない AVI ファイルには、CODEC は必要なく、多くのコンピュータで表示することができます。

トラブルシューティング - ぶつ切れのフルモーション記録

マウスの動きをより良く再現するなど、ハードウェアの加速を無効にしてスムーズなフルモーションムービーを作成できます。ハードウェアの加速が有効の場合、膨大なシステムリソースが使用されるため、フルモーションの記録が "ぶつ切れ" になることがあります。ハードウェアの加速設定を無効にすることで、フルモーション記録の質が向上します。

フルモーションムービーを記録する際に、ハードウェアの加速設定を簡単に無効にするには、[記録オプション] ダイアログボックス ([フルモーション記録] タブ) で、[スmoothなムービーのために、高キャプチャレートで記録] を選択します。このオプションを選択した場合は、フルモーション記録を開始および終了するとき、ご使用のコンピュータ画面がちらつくことがあります。この画面のちらつきは、ご使用のコンピュータを傷つけることはなく、完成したムービーに現れることもありません。

スライドの色を訂正する

通常、Captivate ムービーでは、色は正しく表示されます。しかし、スライド間でカラースキームが根本的に異なるなど、色が正しく表示されない場合もあります。スライド A でカラーパレット ABC を使用し、スライド B ではカラーパレット XYZ を使っており、2つのスライドが根本的に異なる場合、スライド B にパレット ABC を用いる必要があります。

これらの問題の大半は、スライドのビデオ品質を変更することで解決できます。Captivate では 3 レベルのビデオ品質が用意されています。ただし、通常は [標準] オプションの使用をお勧めします。

スライドのビデオ品質を変更するには：

1. Captivate プロジェクトを開きます。
2. 修正したい色を含むスライドをダブルクリックします。
3. [スライド] メニューから、[ビデオ品質] および次のビデオオプションのいずれかを選択します。

標準：スライドのデフォルトの形式です。[標準] は、最適化された 256 色を使用しているため、大半のスクリーンショットで最も効果的な形式です。[標準] のスライドは、圧縮率も高いため、ファイルサイズを小さく抑えられます。

JPEG：このオプションは、スライドに写真がある場合に使用されます。[ムービー環境設定] ダイアログボックスで JPEG 画像の画質と圧縮率を変更できます。

高画質：標準形式の 256 色と比較して、この形式ではスライドに 1600 万色を使用します。このオプションは、[標準] および [最適] オプションで適切な色深度が適用されない場合にのみ使用します。このオプションを使用すると、ファイルサイズが非常に大きくなります。

メモ：[JPEG] または [高品質] 形式を選択すると、ファイルサイズが大きくなり、ムービーのダウンロードに時間がかかります。このため、これらの [標準] 以外の形式は、必要な場合にのみ使用してください。

トラブルシューティング - Transparent (透明) キャプションのフォント

この問題は、透明キャプションを作成する場合に、フォントをスムーズにする (アンチエイリアジング) システム設定が有効な場合に発生します。フォントの外観を変更するためには、フォントをスムーズにするオプションはオフにします。

Windows XP を使用する場合 :

1. コンピュータのデスクトップの左下にある [スタート] メニューから [設定]-[コントロールパネル] を選択します。
2. [画面] をダブルクリックします。
3. [デザイン] タブをクリックします。
4. [効果] をクリックします。
5. [次の方法でスクリーン フォントの縁を滑らかにする] のオプションが選択されている (チェックマークがオプションの横に表示されている) 場合には、チェックマークをはずして、設定を無効にします。

Windows 2000 または以前のバージョンの Windows を使用する場合 :

1. コンピュータのデスクトップの左下にある [スタート] メニューから [設定]-[コントロールパネル] を選択します。
2. [画面] をダブルクリックします。
3. [効果] タブをクリックします。
4. [次の方法でスクリーン フォントの縁を滑らかにする] のオプションが選択されている (チェックマークがオプションの横に表示されている) 場合には、チェックマークをはずして、設定を無効にします。

トラブルシューティング - ムービーサイズ

Captivate は低帯域で構築されていることを考慮してください。一般的な音声付きのムービーで標準的な 512 x 384 の画面サイズでは、1 秒間に約 2 ~ 3 キロバイトをストリーミングします。56K (またはそれ以下) のダイヤルアップモデムでこのムービーを再生すると、ムービーが開始されるまでに 1 ~ 2 秒以上待つことはありません。また、再生中にムービーが停止することはありません。

スムーズにストリーミングされるムービーには、次のような特徴があります。

- ファイルサイズ : 777K
- 長さ : 6 分 12 秒
- 音声 : 286K
- ビデオ : 491K
- 画面サイズ : 608 x 460

メモ : ファイルサイズはさまざまな要素によって異なります。写真や画像、音声、大きい画面サイズ、スクリーンの高速表示、ビデオや音声に高画質設定を使用しているファイルは、サイズが大きくなります。

ムービーのサイズを変更する方法はいくつあります。

- 1つの重要な要素は、毎秒あたりのキロバイト数です。[帯域幅解析] でこの値を確認します。ムービーのサイズが大きくても、インターネットを通じて適切にストリーミングすることができるので心配ありません。たとえば、400K のファイルはサイズが大きいに感じますが、5 分間で再生されれば 28.8K モデムでストリーミングすることが可能です。これは、先頭スライドが最初に読み込まれるスライドであり、ムービーの詳細情報を先頭スライドと共に読み込まなければならないためです。
- ムービーに含まれるカラー設定と画像に注意してください。ファイルサイズを軽減するヒントとして、色のグラデーションおよび写真を使用しない、という 2 つがあげられます。
- Captivate SWF ファイルを Breeze サーバーにアップロードしない場合は、ムービーの環境設定で [Breeze メタデータを含む] オプションをオフにすることができます。このオプションはデフォルトでオンになっていて、Breeze との統合を高めるデータがプロジェクトに追加されます。Breeze を使用しない場合は、このオプションをオフにしてプロジェクトサイズを減らすことができます。

トラブルシューティング - ブラウザ内のテキスト表示

ムービー内のテキストがブラウザで正しく表示されない場合、SWF ファイルに関連付けられた HTML ファイルではなく、Captivate プロジェクトの SWF ファイルをリンクとして呼び出していることが考えられます。ムービーを Web ページに追加する場合には、SWF に直接リンクを設定しないでください。SWF に直接リンクが設定されている場合、ブラウザでは SWF ファイルの大きさが不明なため、単純にブラウザウィンドウと同じ大きさで SWF ファイルを表示します。これにより、画面が歪みます。特にテキストが歪むため、文字を読むことが困難になります。

SWF ファイルをブラウザで適切に表示するには、SWF ファイルと一緒に生成された HTML ファイルを使用します。HTML ファイルには、ブラウザで表示するムービーの正しい大きさを指定するコードが含まれています。

ムービーを SWF ファイルとしてパブリッシュする場合は、[HTML 書き出し] オプションを選択します。HTML ファイルは、SWF ファイルで指定した場所と同じ場所に保存されます。HTML ファイルは SWF ファイルと同じ名前になりますが、拡張子は HTML です。

トラブルシューティング - ムービー内のスライド数

技術的に Captivate ムービーには、スライドの数に上限はありません。スライドの数は、使用する RAM の容量に応じて変わります。64 MB のコンピュータで作成されたムービーには、300 以上のスライドを含めることが可能です。スライドに含まれる音声の MP3 サイズにも上限はありません。

デフォルトでは、ムービーは毎秒 30 フレームに設定されます。そのため、キャプションを 1 秒間表示するには 30 フレームが必要です。ムービーのフレーム数を 30 で除算すると、ムービーの再生時間 (秒数) になります。

Captivate ムービーのフレーム数を確認する簡単な方法があります。

ムービーのフレーム数を調べるには：

1. Captivate ムービーを開きます。
2. 左側の [ムービー情報] 領域で、[時間]を確認します。分と秒で時間が最初に表示され、カッコ内にフレーム数が表示されます。情報が表示されていない場合には、ムービーをパブリッシュしてから [時間]をもう一度確認してください。

Macromedia Captivate をアンインストールする

Captivate をアンインストールする手順は簡単です。Captivate をアンインストールする場合、"My Documents¥My Captivate Projects" に保存されたすべてのファイルは、そのまま保持されます。

Captivate をアンインストールするには：

1. Windows の [スタート] メニューから、[設定]-[コントロールパネル] を選択します。
2. [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
3. [インストール] または [アンインストール] タブをクリックします (ご使用の Windows のバージョンにこのタブがある場合)。
4. 削除するプログラムのリストから、Captivate を選択します。
5. [変更] または [削除] をクリックします。
6. 表示されるメッセージで、[はい] をクリックして、プログラムを削除することを確認します。
アンインストールプログラムにより、プログラムのファイル、フォルダ、レジストリのエントリが削除されます。ファイルが削除されると、アンインストールプログラムにより処理が完了したことが示されます。
7. [OK] をクリックします。

索引

A

AICC 183

AVI

CODEC 241

ソフトウェアチュートリアルを読み込み 27

トラブルシューティング 240

B

Breeze

Captivate 229

Captivate ムービーを公開する 230

Breeze Live 231

C

Captivate インストールの概要 15

Captivate プロジェクトをパブリッシュする 219

Captivate をアンインストールする 245

Captivate を登録する 16

Capture 領域 (記録) 36

CODEC 241

E

e ラーニング

PIF ファイル 188

合格基準 185

出力オプション 183

スコア表示 185

説明 165

ブランディング 165

マニフェストファイル 186

EXE ファイル 219

F

Flash

Captivate の変換 227

Captivate ムービー 228

Captivate ムービーを書き出す 226

Captivate ムービーを編集する 228

Captivate ムービーを読み込む 225

Flash ファイル (SWF) 220

FTP 222

I

Internet Explorer 29

J

JPEG

画質の変更 93

M

Macromedia Devnet 14

Manifest ファイル 186

MenuBuilder

EXE として書き出す 217

Flash SWF として書き出す 217

HTML として書き出す 217

Macintosh 用に書き出す 218

Word ファイルとして書き出す 218

アイコンを関連付ける 212

アイテムを追加する 196

ウィザードを使ってプロジェクトを作成する 193

オプション 211

音声 213

画像オプション 203

画像のサイズを設定する 205

画像を移動する 204

画像を拡大縮小する 206

画像をコピーする 205

画像を削除する 207

画像を整列する 204

画像を追加する 202

画像を並び替える 205

環境設定 214

空白プロジェクトを作成する 195

クリックボックス 207
クリックボックスのオプション 208
クリックボックスを移動する 208
クリックボックスをコピーする 209
クリックボックスを削除する 210
クリックボックスを整理させる 209
クリックボックスを並び替える 210
サイズ変更 213
ショートカットキー 214
スペルチェック 197
説明 193
操作を元に戻す / やり直す 196
テキストを移動する 200
テキストをコピーする 201
テキストを削除する 201
テキストを揃える 200
テキストを追加する 198
テキストを並び替える 201
デフォルトディレクトリ 215
テンプレート 195
透明な画像を作成する 207
透明な背景のプロジェクト 212
ピクセルの場所を表示する 201
プロジェクトを印刷する 197
プロジェクトをテンプレートとして保存する 197
プロジェクトを開く 195
プロジェクトをプレビューする 197
プロジェクトを保存する 197
Microsoft Word 221
MP3 73

P

PIF ファイル 188
PowerPoint
 Captivate 236
 Captivate にスライドを読み込む 236
 Captivate にプレゼンテーションを読み込む 237
 Captivate ムービーを公開する 237

R

RoboDemo プロジェクト 14
RoboHelp 233

S

SCORM 184
SWF ファイル 220

W

WAV 73
Word 221

あ

アイコン 30
アクセシビリティ
 Captivate 53
 Captivate プロジェクトのテスト 56
 Macromedia アクセシビリティ Web サイト 56
 基準 52
 スクリーンリーダー 53
 スライドテキストの追加 55
 第 508 条規格準拠の Captivate プロジェクト 54
 ヒント 55
アニメーション
 Captivate 94
 スライド 97、131
 追加 94
 テキスト 96
 トラブルシューティング 240
アプリケーションムービー (記録) 38

い

移行、Captivate ライセンス 17
色
 グラデーション 31
 スライド 134、137
 標準外 30
インタラクティブなオブジェクト 145

う

打ち込み音 (キーボード) 80、83

え

エクスポートする
 Captivate プロジェクトを Flash に 226
 キャプション 224
エンドユーザー要件 15

お

オーサリング要件 15
オブジェクト
 グリッドに揃える 151
 コピーおよび貼り付け 147
 サイズ変更 150
 スライドにマージする 152
 整理する 148

- 説明 145
- 表示順序を変更する 149
- 複製する 146
- 読み込み 146
- 音声
 - 音量 81
 - 既存のファイルを追加 73
 - 記録 77
 - 記録オプション 76
 - 記録のヒント 75
 - 削除 88
 - 詳細を表示 86
 - 静寂期間の追加 80
 - 説明 73
 - タイミングを編集 85
 - バックグラウンドを作成する 79
 - プレビュー 87
 - 編集 84
 - ボックス 111
 - ボックスに追加 82
 - ムービー作成時に録音する 78
 - 録音用機器 74
- 音声を録音する
 - オプション 76
 - 記録機器 74
 - 操作 77
 - ヒント 75
 - ボックスおよびボタン 83
 - ムービー作成時 78
- 音量 (音声ファイル) 81

か

- 開始 (ムービー) 138、139
- 書き出し
 - キャプション 70
- 確認メッセージ 23
- カスタマイズ
 - キーボード打ち込み音 80
 - キャプションのスタイル 67
- カスタムサイズのムービー (記録) 39
- カスタム、記録モード 36
- 画像
 - 削除 93
 - 透かし 93
 - スライド 130
 - スライドとして挿入 92
 - スライドにマージする 133
 - 追加 89
 - 読み込み 146
- 画像ムービー (記録) 42

- 壁紙 30
- カメラのシャッター音 45
- 画面の解像度 30
- 空のスライド 129
- 空のムービー (記録) 42
- 環境
 - カスタマイズ 20
 - 説明 19

き

- キーストロークの速度 123
- 機能 (Captive) 9
- キャプション
 - 移動 68
 - 書き出し 70、224
 - カスタムスタイルの作成 67
 - コピーおよび貼り付け 69
 - サイズ変更 68
 - 削除 72
 - 順序 71
 - スライドにマージする 133
 - 説明 145
 - 速度 123
 - タイミング 124
 - 追加 59
 - トラブルシューティング 243
 - 編集 66
 - 読み込み 70、146
 - ローカライズ 65
 - ロールオーバーの追加 63
- キャプチャキー
 - 変更 26

記録

- 新しいスライド 44
- アプリケーションムービー 38
- 一時停止 45
- オプション 32、45
- カスタムサイズのムービー 39
- 画像ムービー 42
- カメラのシャッター音 45
- 空のムービー 42
- キャプチャ領域 36
- 自動的 46
- テクニック 31
- テンプレート 43
- ドラッグアンドドロップ 35
- トラブルシューティング、歪み 240
- ヒントと要領 29
- フルスクリーンムービー 41
- フルモーション 35

ムービーの種類 38

モード 36

く

クイズマネジャー 188

空白スライド 129

偶発ブランチ 165

グラデーション、色 31

クリックボックス

音声 82、111

削除 112

スライドにマージする 133

説明 99、145

タイミング 124

追加 101

読み込み 146

グリッド (オブジェクトを整列する) 151

こ

合格基準 185

さ

サイズ 239、243

スライド 136

再生コントロール

カスタム 141

追加 140

作業環境

カスタマイズ 20

説明 19

削除

音声 88

キャプション 72

サポートセンター 14

し

システム要件 15

質問スライド

PIF 188

空欄埋め問題 167

出力オプション 183

照合 172

説明 130、166

多肢選択問題 174

ヒント 167

フィードバックメッセージ 186

マニフェストファイル 186

短い答え 177

リッカード 170

○×形式 181

自動

記録 46

終了 (ムービー) 138

ショートカットキー

Captivate 24

色

ムービーの背景 157

す

透かし画像 93

スクリーンリーダー 53

スクリプト 28

スコア表示 185

ストーリーボード 28

ストーリーボードビュー 19

左ペイン 20

スピーカー 74

スペルチェック

オプション 163

辞書 164

使用 162

スライド

アクセシビリティテキストの追加 55

アニメーション 97、131

色 134、137、242

オブジェクトをマージする 133

画像 92、130

記録 127

空白 129

クリップボードへコピー 132

コピーおよび貼り付け 129

サイズの圧縮 136

削除 137

質問 130、166

順序 133

説明 127

タイミング 122

追加で記録 44

テキスト 60、135

導入フレーム 139

トランジション 136

非表示 142

複製する 131

フルモーション記録 50

メモ 134

読み込み 128

ラベル 134

ロック 142

スライドを非表示にする 142

スライドをロックする 142

せ

静寂 (音声ファイルの追加) 80

整列

オブジェクト 148

セキュリティ 142、157

そ

操作を元に戻す 25

操作をやり直す 25

ソフトウェアチュートリアル

AVI として読み込む 27

た

第 508 条 52

帯域幅 239

タイミング

オブジェクト 124

音声を編集 85

キャプションの速度 123

スライド 122

変数 125

タイムライン

オブジェクトの表示順序 149

オブジェクトレイヤーの順序を変更 121

オブジェクトを揃える 148

カスタマイズ 119

スライドのタイミング 122

説明 19、119

表示または非表示 20

プレイヘッドを使用してプレビュー 122

変数 125

ち

チュートリアル

AVI として読み込む 27

つ

ツールバー 20

キャプション 21

ドッキング 21

表示 21

フロート 21

ツールヒント

ロールオーバーキャプションに変換 64

て

テーマ 30

テキストアニメーション 96

テキストキャプション

移動 68

書き出し 70、224

カスタムスタイルの作成 67

コピーおよび貼り付け 69

サイズ変更 68

削除 72

順序 71

スライドにマージする 133

説明 145

速度 123

タイミング 124

追加 59

編集 66

読み込み 70、146

ローカライズ 65

ロールオーバーの追加 63

テキスト入力ボックス

音声 82、111

削除 112

スライドにマージする 133

説明 145

タイミング 124

追加 104

読み込み 146

デモンストレーション、記録モード 36

電子メール 223

テンプレート

MenuBuilder 197

削除 153

作成 47

説明 47

編集 47

ムービーを記録する 43

と

トラブルシューティング

AVI エラー 240

Transparent キャプションのフォント 243

アニメーションのタイミング 240

記録時の歪み 240

スライドの色 242

帯域幅の解析 239

ブラウザ内のテキスト表示 244

フルモーション記録 242

ムービー サイズ 243

ムービー内のスライドの数 244
トランジション (スライド) 136

な

名前 (スライド) 134

は

背景 (ムービー) 157
ハイライトボックス
 音声 82、111
 削除 112
 スライドにマージする 133
 説明 99、145
 タイミング 124
 追加 100
 読み込み 146
パスワード (ムービー) 157
バックグラウンド音声 79
パブリッシュ
 Breeze サーバーにパブリッシュ 230

ひ

ビュー 19
評価用シミュレーション記録モード 36
評価用シミュレーション、記録モード 36
ヒントと要領
 ムービーを記録 29

ふ

フィルムストリップ
 位置 20
 使用 22
ブランチング 165
フルスクリーンムービー
 記録 41
フルモーション記録 35
 シナリオ 48
 使用 48
 スライドの作成 50
 トラブルシューティング 242
 標準との比較 49
プレイヘッド 122
プレビュー
 音声 87
 ムービー 154
プレローダー 138、160
プロジェクトをアップグレードする 14

へ

ヘッドホン 74
ヘルプシステム (Captive) 12
編集ビュー
 説明 19
変数 (タイミング) 125

ほ

ボタン
 JavaScript 110
 音声 82、111
 再生コントロール 140
 削除 112
 説明 99、145
 タイミング 124
 追加 107
ボックス
 JavaScript の追加 110
 クリックボックス 101
 テキスト ボックス 104
 ハイライトボックス 100

ま

マイク
 最適化 76
 説明 74
マウス
 クリックエフェクト 115
 クリック音 114
 直線および曲線のパス 116
 動作 115
 パスを揃える 116
 ポインタ 113
 ポインタのサイズ 114
 ポインタの速度 123
 ポインタを非表示にする 116
マニュアル 13
マニュアル (Captive) 13

む

ムービー
 EXE としてパブリッシュする 219
 Flash で編集する 228
 Flash ファイルとしてパブリッシュする 220
 FTP 経由でパブリッシュする 222
 開始および終了 138
 環境設定 157
 既存のものを開く 27
 計画 28

- サイズ 153、243
- サイズ変更 155
- 削除 153
- 電子メール 223
- 名前変更 154
- 背景色 157
- 配布資料としてパブリッシュする 221
- パスワード 157
- 非表示 154
- プレビュー 154
- プロパティ 161
- 保存 156
- 有効期限 157
- ムービーの記録中に一時停止する 45
- ムービーのサイズを変更する 155
- ムービーの名前を変更する 154
- ムービーを計画する 28

め

- メッセージ
 - 確認を表示する 23
- メニュー
 - 説明 20
- メモ (スライド) 134

ゆ

- 有効期限 (ムービー) 157

よ

- 読み込み
 - キャプション 70
 - テキストキャプション 70

ら

- ライセンス (Captivate)
 - 移行 17
- ラベル (スライド) 134

ろ

- ローカライズ
 - Captivate ユーザーインターフェイス 56
 - テキストキャプション 57
- ロード画面 138、160
- ロールオーバー画像
 - 説明 145
 - 追加 91
- ロールオーバーキャプション
 - 説明 145
 - 追加 63
 - ツールヒントを変換 64
- ロールオーバー領域
 - 編集 64

